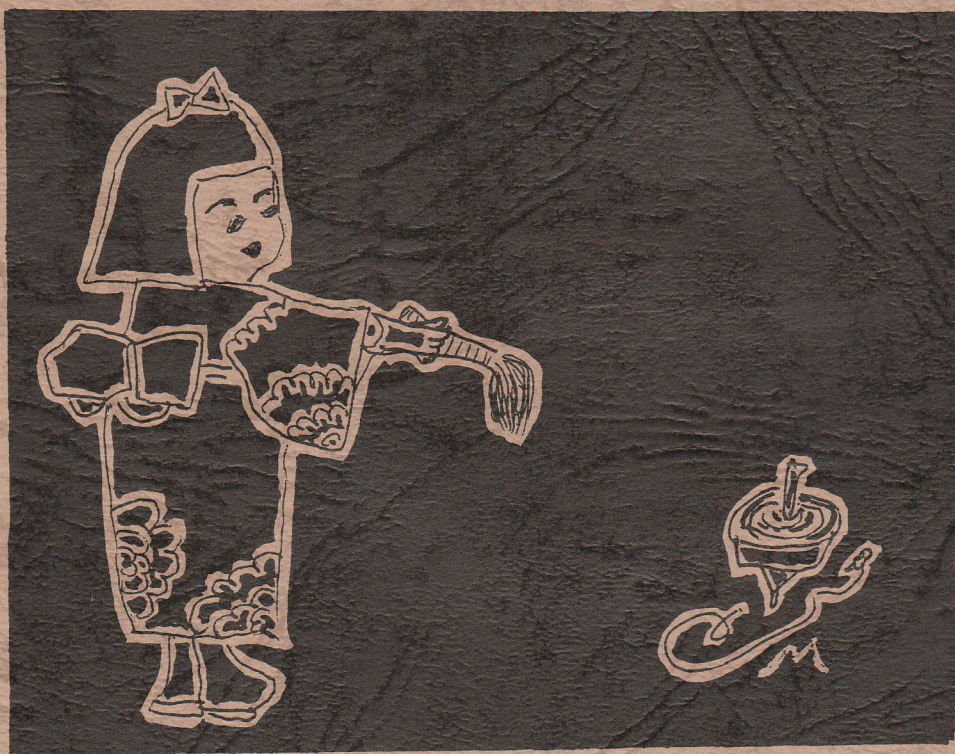


野津原方言集

後編



野津原方言集…後編

発刊に寄せて	野津原町町長…………… 1 野津原方言調査会長…………… 2 野津原町教育長…………… 3
特別協力団体	野津原町 第百生命保険フレンドシップ財団 日本財団 ベスト電器宗方店
協力団体	野津原町中央公民館 中部小学校文化芸能伝承クラブ
参考資料	野津原町史 あの日あの時 町内をテーマにした歌詞
資料協力者	森下清、三浦アサエ、安田ハルエ、 井下キヨ、松本英明、吉岡輝雄、 有光孝信、那須量、菊屋奈良義、 内藤忠人、後藤恒夫、熊谷義人、 和田章彦、ふるさとの唄保存会。 野津原町教育委員会。久住 産山 阿蘇 直入 上浦 佐賀関 鶴崎の各老人クラ ブ員の皆さん。 三浦敏男、佐藤昌史、甲斐加代子。
題字	佐藤典雄野津原町町長
挿し絵	松本英明、小出 莉央、佐藤憲博、 もりながみほ。

方言集後編発刊に寄せて 野津原町町長 佐藤典雄

このたび野津原方言集後編が、町政施行40周年記念に発刊されましたことは、誠に喜びに堪えません。また収集活動に当たった皆さんに、心から敬意を表します。

時代の移り変わりと共に古き良き要素が失われ、それだけ日本語の質が低下していくことを、憂えるのみでありましたが、古いものを壊さずにもっている野津原町をこよなく愛する人、その人なりの『こだわり』を持った人たちが『野津原に寄せる想い』をメッセージとして後世に残して伝える文化財産と言えるでしょう。

前編の単語から飛躍して後編には、故郷の振興に努力した人たち、家庭や地域の生活に涙を流し頑張った姿、心豊かに生きた人たち。方言を取り入れた語り、綴りの中にやさしく味わいのある方言が聞かれるとき、改めて故郷の良さが評価されるでしょう。

この方言集が親しく読まれ活用されることと共に、刊行に努力された関係者と支援された多くの皆さんに、心から感謝を申しあげ、ご健勝、ご活躍を祈念いたしてお祝いのことばといたします。

平成10年4月吉日

発刊に寄せて

野津原方言調査会長 甲斐英行

歴史はくり返されると申します。野津原方言を昔に甦りながら、長い年月あまた人生と出会い ふれあう事のよさを学びながら、愛読者ご自身の新しい 人生の創造の為に少しでも お役に立つことが出来れば 幸せに想います。

平成4年に 野津原方言調査会を結成して以来 懸命なる調査員の努力によりまして 遺憾なく平成7年の春『前編』 の発行を遂げることが出来ました。

引き続いて後編に取り組もうと 調査員皆さんの力強い声援に答えながら その願望に向かってたゆまず 一筋に邁進して参りました。『至誠天に通ず』 調査員一致団結真心もって 作業にあたり その意が天に通じてか 最良の結果として いよいよ後編の刊行になりました。私ども調査員にとりましては この上ない喜びと感激に 溢れているところです。

愛読者の皆さん 親しく方言を味わいながら 形動にお過ごしをご祈念申しています。

平成10年寿春

国際化 情報化社会を迎え 私たちの生活は大きく変化してきました。

生活の変貌は 地域の様々な文化にも 多大な影響を与えています。地域の独特の文化の一つとされる方言は その最たるものと言えます。

方言は その土地に住む人々が長い年月をかけて育てて来たものです。その中には 土地の人々が 自ら創造したことばもあり 又流入したことばを人々の好みに変えていったものもあると思います。謂わば 土地の人々の独自性を存分に発揮した かけがえのない財産と言えます。

ボーダレス社会になって 共通語でなくてはという考えの広がる中 方言のもつ暖かみがなくなってしまいそうです。自分の生まれ育った土地のことば 方言を耳にした時の懐かしさは たとえようがありません。

都会生活をしている人々は 方言を聞いただけで 故郷を想い 幼少時代を懐かしく心をなごませるであろうと思います。

方言が これからも地域に根づき 脈々と息づいて 次代に引き継がれること 心から願っています。

町政施行40周年を迎えて 本町は新たな出発をしようとしていますが 前進のためには古きよきものを 大切にし 崇めることも必要であろうと考えます。

町の飛躍が期待されるこのときにあたり 関係者のご尽力により 野津原方言〈後編〉を刊行されますことは まことに時機をえたものであり 深く敬意を表すところであります。

この冊子が 多くの皆さんに親しまれることを願ってやみません。

平成10年4月吉日

はじめに	5
あしあと	6
お国訛はふるさと愛語	8
人の心に染みついた言葉	9
方言ほんとは大好き	10
方言と敬語	12
もくじ	

方言集刊行協力者

プリンター…………宮成武子。松尾療子。小出富美子。

監修……………緒方三枝子。

江戸文字………那須貴光。

事務 刊行……………野津原町教育委員会。町中央公民館。

構成……………野津原町社会教育課。

方言調査収集会……………甲斐英行。利光節子。佐藤吉晴。

小野寿祐。那須政子。赤星ヨシミ。

佐藤延登。佐藤源治。

カ ッ ト …… 那須政子。

監修……………佐藤延登。

編集構成プリンター…佐藤源治

印刷.....三和印刷出版株式会社

発行……野津原町教育委員会。

はじめに

故郷の無形文化財『野津原方言』を 平成7年に刊行したところ
反響を呼んで 各地から身にあまるお便りや お小言も頂きました。
それを糧にして3年間 調査員8人が収拾した後編が まとまりました。
素人つくりの幼稚さは抜けないが 誰にも親しんでもらえる良
さもあって これからこの種の調査研究される方達の お役にたてば
幸いと思います。

後編には 故郷の生活を方言に変えて取り入れた 農作業 生活
子供や 語りべ 口説き唄 などを中心に 生活の中にさりげなく
入りこんでいる方言 それらを活字の一つ一つにまとめて そっと納
めておける物にしました。今取っておかないと永久に消える であろ
う そんな事を思うとワクワクして 年も忘れて取り組んだ7年間で
したが まとめが終わるとホッと安堵の胸なでおろし そして一抹の
寂しさも。それだけ真剣に取り組んだのでしょう。

多くの人の協力と支援を受けた方言調査 ここに入った以外にもき
っと 素晴らしいものがあると思います。ふっと思い出したら さらに又企画も考えています。方言集刊行にあたり特に深いご理解 ご協
力を頂きました各機関 ご支援くださった皆様方に深甚なる 敬意を
表します。誠に有り難うございました。町政施行40年を迎える思い
出多い年にあたり この野津原方言集の発刊が出来ることは 調査員
の仕事冥利です。

平成10年春 野津原方言調査会

あしあと

平成7年5月に前編を刊行して 大分合同新聞に紹介され O B S N H K T O S の放送に取り上げてくれたことが 多くの申し込みや方言の楽しい声も聞かせてくれました。方言こそ人の心にそっと囁くラブかも。それだけ人は優しい言葉に憧れているのでしょう。特に野津原の方言は 地に生まれたものは少ないかも しれないが 資料によると6000年も昔から人が住み 人の流れの中に文化と共に言葉も入って それが定着 時には交配による地文化言葉となり 江戸期の参勤交代によって入ったもの 肥後 岡 天領のために 育ったものなど沢山の条件があった ものと思われます。

それを大切に守り育てた故郷の人氣質も 自慢できる。人情味があり優しさのある人と人の交流が 温かい美しい方言として大切に守られ 使われて来たのでしょう。専門的な歴史や内容は別として 故郷に使われ語り継いだ故郷の文化財 野津原方言は他から見て聞いて とても素晴らしいと思われるのは 我田引水ではない親しみを感じると言う。自慢出来るのではないのでしょうか。

多くの人に協力を受け支えてくださって 辿り着いた後編刊行は調査員のものではなく まさに方言を愛してくれる人人によって完成したものと思います。方言TVの菊屋奈良義さんは『ゆうあんたどー集めちくれたなー』 上浦町の松本英明さんは『方言暦の守り役じゃなー』 とエールを下さった。広島の川西哲男さんは『苦労した時代の野ん台じ使うた言葉にタイムスリップした思い』 と語る。

調査收拾の集大成が刊行され 少しでも現在社会の中に役にたつとすれば 調査員が燃えて取り組んだかいが あったと生きていた証になります。大切な故郷の無形文化財だから…野津原方言は。

方言が最も使われ親しまれているのは 生活の中に溶けこみ 親から子へと家庭の中で 自然に受け継がれ地域社会の関わりの中で 身にしみついたものが 何の抵抗もなく出ることのよさ それによって心が和み 人に対する愛情が行き交うからでしょう。

特に農作業では 辛い苦しさの中から出る自分を慰める言葉も いつしか相手にも通じるものとなって使われて来た。又子供の世界では遊びの中で 友達付き合いの中で子供らしさ 純真 無邪気を代弁する 方言も生まれ受け継がれている。強さを挫き弱さを助ける風潮が タテ割の子供の世界とヨコ割の学校の世界が うまく噛み合って相乗効果を出している。

方言語りべでは 民話 伝承 物語などを材題に方言を通じて語る 話す 聞く ことによる 方言との結びつきを 活字に置き換えて綴ってみました。

故郷の唄は そのまま記述してありますが 方言の入った固有の言葉つかい 《歌詞》 地域をモロに出した意味などが 当時の暮らし 世相 心の置き所 も忍ばせます。口説き唄 古い唄の別に故郷に関わりのある新しい歌も 並べてみました。それには方言は少ないが 土地に生まれ育った土の匂いや 人の心が醸し出されているようです。

方言を挟んだイロハカルタ 方言カルタも 親しみやすいので 書き添えました。

諺は長い歴史の生活の知恵 方言とは異なる意味が含まれています。心のより所 窮余の一策と役に立ったことでしょう。米値の移り変わり 難しい地名も参考までに入れました。



お国訛は故郷愛語

野津原には古くからの人の言葉に 移動して来る人の言葉が合わせられて 幾つもの言葉が作り出され 戦国から江戸期 戦前戦後など多くの人の動きがあり それによって言葉もいく通りにも使われている。でも古くからある言葉は 今も受け継がれ通用しているから不思議である。難しく考えずに良いと思えば使ってほしい。

よく使われるものを並べてみると 参考になるのでは。

※言葉の後につく 〈ナア〉 こらえ。くん。そおじ。ごてー。

せわしい。〈ナエ〉 ふる。こまる。すかん。そじゃあき。

〈ジャロー〉 そう。いく。こまる。すかん。よだきー。

〈ソクナウ〉 あげ。くい。つまみ。さがし。さそい。

きき。もうけ。もらい。とり。たずね。はいり。〈チャラン〉

いっ。くう。かせいし。〈チャル〉 だい。くう。まい。

ね。さがし。きい。〈レン〉 さ。くわ。また。くずさ。

なか。みら。〈マウス〉 せり。ふり。けり。たたき。なげ。

※言葉の前につく 〈ウッ〉 ぼたる。たつる。つくる。

ばらう。

※ ナア…相手を思いやる心の優しさ。ナエ…相手に同情する気持ちがある。二つとも親しみを感じる。ジャロー…相手の心を察するような。ソクナウ…言い訳をして理解してもらう。チャラン…非協力的で自分本位。チャル…協力的で親しみがある。ウッ…排除する嫌う。レン…知らない勝手にしなさい。マウス…よせつけない用心する。といった意味が潜んでいる。使い方や前 後につく言葉により多少意味が変わってくる。チャランの後に…イイカ とつくと何か問いかけている。

人の心に染みついた言葉

親しみ懐かしい そんな意味も含まれているのか よく『ナ』が使われる。『あんなー』 語尾をあげると甘えたようにとれる。語尾をさげるともの悲しく聞ける。『ナエ』『ナニエ』と『ナ』がうまく生かされることが多いようだ。『ナエ』は相手を誘い『ナニエ』は問いかける。

返事 問いかけ 反対の言葉 を幾つか挙げると 使われる言葉だけによく通用する。

※同意…ウン フント ソウジャ イイデ イ
ル アア アイ スキ オオキニ フ
ンナー。

※問いかけ…ナエ ナニエ ソウナ エ。

※反対…インゲ チガウデ シランデ スカン
ソゲー フオミヨ ヘヨ ヨダキー
ホタル ムカン モガウ

こんな言葉が出ますが 使い方によつては柔らかにも受け取れることもあり 反対に固くいやらしいことも。同意の中で『フント』は 態度によつては疑いの目で見られるようにも受け取れ 『イイデ』は賛成と反対との両面にも受け取れ 『スカン』は嫌いと 本当は好きだけどの両面をもつ。

荒い反面ゆっくり話すと上品に聞こえるのは 江戸期に京 大阪との交流があった為か『オオキニ』などまさにその一つだろう。宿場町に言葉が入り育ち 他の言葉との関わりで新しい言葉が出来るが 方言はチャント威張っている。『見たナ』『分かったド』『貰ったニ』『食うたエ』『知らんデ』チョコント後からついてくる。憎めない語らいに引きこまれてハッとする 方言はそんな親しみと温かい心がこもつてゐるのかも。『無利ゅ言いなんな』『はい』と素直に諦める不思議な魔力。

方言ほんとは大好き

『あんなあ』 少し語尾をあげて言うアクセントには 感情がこもっている。『あんな来ちょくれと』『おおきに』 肥後領であった旅の人が海を通して 大阪や京から持ち込んだのか 優しい語らいに人情がふっと香ってきそう。『そうしちなえ』『美味しかったなえ』 嬉しさを隠しきれないようだ。弾む声の中に人と人の心が結ばれている。

『今度加勢しちくれなあ』『いいで』『こらえなあ』『いいで』言葉の底に人を憎めない 人の心を理解してくれる 温かみのある言葉。府内 大野 直入 そして肥後や京大阪の交流する 語りの中で人は人の情けに生かされ 人の言葉を通じて心の通じ合いに親しみを感じるそこに故郷の言葉のよさと 人情が育っているのだろう。方言は地方の基本語 ぴったりの感じがする。

この頃『正しい日本語』 のことがよく新聞に出ている。ら抜き言葉や だからサ いいやんか うっそー あねき などあげればきりがなが 折角ある日本語を大切に使うことこそ 大事ではあるまいか。

国語テストで ら抜きの回答を書いたらバツがついた。初歩的ミスだが正しい日本語を知ること と言われた。

方言と標準語を両方使う子は それが一番素敵だと言う投書もあったが 語る事の大切さや聞くことの大切なことも分かるのでは。

方言にもそれなりの生まれ育った 歴史があり他の心が生きているよう。

この頃の投書によく方言が取り沙汰される 方言がいかに身近いものであるか うかがえる。

※ 食べることが出来ないについて…食べられん

食べれん

ら抜き言葉が出た 野津原の言葉…食べれんには その時の状況によって 意味が変わってくる。同じ食べられんの場合でも

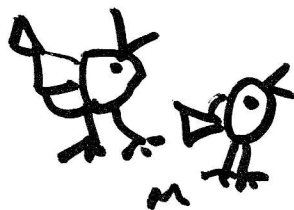
『食べる事が出来ない』『ないので…食べたいが』 と解される。

ところが『ら』をぬいた 食べれんの場合は 『もう満足です』『今は無理でも またあとで』 となる。

どうも という言葉も不思議な意味をもっているようだ。使い方によっては いろんな意味に解される。

『一番始めの言葉』 不思議な言葉 一番だから始めは解っているわけ それにあえて一番とつけることは 気づかずに使う事がよくある。気づいたらソット教えてあげる心配りも。

『来らるる』『来る』 野津原の ら抜き言葉『来られますか』『来てくれますか』 に対して 『来てくれる』『来られる』『来ちくるる』 と意味が変わる。



方言と敬語

方言が人の心に住み着くように 敬語も人との関わりを維持している。NHKの放送によると『敬語は礼儀正しさを表す』といい『方言は温かみのある心を表す』と言っていた。敬語も今でも大切に使うグループが 東京山の手あたりにあるとか。モシモシ…昔申す申すが変わっていつしかモシモシに。ドーモドーモも昭和30年頃にはじまった。この言葉も上品で多くの意味が含まれる 今日…の意味にも使われる。

敬語が勘違いされてややこしい言葉も生まれている。させてもらう、させていただく、いただくさせていただく、はじめさせていただく、たべさせていただきます。……本当の意味は 何を言うのが……言葉の難しさを感じます。

方言も使い方で意味が異なるが 土地に生まれ育った方言は時として 同じ発声でも全く異なる意味もある。コウテイイ…物を買う、物を飼う、などがアクセントにより微妙であるが 場面の状況で判断できるだろう。方言は失敗しても笑いで済まされるが 敬語はそうはいかないかもしれない。

言葉は心の現れ自分の考えている代理である。言葉の源を追求することも大切。使う言葉の意味を考えて上手に使う 話上手になるにこしたことはないが 敬語も方言も関心をもつて使う事が大切。土地に生まれた方言は無形文化財でもある。大切に使い上手に生かす 方言を通じて心の結びつきをする 温かな思いやりもきつと育つでしょう。

方言を使った おしゃべりのストーリーは調査員の体験や 調査に協力してくれた方たちの 実践や体験もモデルとして綴られています。形を変えねばならない部分や 名前を使えない場面もありますので ご容赦ください。古い生活場面は地区により多少の違いや 風習が異なる場合もありますから 町内全般に適用されない事もあります。

細長い東西の野津原ですから方言の語尾 ニュアンスにも違いがあり 別の意味が生まれる場合もあります。野津原の方言でも今市では通用しない その反対もあります。江戸期の名残りか領地の関係か でも心が通えば言葉も通う だから温かい人情も醸し出されて 故郷の方言は大事にされたのでしょう。

単語に禁句や使ってはいけない言葉も 方言集のため敢えて加えてありますが 専門家に聞いてもそれは許される との由だから歴史のヒトコマとして記載しました。故郷の無形文化財である野津原方言 これからも出来るだけ大事に使い保存して頂ければ 本当に幸せと思います。



目次

1	はじめに			
2	おしゃべり会話	15		
	年のはじめ会話	16	大將軍まつり	30
	正月会話	16	寒の餅	30
	おしゃべり会話	17	屋根がえ	31
	言い違い聞き違い	18	コタツ	32
	見ちよつちくりい	18	ムチ焼き	32
	おしゃべり会話	19	消防	33
	ツチロク人生	23	卵すいもん	33
	水取りせかんじ	23	年末会話	34
	秋口会話	25	走った郵便	34
	千巻心経	27	貸した人の心意気	35
	ガラガラ柿	27	七瀬の友	36
	会話から昔今	28	秋の一日	36
	冬の会話	29	方言弁論	36
3	方言農作業《作業》			
	農作業の一年	39	野焼き土寄せ猫柳	48
	水車のリズム	42	田のつくろい	49
	農作業一月	42	ナバとり	50
	ナバ山は生きている	43	農作業四月	51
	山の向こう話弾む	44	松根油とり	51
	米と替えた生菓子	45	セキうち	52
	コマウチ	45	農作業五月	52
	農作業二月	46	シットウ作り	53
	ギシ焼き田普請	46	泥つけ	54
	ダルかたげ	47	肥出し	55
	農作業三月	47	朝草切り	55

農作業六月	56
泥付けに逃げた役人	57
半夏至水	57
粟蒔きの歌	58
腰巻汚しフリ田植え	59
田植えよこい	60
農作業七月	60
農作業八月	62
農作業九月	62
出産とヒエ取り	63

農作業十月	63
ヤキ米	64
農作業十一月	64
ムシロ干し	65
三筋煙りがたなびく	66
麦植え	67
縄すり	68
農作業十二月	69
初サベの唄	69

4 方言農作業《子供》

羽根つき雪あし	71
子供と祖母と	72
疎開授業	72
セライ子オト子	73
子供と病気	74
祝日	75
餅を欲しがる子守歌	76
指が消しゴム	76
せがうな	77
子供の遊びと生活	78
三月の唄	78
炭売り中学生	80
子供ん仕事	81
ハナハト時代	82
水かたげ	83
もう生えたか	84

イチゴ取り	84
害虫駆除	85
虹のかけはし	85
ホエタど	86
夕立雨	87
勉強せん子知恵が	88
残されち覚ゆる	89
運動会	90
名月さま	90
湧水	91
初恋オサシ	91
ごむ銃	91
疎開生活	92
二男のいやがり	93

5 方言農作業…生活		風通しがいい……………	1 1 8
木炭バス……………	9 5	言い伝え聞き伝え……………	1 1 9
明かりと生活……………	9 5	カンカラ餅……………	1 2 1
よりあい……………	9 6	ナンテンの葉……………	1 2 1
焼き餅……………	9 7	食事あれこれ……………	1 2 2
カタクリぜんざい……………	9 8	ボタギボタモチ……………	1 2 3
嫁の立場……………	9 9	おトキ……………	1 2 3
出征兵士……………	1 0 0	コガシトイモアメ……………	1 2 4
テレビから……………	1 0 0	雨乞いは白山権現……………	1 2 5
小作人の四季……………	1 0 0	お膳箱……………	1 2 5
もらい湯……………	1 0 1	蚊が出た……………	1 2 6
入れ薬屋……………	1 0 2	サイダス……………	1 2 7
火元3年頭上がらず……………	1 0 3	滋養つけにゃ……………	1 2 8
お接待……………	1 0 4	竹の皮の囃き……………	1 2 9
歩く日近く……………	1 0 5	寝ゴサ打ち……………	1 3 0
はちりん……………	1 0 5	フトン洗たく……………	1 3 0
在所恋しや……………	1 0 6	味噌豆は子供に……………	1 3 1
コビル食わんな……………	1 0 6	口説き踊りは……………	1 3 1
びつちょビッチョ……………	1 0 7	鈴が滝……………	1 3 3
まわり駒……………	1 0 8	秋葉越えれば……………	1 3 3
駒かけ馬頭観音……………	1 0 9	夏の昼寝……………	1 3 4
四月の歌……………	1 0 9	盆の月……………	1 3 6
イモリヤモリコーモリ……………	1 1 1	夏の思いで……………	1 3 7
一合雑炊二合粥……………	1 1 1	キナコ涼しや……………	1 3 9
女子青年団……………	1 1 1	トーフの一丁食い……………	1 3 9
母なれば親なれば……………	1 1 5	アズキは米の三倍……………	1 4 0
道たずね……………	1 1 6	秋まつり……………	1 4 0
あきない……………	1 1 6	混ぜ飯百態……………	1 4 2
ノミシラミ……………	1 1 7	村芝居……………	1 4 3
めし泥棒……………	1 1 8	共同風呂……………	1 4 3

じんきち柿はうめー	144	みやげ餅	149
村の辻	145	くいもん四季	150
作まつり	146	女の四季	153
転換の年	146	お色気数え唄	156
ふるさと恋しや	147	馬子唄恋しや	157
葬送	148	苦勞あったが	158

6 かたりべ

百姓女ごは忙しい	161	孝女と大蛇	178
笠が淵伝説	163	夜泣き地蔵	178
仏水の伝説	163	手足荒神	179
姫隠しの伝説	163	咳の地蔵さま	179
諏訪神社	164	茶の実と茶呑み	180
得して失った	165	火伏せ地蔵	180
動かん石	165	高崎山に出た鶏	181
吞まずの水	166	クルス五輪	181
豊後岩屋	166	一の瀬川原の戦い	181
すりの地蔵	167	野津原宿場町	182
厄年に帯を買う	168	家なり止め地蔵	182
大蛇の恩返し	168	三夜さまの申し子	183
母なれば親なれば	170	一華和尚	183
水を恵んだ老僧	171	和尚の力くらべ	185
練ヶ迫	171	瀬戸の地蔵	185
宿場町	172	高沢の尺間さま	185
横道	173	神楽を楽しむ白蛇	186
蚕とタンノンパッケン	174	イビラ餅	186
荷小野獅子舞い	174	川まつり	187
甘酒の味	175	地主と田の草とり	187
五助と吉兵衛	176	税高区費	188
朝日を待つ農民	177	歟下年金	188
		能登神楽	188

今市に過ぎたもん……	189	情けは人の為ならず……	191
8 斗石……	190	天狗の住んだ山……	192
秋葉ん力持ち……	190	竜の恩返し……	193
大分県干ばつ記録……	191		
7 ちょつと一服		七瀬川……	200
ひらいもん……	195	中部校生徒アンケート……	201
米価暦……	197	日中、太平洋戦争記録……	204
花鳥風月……	198	恵良大火記録……	205
地名ガイド……	199		
8 口説き唄		竹刀踊り馬子唄から……	217
ごんざ口説き……	208	さとうた……	218
猿丸太夫……	210	田植え唄……	219
左エ門……	211	尾原白熊練り唄……	219
亥の子唄……	213	下宮お着……	220
手まり唄……	214	下宮お立ち……	220
田植え唄……	215	本宮着……	220
替え歌……	215	白熊音頭……	221
数え唄唄……	215	白熊伊勢音頭……	222
牛飼い数え唄……	216	白熊練り和歌の浦……	223
おロク春海……	216	千秋万歳……	223
田植え唄……	216	縄飛び唄……	223
ホーチョヌベヌベ……	216	田植え唄……	223
竹刀踊り……	217	よろず漫才……	224
9 新しい歌		恋の七瀬川……	229
七瀬川子守歌……	228	七瀬川哀歌……	230
無題……	228	七瀬川……	230
野津原音頭……	229	野津原慕情……	231

ななせ川愛歌……………	2 3 1	さとうた……………	2 3 5
七瀬音頭……………	2 3 2	七瀬馬子唄……………	2 3 5
せせらぎの女……………	2 3 3	三助おどり……………	2 3 9
ああ石合原……………	2 3 4	諏訪の恋い歌……………	2 4 0
七瀬みれん川……………	2 3 4	野津原青年団団歌……	2 4 1

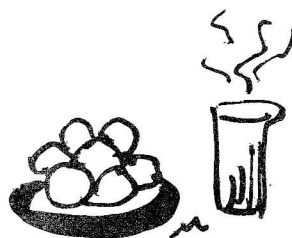
1 0 方言カルタ

方言いろはカルタ…	2 4 4	方言アイウエオ遊び…	2 4 7
方言イロハカルタ…	2 4 5	方言いろはカルタ……	2 4 9

1 1 諺…………… 2 5 1

1 2 方言単語……………	2 5 7
方言番付表……………	2 8 1

1 3 方言浪曲…………… 2 8 3



1 4 あとがき

方言調査会員の思い出から……………	2 8 9
編集を終えて……………	2 9 7
監修を終えて……………	2 9 8

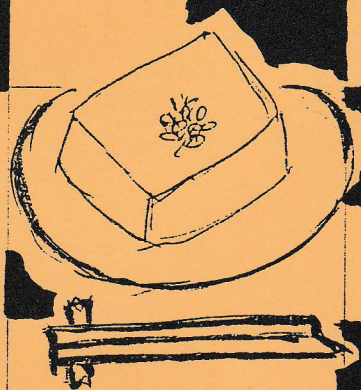
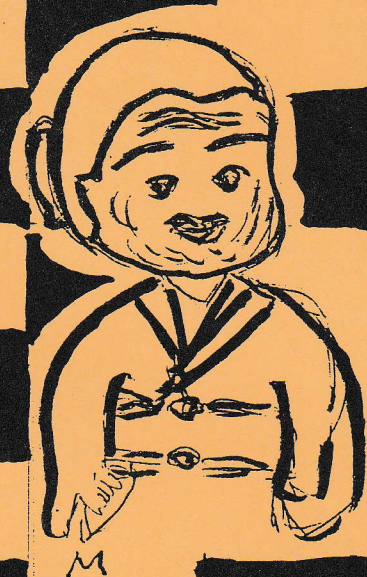
祝 野津原町町政施行40周年記念 野津原方言集…後編…
野津原方言調査会……調査 収集 編集 構成……刊行。

★平成10年4月1日★

※ 野津原町町政施行…昭和34年2月1日 ※

方言

おしゃべり会話



おしゃべり会話

人が出会うと必ず言葉が出る。それが心の通い合いから飛躍すると『おしゃべり』に発展する。時間にこだわらないのも おしゃべりの才たるもの。村の辻 わかされ 帰りかけては話す 同じ話が行きつ戻りつ 見ている方がハラハラすることもある。でもその時間は当人には この上ない楽しみのようだから……

方言が交わりながらのおしゃべりには 時として思わぬニュースの交換もある。灯台元暗しとか びっくりするような話題も 手ふり物真似の おしゃべりは 遠くから見ても絵になる。ましてやトショレと子供の会話は 方言と普通語が入り交じり チャンチャラオカシイ。それが又 ワライトウナル。

『コドムーセガオーヤ』 反対にセガワルル。ソゲナコッー言う と ヤリコメラルル。大人うへトモオモワンキ 腹うタテチミテン ショーガネーナ。それだけ知恵がチータゴタル。ホカンシガ聞くと タマガルヨウナ コッー言いヨルガ エーラシイ言葉もアッチ 何かソベーイキトウナル。行ッテンイイナ。ソベ…イコー。

方言おしゃべり幾つか……



年はじめ会話

『合い年始うするきち言うちきたで』『フントヤ イケウチンシ
ガヨンノカ』『ソウジャーコト』『正月歩き行っちゃらんに 悪
いのや』『いいじゃねーな 合うた時言やいいわな』『男あそげ
んわけにゃいかんわい』『チャーラ ホンナドゲースンノー』『
今かる行こや』 昔んしは固え ちゃんと正月ん挨拶しちょか
んと 負けたごたるんじゃろー。

始めち山に行くのを ハツヤマち言う。エート帰っちきたらソゲ
ンフージャキ セワシューシコスル と『イケウチ』ウ回り歩い
た。テヌグイ ゲタ ソリー母屋にゃ鏡餅うブラサゲチ。ネンシ
ガデチ ヌーダナイイガ チョチョラユーチシモッチ 下駄ん鼻
緒をネジキルヤラ エート合い年始に間に合うごつ 帰りチイタ。

正月会話

『ドウナ正月がクルカエ』『ナントカナエ 来るナーショウガネ
ーワ』『米うもう納めたんな』『出来が悪かったき まけちもろ
うた ちっと』『へーゆうまけちくれたな』『そんなわり山ん下
狩りいでえぶん行ったき』『それとズリガエナ』『マアソゲンコ
ッジャ』

地主に サザメう納めち 残った分かるちっと残しち アター売
る。年越しは ホンノチットーん錢じ 子供やカカに何か買うち
ヤラニャナルメー。

イロりん傍じタバコノミヨル年寄りしも 一生懸命加勢シタキ
何か欲しいもんぬ。年寄りが先に気を利かせち 『俺どうはい
いど のやバアサン』本当は欲しい が銭の残り少ねえのが解るき
遠慮するヂイサン。『ワリーナーコンダコラエナー 春ん繭う出
えたら チッターヘールキ ソントキャヤルワナ』

子供は下駄 タコ ハネ 親の苦勞もよそに喜びよる。それじい
い。年寄れしは自分たちが苦勞しち來たぬー 解っちよるき笑う
ち打ち消す。『ヂーサン コリユーユウシチ』木に引ッカカッチ
ヤブレタタコを『ドーミセチミヨ』受取ると手先じ器用に ツク
ロウタ。年寄りが居りゃコゲンコツモ チョコットデクル。孫も
ベツタリヒッチィチ甘ゆる。

錢はねえけんど元氣じ ヤウチガサカシケリャー ソレガー一番イ
イゴタル。『ホラデケタド アゲチミヨ』『アグルデ ミニキナ
ー』 外は風が冷てえが家族は温かい。子供の笑顔がそりゅー又
ヨーキ ヒキタテチョルゴタル。『ヂイサン アガッタデーミナ
ーホラ』『ヤンナ ウメーノー。

おしゃべり会話

腰巻じ仕事うする。イモジとん言いオコシとん言う。言い方
によつちイメージが でーぶん違うちくる。自然が一杯ん農村じゃ
絵を見るごたる。田のクロジシッコしち それも尻べらまっくり
出えち 中かがみになっち済むとパッと 着物ん裾を下ろす。そ
ん腰巻じチョイト押ゆると 風通しはいいし乾きは早え。でん東
京ん白木屋デパートじ火事があっち 店員が二階かる飛び降れた
もんじゃき ズロースを着るようになったち聞いた。

男しえ…そりゃーヘコフンドシ ソウ先ん方う引っぱり出えち
ぶらさげち そうじゃもんじゃき畦塗ん時 そりゅー塗くうじし
もうち。何か色氣があっちいいんじゃねえー。

年頃ん娘が夜中に口笛う聞いち そんまま起けち外い出たら
後ろかる手を回しち やっぱ一年頃ん娘にしちみりゃ嬉しいわな
。どうでん一人じ帯解く 一人ぁヘコ外しち いいこちーお月さ
さんも雲に隠れち それでんやつば母じょうは 外ん物音う聞き耳
たてちよつた。

それかる先え どげえなったかえ そげんこた一まゝ想像に任せ
ちよくけんど 夢とロマンのあった昔。それでん大事な事はちゃんと
わきまえちよつたきーやっぱ 固えところもあったごたるナ。

言い違い 聞き違い

『皆じ歟う買うきお前かたもいっしょに頼むか』『よかろー』
そのよかろーが大きな問題となった。『よかろう』と言うと『いい
ですよ』と『結構ですよ』との二つに意味がある。困ったもんじゃ
のー……こんな時 『も』『わ』が入ることじ 全くちごうた意味
返事になる。

うちもよかろう………買ってんいいで
うちはよかろう………いらんきーな
方言も一字違いで思わぬ結果となる
うちの嫁も………他の嫁さんとおなじ
うちの嫁は………他の嫁さんとは違う

と聞こえる。

見ちよつちくんな

『買い物に行っちくるき見ちよつちくんなー』『ひまーいんの』
『すぐ帰るわな 組合まじじゃーき。魚うアゲジョウケに掛ケチャ
ルキ』『あ わかった』

そんうち 黒猫がスルーチャツチキタ。アゲジョウケン魚に目をつけたごたる。下かる狙いをさざめち……見ちよくれ……ち言われたき じーとそりゅう見ちよつた。誠ちうまい狙い方に感心もしちった。ヤンガチ帰っちきた。

『ゆう見ちよつたで 猫んやたー旨いことアゲジョウケカル 魚

をトルナリ ツージ逃げちいったわな』『…………』

おしゃべり会話

『ちょいと オバンカチ行っちきなー』『ああよだきいの一何しにえ』『コイサ ちょいと加勢しちくんあち 言うちきなー』『アンヤンに行かすりゃいいに』『そうじゃけんど オバンなお前が好きじゃきち 言よったきい』『フントナ ホンナシカタネェ ヨダキイケンド行ッチクウカ』『オバンガ イイモンクルルカンシレンド』『アゲンコトンジョウ言うち』

『暑いなあ こげん雨が降らんと 煮えくり上がるなあ』『ふんとじゃ畑んナスビも くたびれちしもうち 野稲んやた一葉をメーチ ショワーナカロウカ 困ったコンニャクジャ』『フントナエ ソンクシ風邪ウヒイチ お医者え行ったら ケックシャガイトー来チョツタ』『ゴテーシンガ多インジャネエナ』『ソウデンネーゴタルガワナ』『無理うせんごつせんと ヨロケになっちしまうとスツタリジャキナエ』『銭はいるし痛え目にはあうし仕事たしそこなうしなあ』

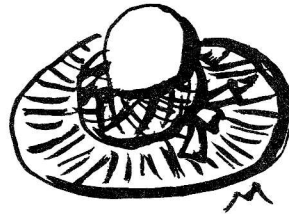
『待ったんじゃろー』『うんにゃ今しがた来たんで さかしかったな』『昼は暑いし あんまり晚ぎ遅うまじすると ブトン奴が食いつくしイジクリ悪い事う言うしも居るし』『無理うしなんなあ 病氣したり怪我うすりゃーウットウ心配になるき』『そげえ思うちな無理うせんごつしよるけんどコイサ逢えるち思うと ヤッパハリコミトウナルコト』『よそんしに負けんこつ思うな一ゆう解るけんど 気がつかると悪いで』『いいじゃねえな』



『よーここじゃ こつちじゃー』『そげん所りおつたんな 蚊
がくやーせんじゃつた』『ちったー食われてんいい』『見よそう
こげえ赤うはれち』『ソゲンコタードウデンイイ』『チョイト
コゲン所じゅー』『いいじゃねえな』『そうじゃけんど 田回り
んしが来たらどげえする』『だまっちょりゃ解りゃせんき』『ふ
んとセセロシイナァ アンタワ』

『お前どう そこじ何しよるんか』『ウットドウ シッコしよ
つたんで』『そげん所スルやつがあるか ワンカタン畑じなしせ
んのか』『なしえ』『解らんのか 肥やしなるじゃろうが よそ
ん方ん畑じすりゃ大損じゃねえか』『それもそうじゃあなー』

『タマガッタナエ 罰ッカブルカチ思ッタ』『ヂイサン見たか
ったんじゃねー』『トッパジャキーナエ』『見られんじよかった
なー』



『こびりーせんな』『そうしゅうか 腹が減ったち思うた』
『今日はハリコンダキ早うシマウカナ』『ウン 早ウヤメテンイ
イワイ』『ホンナ 湯を沸かしチョカニャナルメー』『まあそげ
えセカイデンイイワイ』『アッコンシャ デーブン残ちよるごた
るけんど』『ハリコマンキジャー ユウベ飲みよったき ユウタ
ンジャロー』『ソゲーイヤ今朝ガタ チッタオスー来たゴタッタ
ナー』

『ユウベヨバイニ 行ッタンジャロー 目が赤ウナッチ』『行
ったところが オヤジが起けちきちオイタクジラレチ ショウガ

ねえき竹山に入っちシャゴージョツタラ』『蚊が食いちいたん
じゃろー』『それがお前 叩こうち思うたけんど音がするき
痒いナンチャネー 大けんラツキョー見たよなホロセが出ち』
『あん娘は待つちよつたろーにムゲネコサレ』

『こんだ草きりい行く時いゆう話ちょかにゃ あん親父はや
かましいきのや』『二人じ行かんきじゃ 一人が逃げちの そ
ん間に上がりクウジいきゃーいいに お前どうドンナワイ』
『ソゲエ言ッケンド』

『ジョウラン取り行うや』『ショウケを持つち何するんか』
『ドイム掘っち帰るき』『ほんな取りいかんのか』『行くけん
どドイムクルルチ言いよったき』『ジョウランナ俺が持つちゃ
るわい』『ありゃーヤワタラガ ワクドくわえちよるど』『し
ょうがねーのーワクドはヤワタラに食わるるごつ なつちよる
き』『誰が決めたんか』『おどう知らんど』

『お前はカタルカ』『インニャ カタランど』『ソゲンコツ
ジャローチ思いよつた』『ソゲーゆうてん しょうがねえこと
せわしいき』『テエゲーソゲーコス言うじゃローチ 皆じ言
いよったんじゃ』

『コイサカルイクキー』『ソゲー早う出るんかえ』『カキー
アワニャ困るき』『気をつけち行けや』『ショワーネーキナ』
『サカシュウシチョンナリーエ』『ダカイトダルモンナ 心配
センデンイイキ』



『オカチャンゆうべ誰か来たに』 村の若い青年が夜になると
そつと 遊びに来るようだ。親にしてみると嬉しいような 困っ
たような心境。『ズロースん紐にチョマを入れ替えちょこ』
『痛えこたぁねえ』『しゃんとクビッチョキャショワーネーキ』
さすが親心 心配はないようだけど ズリ結びにして すぐ解け
るようにもしてあった。

『あー暑い暑うじもてんのー 早うビール持ちきちくりー』
『そりゃーいいけど ドンノクビュー見なりー きっさねー先
い風呂い入っかる 飲みゃいいに』『何や フラーエエチョル
ンカ』『エエチョルグレーカ 汗うケーチョルジャローガエ 早
ウヘーンナ』

『久しう見らんじゃつたけど どげーしょったか』『わしゃ
あんた 風邪うひいちしもうち』『何え そりゃおおごつじゃつ
たな 無理うしなんなえ』『これでんデエブンユウナッタキ』
『チツタ咳うしよるごたったけど』『咳が止まらじシマタツカ
ンキナ』

『アアもう暑うじ寝られん カキ氷食うちいいじゃろー なあ
ちゃ』『あ、もうギウウラシイ奴じゃのー カキ氷んじょう食わ
んじ ちったー辛抱しよ』『すぐ大人んくせに 自分どうはビー
ルんじょうぬうじ』『カキ氷んじょう食うち 腹がセイテン知ら
んど』『しよわーねえー腹を冷やさんごつするき』『ヒリカブッ
てん知らんきの』

『ありゃー久しぶりじゃな』『サカシューカッタカエ』『フン
ト真剣久しいな』『どき行ったん』『そこん店じバーゲンとか
しよるちゅうけん 知っちょるな』『へー いんにゃ知らんに』
『見ちょくれ こげんもんぬー買うち』『こりゃーどうか うっ

とうも行っちみろう』『がいとあるで』『銭が足らん時は貸しな』『こりーしゅう』『ちょいと待つちみな』『どげーしたんちった派手じゃねー』『若うなっちいいんじゃねー』『若えないいけんど 嫁ごに取らるるで』『ほしがろーか』『お母さんない男がでけたんじゃねーち 言いフラサルルで』『ほんな嫁ごにも安いもんぬ 買っちゃろーか』

ツツロク人生

『イムー掘ったき食べて』『もう掘ったん ありゃーケックシャ太っちゃうな』『うまかろーごたるで』『ふんと おおきに』こんな会話は人の心を和ませ 隣近所の人を大切に幸せも分けあっている。

『こん前はオーキニ クリウアヤシタキ 持つち来たで』『ちゃーすまんない』『ちったー若えのがあるけんど 早う取らんと虫が入るきな』『そうじゃーな こんのん虫が入っちなえ』『まあ茶でん飲んじ』『忙しいき又よぼるるわな』『そっなほんなオウツリはネエケンド』『オウツリなんか何するな』

シナモンが 行ったり来たり 儀あみのツチロクのように友情が交わされるので ツチロク人生と言う。

※ ツツロクとも言う。

水とりせかんじ

『お前かた水がねえじ荒代とれんじゃろー』『おいさん方ぬちっとくれな』『荒代取れたら水せっこんじょきゃいい』『ああ すまんけんど』『せかんでんいいき』 せかんでん…これが…いそがなくとも…と…せきこまなくとも…の両方に

とれる。田まわりに行っちみち吃驚 水は入っちゃらん 聞きゃせかんじいいち言うたき せかんままじゃつた 水がタマッ
チョラン訳じゃ。

うめー水ぁぬうだこたーねーで…おいしい水に滅多に巡りあ
わない と言うと可愛いそうに思うが…もらいださん とも
聞くと腹がたつ。

どげーでんしな…気にいったようにしなさい と言う場合と
勝手にしてよ ととれることも。

いいで…よいですよ…知らんで とも。

知らんで…知らなかった そんなことわからない。

いきなー…いっておいで 勝手に行け。

どうでんいい…自由にしなさい 仲間に入らない。

おこな…叱らないで 叱って下さい。

ふくれたな…ふっくらとできた 腹をたてた。

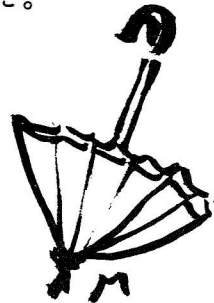
言葉のアクセントによって その意味が全く異なる意味にな
ることが多い。又優しさや怖さも感じられることもあり よく
誤解されやすい。言葉の後先により方言を解する人は その意
味も解るが 言葉自体が荒いだけにとんだ間違いも生まれる。

せわしい…忙しい…うるさい。

こゆるで…越えて行く…肥えますよ。

さびー…寒い…選別する…計って少し軽い。

ゆうたな…髪をゆう…言いました…酔うた。



秋口会話

『イキナタリーシチョカンジ カタズケニャ コキーイックリカ
ヤスド』『豆ヶケータライミツチ ウジケチキ味噌豆にシュウチ思
うチョル』『クズシチキタキ カサギモ持つちカイッタ』『ヒズー
カッタナ オラビヤイクニ』『ヤンナセワシカローチ オラバンジ
ャッタ』『クンズイチカゴージョルト ダッチシマウ』『エンヤラ
エートスنداナ』

『オショツチミリャマー生シイゴタル ホタリコカシチオイチョ
ツタラ ゴーライタガユーキチョルゴタル。バンナアッキ寝ンノジ
ャロームゲノコサレ』『早生が熟れたごたるが 溝刈りう早うせん
と タッタイマセワシュウナル』『やっぱゆうでけた年ぁいいけん
ど 小作に取られちしまうき 何のこつか解らん』

『コイサ寄ツチクンナー』『祭りんこつー話てーき悪いけんど』
『イイデ ヤカスンナエ』『神楽おアギユーチ思ッガ ドゲーナ』
『タマニャヨカロージャネーナ』『俺も一番舞おうか』『シナガイ
イキナエ』『若え頃ぁユウモウタモンジャガノー』『マア若エジャ
ネーナ舞イナー』

ウンスケ焼酎があげらるる 皆じ分くる。つき餅が顔を出すのも
秋祭りから 幟旗が風にハタハタと靡く。その度にかんがカタカタ
音をたてる。のぞかな田舎の森に笛の音 神楽バヤシが懐かしい。
祭り客が孫の手を引いち来る。里の親が来たのに食ぶることに追わ
れち ゆっくり話もでけんども 元気そうな姿に気が休まる。『ヤ
ンドーモ神楽見ニイッチクリャーイイ』 助け船に誘われて里の親
の後を追うと 足遅いのを追いつく。涙がにじみ前がかすむ。

『ボタモチ テエタカ』『マアセンムキジャ』『ドークッチョ
ルノ』『ケチョクッチョルチ思うた』『お前ゃネッチスリガウ奴
じゃのー』『ノータンガワルナルキ』『チュウカンガ』『イマカ
ルデンイイキ タケ』『ボタモチャ春ジャローガエ』『ホンナ
オハギカ』『ナカメシグルリアンチ ユウンジャロー』

『コッカルセランカ』『セルエ』『ソゲーナンカカルナ』『イ
イジャネーナ シイチョルキ』『タマガラカスナ』『フントデ
コン前ユウタジャネーナ』『ホンナコイサ行ってんいいか』『コ
イサエ トッタンガオルカシレンデ』『ネンジューオルノヤ』『
ニイッタラ戸を開ケチョクキ』『イイドヌイジョケヤ』『オカシ
イガエ』『ヒミンツラジャノー』

オハギは秋の萩になどらえて ボタモチは春の牡丹に見立てて
呼ぶとん言う。ボタモチはモチゴメじ作り オハギゃ粳米で作る
説も。地域で違い人ん心の表現でん変わるごたる。でん作る人ん
想いは同じごたる。若え二人の会話も情がこもっちほほえましい
。彼女の家に行きてえが うるせえ父親が目を光らせちよる。じ
ゃき安心でもある しかし彼氏にしてみりゃ 少し近寄りがたい
。でん彼女がその気のようにゃき 目的の達成は可能のよう。心
の問題と理性はあるが。

テコボンに乗せて出された お茶にココンシノ心ガユーワカル
。テーゲンシハ チョイト用心シチカオゥノンボリクンダリ見チ
ソレカル 茶ガ出ル。『ナンシナ』 ソレデンマージット横目ジ
見チ 『チョイト牛ウ見ニキタンジャケンド』…ハハー嫁ご見か
…うちん娘も年頃 来たか 『まああがんなー』 相手もエート
ウマクイキソウ 『セワシイニワリーナー』 ちアガリグチカル
前座に上がる。『早うつまむもんぬ出さんか』 親父の声は嬉し
さに踊っている。

千巻心経

願い事がでけち皆んなじ千巻心経をあぐるこち一なった。ナン
サマ多い数じゃき 人数が揃わにゃオオゴツ。エート10人ヨツ
タキハジムルデ。それでん100回繰り返しになっち 皆真剣に
唱える。中にゃトショツタシモオル ソンシハ色が白うじ口かる
チョコット 覗くオハグロが特別うつくしう見ゆる。

昔んしは嫁ごに来ると じき齒を染めたち聞いた。まっ黒に染
むる姿をノゾキミシチ 真似をしたかった若い娘が言いよつたが
何か魅力もある。女と黒との調和が人目を引くからか 黒いに
なんか解らん美しさがあるごたる。マツチンクジ数おいちゃ
お経があげられ半分ぐれえ済んだら イップクシチョコクレ 茶を
もっち来た。

茶を飲む口もとに仄かに揺れるノム湯気の中に オハグロの黒
がドンコンネー美しう見ゆるのは メズラシイコツモアルガ 人
に好感をあたゆる不思議な力が あるようにも想ゆる。サアヤロ
ーカ 誰かが言うトソリーアワセチ又唱ゆる。人の心が仏に通じ
る時人の願いも キイチクルルジャロー。

ガラガラガキ

『ショウジョウトツカマエチョラント ホラクルド』 皆んな
じガラガラガキチギリ 行っち木登りんうまいしがスルスル木に
登る。足う木に巻きつけち片いっぽうん手じ 枝を引き寄せモチ
ットジ手が届く。下かる見ちよるとハガイイゴタルガ上んしは
オツリヤシメーカチ キガキジャネー。ポキン折れた ガラガラ
ガキガオツル。音が山肌に響くガラガラチ。シヨワーネーカ。シ
ワーネード 気づかいながら落ちた柿と上んしを見比べながら
笑うたガラガラチ

会話から昔と今

方言はアクセントや受け止めかたで意味も変わる。『知らんで』と言っても…解らない 関係ない…とも聞こえる。『言わんで』と言っても…言った覚えがない 知っていても言わない…とも受け取れる。『もらわんで』と言うと…もらうつもりの無い まだもらっていない…とに別れる。

言葉についての投書から『有り難う』『すみません』などが少なくなった とあった。『ご免なさい』…目下から目上の人に言う…お疲れさまの意味とか オヒドウゴザイマシタ…ヒズカッタナエ…となりそう。『すみません』…目上から目下の人に言う ご苦労様の意味とか オオキニ ヒズカッタノー スマンナー…となりそう。

最近『有り難う』の言葉が少なくなり『すみません』に統一されそうで 心の通い合う有り難うが 薄れている。方言のオオキニはそれをカバーしてくれている ように思う。

ら抜き言葉も問題になっているが 言葉は生きているのだから時代と共に 変わって当然と言う投書もあった。若い人が使うからと聞くが大人が正しい言葉使いか 敬語にしてもアイマイではないか しっかりした言葉を使えば相手もそれに合わせるから言葉の乱れもなくなる。ら抜き言葉は使いやすさから 若い人に気にイラレルのだろう。言葉の乱れを心配するなら しっかりした言葉の使い方を 見本に示すことだろう。

方言は心の中に通い合う言葉 らが抜けても相手との会話に通じれば構わないようだが 言葉の一字が別の意味になる事もある。内の嫁は 内の嫁も…は も では大きい意味の違いになる。は…異なって も…同じです となりましょう。

冬の会話から

『近ごろはトット歯が悪うなっち』『お前もゑわしもモウガタガ
タジ ソリー目モワリー』『アイタドゲーナ』『アリヤートット役
にたたん』『ソゲンコターナカロー若ゑ時ニャ テーゲ元気がよか
ったに』『口出えち言うゴツナリヤツマランワナ』『バーサンガ寝
レンチュウケンド 知ったこつか』『ソリヤームゲネエデ アタル
ダケデンヨロコブデ』『テブタダケデンエ』

『イマキューマクッチ手を入れたところが 冷テエモンジャキ
モウセセロシイチ言うチ クルット向こうミイタ』『ムゲネコサレ
ノー』『チョコット太ったち思うたがワヤジャツタ』『ツマランナ
エ恥じゅケーチモウ 全くせんち思うたな』『若ゑしならイイカン
シレンガ もう卒業じゃな』『ソウカンシレン』

『ユウベガタ薪ん小屋ん横じ何かワヤワヤシヨル ユウ見チョル
ト、若ゑしが抱きおうちよる じっと見たら』『お前も好きじゃの
ーそれじ』『聞きてえな お前もー好きじゃこと』『ソリヤマアソ
ウジャケンド コゲン話ゃ罪ならんきイイコト』『ワリーチャ ワ
リーチャチ真剣言いよる』『無理う言いよるんじゃろー』

『アア温うなった目まいがしそうじ コリュー借っちょつてんい
い』『いいど寒いぬーコラユルト風邪うひくき』『助かった 引っ
かかったハンテンな夜が明けちかる取ろう 破るると困るき』若
夫婦が薪にハンテン引っかけち 取ろうちしたけんどクレーモンジ
ャキ ヤブルルゴタルキ自分のハンテンを着せよったんじゃ』『新
婚のアンシドウナ タマガッタ イイコツヤツタンカ…口水がコボ
ルルゴタル』『ヨダレガデヨルデ』『エーフントエ ウソンジョー
言う』『チッタ若返ったな』『あげんころが一番いいなえ』『又面
白い話う聞かせなゑ』

大將軍まつり

『大將軍に参らん』『参るかえ ちょいと待ちな—すぐシコースルキ』 正月13日は谷村ん大將軍に参り 牛馬の安全と無病息災を頼んじササを持つち帰り食わする。家族んごつ働く牛馬に愛情かけち 今年もハリクージモラワニャナラン。土産に買うちきたセトモノの小皿はすぐ役立つ。また チャント自分がんチョコも。

牛う引いち行った人が一杯ドコカジヒッカケチ ほろ酔い機嫌じ帰ると牛は道草うヤシボシナガラ ついち帰っちくるのを見ると正月のゆっくりした気分が漂ヨウ Cholナ。寒いが今年も頑張ラニャと心では言い聞かせち せめて牛馬には今日はゆっくり ヨコワセテー。タキモンウウセ マヤンコエダシ 牛馬は家族んごたる。

若い嫁ごが笹を牛に食わすると ギョロリと見つむるが その目には心の温かい通いがある。『頑張ッテナ』見つめた目がいじらしい『……』何も言ワンケンド 優シュスリャソリー答エチクルル牛馬ジャキ大切ニシチャラニャ。

寒の餅

『座敷い運べ』寒に入っちつく餅は アラレカキモチにするがシイラもある。ムシロヲ広げそん上に並ぶと ムシロん形が餅にチー Chol。乾いたらカマゲニツメクージ 時々焼いち食うが醤油をつけち焼くと 味と香りがナントンウメー。『カビガデタキ コサガニャ』『チットグレーショワネー』 アラマシコスルト網の上に広げサゲーチ『チッタフスボッテンイイユウ焼けヤ』『焼けたらヤンドゥ早うクエ スグカトーナルキ』 煙りを顔でよけながら正月の風情がふるさとに漂っていた。

屋根替え

『シモトアゲンカ』屋根替えには上でフキカエン者と 下かるワ
ラ シモト オニイなんかを差し出す者がいる。年期のいったもん
な 上かるオラブ。時々ススが舞い降りち それでんの一でん黒い
に イチベ黒くなる。『早うあげんか』又オラバレチ シタカル
サイダスト 待つちよつたんごつ セワシュウ取ッち引きあぐる。

コムッカラを並べちシモトを押さえ モトサキウ揃えち貰いちい
くと 青い空にキネーコムッカラン色が美しう 浮かびあがる。屋
鋏う入れちホーキじ掃くと まるじ新しい屋根んごつ浮き彫りさる
る。『茶にしちょくれ』ゴソゴソオリチキタ。顔は真っ黒になっち
誰が誰か分からんごたる。それでん婿じょうはチャント分かるんか
テノギーを持っち行く若え嫁ご。

『トッパイガウメーゴタルノー』『今朝作ったき食べて』『まっ
白いなー』『ソリャーソートンお前どうが黒いきじゃー』『ソー
ジャローナー』『コリャーナンナ』『ジャガイモンツキアゲジャ
ウメーデ』『俺にゃ焼酎いっぱいくりー』『ショワーネーナ ホラ
ケ落つると困るで』『ショワーネー チッタヌージョルホウガ 調
子がイイキノー』

屋根替えは独特な技術がいる。こんな機会をつうじて若い人も見
習い覚える。年寄りも教えて皆が出来る そんな関わりの生活が受
け継がれて行く。足場道板の上を軽々と移動する 姿を下から見上
げて頼もしくも思う。東がチットデチョリャセンカ』『ソウナ』
素直に年よれんしの言うことを聞く。鋏が動きコテが音をたてて
仕上がりも間近い屋根。真っ黒な顔でも心は白く人の暖かさ さら
に尊く屋根のように美しい。

コタツ

『アツバイン中にオコシを入れんと消ゆると』 寒い夜はコタツを入れち そん中にもぐり込むのが温うじいい。『寝る時ゃケカヤサンゴツセント』 年寄りが火事が苦になる。ハンテンぬニージ 温もった寝床に子供が多いき アトツゴウチ コタツん側に足う延ばすと チツタアチーグレー。

『ケヌカンゴツセント 風邪うヒクド』 年寄り自分の事より抱いち寝る 子供んほうが苦になる。コタツんソベー足う寄せ合い足が温もると 早え子はもうダツタンカ イビキをかきよる。朝方まじオキガアルキ布団の中は温い。布団は傷むけんど寒い夜の時にゃ 欠かされんコタツ。寒い朝はいつまでん寝床かる出らんじ
『学校に遅るると』『まあ早え もちっといい』 親子のやりとりが続く。

ムチ焼き

旧正月の20日に正月飾りしたもぬう 焼いちその火でムチを作る。女ご竹のウラサキう火じ焼いち 5月の野仕事に牛馬を追う時に使やぁ 叩いてん傷がつかんじいい と言われち農家は正月に準備する。牛馬を大切にいたわる心ん現れか 家族のようにしち 又働いちもらう愛情ん証じゃろー。ウラサキが黒う焼け束ねた ムチが馬屋ん脇にオイチャルト ナンカホットスル。

シビイチケゴーサセチ イツマデンユウナラン そげな話が聞か
るが 日ごろかる心配る優しさが セワシイトキー牛馬もココロエチ ガンバツチクルル コチー結びつく。痛むると自分も苦を見るし ヤウチも心配するき。

消防

『半鐘が鳴りよるで 火事はどこじゃろーか』『イロイチョルキナエ ヨキーヤケニャイイガ』『ポンプハモウイッタナエ』『アン坂う上りよるで』『ヒズカローガ 早うせにゃウチアグルデ』 火事になると若いしがポンプを かたげち飛んじ行く。腕用じゃーき力がねーと役にたたん。そりースポイエガオイーキ火の回りが早えと すぐウチアグル。トキノマニ。

火事に加勢に来てくれたしに 炊き出しニギリメシが配らるる。次の日にゃ皆が寄っちハイヨセをする。つまり片付けできれいに整理するが 昔かる意見が合わんじ村八分んしでん 火事と葬式にゃ加勢するき 八分は嫌うてん二分は協力した ミソワケトン言う。

卵すいもん

『お客が来たにどげえしゅーか』隣の娘が飛んで来た。『卵がありゃせん』そんな頃は卵も病人じゃねーとめったに食えんじゃった。『卵ならあるけんど』『それじ吸い物んぬ作りなー』『どげーしちえ』『あーもー何もしきらんの 嫁ぎいかれんで わしが作っちやるき出しなー』 となりのバアサンがウメーモンジャ チョコチョコット ツクッチクレタ。

タマガッターナーお客さん。『ありゃーあんた若えにたいしたもんじゃなー』『いんげー……』『気にいったで あんなー今日は牛見に来たんじゃけんど こりゃーいい牛じゃ』 牛見……嫁捜しによく使う方法で 牛を見るふりしち娘を探る。卵吸い物の隣のバアサンの お手柄で嫁決まり間違いなし。

年末会話

『コイサ オトヨリがあると』『そうか ヤゼンナほかん寄りが
アッチセワシイノー』『借錢払いもシチョカント夜逃げせんならん
で』『今年ゃ何とかナローゴタルガ』年の暮れになると皆んなやつ
ば忙しいごたる。借錢が払えんじ年の夜まじ逃げちょつち 夜中お
過ぐると帰ちくる。それじ又一年ずったもんじゃった。

中にゃ貸し主も苦勞は分かるき 早めに断りをゆうち待つちもら
う そげんしもあったごたる。戦争が終ち苦になるき 借錢ぬ返
し行ったところ 錢の価値が違うに元のままじいい ち言うちほん
のチットウ納めた。氣の毒に思うち別に心付けをしたが 元金だけ
でいいち 言うち受け取らんじゃった。そん人は長うみんなかる大
事にされよった。

走った郵便山坂越えて

野津原から温見まじの熊本県道を走る 郵便は利用者はまだ少ね
えけんど 血氣にはやる人が四里の道を。『今日も行くな 氣をつ
けな一え』『おーきにサカシイキショワーネーデ』コイシモケトバ
カシチ 走るヌー見ると若え娘が顔う赤うしち見送る。上り坂がつ
づいち脇道じゃ 足うゆるむると木の影かるウサギが飛び出す。タ
マガッタヒョウシニ飛び上がるゴツツージ ユウ見りゃイツンナカ
メーカ 横道まじ来ちよる。

大分に飛ぶ時ゃ楽なもん。ヒューラヒューラツウジ 時の間えに
帰ちくる。アンヤツガ村ん辻じマツチョル。何か言いテーンジャ
ローガ ユウワカツチョル。コイサ来てち言いてんじゃろー。『ダ
ッタジャロー』『チッターナーソレデンお前が顔う見ると ダリ
も抜くるわな』 その一言がどれだけ嬉しいか。

二日に一回郵便ぬ持つち山道う上る。おこもりする人が居るきな。道はドンコンネーワリー 大けん木がセセロシュウ動くと ボソカル何か出ちくるごたる。風が吹くともうタマラン コッケムクリ ツージマガリンカゾー曲がりきらんじ 下ん道まじ飛びおれた。えーと行きつくと『ヒドカッタノヤホライイモンヌヤルド』 優しいおこもりの人は買いおいた イチンダマ センペーを障子紙に包んじくるる。『オーキニ』ペコンと頭をさげたが 帰り道が苦になる。

霧が立ちこめて一寸先も見えん。木が風にうなり物音が耳にセワシュウキコユル。オジモンガデリャセンカ 足が震ゆるけんど帰らにゃならん。セチーノー心に眩き神様にタヌーダ。エートンコチー霧が晴ち道が見えて一たが そんなかりもう薄暗うなっちょる。えーと宇曾山かるモドツチキタゴタル。それでん郵便な行きよった。

貸した人の心意気

清貧農家が苦しいあまり2円の借金を申し込んだ。家屋敷を書き入れるように言われて 証文に書いた。『年の暮れまじ持つちきな一え 出来にゃ利子だけでんいいき』当時としてはオオゴツな金。ソレデン元金が出来にゃ利子ダケデン必ず納めた。ヒンシャを味わいながらドゲーモナランジ トニカク利子だけはチャント納めち。2円払えんまま戦争が終わった。

変動した世になり2円の返済は可能に 証文は貰わねばち 相場の金を用意しち家う尋ねた。『貸したのは2円じ結構』 2円と引替えに証文ぬもろ一たが 利息をキチンと納めたその人ん心に うたれち褒められたとか。借りた金に感謝して物固い人の心に 答えてくれたち言いよったわな。

七瀬の友

明治40年4月に発行され2号で中止になった。当時の野津原村と諏訪村が合併しち 大分郡内一広さ人口も6000人ち 書かれちよる。農会長は佐藤軍八さん 助役は小野応倉さんの名前も出ちよる。『七瀬の橋』ち題がちいた詩も乗っちよる。そんほかにも 通信 医学 青年会の余興もあっち 当時の社会面 人情の一面も覗かせちくるる。

続けち発行されちよりゃ とてんいいんじゃけんど オシナギーコチー 2号じヤメチシモッタゴタル。名前もよかったに惜しい。

方言弁論『秋の一日』

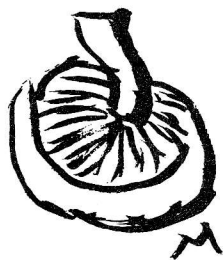
『チッター露があるけんどクソー切り行くな』『イイデドコマジ行くンナ』『大山マジイカニャ ウメーナーネエジャロー早うシコースリヤイイ』『待ちナァエ 判ツチョリヤシコーシチョクニ フント』『ダマシ言うタホウガ嬉しカローガエ』『嬉しいケンド……ユックリ話ガデクルナ』『アンマリコシラエンデンイイデ』『ワカッチョル セワシイナードゲーシュウカ チット寒いーあんたわ』『寒カリャヌクメチルワナ』『チャーオカシイ』『ソゲンコダネージャローガエ』

若い二人は楽しくヒューゲタ草きりの朝。口みずタルルゴタル恋心を燃やしち 二人キリン山ニャ人に知れんいいこつも ヤツタンカンシレンナー。真剣ドークリヨッタガ膨らみにチョイトアタツチソレカルナエ手がドゲーナッタカ まあ牛はそのへんのクソー食いよったんじゃろー。え ドングリ目じ見よつたえ。

見つかっち追いまくられち庭ん戸を ケハジイチ逃げたらダル
タゴに引ツカカッチ アオノキサンパチヒツクリカヤッチ 大事
ウツクリタテタ。ヂイサマガ割木ウブラサゲチ立つチョル。ソン
間ゑ 別ん一人が娘ん所いズリクウダ。『イイナ』ち言うと『今日
は悪いに』 アリャーナシ サンクリシチ『コイサ行くキイイナ
』チ聞いちょかんじゃつたんじゃろーか ムゲネコサレ。

『ナニエ ドゲエシタエ』『インニャドーンセン ソキーイッ
クリガエーチョケ』『コキーエ アンマリギューラシューイイナ
ンナ』『セセロシイノーギューラシューイウナ』『オマエコス
ギューラシューイヨルジャネーナ 口がさかしい』『ナンヤ モ
イッペンユーチミヨ』『ホゲンジョーイウチ イックリガエータ
デ ユウアセラニャヒランド』『ヒレージャ 訳は判らんじハヨ
ーイケ』『フント ネットスリゴウチ』 糸をウーセチ帰った息
子に セセロシューイウ ハージョウモ 心の中じゃ愛情がチラ
リミユルナエ。口ん悪いシハ根がホラケーンカシレン。ヒジイ時
ニヤ面白いコツデンイウチ 笑わせんとズーゴシガイトージナエ。
昔かる『根づけ取り上げ地獄入り』 ち言うじゃーねーな。

今年は米がゆー出来た豊作ち言うで。昔ゃヤミ米が十倍もシチ
デーブンイラブケーチ儲けたしもおった。いつぼうじゃ供出も
デケンジ イムー買うちデータリ日ごろコナシチョツタシハ 買
い出さんじ強権発動じヒツパラレチ アゲンコツモアッタナエ。
それかるこんだ一俵増産と。調子のっちガイト作ったらコンダ減
反と コレカルドゲーナンノ アンタドードゲー思う。今年かる
米は自由販売で オバンカタショワーネーナ。



若えしも草きりん夢も変わった。米作りもグータラ言われんご
つなつた。デン自然の中の土と取り組んじ物を作り出す人間にゃ
ヤツパーヒトンシレン楽しい事もいっぱいあで ダンゴジルガ
デケタゴタル タギリデータ コイサトッパイジ イッパイヤル
カ ホンナ又クルキ サカシュウシチョンナーエ オーキニ。

幾つわかりますか……アコギナ人ジャケンドイサギーンデ。
ウメーコター言うがクモンエバリュートッチキチ オキンウエジ
アブッチミタリ。ナバヤマジカササギカケシチ ハリクージギシ
メータガ 隣じクビルシモケツカ ハゲシュウコズム。サジーモ
ンジャキ縄じシビーチ スポガ目ニヘータ。

ソレデン早うセンカチオコラルル。鎌ガソズルキ用心ショツタ
ラ 手ヲタゴケーチ ツッカケニ仕事ウイワレタモンジャキ イ
クトテクノボンジ茶ガデタ。トギモオルキナマカタカタジータ。
子ガニーランキ泥土ウネタクルト ネボーナッチ ノキー言われ
たきハリクウダ。

チットヒドッチフシコルーイワレンゴチ ヘチコチュー見る。
ホイタラチットスクネーゴタル。マドエチ言う ユウミシキーア
ルハズジャ。ムゲネコサレメクラメッポーサガシチ。チョツトモ
モグッチ ヤケハタン回りうタタクト ゴーガハゲチ ソリユー
イサブリオチータ。

ヨコワンジスルモンジャキ ワキャガルカチオモウタラ 違う
ゴタル。ロクデナシチャ ソリャーオマイドークルナ。

方言おしゃべり会話いかがでしたか
方言が幾つか使われる中で 人の会話
の底に通い合う温かな方言。大切にし
たいものです。



野津原方言集

後編



方言農作業

後編では方言を使いながらの 農作業 山の仕事 生活の中にとけこんでいる方言を 喋りながらの仕事の場面。

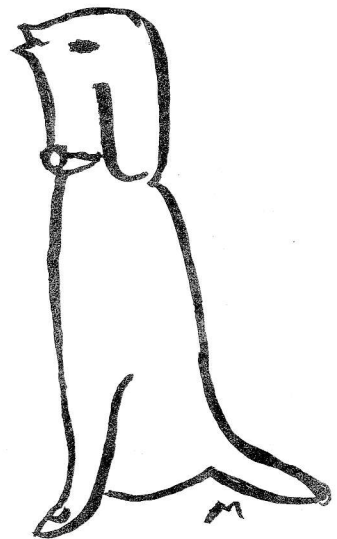
年令や季節 地域での語り方も異なる。同じ行事でも地域では又内容が変わる事も少なくない。言葉のニャンスも多少変わることもあって 方言のよさの反面 難しい面も覗かれる。でも温かい心のこめられた方言は 憎めないし親しみが伝わるよう。言葉の中には人を思う心 優しさ情がこめられていて 難しいが解るような気持ちにさせられる。

方言を交えた仕事での語らいから 月順に追って行くと……

七瀬の里の 馬子の五助さんが 方言ぬ使うち話しちくるるきまゝ聞いちょくれな。

★ 方言農作業 作業
子供
生活

※ 本当は使うと悪いかんしれんが特に 方言集の記録として残すために 一部使うちよるき我慢しちくんない。なるたけ人に迷惑かけんごつ しちゃあるけど ここだけん話にしちょいちょくれな。五助さんなサカシューしちょるき これかる先でん話しちくるるらしい。



囲炉裏んはたじ聞いた話 まあ聞いちょくれ

七瀬ん里ん一の瀬ん渡しに 馬子ん五助ち言う人がおった。とてん頓知者じ何でん詳しう知っちよる。久しぶり雨あ降るき 上がりくーじ話う聞いた。ヤウチンシモ一緒にカタッチクレチ ソリャモウニギヤケーナンチャネー。いい塩梅にデケタ甘酒も飲み頃 ツイジクレタヌー飲みよると チッターユータゴタル。

五助さんがヒューゲチ話スヌ真剣聞くと 野津原カル諏訪 ソシチ今市サンゴニ 昔カル使いよる方言がガイトー残ッチョルキ トテン話ガ ハズージイツンナカメーカ 日が暮れた。コイサトマンナ ダンゴ汁タクキ マア話ソウエチ。チョウシノッチ今晚ナ夜通シ聞くコチーシタ。ネッチスレゴーチ ズーシロニャイイアンベージャ。

話うする五助さんな もう90になるが 他ンシハチッタ若エシモオリ 孫ンミーチャンナ マア20になったばかり。ソゲンシノ集まりジャーキ 話モアングコンゲスルケンド タマガルゴツ面白い話がトビデーチ コツケムクリ笑うやら。シビランゴツセニャチユウモンジャキ ソレガマタオカシイト。色気話が出るとメイルーカエチ ノリデーチナエヤッパ アン話チャツミガネー。

囲炉裏ん火がユーモユルキ チッタ熱うナッタゴタル。イモジンスソーハグッタ チョコット見えたで。黒いのが。見られんフリュシチ横目ジミル。ヤッパクニナルキナエ 早う隠しゃいいにち思うが言ゃ悪いごたる。言わにゃ気になるし時々チラーチ見よったら風が吹いち ケムテー煙がコンゲサネキタ。エートユウナッチ ヒョイト見リャ黒イノガ見エン。何かアリャーススガオテチ ツイチョッタゴタル。オシナギーイトコルー見タカッタニ。

方言じシャベッチクレタ 昔の農作業は面白い。そん中にゃ生活やら子供の遊び 動き 病気なんかもある。仕事が当たり前であった暮らし 苦しい中に助け合う支え合う 温かい心のふれあい 話には人の心が生きている。おしゃべり会話では田のクロで道端で語る事が楽しいんか 心のやすらぎか 涙も隠しち。

古くかる伝わる語りべ 伝承 民話などが おしゃべりの中に生かされちよる。大切にしていえ里の人たちん優しさが 滲み出ちよる そげな気持ちちが 古い唄に感じられ労働の唄 心を癒す声としち唄い継がれたんじゃろう。そしち新しい歌も生まれちきた。

諺も参考に並べられちよる。今は見向きもせんような言葉も 昔しゃ生活の辞典としち重宝じゃつたじゃろー。合点のゆく言葉も結構多うじ役に立つ。方言ぬ取り入れたカルタ 理屈は別としち面白く方言の味が笑いを誘う。前編に盛れなかった単語の追加も入れた。限られた人と時間の収拾じゃき死角の場所やら 方言が残ちよるじゃろー。いつか又集めちと……五助さんの話は続くが素人集団が7年がかりじ収拾調査した 集大成を 馬子の五助さんの話に置きかえち 方言の温かさと人情を伝ゆる事ができれば幸せじゃが。

五助さんな肥後街道ん宿場町 野津原一の瀬渡しでの暮らしの名物男。頓知と博学が人に好かれち多くの人に 愛されち来た。語らいの横顔に刻んだ皺は 故郷の歴史の年輪じゃろー。

タバコを時折クユラセチ笑顔じ語る いつまでん聞き飽かんな一話上手か 聞き上手か……



一月…冬すき 麦のイオカウ タキモンヌ取る。二月…ジャガイ
ム植ゆる。三月…田すき。四月…イデブシン ドイモ植え。五月…
ノシロ 麦ジノー ナスビ植え。六月…水とり シロカキ バッチ
ョガサ。七月…ナガセ ドユウボシ ミズバン。八月…カンカラ
ヤセウマ マヤンコエダシ。九月…ダイコマキ ナツケ ソボサン
。十月…カケボシ ミドガリ。十一月…ウメウチ ヤッコメ。
十二月…ムギフミ サンドーラ マメガラ モロムキ。

水車んリズム

谷川ん水にクルクル回る水車 米うちいち粉をひいち 若えしん
逢引ん場になっち それでんダマツチ見ちよる水車。人間と共に歩
いち来た。嫁に行く日が近うなっち物つきい来た娘が 嬉しさと不
安な気持ちじ じっと見つめたクモンエバ それに粉がイッパイチ
ーチ ウスガマウタビ動く。クモハイツマデン餌ヲ待つちよる。相
手んこつー思い浮かべ初めちん夜のこつーも。

『茶のまんか』『おおきに』 近所ん人たちに誘われち台に腰う
すえた『いい嫁ごになんなーえ』『うん』愛情をこめち言うちくれ
た人たちも やっぱ初めち来た人ばかりじゃった。『初めんうちゃ
帰りとうじ仕方なかった』『ねんじゅう泣いちなえ』『それじ ゆ
うしたもんじゃ いつんまにかもう ここんもんになっちしもうた
』

一月頃

春が来たち言うに寒いなえ 今日どまちった温いかち思うちよつ
たが やっぱ寒うじ手のヒレーヒビガデケタゴタル。隣んしも戸が
開かんぬみると やっぱよだきいんじゃろー。それかコソートにわ
じ俵う編みよんのかしれん。糲すりも近うなっち早うすまんと ニ
ガオレン。

麦蒔きシュウチ思ウチョツタラ まあ凍ッチッチドケンコゲンナ
ラン ショーガネーキ山え行っち薪んぬ ヒトンダウウセチ帰っち
みると イツンナカメー炊えたんか『甘酒う飲まん』ち出された
き馬に薪んぬウーセタマンマ 飲むよつたらオコルナンチャネー。

雪が降りでえたが ウスがあした来るちゅうき壁なしムシロヤ
ラカマゲヤラ セワシイコツジャ。今年ゃわりと出来がよかつたき
タマルジャロー。儀あみもエートスンジ縄すりもドーヤラ アター
サンドーラを作つちよかにゃ コイサヨナベジデンシュエー。

ナバ山は生きちよる

『倒すどソンゲイクカンシレンド』寒い北風に身ブリーガスル。
ソレデン元倒しをせにゃー春になると ナバトリガセワシイ。バサ
ッー倒れたクヌギが二年先にゃナバがニョキニョキ出る。嫁ごが着
物んぬホシガル 買うちゃやりてーがマタ デーサマガ目を見張る
。チット チョロマカシチ買うちゃろう。手を見りゃヒビガキレチ
メシンシコースンニ ムゲネコサレ。

コンメー枝をコサグッチ引きヨスルト ツイチコンデンイイ イ
ドランヤツモチーチキタ。イマキン端い引っかかっちバリーチ破れ
た。シモウタヨナベニ カマブサフセシタニモーハガイー。『イイ
ジャネーカ アッコハ怪我うすりゃせんじゃったか』『世話ーねー
で』『ふんとや』二人は顔見合わせてクスーち笑うた。

玉切っちコズミアゲチコザクッタ カサギユカクルトエート一段
落した。『一服するか』『茶を飲むな』どこかる来たんか犬が近づ
く。『ゴーライタナ』『メッテアタンナンナ病気うつさるで』
『お前こす気をつけにゃ悪うなると困るど』『そげー思うな』『ソ
リャーソートンお前が大将ジャキノヤ』『アゲンコトンジョー言う
ち こんだ売ったら帶う買ウチクレナーエ』『イイド』

山の仕事は辛く厳しいが　せめても楽しい夢を持って今日も暮れる。苦勞んわりにゃ恵まれんが　頑張りゃいいこともあるじゃろう。若ゑ二人のナバツクリ　サキウ見ながらハリコム。帯も着物んも欲しい人並みの贅沢も　チつい欲ガデル。シコッチョルち人カル言わるるごつ　錢もアッチ　カカニユビカネンヒトツモ買うちゃりてえけんど。いつかきっと。

山の向こうで話が弾む

『もうどんな片ずくな』『ま一日かかろうゴタル』『ヤオーネーナエ』コマウチン仕事モエート終わる。寒い北風がテンショムショ吹くキ　顔も手足も冷エクリアガル。コマウツに手先がシビレタゴツナッチ　泣キテエケンドこれも仕事チ思ゃ仕方ネエ。生キチイクニャ他ゑ何うするか　毎年くり返すがもう諦めもチータ。

春の日ざしが今日はヌキー　アセガデチクルキエーと仕事がシューナツタ。オナゴシハ肌が荒るるチ氣を使うが　チットデン美しいのがいいケンド　忙しい時はソゲンコツイーウチョレン。コマウチガ済むと田植えんシコーがもう待つチョル。雨デン降リャユックリシTEEケンド　ソウスリャーナバがユウ出ル。

『ホンナはよう帰んなーえ』『あーオオキニ』エート区切りのチータ向山の人たちは　車じ引き上げた。一緒に仕事をヤリヨッタ人が引き上グル姿に　遅れたセツナサモアッタ　そん分多い自分の山ん事う思うと　チョイトワ優越感も味ワエタ。『お茶にせんな』嫁さんがかけた声に　待っていたと言わんばかりに『オイ』とコマウチン手を止めた。抜クルヨウナ青空がマバイイ。

米とかえた生菓子

『あれ食べてえに買うて』『辛抱しな一』何回母に言われたかん知れんが 今日は父がよその仕事ち出ちよるき 母は子供の願いを聞いてやりて一。畦道を顔なじみの物売りんオバサンが来る。『のさんな』『売れたな』『まゝまゝじゃー』『生菓子もっちるんな』『あるで…ちっと置こうか』『いんげ米とじゃ悪い』『いいで一升くるる』『うん 子供が欲しがるき』『よかったな一』子供たちの無心に食ぶる横顔に 母は嬉しさを味わっちゃった。

コマウチ

イチネンジュウジ一番寒い二月 シイタケづくりじゃコマウチじ一番忙しい『父ちゃん雪がガンガン降りよるけんど コマウチするかえ』『そげー一日じゅー降りゃしめーちった寒いけんど山え行こーや』『父ちゃん先行っち火でん燃やしつけちよつち』『しまいをしちくりゃいいわ 出る時タバクもっちきちくりー』

山に向かった二人 雪は降りまくる。『しょわーね一な穴ほぎゅうさるるな』『しょうがねえけんど いっときすりゃ止むわい』『ぼちぼちやりよるわな』『ふんなちっとでん打つちよこーか』寒い日の山仕事に全身は冷えこんじしまう。肌も手足も荒れち…

『よーい納屋んつし荒縄があるき持つちきちくりー』『あっきあるやつも持つち行くき』『あれな わかちよる』『そいちあいつもちっと』『そうじゃな ちっと持つち行くわい』さすが夫婦のアウンの呼吸……



二月頃

『お前どう正月歩き行っちくりゃいい』舅に言われるのを待つちよつごつ 『早う行こえ』せきたつる。在所にはなかなか行けん嫁ごにしちみると一分でん早う。『ほんないくか』みやげを背かると 嬉しさを隠しち『ほんな行っちくるき』『よろしゅ申しちな』

入れ代わるように嫁に行った子供たちが来る。『寒かったじゃろ一早う上がんなぁ』 顔を見るとやっぱり母じょうは嬉しさがすぐ出る。『お母ちゃん痩せたんじゃねー』『そげんこたーねーで』『何でんかんでんせんじ ちったラクせにゃ』 実の親子とはいいいものの『何う食いてーな』母親は子供の事が孫の事が……

昼かる初よりがあるで 肝いりがふれちくる。『おおきに今年は区長も代わるな』『さあさあ ま一期するんじゃねー』『それがいいな一ゆう世話がっちコデ動くしなえ』『してーしもあるんじゃねー』『そうかんしれんな そりゃそうとこん前ん話はどげーなったんな』『あれな ふうゆういったき一おおきに』

ギシヤキ田普請

今朝は風がね一きギシュ焼こう 田普請もせにゃすぐ水がかかるき。ちょいと温い日になるともう仕事が忙しい。年寄りの仕事もケックシャあるもん。焼いた後にはまっ黒い草がミブリーをしち ソレデン背伸びしよるごたる。晩方にゃもう青草が頭うカムゲアゲチナ。石垣う上手にツクローチこずみあぐると 土うつく音が回りん山に谷に響く。『早えこつーしよるな』『温うなったきセワシイワイ』『元気がいいな一お前は』『ゾーゴシガイテーケンド』『ハリコミスグルト ハリーニイカンナランデ』 按摩に来た人は仕事のしすぐるごたる。それでん楽しいんじゃろ一シラシンケンスル。

ダルカタゲ

『麦にやろーや』天気がいいき麦にダルヤリをする。ダルがつかえんうちに出さにゃヨダキューナル。『ツギモチド』汲み出えち担いじ来る 途中じ受けち田んぼに 麦にかけち帰っちくる。途中じ受け取る そんな繰り返しが続いち 麦にはチョツピリ肥やしになる。

『チョイトヨコオーエ』『ダツタカ』『オトコシナミニャイカンガエ』『ソレンソージャーノー』『マアデーブンアロー』『インニャアトチットージャ』『フントエ ホンナアンター人ジシヨツテ』『ヤンナドキーイクンカ』『アレジャーキ』『ヤ ナンカ』『モーイ』『……ツキヤクカ』『セセロシイナ』『ホンナ マタサレンノー』若い二人は肥だしの春先にも 夜の楽しみが待たれていたのに これは残念でした。

三月頃

霜が多かったき足先がシビルルゴタルナエ 『夕べはオヤカマシユーゴザイマシタ』『インゲイロイロ貰ッチ』『イツマデン考えナシジ困るワナ』『ソゲンコターネーデ イイ塩梅ニ決マルゴタルデ』『フントエ苦ニナッチ ミンナガユウシチクルルキ』

『コサグッタナ寄せチョカント足イ引ツカカルド』『解ッチョルワナセワシイナア カサギん済んだナ幾ツニナツタカ後ジ数エチミルワナ』大けん木が多いき場をとるき カサギもヨキーイルデ。

『ソンカワリー年ヨキー出ルワイ』『ソウジャローカ コン前ハ悪カッタコト』『アリャイレクラレタワイ』『ドンナコツー……』

『もう学校済んだんか』『今日は早う帰ってんいいち』『ほんな

草うちと切っちこんか』『まあ生えちゃらんで』『青い草うちとと食わすりゃ元気なるきの』『あたー遊ぶじいいな』『うんー籠切りゃ遊び行け』『コビルなんかねえ』『ヒヤキがあったろー黒砂糖は組合に買いに行かにゃねえど』『買いに行こうか』『草きりが先じゃ』

野焼き土寄せ猫柳

『今日は野焼きするき加勢しちくれん』『いゃーいいでどくーすんの』『平ん先うしゅうともーき』『すぐいくわな』『せかんでんいいで』『いんにゃ早えほう風が立たんじいいき』心得たもん危のうねえごつ火をつけた。真っ黒い煙りがあがると一斉に燃えカスも 舞い上がる。竹笹を持つち危ねごつなりゃ消すき ショワーネエゴタル。

春先ん風物詩じゃな 野焼きしたらすぐ青草が芽吹いち ツバナやらアマネやらワラビやら。

隣んしが田の麦ん土寄せに出ちきた。『凍っちるき まあヌクミナー』『早うかる焼いたんじゃなー』『お前がこんうち焼かんとフスボラカスト悪いジャローガエ』『イイデ』『ベッピンヌヨゴストワリーキ』『もうベッピンナ卒業したで』『ソゲンコターネードお前がヤッパー一番ジャノー』『チャーオオキニ何か持ちこにゃ悪いな』『『今晚するか』『あー話じゃろーいいで』『またトーグラカス コゲンヤターネーノ』『ホンナ ナニューエ』『ヤーソリュウイワスンノカ』『ゾジャガエジャーネート解らんことウットドー』『……』『ニビーキワカラン』『モウイイ ヤンニヤマケタ』

苦勞の多い田んぼん仕事 時にゃ面白い事も言わにゃ腰も痛え。朝の一言話に笑いを誘うと今日も仕事がハカドル。カワブチン猫柳が芽吹いちセセラギノオトニユウ調和シチョル。オモシリイ話が弾

ンジ 何か若返ると春の来たのと共に気も若返るごたる。

これからまた忙しうなるけんど 助けあい人を大事にしち 笑
わせ明るく生きる農村の一時。黒う焼けた畦道にスマレン花が顔
う覗かせちよる。寒いが自然はゆう知っちよる一足先に活動しよ
るように 春がくるごたる。

田のくろ普請

『よーいちったハカドルカ ノサンカ』『デーブンヤッタド
アトチットジャキ』『フガイイノーマアヨコエ』 久ぶり温かな
日 田のくろじ昔ん事う思い出えた。『あん歌 まあ覚えちよる
か』『なにや』『ほら ーじイマキュー』『あれかオボエチョレ
ージャ』『ホンナユーチミヨ』 イチジ…イマキューハグッタ。
ニジ…ニオイガパットシタ。サンジ…サニ्यूツマミダシ。シジ
…シルガチュートデタ。イツツ…イヤデンセニャナラン。『それ
かる先う言わんか』『まあ言うんか』

ムーツ…ムケマラツッコンジ。ナナツ…ナクヤラサワグヤラ。
ヤーツ…ヤリヨルサイチュウニ。ココノツ…コドモニミツケラレ
。トージ…トウトウコガデケタ。『ゆう忘れんじ覚えちよつたの
ー』『こんだゆつくり教えちくりー俺が覚ゆるき』『いいど』

川向こうん田に若えしが麦ん中打ちしよる。
イモジュ引き上げたかち思うとクルート尻うム
ックリ出えち ジャーち飛ばする。『よいあり
ゅ見よ風通しがいいきじゃろー ゆう飛びよる
ど』『ふんとじゃのー』組合かる買い物うしち
来たしが そんな話う聞いち『お前どう仕事はし
よんのか 色気んじょう出えち』『しよるで
今日は倍したきーな』『ほんなイチンダモーヤロー』『ドキー行

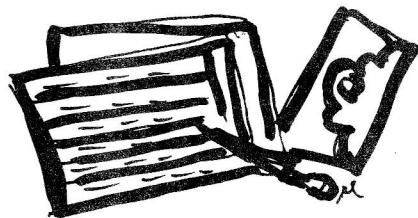


ったんな』『組合に行っちニザトー買うちきた』『アマジルデン
タクンナ』『ソウジャ 葉すぐりゅーするき加勢に来んか』『帰
ツチジャガイムー植えち行くわな コイサタ飯食わんじ行くで』
『いいどジャガイモニャ ダルガイイド 俺かたんのもやるき
カタギー』『チョウシンカオーユウチ コシキイノヤ』年とった
兵若いしをチョロマカスが 優しい面もあっち好かるる。素朴な
農村に憎めぬ語らいがあり 心を和ませる。

ナバ取り

『どげえかえ もうぼちぼち終わるかえ』『ひとしきり忙しか
ったな』『どげーしてんあげんこつーが一遍あるな』『そじゃけ
んど日和がよかったき 今年は取れたな』『こげん年も珍しいな
あ』『日和じ色んいい美しいナバが取れち 油もガイトいらんじ
』『じゃけん今頃まじしちょりゃ フジコは出らんでなえ』『う
ん 今年はこれじ終わりじゃろー』『値がよけりゃいいがな』

去年はえーと高うならんままやったな』『よそかる来るごたる
き』『ナバもつまらんごつーなるんじゃなかるうか』『そげんこ
たーなかるうけん』『ほけー何うするなえ』『安うでん はり
こんじょきゃ又いいこつもあるわな』『もうすぐ苗代もせんなら
んし』『ゆっくりよこわれんなえ』『暇になったら入湯に行こ
うえ』『いいなー』



四月頃

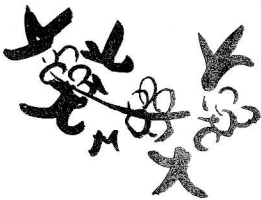
『やんどかたんムギアイイノー』『ソゲーアンナエ』『デーブン
肥やしうやったんじゃろ』『しかとやらんのじゃけんど』『世話
ゆうしたんじゃろ』『作はゆう知っちょるきのや』『でーぶん日も
長うなっち日のつじゃ汗うかくごたる ソデナシウニージョカント
汗んやつが流れちイジラガユーナル』

『祭りいこうえ』『ウットカタマー麦ん世話がすまん』『ほたっ
ちょきな 明日ちゅう日があるで』『とったんがヤカマシイ』『
ウットウが言うちゃろーか』『時にゃ言うちもらわんとなえ』『ふ
んとじゃ固えばかりじゃアントドウガ ムゲネー』

『春田を起こすかえ』『セワシウナランウチナ』『しまいがいいな
』『そげんこたーねえけんど』『女ん子がな 男う待つちょたけん
ど』『どっちでんいいじゃねえな』『そりゃそうじゃけんど』『そ
りーまあ賑やこうなっちめでーな』

松根油とり

戦争も終わりに近づいた。ガソリンの不足 飛行機も少のうなっ
ち。油ん代わりに松の根かる取る油にも 望みがかけられちよつた
。『今日は松根油取りに行くかる』みんな勝つためにゃ 頑張れと
暑さもケトバシテ 山かるカタゲチカイル。竹の内の工場にモッチ
クルト タギラケーチ油う絞り出す。サァソン油がヤクニタッタジ
ャローカ。工場ん横にイットキ飛行機ん絵が カイチャツタガ。



セキ打ち

『ソン深え所りちっと沈めにゃ』『そりゅーナンコンジョクレ』
セキに沈床にする木を切っち束ねの一若えしが水ん中じ 足じ踏み
つくる。『ちった一水が止まったな』『でえぶん少のうなったごた
るど』『もちっと一じゃな』『魚おらんか』『フナがおるわな』
『ちっとすく一ち酒ん肴にしゅうか』『酒があるんな』『あるど』
冷たい水かる上っち川端じ火を焚くそばじ 一升瓶が回さると
湯飲み茶碗にドコドコち ついじくるる。『ほら若えしは飲め ひ
どかったのや冷たかったじゃろー』『これじチッター温もったわな
』 老人の心配りに若い人たちも やっぱ嬉しいごたる。

五月頃

苗代ふみが済むと麦も熟れち 春田起こしもセニャナランシ忙し
ゅうなつちきた。粃種を変エチモロータ今年ゃ ゆう出来るカンし
れん。ビワん花もいつぱいチイチョル 麦の出来もいいごたる。早
えしは畦きりしよるが手の少ねえしは 早う起けんと手を出さるる
きスカン。皆プライドもあるゴタル。

『もう摘むな』 パチパチ音うたてち茶摘みする頃 男しは田起
こしうする 根を張った草がバリバリとコガラが起こす。冬眠かる
ええと覚めたワクドが飛び出シチキチ 大ケンアクビシチョル。黒
い土が起こさるると蜘蛛ん奴が エポー張る。皆イノチキが忙しい
ごたる。陽が当たつち土かるホケがたつ。

シイタケモギガ済む頃にゃ もう草が回りに大きゅうなつち早めに
下刈りせんと おおい被さるごたる。アロウアツタケ切り倒しちお
きゃ 田植えが済むまでショワーネー。デエブン取れたシイタケヲ
シモウチ コレカルハ麦刈りと田植えとイチドキ。暑いけんど冬ん
玉切りこまうちモヒジイ。

シットウづくり

五月水を入れない田んぼに植えて 暑い夏に何回も草取り 七月にはもう刈取りの時期。早う起くると刈取りスグッチタバヌル。ヘグノガオオシゴトジ ヘギ台を座った足ん下にシキクウジ7 8本ずつ一遍にヘグ。三角の茎を均等にヘグのが難しい。ヘヌンノモアッチそれでん一時すりゃ上手になる。つぎん朝川原にヒロゲサガス石がやけちすぐ乾く。いい色になるソンナライイガ 夕立ちでん来りゃオオゴツ 昼寝もソコソコにツージイッチ つの字形に曲げた鍵じシラシンケン集むる。

雨に濡ラシドーモスリャニソクサンモン アイー色コスネノモンジ ソリースルニャシラシンケンニナル。天気がいいと青い目にしむごたる。そんな場じ石にウツツケチ根元んシビう落とす。スグッチシアゲコレジ ゴゾーウツコチーナル。

縦糸にゃイチビがいる。五月に植えたイチビを引いち木と木の間挟んでヒッコヌクと 中の芯が取るる。皮だけ干しち鉄櫛じ解くと タネリクルマじ縊らせる。タネリ縦糸に横シットウをかけちゴザバタが音軽やかにユサシが動く。ゴザウチ娘がサートントンと音響かせち 彼氏が声をかけるのも聞き取れぬ。一日4 5枚うてばいいほうで上手になると7 8枚は打ちあぐる。『上手になったなー』『高う買うてな』『ドゲーシュウカ』『ホンナラ売らんで』やりとり上手な娘も嫁入りが近い。シッターは貧乏草とも言ったが農村の現金収入には 必要だったのかも。ビューンビューンその音には苦勞を慰める 里の唄のような響きも感じられる。イツトキモヨコワンジ ゴザウチスル仕上がりの美しさは 造る人の汗と涙の情けが輝くからかもしれない。

泥つけ

新田には水がのらん 皆が植えたあとじねーとなえ。それでん半夏至水が降ると今年もなんとか 植えつけが済んだ。水の便利の悪い矢の原じ一番おすー植ゆるなー 家の回りがすんじ植えにくる。近くん回りんしたちが終わると苗を荒うち神棚に供え 役場に行く泥つけが残つちよるき。

『よい今日頃は泥つけに来るごたると』『もう皆すんだんじゃな』そこは心得たもんじ泥つけさするごつ 覚悟しちよる。逃げまわるしは少ねえ。素直に泥わつけちもらい共に 今年の根づけを無事に喜びあう心配り『ゆっくりよこいなー』と励まされて引き上げる姿は 水の中の仕事じゃつただけに ヤツレモ見らるる。

今年も水があった田植えも済んだ。泥付けも終わった 日照りと暑さの夏が過ぎると 豊かな実りに皆なが又 うるおいの里も明日に向うち栄ゆるじゃろう。



諏訪村の役場が矢の原にあつた頃ん話じゃが泥付けされち帰った時にゃ 今年も縁起がいいでち やうちんしが喜ぶそげな風習もあったごたる。のぞかな人情が出る人の痛みや辛さを支えあう 気持ちが泥付け行事として許され 待たれる微笑ましい風景。故郷のよき時代よきひとたち。

肥だし

麦がのんじヒバリがセワシュウ鳴きで一た。麦にかくるダルかたげ天気んいい日に遠い田に 中もちしち次々に出しちいくと 道う通るしもヨケチクルル。重いもんと桶とをうまく交互にかたぐる。バランス仕事 近所んしの分まじもろーち運ぶこともあったが 肥料としち大事なもん こんほかにアンモニアを水にとけーちもやった。

『もう済んだで』『ひどかったなーまあ一服しち』『汚れついでに他のもあるき』 昼が近いんか日が高うのぼちよる。運び出されたダルは人の気持ちを オモウち麦う太らせちくるる。汲み上げた後を覗き込むとオジイような入れ物 春先ん農家ん庭先にゃそよ風が 吹き抜けちダルカタゲは春の風物詩。

浅草きり

『今朝はちっと遅いど』『こらえな一タベよなべを遅うまじシチョタキ』『それじ目が赤んじゃの』『そげーいいなんなムゲネー』 友達に悪口う言わるるのを聞きかねちか 助け船う出す。『お前ゝすぐヒーキスルノー シイチョルジャノ』『スカン スグソゲエユウ』『ホラ顔が赤うなった』 若い者たちが旗立て場に集まると 赤岩ん方に連なっち今朝も草きりに入っち行く。若い人たちの朝の日課じそこにロマンも夢の花が咲くのじゃろー。

『もうすむか』『もうすぐすむど ちょいと待て』早う荷の出来た者が大声をかけ 出来ん者に加勢する。そんな中じ仲んいい二人は トギかるチット離れち語らいの仲じ一時を楽しむ。『あんた無理うしなんなチッタヤセタゴタルデ』『ソウナ』 女らしい気づかいで見る彼の姿 少し疲れか。

『心配せんじいいわな』『心配するがえーうっとう』『早うくびらにゃ又来ると あいつどーせせろしいき』『そうじゃなー』 朝露に濡れた肢体から女らしさがモロに見られる。急にそばに来ると抱きしめた。『待つて』『どうしたんか』『こげん所じ恥ずかしいこと』『いいじゃねーかえ』『…………』肌の温もりが伝わってくる『よーい』

たまりかねちトギがオラブ 二人が仲ようなっちそれが解つちよる皆も それなりに気を使ちよる。『すぐ行くき』『知らんどウヒテチ帰ると』若い者たちは高笑いしち 山う下り始めた。『早うせんと見つかるど』『待つて もチット居りてー』『見られんほうがいいじゃろうが』『じゃけんど明日は会えんの』『そうか ほんな』 つかの間を利用した二人は しっぼりと濡れち露だけじゃネエゴタル。

六月頃

『まあおのさんな』 畦ごしの隣んしが声うかけちくるる 本当はヨコワセチそんなかめー 早う植えちしまわんごつシヨンノカンしれん。『お前かた早えなー今日はでーぶん早う来たごたったが』『苗う取っちゃつたきな』『そうじゃろーソリー嫁ごユウ働くじゃねーな』『まあワリーナ』『いい嫁ぐもろうたは運がいいなー』『コビリセンナ』『チョイトノソーカ』 麦が熟れち日が当たるとパチパチ音うたてちイロク。イロクと折れやしいけんど腰の痛えのもヒジイキ 畦に腰うかけちトイモを食う。ツバクロが忙しゅう土うくわえち 早えなーもう二番子がカイワレタゴタル。汗んちーた麦んブーガハジカイー『暑いなー色が黒うなるで今日は 雨よりゃいいが。』

いやんばいに雨じ水が取れた 『水が少ねえき荒代が取れんのじ

ゃ 麦はえーと熟れよるけんど』『春田もしちょかんと いっぺんにゃヨダキーナエ』『シメシも乾かんと困るな』『子がコメント苦になるなえ』『そんクシーアリュースタガッチ……』『苗も大きうなったな今年ゃいいな』『ゆう出来りゃいいが』

泥つけに逃げた役人

水の少ない所が一番終わりになるが 矢の原に来た時は7月に入る事が多い。半夏至水じ田植えがえーと済む人たちが 泥のついた苗う持つち諏訪ん役場えやっち来た。役場じ働く人たちにコスリツケチ引き上げる行事。毎年の事じ受くるしも 田植えのすんだぬ喜びおおた。小作地を植えた人たちじゃつたき 地主や役場んしも そん日が過げちタウエヨコイを ふれち回ったとか。つい戦後まじショツタチ言う。そん頃は諏訪ん役場が矢の原にあった。

農家んしを大事にせにゃーち思うち 皆が心合わせち米つくりゅーしよったんじゃろー。

半夏至水

六月いっばいに田植えが終わらにゃ雨の少ねえ年。特に天水がかり《自然の水》じゃ半夏至水だけうあてにせにゃならん。ナガセがもうキューカチ言うに7月に入った。そんころマックルーナッチ ヤンガチ降りだすのが半夏至雨。こん雨じ田植えもでけ畑も湿ったきセワシューナッタガ ソゲンコツューユーチョレン。苗う運べや タランナードコノンデン貰うちきー。何でん植えちょきゃ根づけ半作 そげん苗ほうがケックシャユーデクルド。

ナワシロは枯れたけんど拾うた苗が ケックシャ多いきエート

植えちしもうた。ドゲーナルカチ思ッタガ ヤッパユーシタモン
ジャノー。田のクリー立ッチ風に靡く苗はもうすくすくと育つ。
水がありゃー早う済んだが のーでん植えられたきー助かった。
ゆうしたもんじゃのや。

粟蒔きの唄

『もう粟うめーたな』『めーたで ゆう出来ちくれんと払いが
出来んじ困るき』 粟蒔きは一反に二合蒔くち言う。小麦殻う焼
いちそん灰う粟種にまざる 指ん間かるパラパラち蒔く。ソリャ
へー難しいわな。土は種の三倍カブセチョケチュウ ソゲー念入
り出来るもんかなえ。暑うはあるし銭はねーし小作人な苦を見る
けんど ドーニンナラン。

チットワカニャナラン 眠てえ目じするもんじゃき コンメー
ヌ引くに間違うち気がチーチミリャー 大けんぬーヒッコニイジ
ョル。シモータち思うたけんどドゲースルカ ドンノクボは真っ
黒うなっち『あんた』ち呼ばれてん どっちが前か後ろか判らん
。穂が出る前にダルーカケビシャクジ パラーち撒く。粟がタマ
ガッチユーデクル。

小作人なネンジュー銭がねえ。サザメう納むるのもネート証文
ぬ入れち待つちもらう。そん分が次ん年に背負うこちーなる。牛
う借っち使うと子牛でん生まると 一本足だけ自分の物じ三本
分は戻すき 手元にゃマッサラノコラン。マカリマチガウト借金
が増ゆる。いつまじたってん苦勞かる抜けられん。

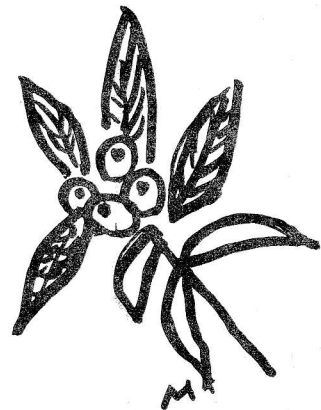
米うがいと一作るしはソリュー売っち一年間楽々なイノチキ。
じゃに小作人ないつまじたってん借金かる出られん。ネンジュ働
きながら銭はねえ暮らし。そりゅーコナシチ高い利子う取るしも

あっちヤッパ相当コナシチョル。年20パーセントぐれー。月
一歩んしもあっち 利子い追わるるしも多かった。中にゃ解っ
ちよるしもあっち負けることもあったごたる。ドッチシテンビ
ンボウハ イツマデン貧乏生活 そげな世の中じゃった。そし
ち戦後の農地開放時代 真剣こなした人たちは……夢見が……

腰巻汚しちフリ田植え

朝方になっち擦り寄っちきち無理う言う。もう夜があけちょ
るに 仕方ねー相手うしち済んだが 腰巻う汚しちしもった。
すぐ脱いじ井手につけちザブザブ洗う。忙しい朝じゃきそんま
ま飯支度。『苗が配られたで』『もうえ早えなー』 食うたぬ
ーそんまま ホタリコカシチ田にツージイク。

田植えがイイアンバイに進むき ホツとする。なんか涼しい
なーえ ち口に出そうなぬー慌てちこらえた。そんはずじゃー
今朝ん後始末せんまま 腰巻がねえき涼しいはずじゃ。他んし
は知らんごたるが 一人じオカシューナッチ笑イデーチシモ
ータ。ソリユー見チ皆も笑う 又風が抜ケタゴタル。



田植えよこい

『明日かる田植えよこいしちょくれ』肝いりがフレチキタ。『ダッタナエ アンタカタ早かったな一手がいいき』『そげんこたーねーで お前方嫁ごもろーちゅーなったじゃねーな』『こんのんしきりゃせんしじツマリャセンワナ』『ソゲーハジメカル出来るかえ チッター考えちゃらにゃ』『そりゃーまーそうじゃが』 嫁さんぬ迎えると手が増えたち言う。忙しうなる前にもらうと仕事もハカドル なれん仕事をドンナ ち叱られながら涙を流しち エート一日が終わる頃にゃ足も腰も痛うなっち それかる夕食のシコ 夕飯が済んだら片づけ湯に入っち寝るなー 夜中になる頃 そしち早え夜明け前におくる。

『田植えよこい』ち聞いただけでん嬉しいのは 餅う炊いち在所に行かるるからだ。夫と大けな包みに土産と着替えう入れち 『行っちくるき』 頭う下げてん心はもう待っちよる父母の元。苦労も一遍にふっ飛んでしまう。義父は田まわりに出ておらんけん 母にゆう頼んじ出かくる。

二人じイソイソ歩く姿う見ると 近所んしがイイタガル。『アン嫁ごはモヌーイワン』とか『何でんしきるイバッチョル』とか反対に『今にあっこんばーさんにコナサルル』とか『辛抱出来んじすぐ帰るわい』とか ソゲンコツー聞くと何も知らんじ 仕事が出来んでん『くそー見ちょれ』ち腹が立つ。意地を見せプライドもある そげんこつー考ゆると 他人たー難しいちシミジミ思うけんどな。

7月頃

『早う起けにゃ草きりが帰っちくるで 夜なべしたた言えイツマジ寝ちよるんかえ』セチボジカエサレチ エート起くるとママを5膳も食うち馬屋ん肥出しゅうはじめた。もうすぐ田の草ん取り上げ

しちょかんと たった今盆がくる。トイモン草も手を延ばしち待
っちよるきな『わかちよる せせろしいな』

『ちょいと横になろーか 牛見がくるかんしれんで隣ん娘ん話
がありよるごたるき』『ふんとーや もうあってんオカシューネ
ーケンド』『クジュー言ウチュウキ中々出来ンノジャネエンカ』
『ウシウ見セチクンナ』『イイデ見なー コッチカル方ガイイン
ジャネエ』 隣の家がゆう見ゆる所い呼ぶ 気を利かせちくれた
。

『昼寝しよるナカメーコビル炊いち』女ゴシニャチットンよこ
う暇ねーなー『いいんで わしゃ男しにシャント働いちもらおー
ち 作っち食わせてーきなえ』『ゆう働くなあ あんたかたんし
は ウチドーカタンシャ ヨダキガッチ親がヤカマシュー言ワン
モンジャキ チュウグレージコマルワナ』



消し壺ん炭う出えち オコシウ
作れ うなぎう取ったき焼くき
ーの。『火が起こらんに』『お
前が怒っちどげーすんのか』

『火オコシウ貸しち見よ』『こ
んくれーんこつー出来んと嫁ご
ん来てはねーど』『いいきー』

年頃ん男がおると親もヤエーコ
チャネー。貰わにゃ困るし錢も
いるしヒンも悪い。牛見に行く
か…ち謎かけられたら 『ほん
とな』ち乗り気になった。やっ
ぱカカを貰いてーんじゃろー。
いつまでん一人身じゃ 夜中え
布団ぬ引こじっち歩くで。

八月頃

『鼻つまみだんごテータキ食ワンナ』『もう盆ジマイが出来たんな』『今年ゃ嫁ごが在所に行くき ちっと早うスツタキナ』『そうじゃつたんな もうヨダツタンナ』『ドーデンソングタル』『早う子がデケニャ荷がオレンなえ』『田植えまじ出来リャーイイケンド』『もうバアサンじゃな』『ウットーオカシイ』

『暑かったけんど晩はチツタイイナ』『デーブン日に焼けたごたるな』『黒うなっち見エンジャロー』『歯が白いきユウ解るで ソヒチこん大けん腕』『あんたも三つ組がイイワナ好きじゃ』『本当ほかにいい人オルンジャネー』『馬鹿言うたもんじゃな あんたひとり』『本当ウチ何か嬉しうじ』『心配センジイイチ こん前言うたじゃねえな』『そうじゃけんど やっぱ心配じゃわ』

『手がスベスベしち気持ちいい』『みよ馬屋ん肥出しゅすりゃーいいじゃろーが』『そうじゃけんど腰が痛うなるきな』 盆より前に出す仕事や畑ん草ん取り上げじ盆が来る。ゆっくりヨコウ農村のつかのまの 気の休める期間『墓掃除いこうえ』『すぐ行くき先い行っちって』 ユカタも洗うち世話になったしにゃ あぐる物う買うち来た。

九月頃

『油ぞうきんかけたか』『まだ』『早うせんと飯う食わせんど』ベンガラお塗った板敷きに油ぞうきんをかくるのは 朝起きちかるん子供ん仕事 手には油気がちーちベンガラん赤も染まる。ゴマカスと暗え所かる見りゃ所どころが 白う残っちょちゆう判る。『まあ残っちよるじゃねーか』『どきーえ』中々朝飯に辿りつかん。

稲が太っちヒエ取りゅせにゃすぐ 背を延ばしち種がアユル。乳飲ませもそこそこにしち 田に入った若い嫁ごはヨコー暇もねーほ

ズ働かにゃならん。あと片づけかる洗い物を干しち 田に入ると
中ん方が残っちゃう。どうでん入っち行かにゃならんじ 手にニギ
リモウサンゴツナルト 畦まじ何回も出らにゃならん。

『ちったーあるな』 隣んしが出ちくる『ゆっくりしちいいなー
』嫁ごがチイセー声じ隣ん嫁ごに囁くと『あげんことんじょう言う
家じゃ馬屋ん肥う出えち来たんで』『へーもうひと仕事したん』
『いっときもヨコワセンゴツ ちゃんと考えち年寄りがな』思いは
同じ 野に早う出らんち思うたら家じ仕事う やっぱしよった。

出産とヒエ取り

『はじめち男ん子が出来たえ』『そうじゃもんじゃき ノボセチ
シモチ稗取りもせんじ』『それじあげ一稗があるんな』 はじめ
ち生まれた しかも男ん子とあっちゃ嬉しさも ひとしお稗取りも
忘るるくれー。稗はひとまわり取っち 2 3日もすりゃ 残った株
かる又穂が出る。『なんぼ取ってん残っちゃうな』『しょうもねー
やっじゃ』『ゆう取っちゃかんと来年オオゴツジャ』『ワカツチョ
ンノジャケンド。

出来んじいいもんな出来ち ほしいもんなユウ出来ん。でん男ん
子がノサツタナータイシタモンジャ。

十月頃

『祭りにゃ在所に行くかえ』『雨でん降らにゃな』『たまにゃゆ
っくりしてーなえ』 仕事に追われる農家はゆっくり休めない。雨
の日は家の中でツクロイ物 洗濯物 そろそろ冬物ん準備もせにゃ
でん時々年寄りが気を利かせち在所にヤッチクルル そんなに自
分の子供たちユウジ ご馳走ふるまうごたる。

わが子可愛い親は親 嫁の居ぬ間に里帰りした娘達が母を見ると
『オカチャンあんまり仕事しなんな チッタ瘦せたで』 と見る。
『そげんこたーねーでボチボチシカセンニ』少しは嫁に気を使う言
葉で打ち消すように 『タマニャウチモ遊びきなー』『おおきに
やっぱウチが一番いいわな』『あげー文句んじょう言うのにえー』
『そげーねーで』 嫁をかばう母はいいほうだ。

ヤッ米

『朝晩なちったー冷てえな』『今朝どま布団んぬ引張でーち カ
ジュー引かにゃいいがち』『そりゃーそーと溝刈りうもうすんの』
『ちっとしゅーかち思いよるんで 大分ゑ居るんが食いたがっちヒ
トメンキ』『わし方もそーじゃー送っちくるぬー待つちよる チュ
ーラカサレチ』『親馬鹿じゃなえ』

排水を兼ねた田んぼの回りの水が溜まる所を 刈っち溝をあげ乾
きをゆうする 刈った分は粃をオチーチ釜じイッチ ツクとヤキ米
が出来る。お茶をそそいじ少量の塩味を。豊後の味の食べ物 故郷
を離れたしには懐かしい。

十一月頃

『アシタカル稲刈りうするか』 オヤジが夕飯んあと皆に言う。
嫁は少し不平である。一晚泊まりてじ在所にち思うちょつた 父親
が風邪じ寝ちよるき でんそりゃ言えない天気左右されヨソより
遅れとーわねーき。刈りだしたらもう里にゃ当分は行けん 夫と顔
見合わせ助け船を求めた。『お前在所に行かんでんいいんか』 や
っと出しちくれた言葉はヒトキシヤ遅れじゃつた。『風邪ぐれー心
配ねーち思うきイイワ』 しばらく無言………義母が『ちょいと行
っちきなー顔見りゃ落ち着くじゃろー』 義父はだまच्छよる。

『いいわ』つい言ってしまつてこん話は切れた。親の病気にも行けん齒がゆさ でん私にゃこの家の人間なんだ と自分に言い聞かせる。人並みにはしてくれんけれど。

稲刈りは順調に『デケもいいごたる』親父は得意顔で自分一人の手柄んごつ話す。里の父は体調が優れぬまま秋の深まる。取り入れがえーと一段落しち里に行ける雨の日 食事もそこそこに走って帰る。『ゆう来たな忙しゅかったろーに』『早う来たかったけんど』『わかちよる嫁に出した日かるもう他人ち思うちよる。

悲しい思いの再会でも父は元気を取り戻しち『早う帰らにゃ仕事待つちよるじゃろー』『いいチッタオスーウナツテン』『ソゲンコツー言ウモンジャネー又帰る為にゃチャント』『ウン』運命とは言え辛い再会と別れ 農作業は忙しく巡りくる でも心を慰めてくれる父母が居る。元気を出して又辛い仕事の待つ家に。人生のはかなさも感じつつ。

ムシロ干し

稲こぎがすんじムシロ干しがはじまると 麦植え準備に入る。ツボ一杯に広げたムシロに 肥ジョーケじすくい 次々に入れちアセリボウジアセル。太陽に干乾し2 3度アセリカヤスが老人ん仕事にゃオオゴツ腰が足が痛うなる。『お前方でーぶん干しちよるな』『うん100枚ぐれーかな』『へえーそりゃーアセリカエスんがオオゴツジャーナ』『そーじゃー1時間ぐれーかかる』『腰が痛うなろー』『ズー腰が痛うじドショモネー』『若えしは麦植えな』『麦も植えちょかにゃ夏に銭がねーち言うし』『年寄れはひじいなえ』『しょうがねーなー』ニワトリも出せないすずめ追いもある 夕立雨はもっと心配。

『ムシロ干しゝもうすんだな』『これじえーとしまいで』『いつ
初すりしてんいいな』『それがまあ俵が出来ちょらんに』『夜なび
編めよったんじゃけんど用事があったり　ダッチ早う寝たり』『今
ん若ゑもんな寝こ事んじょう考えちなー』『時代が変わったき仕方
ねー』『わしどうーん頃は座にズリアガッタママ　ツルツトすりゃ
もう起けち仕事うしたもんじゃが』

隣んしの寝ちよる間に仕事う
する　それが当たり前んような生活じゃった。

『乳飲ませたら早うコンゲやんな』『お願いします』『やっど乳
を飲ませて　つかの間の親子の触れ合いも親に　子供を取り上げら
れて　子守をしてくるる　そりゃ一品のいい『お前は仕事さえすり
ゃいいんじゃ』　と言わぬばかり。使われち使われアゲクノサンパ
チニャ　出された例もある。

『もう寝るど』『も一枚編んじょかんと間に合わんのじゃねー』
『眠てーじこたえん』『隣んしはまー灯がちーちよるで』『もうい
いじゃねーか明日早う起けちしゅう』　疲れが出たのかソレデン夜
中は過ぎちよる。農家の忙しいな一片寄る　時として夜明けの仕事
もあるけんど　雨の降る日にゃチッター気分も休まる。『そげーし
ゅうか肌寒うなった』　夜更けのワラにまみれたホコリを払い落と
すと　そのまま床に滑りこむ。夜明けまでのマドロミに働くだけの
人生　のような一日であった。

三筋煙りがたなびく山に

『今日は炭う出すな』『早う出さにゃもう買いにキタニ』『せせ
ろしいなー高う売るがいい』『銭も忙しいしなえ』　黒炭が窯から
30俵ぐれー出る。ホコリガ立つに側ゑおちち待つちよる。『あら
ましじいいわな』『セセロシイナ　ソゲンワケニャイカンワナ』

俵に詰めよせんごつ車力に積む。ヨツボズセクンジャロー『30出来たな』『そん残りんコボクリレもクンナー』『コリャ売られんわな』『いいきナンボデンホシイき』ソコラヘンヌサゼアツメち『ハイ取っちょきな一』余分に銭う渡す。

大豆はカタゲち三佐まじ行くとナンボデン売れた。暑いなんか言うちょれん銭が敵の世の中 貧すりゃ人の心まで侘しくなる。白炭作りは骨折るけんど黒炭はいいヒューになる。マックルーナッチ働く姿は実に尊い。親父は大豆売りに行くけんど女ごしはトッパイも食いて一 味噌も醤油も作らにゃち こっそと引きのけち袋に入れちよくと それが破れちソコラジュ一に散らばっち大事。

『たばこん出来はどげ一な』『土干しがよかったきいいで』『又検査員がセセロシカロ一』『あいたヤカマシイナエ こん前シットージくびったら 悪いちギシメクデたった今カイ一チ』『ワカッタワカッタち言うち そんままホタリコケーチ出ーたら検査は通った』 たばこ買いが来る取締りが厳しいが やっぱ配給じゃ足らん一見つからんごつしな一え。フトナモウケタナ。町んしはミソモリ葉やらカンカラん葉を干しち吸うけんど そりゃ一とてんすわれんわな。コズミニカクシチ捕まるしもあったり 一方じゃヤミジ儲かる大事じゃった。あん頃は暑い日んたばこ取りベトベトシチナーエセチ一。

麦植え

『よ一いお前ゃ種麦もっちきい』若い主が妻に言いつくる モーガヲ肩に馬う追うち麦植え時期 粉雪も時折舞う 糲すりがすみ正月もあと少しで来る。『義父さんウチ先に行くきアンモニア

持ちきてな』『いいど後じ行くわい』『温くなつちかるじいいで』言葉一つじ年寄り気持ちはいい。

『義父さんな力が強いきアンモニア持つち来きもらうき』『お前はうまいの一ちょろまかしたんか』『あげんことんじょう言う口やお一言うたがいいじゃろーがえ』『そりゃーそうじゃけんど』義父がアンモニアを背にしちやつち来た。『どきー置くか』『重かつたじゃろーこっち置いて』嫁の優しさに老人もマンダラデンネーゴタル。

『アンター服せんな』『なにや』『あげー耳が遠うなったんじゃろーか』『モーゴー使いよると判らんわい』

『聞こえんふりシヨルンジャロー』馬を止めち一服する田のクロニ冷てゑ風が吹いち 今年も後ちっと 寒い冬じゃろう『今年ゃ麦がゆう出来くるとビワン芽つきが いいかる』『へービワン花が多いと麦がでくるん』『そうじゃ』

縄すり

木と木の間に縄を幾重にも張ち縄すりが始まる頃は 寒い風が吹きつける。『ゆうコスラント検査え通らんど』親から言われち手を赤しち 子供ん仕事『お前ん方もう済んだんか』『おれかた兄やんがするき 俺は帰ると子守うせにゃならん』『子守ん方がいいじゃろー』『いんにゃ縄すりん方がいいけんど』それぞれ。

俵を四か所縛った後 十文字にホズミう縄じかくる。真ん中を又縄じ仕上ぐる いわば俵の化粧である。それでん検査がやかましゅうじ うっかり一級でん下げられると値段が違うちくる。無駄のようじゃち思うが…『すんだか すんだらタグッチ巻け』『わかった』『早うせんと雨が降るど』

十二月頃

『昀すりするな』『天氣がいいき昀がゆう乾いたな』『早う干し上った年はタマリもいいで』『不合が出らにゃいいが』『チッター出るわな』『俵う編まにゃ忙しいなつたな』『夜なべでんせにゃ仕方なかるー』『若えもんにはりコマセニャ もう日が短えきなえ』『年を取るとヒジイナエ』『お前はまゝ若えきいいわな』『そげんこたーねーで』

昀すりん発動機が快音を響かせち 万石がいっぱい並ぶと昀すり本番。茶のみはシャクシナを漬けたのとトイモ。トシヨレが火鉢ん側じたばこ吸いながら それでん昔取つたキネツカ ジョウズニ俵にホズミうかけちヒネクルと 一俵が出来あがる。農家の嬉しい時じゃ そしち小作米を納められち残つたな一幾つか 今年もハリク一ダケンド 年が越しゅうか あとちつとーじ正月じゃけんど。

昀さべの唄

『もうよーきコイダナ』『エートおしよせたんで』 もう夕暮れ近い田んぼでのヤリトリの合間も 氣は急ぐ。土干しした稻が足踏み機械じコギオトサルル カマゲに詰めらるると牛の背を借るか 子供んホンガルイした背中じ 運ばるる。足もとはもう冷てゑハマル田じゃ ゾーりに水がシミクージョル。

コシマキンハンが泥に汚れチョルケンド 若い娘はそれだけ一生懸命に働く証。あん人ともモウヒソー合うちょらん心のヤルセナサが 乙女の胸に秘めち早う済めば ゆっくり温かい胸に抱きしめちほしい 夢が頭をよぎる。

つるべ落としの秋の日ぐれち ツボサキジャ ニワサベが始まる。トミーがフル回転しちスポが飛ばさる

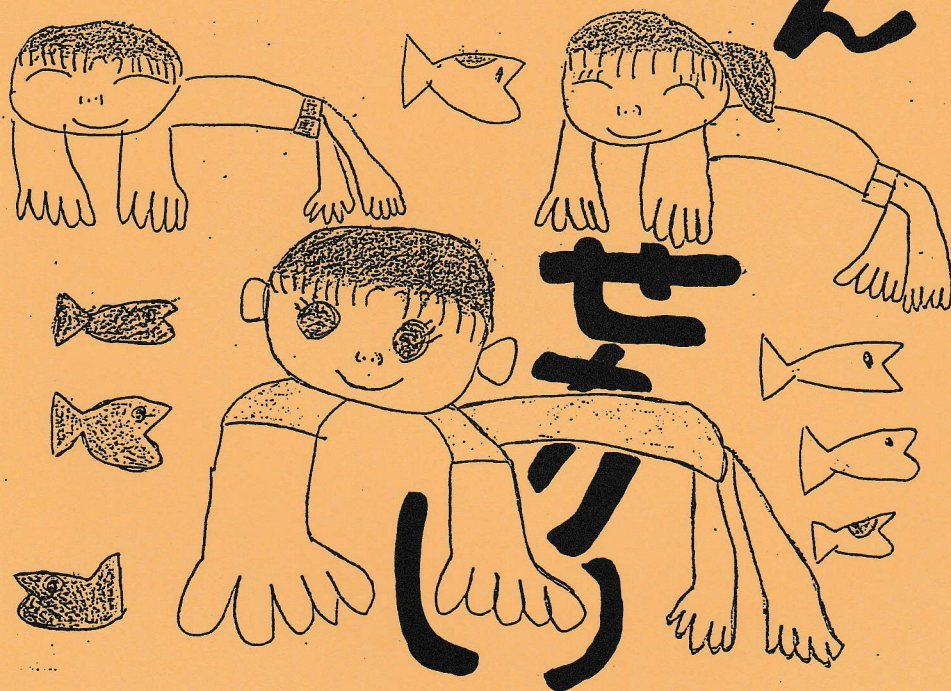
る ハジカイーがあとチットジムシロ干し。モミすりが済むと着物ん一枚も買ちモライダスカ ソゲンコツー思いながらダンゴ汁を炊く娘の顔には 思わず笑顔もこぼれた。あの人にあえることもアッチ。

五助さんの話に引きこまれて 思わず膝乗り出した子供たちも一息いれて一ごたる。古い方言も聞いて行くうちに 何回か出る決まりの方言があるごたる。地元生まれ育ち大切にされて来たからだろう。話の中に想像だにしなかった 話題や生活の惨めさ苦勞辛さが 貧富の差が激しかっただけに よく判るような気もして 今の幸せな時代《これからどうなるか》を 大切にしたいものです。

人は生まれた以上は生きて行かねばならない。とすれば出来るだけ健康で幸せに生きたい。だから人との関わりを大切に 人との支え合い助け合いも必要でしょう。一人では生きて行けな現世を 住みよい故郷にして楽しい人生を過ごしましょう。明日は今日より幸せに。



ホオゲン おどもん



もりながみほ

羽根つき雪あし

『むくろアツタキ羽根作っち』『アツタヤデーチミヨ』子供が拾
うちきたムクロの種　キリじ穴うアクルト鶏ん羽根うハメクージ。
ハゴイタ　アツタジャローキ』『ウン　カキーチャルキモッチクル
』『カキータリセンデンイイニ』『アンヤンガ取るき』『しょーが
ねーの』子供が上手に打ち上げた。くるくる回っちツージク。

『ゆう飛ぶのー』『飛ぶじゃろーうまいどがえ』『羽根がいいきじ
ゃ』……『ほんな　とったんやっちみな』『いいど　はよかせ』
父親が打ち上ぐると　ヤPPERコンメー時かる遊びよるきうめーも
んじゃ。『うまかろーが』『ほりゃ大人じゃき　ちったーうもうな
からにゃ』『こいた調子がいいのー』　北風は寒いけんど親子ん会
話にゃ温かいもんぬ感ずる。

『ユキアシガ出来たで』『フントヤお前が作つたんか』『そうで
ゆう出来ちよるじゃろーがえ』『ヤンナコゲンコターウマイケンド
学校ん勉強はスツタリジャノー』『ソゲンコターネーデ　コンダ
乙がちったあったで』『や　あひるが何匹や』『乙が3つ丙が多い
けんど』『兵隊さんが多いんか』『甲はよそんしにやった』『取ら
れたんか　つきつまらん奴じゃのー』『それでん雪足作りがうまか
ろーがえ』『そりゃーまーそうじゃけんど　あんまりタヘラカ言わ
れんのー』

『乗っちみるき見ちょんな』『はよー乗っちみよチッターウメー
ンカ』『ソートンウメーキ　よいしょとこらしょ』『ありゃけっか
ウメー　どりゃ俺に貸しちみよ』よせばいいに調子乗っち子供の竹
馬に乗った。とたん Denguri ガエッチ　コケオテタ。顔をしかめち
あたりう見まわしちエート起けたが　ヒンノ悪いこと　子供は大声
じ笑いこけた。

子供と祖母と

『ユサングニ乗ってんいい』『気をつけんとホラケオツルデ』
『ショワーネーキ』 祖母に連れられち子供が学校に遊びに来た。
ツボン草ムシリが好きなバーサンは シャガミコムト草うヒキムシ
リはじめた。子供たちはワキャガリながら せせろしゅーユサング
を飛ばせよる。『アンマリギューラシューイワンデ』『イイジャネ
ーナ』『シカトシモネー』 バーサンはブツブツ言いながら 草う
ヒキムシッチョル。

『お前どうツージミヨ ドッチガ早エカ』『ヨーシ皆な飛ばーえ』
裸足になった子供五人が校庭を走った。頭う振りふり走る子 口
う大きう開けち走る子 さまざま。『あーヒジイ モウヨダキュー
ナッタ』 飛ぶぬー止めちツボニツクナル。自慢気に走る子『ケツ
マランノーもうトバンノカ』『ヨダキューナッタ』『バァサンドー
若え頃はガイト飛びよったんな』『飛びよったど子供ん時ど』『へ
ー子供ん時があったん』『そりゃそうじゃねーか 皆はじめかる年
よりゃじゃねーど』『ソリャーマーソウジャナ』『面白いこつ一言
うやつじゃのー』

疎開授業

戦後のドサクサは敵がやっちきち 女は連れちいくとか男は殺し
ちしまうとか ゆう言いよった。学校んツボにゃイモヤラ カボチ
ャゆら植えち いつ空襲されてんいいごつ 地区ごとじ勉強するに
机まじ運うじ 入蔵んしはお旅所に腰かけと机う ヤラト勉強せん
じゃつたごたる。又空襲いつあるか判らんき トンジマワッチナ。

皆が別々に授業しち修学旅行どころんサワギジャネー。食い物な
なんとか食うちきたけんど 着る物あスフとか人絹とかチョマやら
カヤが糸になるちゅうち干すたもんじゃ。ジョウリが当たり前じ

ヒコズリう履いたりすると笑われたもんじゃ。米ん飯ゃ誰か死んだ時に食うぐれー。大釜のコガレは又特別ウメー。

ヒモジカッタこたーねえがトイムそんまま食うたり アマネう掘っち食う カンネモチう炊く トーマメう子供はそんまま食う ツバナ サトガラ トキワ ツツジ ギシギシ 手が青うなるまじ食うち それでん腹えあたらんじゃつたな。

セライ子 オト子

どーしてんでけんき他所かるもろーた。ところが皮肉なこちー子が出来た。こげんこつーセライ子ち言う。昔ゃ3年出けんと里に返された 子供も生めんごたら…百姓にゃ子供が跡取りでんあるし 働く人間でんある。働くしを増やす事が一番待たれちょつたき 子供も生みきらん者は返されてん仕方ねー そげな時代風習が根強く残っちょつた。

ガラガラ生んで出来た終わりん子をオト子ち言いよった。終わりじゃき油断しちよると食い物もモライダサン。早うタクジッチ食わにゃユウシタモンジ サジー。そんかわりいつもオサガリンじょう着ちよるが ムドガラルル事も多い。年寄りはおトゴに甘やかしもするきー 贅沢な事も多いごたる。

セライ子は家庭が円満じねーと 大きゅうなっちモメゴトン種にもなりかねん。跡取りう誰にするか財産は 問題が起こるとセライ子はのけ者にさるる事もある。やつぱ自分が腹お痛めた子がムゲネーキ 養子に出えたり分家したり。人はあれこれシャベリタガッチ ツクレンコッーイイダス。オト子は昔かるムドガラルル。早う嫁に行った姉じょうからはいつも 土産を貰い出す。自分は他所に行く時も皆なが心を配ちくるる。分け前はちゃんと一人前もらう。

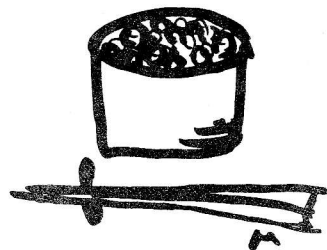
働かんでん年寄りと留守番すりゃいい。残り物んな貰いだす そんかわり足らん時は全く貰いださん。人は生まれた時に運命が決まるごたる。それかるは本人の努力と巡り合わせが 一生を左右するごたる。

子供と病気

「腹が痛えや また虫がえーたんじゃろーセメンエンぬ飲うじょかにゃ」 よく回虫が湧いち子供う困らす。虫下しを飲ますると片ヒルもすりゃ 大けなのなんぼでん出たもんじゃ。どうかするとアゲチ ロかる出ることもある。「がいと出た」「そうじゃろーもうゆうなるわい何でんかんでん拾うち食うなゃ」

「頭が痛けりゃ頭痛膏はっちょけ熱はねーんか」「あんまりねーごたる」「ママは食えるるか」「食いとーねー」「ちったー何か食わにゃ悪いどオカユわ」「いらん」「ほんなカタクリう練っちゃれ」カタクリが病人には手近な食べ物 牛乳 バナナなんか高値の花 卵でんどウカスルト貰いださん。ネツサマシぬうじ寝ちよりゃゆうなるわい。

「カヤビキシタヤ 見せちみよ」「たいした事ぁねーフツ揉んじすりつけちょけ」「痛えちゃ仕事ぁならんで」「うすー言えこんくれーじ仕事ぁ出来いじゃ」「せんで」「しょうがねーやつじゃのーほんな婦っちよこえ」「そん分な明日するわな」「お前ん言うこたー当てにならんのー」



祝日

今日は春まつり 昨日降った雨で道はジリー ハカマン裾をカラゲチ ジョーリンアドバネが飛ばんごつ 気をつけち学校に行く。いつ時すると鐘がなっち 奉安殿に向くと校長先生が白手袋セーチゴシンエイを捧げもっち講堂まじ運ぶ。そんナカマ立ち止まっち目じ見送る。

呼ばれた偉えしが紋付き着ち順番に礼をしたあと 君が代を歌うオルガンが弾かると きまったごつセキうしち声づくろいをする。昭和になっちアメグツも出来た。まあジョーリがヤツパ多うじ雨ん日どま木戸口じ履いたまま洗うた。



餅を欲しがる子守歌

子守しながら親の帰りを待つのは 当たり前と考える生活は恵まれている。小作人でん祭り正月に甘ウノーデン食える餅。そんな餅でん食えんしもおった。子守しながら夕暮れまじ お宮ん側やら道の辻じケンコしたり 笑うたりしちハダケタリ。別れん時にゃ決まっちオオゲナシガ コンメーニ『餅っくれんか』ち要求する。コンメーナ コナサルリャワリーキ ツージ帰ッチ餅ッ持ツチクル。オトシカルデータ餅ッハゲシューヤル スート取る。

こん子達にゃ飯の足しになるんじゃろー。百姓ん子はダンゴ汁でんハラヒトツ食える。ソゲナコツー親もシッコルゴタル。貧しさ故に子供の心まで卑しくした時代。それでん取り巻く人たちは気持ちは温かく大きかったごたる。

指が消しゴム

消しゴムも中々買うちもらいださん。間違うと指ん先いッツうつけち コスクルと消えた。エンペツネブッチ書くモンジャキ まっ黒うなっちしもった。『ヤンドドー字ガキシャネード マット美しう書け』 ネンブチウモッタ先生が怒った。オズガル生徒。

金持ちん子供は上等ん紙 鉛筆 消しゴム 何でん持つちよるが貧なもんな ショウガネーキ。間違うと又ツツーツケチ指先じゴシゴシ。紙は破れ字はまっ黒になっちしまう。先生もちゃんと判るきアンマリムテーモイワン。『デーチミヨ コンダユーデケタノーもう帰ってんいいど』 出来ん子は残されち別に習うち出来たら 『ヒツカッタノー』 ち言うような態度じ見送っちくれた。先生が懐かしい。

せがうな

学校から生徒が帰ってくる 兄弟が多いきオサガリがもう決まる子が いつもアイヤンガンヌ着ちよる。『ゆう似合うのー』『おどねんじゅオサガリジャキナー』フテクサレモセンジ当たり前ち思うちよる。たまにゃ親も買うちゃりてーが セクモンガアルト後回しになる。学校ん本でん オサガリガ使わるるき そん分な他んもんが買わるる。

早う帰らにゃバアサンガ子守うさするち待つちよつたど 隣んしが気を利かせち言うちくるる。子供も一人役でくるき待つんじゃろー。子守ワラキリミズカタゲ ユワカシ セワシイ時は子供もアテニサレチ 晩方まじ仕事がチャントアル。『ミチクサセンジ早う帰れや』『うん』 子供は正直に返事しち急いだ。

『時計のネジッ巻け』『メータデ』『イツンナカメーヤ』『今朝学校に行く前』『ふんとやキンタマ動きよらんど』『ほんな油が切れたんじゃねー』『ソゲンハダーネーゴタルニ』『動かにゃ油が切れたんじゃろーシュウデンニ出さにゃ』『イカニャツマランキノヤ』『それでん一日にへんな合うわな』

『お前かたん兄やんが本があるなえ』『あるはずじゃーが』『わけちくんない こんだ3年になるにねーき』『使いな一置いちよいてんいりゃーせんき』『すまんない そん代わり又なおしちおくき』 昔の本な順番になんべんでん使われた。チョーメンは新しいが高えき辛抱せにゃ ヤエコチャ買うちくれん。

『フキンハが取れたきセンチンに持つちいきなー』『フクニーイイジャローヤワラシュージ』『ソゲーシューカ』結構便所の紙の代用に役立つ 季節の風物詩かな。

子供の遊びと生活

『ツバナ取りいくで』『ウットーモツレチイキナー』『ツイチクリャイー』『もう ギシギシ取っち食いよるしもオルデ』『サトガラもボチボチいーんじゃねー』 春には子供ん食いもん遊びが 我が物顔 になる。

『ソゲン青い梅う食うと腹がセクド』『ショワーネーキ』 トーマメうちぎり そんまま食う 殻は人形作っち遊ぶ。ビワが色つくともう子供がチーチョル。グミがいっぱいナッチョル 学校かるん帰り道いカバンヌウッポタッチ ゴソゴソと木の側は足形がイッペー。

水アベチ帰りにゃ莓ちぎり ボソん中にヘーチ服ん裾うイドラが引っかけち 女ん子もマケンジチーチクル。男ん子はヤッパムゲネーんカ『お前ゃそきおれ』 言いながらヒトニギリ渡す。手も足もチンドラカタニナッチ それでん元氣ゃいい。クリん実がオテチョル ガラメが熟れた。クワイチゴじロうムラサキ色に染めち 袖ん先じヌグート ツージ行つた。シイノミ イッチー ムギシイ もアエチ拾うにシラシンケン。メーゲンサマニャミーに載せたトイモヤッコメ クリ早うさげに來いや。

ヒョンヒョングリう拾うたか ●●ほかんしかるトル取らるるど。ヤンドーヌリーキ オオケンソンジャノー コイサワ寒うなるち言いよつたのや。薬コズミ作っち中じ遊ぼうや ナニヤ お医者ごっこするや 皆なユージクルカ……果たして……

三月の歌

『お前かた娘が出来たけんヒシ餅う配らにゃならんな』 年寄りが忙しう言うちくる 解っちよるけんど麦ん中やら済ませちょーち

思うちょるに 『餅うもらや何か買うちゃらにゃち 気を使いよるごたるき 早うやりゃー催促したごたるし 難しいのや』『田舎じゃあんげこんげ気を使うち ヤエコチャネー』

『モウ ジャガイモが芽を出えたごたるな』『エート出たけんど霜がオレニャイイガチ心配じゃ』『ショワーネーデ チットイトーデン又出るわな』『そうじゃろーか去年なスツトリやられち種うしないに ナレカチ思うた』『あんたかた芽がゆー出ちイーアンバイジャナ』

『春ん種まきゃいつ頃がいいな』『彼岸の中日がいいち言うこと そーじゃ今年はオハギウタケ炊けち言われちょつた』『甘えもんが好きじゃつたな』『何かトギが来るんと…それも女ごらしい どうでんいいけんどウットーニャ くわしいこた一言わんに』『リャー』

『コンマエ仕事に行った時 デケタンジャネー』『そうじゃろーか あげん男んどこがいいんじゃろーか』『タデクウムシモ好き好きち言うこと そりー気前がいいき』『知らんふりしちょらんと悪かろーなえ』『知らん顔しち帰つちかる言いなー』

『来たごたるで ありゃー年寄りじゃねーな そりー足が悪いごたるで』 何のことはない 仕事に来ていた頃 足を怪我しち世話になったお礼に来たごたる。『あの節は世話になって おおきに』 土産に出された嫁さん向きの着物に 今まで心に思っていた疑いが晴れたことと 浅はかさに恥じた。『そげー気にせんじ 気を使うちもろーち済まんこつじゃ』

おはぎを竹の皮に包んで土産に持たせた それに涙流して喜ぶお客は 『旦那も優しいけんど奥さんも心の行き届いた人』

人の優しさが身に染みて嬉しいと涙流す。『又いつでん来ちよくれ』お構いでけんじすまない事じゃけんど『いいえ』人を見透かされた思いに　コゲンメンドシイコターハジメチ。

カジケボーもチッターユーナツタ三月　クンズイチ日向ぼっこする脇う　花がえーと咲きそろうち　寝むつちよつた子がホシガル。ぶくかる出えた手に取っちゃると　エエラシイ声う出えち喜ぶ。でえぶんヌクーなつた三月。

炭売り中学生

学校がヒクルト汗うふきふき　坂道う上りつめち帰る自分かた。早う売りに行かにゃ又暗うなっちしまう。ヒモジイ腹おさえにアゲジョーケをおろしち　トイモうヒンニギル。口に投げこむ　喉につまりそうなんぬエートこらえち　チッター腹がオケタゴタル。

背板に三俵炭うのするとウントコラショと立ち上がる。力はもう負けんくれーじゃが　商売はまだまだ素人。そりゅー熱心さが加勢しちくるる。往還まじえーと出た　汗がもうタラタラ流れち　体中流るるのがユーワカル。股くらをチョイトオサユルト『炭う買うちくんない』門に立った。やーり来るきチッター迷惑ち思うちよるんじゃろー。けんど売らにゃ帰れん。

『又来たんな下んしが欲しいち言いよったき　行きゃーいい』『そーな　おおきに』顔がほころぶ　ヒジイ肩の痛さがスート飛んでいくごたる。『ヤツパ　アッコンオバンニ言うちよかった』一人合点すると小走りに行く。もう日が西ん山に入りかけちよる。

イイアンバイニ3俵売れた。嬉しい心にダリガドッと出る。食うものも辛抱しち寝る暇もねーごつ働く　それでん土地の人に世話になるきーち　気を使う。初すりに機械を担ぎあげちもらうき　賄い

をゆうせんとコナサレソー。ガマンスリヤーイイ子供にゃ苦勞をさせとーねー。坂道を上り下りする時皆ん顔色が苦になる。

『茶を飲まん』優しい声がかかるとホットする けんど甘えはいつ何が起こるか せめて子供は純真に育つちもらいてー。バイドキ カルチベーター 新しい機械を入れち頑張った。

子供ん仕事

『子守うせんなータキモン取り行け』『オドー山に行く』外は寒くても山はヌキー わいおい言いながら鎌う持つち『いくど』大けん子がオラプト皆なチーチイク。子守ん子は羨ましそうにブくん袖かる手を振つち見送る。肩じダッタか子は軒かいちよる眠ったごたる。

『やんどとー苗う運べ』『アーイ』田植え頃は親も子もセワシイ 立つちよるもんな親でん使えちユウイヨッタ。畦ん上をウマイグワイニ飛うじブラサゲタ苗う 持つちいく。『こきー投げこめ』ち腰うノシタシガオラブ。ワザットソベーナグルと泥はねあぐる。『コイタコリヤー』大声じニラミツケタ。『へヨ』心ん中じベーロと舌うデーチ 一目散にツージニグル。ソリユー見ち皆な大笑い。

『稲うカムギヨセニャ』秋の取り入れは天氣に追わるる。学校かる帰るとトイモを食うち田にいく。クビッタ稲をカムギヨスルとシャワシャワ音がしちアユル。カムギヨスルト足踏み機械じジャンジャンコギ落とす。ゆう干ちよるとアユルが半乾きんやたーアエンジ困る。天氣がよけりゃ晩方イイコム。くびりよせちコズミアゲチむしろをチシカブセチョキャ 朝早うコガルル。クローナルマジせにゃならんヨダキーノー。

『早うたたまにゃ湿りもどるど』 むしろ干しの物が乾くまでに何回も アセッターリタタンダリの繰り返しは トショレか子供ん仕事 晩方は遊びもままならぬ。『又明日遊ぼうや』 子供は散ってそれぞれの家の仕事に。『物うコボスナヤ』『サラサラシヨルデ』『ホンナあと一日じいいの』 子供も感がいい 音じ乾き具合がワカルゴタル。

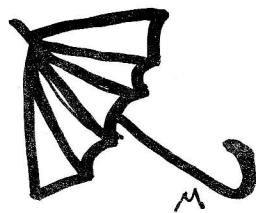
ハナハト時代

石板にハナハトと石筆で書く頃 だまに先生に赤丸うもらうと消えんごつ持つち帰った。カバンのねえ者はフロシキい包うじツージ帰るもんじゃき コスッチ消えちしうたり 落としち泥まみれになったり そりゃーもーオオゴツジャツタ。裸電球ひとつしかね一家ん隔じ 明日ん予習したりしち。

石筆う落とすとすぐ折るるき 誰のか解らんごつなる。俺のじゃーち悪がきがギシメーチ 手を振り上ると 気の弱えもんな何も言いきらん。手を引っこめち……あん頃は

いじめはやっぱあったが そんなかわり フーガイイトキは ホカんやつーコズイチクレタリ ユウシタリ ヤッパ同級生はいいもんじゃつたな。

生活の場所 地域 立場などじ でえーぶん違うと思うが 貧富の差が激しかったのも事実。だから自然貧しさから脱皮するための努力と家計の切り詰めは 惨めなくらいにあった。それに耐えて来た人たちは 人の痛みも温かみも満喫していたのだろう。



水かたげ

『遊びいかんじ水かたげちょけや』『あい』下手んイノコかる水かたぐるな 子供ん仕事。雨が降ってんチョーケに一杯いれち ユサユサするぬ うまい具合に調子うとっち 汲んじょ入っちくる。庭ん戸が高えもんじゃき背伸びすりゃ 『もチット カムゲアゲニャコボルルド』 囲炉裏ん傍じヂイサンガ声うかくる。

『こんめ一時にゃ水かたげしたきミナーこげー背がのぼん』『しよわーねー嫁こん貰い手はチャントアルキ心配するな』 年頃になっちみると まあそれなりに背はノンジキタ。水がどんくれ大事かゆう解る。寒い雪ん日どま水使わにゃいいち思うが そげんわけにゃいかんし 仕方ねえなー。

山かるカケドイじ水う引いちよる家んしは ラクジテージェーイイジャローチ 思うたが時にゃ濁り水が入っち ハンドん底にイツンマニカ ドロ水がタマッチ虫がワイチョツタ。ソイツモコマッタコツジャ。イノコン水は湧水じゃきいつでん美しいき ウメー水がのめるる。

つるべん竿じ吊り上げた水は 夏はツメテー冬はヌキー。なしか知らんが貧なもんにゃユーデケチョル。朝おけち見るとイノコカルホケガタチヨル。汲み上げち顔うブルブル洗うち 東にムイチ手を叩いち拝む。どっかんしがツルベイドカル カラカラカラち水くみ上げた音。フント アブローサシャイイニ ヤカマシイニ苦にならんのじゃろーか。 イデカル汲んじくる水 風呂沸かしにゃもってこいの水 『湯が沸いたでヘーランナ』『ヘーローカ』 年寄りの仲のよい会話に ウットーウレシー。

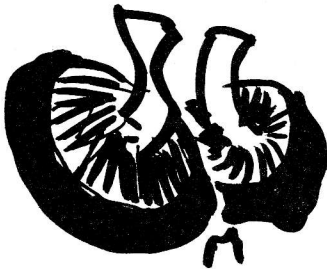
もう生えたか

『お前どうそこじ何しよんのか』『ちょいとな』『もう生えたか』『何がえ』『毛じゃ もう生えてんいい頃じゃきのや』 年頃になると気になるもん 時々眺めちゃ少し黒うなつち思うと 心なしか手にかかる。娘にしてみると人に負けたくない気負いもあっち 友達同志じ話す。『あんたまー』『ちっとな』『見せよ』『いんげオカシイ』『いいこと見せて』『チットーデ』 ちらり見せた股の白い肌のそこに ほんのり黒く浮かぶ 嬉しいヘアー オトナえの飛躍の印 胸も膨らみ異性えの募る思いも。

イチゴ取り

田植えがはじまった オオイデン水はグューラシュー流るる。そん井手う腰まじビッショリ濡らしち 前の山にイチゴ取りに行くハァジョー。子供に食わせて一ぱっかりに ヘビがオルカンシレンに一井手う渡った。『ソキージットシャゴージョキナーエ』『ウンサトガラ食うテンイイナ』『アーイイキ』 折れた竹を押し分けち入ると 真っ赤に熟れたイチゴが。着物ん裾をカラゲアゲチ ソキーチギッチャー入るる。下ん方は丸出しじゃけんど見ちよるな一子共一人。

『オカチャン アツタナ』『アツタデ ガイト』 懸命に取る母の姿は尊い。丸い尻が白いき草の中に美しい後ろ姿。



害虫駆除

『よーし皆な入れ』苗代の害虫駆除は学校も授業を休んじ 家の近くの苗代に入る。『ヒーローは殺しち入れちょけや』マツチ箱を持つち苗の上を掃くと蛾が飛び立つ。すかさず追って捕まえる。葉についた卵は葉ごと取っちいるる。学校に集めち数えち多かった子供は先生にほめらるる。『ヤンドー一番がいと取ったのーよしよし』と。

『明日かる田植えじゃきヨコーテンイイナ』『もう田植えか ほんなしゃんと加勢しいや 見に行くど』『するわな』……『うっとー子守じゃきいいなえ』『子守りゃ学校にカルウチキー早引きさせちゃるき』『ちゃーりゃ よこーてんいいじゃろーがえ』子供ううージ後ろにタッチ勉強する子も 農繁期にゃ多い。

『明日かる日覆いしちきーや』 夏になると男子ん帽子にゃ白い覆いをするごつなっちゃった。『こらお前わなし つけんのか』

『のーなったき 今日買えち言われたき』『ちゃんと始末しちょかんきじゃ 忘るんな』 先生もカンカン帽になっちくる。子守は白い紙貼りの傘をセーチ 泣く子をアヤシナガラ 汗うふきふき。

虹のかけはし

向こう山がちっと黒うなった 思うちょったらポトンポトンち雨が降っちきた。ママゴトしよつた子供が セワシューゴザう引っぱちくると もう大粒ん雨がツボに叩きつけち 見ちよる間に水がアンゲコンゲ流れちいく。折角カンナの赤え花をシソん葉に巻いちゴッソー作っちゃつたに そしちお医者さんごっこも。

ずーと降ったかち思いよったら 西ん方が明るうなった。パーと日がせーち美しい虹が 『虹が出たで』『ほんとや どきーや』 判

っちょつてん子供に合わせち 見上ぐる山の雲の間に 『誰が渡
っちこんげさえるんか』 濡れた稲や野菜の葉がそよ風に揺れち
吹く風が脇の下かる入ると 気持ちいい。ちったーこそばいーご
たるが。

ホエタど

『やんな馬力がいいのー』『そげーねーけんど』『ゆう ホエチ
ルじゃねーか』『お前はホエンノカ』『時々ニャのーホユルケンド
』『生えたら ホエダスンド』『ソーカ オリャーシランジャツタ
』 男ん子が年頃になっち あっちこっちに毛が増ゆると 晩だけ
じゃねー昼でん大きくなるこっーホユル ち言う。

犬がホユルち言うなー泣くことじゃが 人間のホユルのん泣く事
じゃねじゃろー。その意味は人によっち違うじゃろーが 何を求め
ち泣くのやら。意味ありげんごたる…年頃ん摂理がグワユーデケチ
ヨルキー サーチュウ時 間に合うんじゃろー。じっと見つめち自
分の大事な物を。ホエタ…愛敬のある呼びかたに娘たちも気を引く
。一番先に誰が使うのか考えただけ
でん 笑顔が見らるるごたる。

『チョイト見せちみよ』『へヨ見
するか』『でーぶんヤンなー大げな
しんごたるのー』『そりゃーそーじ
やろームドガレキ』『ドゲースンノ
カ』『知らんのか あんのー………
…』 何やらいいたげな それじ恥
ずかしーのか。異性にも思い悩む頃
になった。青春時代のヒトこま。



夕立雨

『よーい田の草う取り行っちくるき 干し草う広げちょけ』
『あい ウットーもあとかり行くわな』『暑いき無理うすんな』
早めに出かけてん暑さは厳しい。汗が沸き出るような夏の田の草取り 早めに取りにゃ畑ん草も待つちよる。ヒトサガリ行くと腰う延ばしち 汗を拭く。『ズーゴシガイタカロー』隣んサコタに来ちよるしが 声をかくる。『ナニンカニン暑いなー』『早う止めちケーローエ』

ホシクサを広ぐるツボサキ トビシャクん花が咲いちよる。子供たちがゴザう敷いち ママゴトヲをしようと セミが忙しゅう鳴きでえた もうすぐ盆が来る。『コゴメースツチョコカニナルメー』『ソウジャーナ 洗うちょこーか』 ババさんが腰う延ばしち出ち来た。テヌギーヲカブッチ そんな格好は百姓女ごしん代表んごたる。

『暑いなー腰うのさんな』 田のくるー水番に来たしが足う止めち話かけ『なし雨んやたー降らんのじゃろーなえ』『わし言うてん知らんで 天に言いなー』『やかましゅう言おうか』『そうじゃけんど聞こゆるかんしれん』『そうじゃーなー止めちょこーかなー』『まあー一服しなー』 畦に腰うすゆると汗う拭いち ナタマメギセルを 取り出えた。

『暑いに影に入らん』 ママごと遊びの子供に言うと ゴザを引っぱりくーだ。『ババさんもお客になっち』『わしゃ忙しいんで』『いいちゃ ちょいとだけじイーキ』『ほんなコキー座るで』『ハイお茶オケ食べな』『こりゃーうめーユー出来ちよる』『ほんと嬉しいハイこれ混ぜご飯』『アリャーいろいろあるな』 子供の遊びに溶けこむとさすがに古きよき時代を 思い出すようだ。

『アリヤー西ん山が曇ったで』『くるかん知れんな』『早う干し草うなおさにゃ濡らすと オシナギーき』『慌てちオーコン先じ押し寄せち 壁なしい積み上ぐると暗がる。ピカリとヒカル』『ドンドン様が鳴るで』 と言うた途端にイナビカリ 続いちガラガラ『早うカヤに入らにゃ』『わーおじい』 子供たちは慌ててカヤに入った。

『ウロイヨコイにせにや』『そうじやなーケツクシャ ユウ降ること』 久しぶりん夕立雨に 野稲も稲も喜んじよる。『いいうろいじゃなー』『田が干よつたけんど これじ生き返るでなえ』『まあーかけなー茶を汲むわな』『いいで忙しいに』『いんげいいんで今済んだところじゃき』『ゆうクルクル動くなー うっとどーもっよだきー』『ウットー若えきなゝ』『そうじゃーなー』 二人は顔見合わせち大声じ笑うた 雨はよう降る。

勉強せんでん知恵は生まるる

『ワクドカナンカ押し込みよんの』『いんにゃ草やらゴーソーがあるき押さえ込んじナラシヨルンジャ』 苗代のウワツラう美しうしよるぬー見ち 地主ん娘がタマガッチョル。知らぬが仏ち言うがなえ。種まきすりゃもう半分は デケタヨウナモン 昔かる苗半作ち言いよった。

百姓ん子は学問なさせんでんいい 学校にやると出ち行っち百姓せんごつなるき。学問せんでん知恵はつくき 心配いらんわな。昔しんしは子供が働くことが 財産つくりにつながるち言うけんな。もう卒業したら一人前に使う。嫁を貰うち一緒に働く 嫁も働くために来たき働かにゃ 役にたたんち追い出す。

子供が三年も出来にゃ縁がねーち離縁する。夫婦縁があるに破れ

祝言ち言うち　いつんなかめーか帰る。子供が出来りゃ親がムシリトッチ子守うしち　嫁ごは働きしこ働きダツチシマウ。時にゃ在所に行くと一日中寝て　ウチコロサレタゴタル。それでん辛抱しち姑になっち　こんだ自分がん番じゃ。

秋まつりが来た。湯たてがあっち笹じ湯を振りかくる。そん湯がかかると病気をせんち言うち　熱いぬー我慢しちかかる。オコシがデクルト　火渡りの行事がある。裸足じ火の上う渡る　チッタータイワンアチーケンド　渡るとなんとか気持ちちが落ち着く。若い娘が気後れしちおるのを　見かねち『はいきなー』ち手を差し延べた。待つちよつたごつ　そん手にシガミツイチ顔しかめち火の上う　抱きカカエラルルゴツ　ツイチ行く。肌の温もりが伝わると若さもあつて情が　湧いてくるごたる。『おおきに　うれしいにウットー』『わきゃーねーどがえ』『それでん　あんたが抱いちくれたきで』『そうな…』　顔見合わせて二人は心に何か芽生えたか。

残されて覚えた地理

判らん者は残れ　校長室にゃ電気もねーじ薄暗い。そこじガラス窓に白墨じ地図う買いちくれた。関東地方ん鉄道の名前　えーと判り五本の線の名を言わせる。何回かしちえーと言えたら外はもうまっ暗。『ゆー覚えたか』　次席の先生が意地悪く睨みつけた。『はい』　返事もしとーわなかったけど　帰られんと困るき　返事うしたらほめられた。

とっと好かんじゃつた地理が　何か好きになりそれからち言うもんな　調子がゆうじいっぺんにでけでーた。怒った先生に後じ話したら　『人から言われる時が一番いい』ち頭うなでられた。あれかるは地理が楽しい勉強の一つに。やっぱ人間なキツカケがあると生き方も面白うなるもんじゃち　おもうた。

運動会

『お前ん方ん子は早えきいいのー』『そんなかわりヤンドカタ頭がいいじゃねえか』今日は運動会 大けんサカイジュー持つち ゆーべかる作ったイナリズシ オハギやらサゼクージ 後ろ前にかるーち皆じ行く。学校ん入口にゃアイスクリン売りが来ちよる。ニツケーをかうち食いよる子 風船ぬふくらませち口う放すと プァーち飛んじしぼむ。マイクロホンがでけち大けん声が出たき タマガル。

男子の中隊教練女子の連合遊戯は花形 そしち部落リレーは皆の血わかせちくるる。

名月さま〈メイゲンサマ〉

『こいさメイゲンサマじゃき 外しきいや』 草刈りから帰りの年寄りが遊んでおる子供に 声をかけた。『フントナイクキ ガイト入れちよいちな』 夜の月が上がりツボサキのミーん上に ローソクが灯る 取り立てのクリ トイモ マメ ドイモなんかが一升マスに盛られちよる。こそっと取っちオトシに入ると ツージ帰る。それを見ち家んしが又 次ん子のために入れる。

『こんだ俺の番ど』『ヤンドあとにしよ 一杯持つちよるじゃねえか』『いんにゃこりゃーこいつの分じゃき』それは 側の娘のこと 仄かに娘をかぼう気持ち 月はとても美しい 夜のひとときに子供の世界は 広がっち行くこたる。

娘をいたわる情愛はやがて 恋になり 若い二人の楽しい夢に結びついて行く。



湧水

喉が乾いたき腹ぼうちどつとん出る水う ひっくり返りそうな気持ちがえーと止まった。ヘモドルのも馬鹿らしい どうでん片付けにゃち思うち 水んやつがエグージ入らんじすんだ。やっぱ一田舎はいい 水はうめー空気はスンジョル。長生きゃ出来ち こん水も夏は冷てー冬はヌキーじ 手を入ると柔らしゅうなっち ちったドークッチミトーナル。

初恋オサシ

『カタシガアッタキ オサシう作っちみな』 母親が娘にどうやら相手が居る 女心に判るきオサシン一つも作りきらにゃ。椿ん花が寒空に咲く下に去年の実がアエチョル。実のこつーカタシち言う。オサシン中にゃアズキ ジュズダマ カタシがいい。『出来たな……決果いいわ』『こげんふーじいいな』『みーちゃんに持つち行っちゃんなー』『え…』『喜ぶで 初めち作ったき ち言うち』母親の心配りはわが子に 相手に逢わせる機会を作っちやりてーから。『行っちくるわ みーちゃん居るかしらん』 娘の心は嬉しさと不安が交差して。あの人何しよるじゃろーか 門口まじ行くと牛飼いの後ろ姿が うれし涙の目に入る。

ゴムジュー

『ゴムジューが出来たど』『どーみしい やんなうまいのー こんだ俺のも作っちくりー』『いいど ゴムはあるか』『それがねーき買うちくるわい』『ほんな おれがんぬチツトヤルワイ』『イインカ お前がノーナリャセンカ』『ショワーネー』 友達はいいもんじオトシカル タクナッタゴムう引っぱり出えち ゴツゴツ作った。木の二股を上手に使うちゴムを結びつくる。『コレジ ユツチミヨ』

ハリコイッパイヒツパッチ パッとハネータ。アリャ『ヨイ雀に
アタツタド』『フントヤ』 ダマシ落ちたきツージイクト雀ん奴
が ツージ逃げた。

狙いがいいと子供でん雀ぐれーは ゴムジュージ落とす。子供
ん世界にゃ夢がある。友達と作りあい 年上かる教わり覚えそれ
を下の子供に教ゆる。自然界の中で知恵がつき お互いに競うこ
とで生き方も身につくる。

疎開生活

戦いが激しくなっち沖縄かるの疎開者が増ゆる。男手のすくね
一家にタヌージオイチモラウ。厳しい供出じ食べ物もヨキーネー
ガ ソレデンマー何かアッタキ イノチキハ出来た。来たしもソ
レナリニ働いち皆にもナジュード。戦争がすんじ引き上げち全く
音沙汰んネーシモアルガ 中にゃ今でん恩ぬ忘れんじ 大事にする
人もあるごたる。のど元過ぎりゃナントカ 世相も変わったんか
もしれん。

裁縫学校

田植えが済むとお寺に裁縫習いに若い娘が行く。ペチャクチャ
とおしゃべり話 聞いち先生は『手をよこわせんごつせんと』
と注意する。『あんたイイシガデケタンジャロー』『何言うかえ
そげんこたー』『うすー言いなー知っちょるで そりーこん頃
美しうなっち なえ皆な』『ふんと美しうなったなえ』

若い娘たちはやっぱ 人にいい相手が出来ると羨ましい それ
が又敏感に判る。『な どげんし優しい』『しらんもう そげん
人はおらんで』『ほら赤うなった見たで ちゃんと言いよ』『ど

こじ見たんかえ』『ほらやっぱーそうじゃねーな』うっかり滑らした口 でん悪い気はせん心の中。

こげな話う聞くともなしに聞いち先生も 『あんた達ぁ若うじいいなー』 とニコニコ『真剣勉強しちいい嫁さんになつてな』『先生はじめてん時は 恥ずかしゅうねー』 咄嗟に聞かれち先生も返事に困ったようじゃが 『皆な同じょ 心配せんでんいいんじゃねー おかちゃんが教えちくるるきな』 一瞬静かになつたが 娘達は頷いた。

次男のいやがり

『馬屋ん肥う出えたら畑に運べ』『判っちよる』『何やショウジョウトセニャ』 長男に言われち腹がたが 次男な弱え。仕方ねーち馬屋ん肥う出えち牛いウーセタ。ウーチ行こうち思いよったら『早うしーや』 又言われた。何ぼなんでんコゲー言わるりゃ腹が立つ。牛う追いかけち畑にゃ行つたが そんままホトラカシチ遊びい行っちしも一た。

牛は畑じ馬屋ん肥うオロシチクレン そんまま帰つち来ち馬屋ゑ入ると ダルモンヌ食いはじめた。長男なソゲンコターシランキ 昼んダルモンヌヤローチ思うたら 牛は荷をカルータママジスマシチョル。『ナンチューコツカマァ』 アンヤンナ怒っちみだが モウドゲースルカ。今頃次男などこじ何うしよろーかしらん。



方言農作美 生活



木炭バス

戦中から戦後まじ通った木炭バス 始発の乗客は大変なこつ 火起しガス発生炉に蓄積したガスじ走るが 早朝は馬力が悪うじ走っちくれん。乗るしがヨイショち10分ぐれーセル。えーとブルンブルンち走り出す。心配ねーち判ると『乗ってんいいで』運転手が言々と 今セツタしが先に乗りこむ。コシーシハそりゅー待つちよつち乗る。

木ワクをはめた窓ガラスのねー所も 雨が降るとそこかる入る。それでんクジュー言うと『それが悪けりゃ降れちょくれ』ち言われる。テクテク歩く人もあるが 大けんグリイシン入った道はデコボコ 泥はねあげちビショリちかかる。柿野坂やら掘割坂なんかは皆な降れち歩く。それでんどうかすると歩くしがバスより早え。

お客ん少ねえ時ゝ手をあぐりゃ止めちくれた。その後トレーラバスが来た。車掌が二人のり乗っちバックするに 苦をみたごたるがいっときすると電気バスも来たけんど こんバスは鶴崎方面にまわった。そうこうするうちリヤエンジンに變っち 方向指示器が横にピョンと飛び出す頃は 車も少なかったな。泥除けが横にチーチョッタ。

明かりと生活

『クドンハタンジョーオランジ 駄飼いをせにゃ』『判っちよる』 まっ白い霜がおりちイノコバタニモ ツララガブラサガツチョル。エート夜が明けち馬も牛もダヲホシガル。『オキガデケタラチットー火鉢いくりー』『イロリータキツケナー』『ケムテーキノー』『寒いよりゃヨカローガエ』『ソリャーソウジャーケンド』ミンナヨダキーンジャロー。

囲炉裏に火がつくと家の中が明るくなった。煙りが家ん中を回ると チツター温くなる。タイマツンコロニャ ローソクも役にたつちよつち。提灯な贅沢なもんじゃつたが ランプが出来ち家ん中がパート 明るくなると別世界んごたる。油をジミにつけち灯すとこれもケックシャアカリイ。そんうち電気がつくごつなつた。柱に線ぬ引っぱちアンゲコゲ来るき ヤエコチャキメーち思うたらソゲンコターネースグチータ。目をこするまに。

風が吹くと木が当ちヤーリ消ゆる。早うローソク出せランプわや マツチワドコカ フントソレンハウガセワシイ。ガスが出ちきたら魚取りに使うち アイタベンリガイイワナ。懐中電灯がこんでけたら 水回りにドーイイカ ゼニモイルケンド。クラスミン中じヨバイニ行ったところ間違うち 溝にホラケオテチ アオノキサンプチコケチ ツー腰う打つち痛えけんど コラエチョツタトコリー ダイサマが出ちきち ゆう見るとダルビシャク持つちよる。ウワー頭かるダルカケラルルト オオゴツ。

電気がパツとちーた じーとシチョツタが見つかつちしもうち『お前ゃどこん子か』『…………』『どうでんヨバイに來たんじゃろ一悪いけんど娘はコイサオランド』『リャー…………』 懐中電灯ぐれもつちよれ 若えしがどーゆうことか』

よりあい

『行こっえシコ出来た』『すぐ行くいきよって』『行きよるであんまりコシラエナンナ』『これ以上は別嬪にゃならんわな』 牛を飼う人たちのヨリアイ チョツトデン高う売るにゃ ドゲースリヤイイカ皆じ話合うち決めにゃならん。あっちこっちかる皆なコシラエチ まあ目を見張るごたる。

『世話役う決むるにゃどげーするかな』『年順などげーな』『そ

りゃ悪いわな やっぱ元気んいいしに頼もっえ』『うちどーま一年寄りしが居るき』『そうじゃなーヤカマシイ家もあるきなえ』『そげーねんじゅー出るこたーねーき』『やっぱあんまり難しい家のこたー考えちあげんと 追い出さるるで』『そげんこたーねーわな。

とにかく無難な人が選ばれた 大変な世話じ回りん人が家族ん関わり 話ち書けち動けち難しいけんど 誰かがやることによっち 働くそん結果に少しでんプラスになりゃ ……『決まったで こん人に頼んじ一年過げたら交替しち 皆じしゅうえな』『それがいい』帰り道じ世話を受けた人の 大変さに協力う申し合わせた。

『誰がそげんこつーさせられたんか』帰りよせん叱られたけんど ゆう考えちみりゃそれだけ 皆かる適任ち認められたことじゃろー 言いかゆりゃリーダー顔役でんある 年寄れしは内心嬉しさを隠しきれない。『やっぱうちん嫁ごは』自慢したいように 時折忙しいと『忙しいに出来もせん世話うするきーじゃ』 ちグチもこぼすけんど……

焼き餅

正月餅の飾りをさげちタキモン切りに持つち行く。粉雪が舞うてん山仕事はホンノリ汗ばむ。山のクロに燃やした枯れ枝じ出来た そん灰の中にセリクージ 一仕事した一服ん時にホジクリ出す。うまい具合に焼けちよる。『ひとつどーな』一緒に来た若いしに差し出えち うまそーに口に運ぶ。

『今日ん弁当は餅ど』『いいで三つ入れちょいち』『三つ食えるか』『食えりーじゃトギも欲しがるし』『トギモヤンノカ』 アルミニュームの弁当箱に餅が焼いて並ぶ。授業が済んじ昼時間にゃ 固うなっちょるけんど 餅の旨さは又格別 ましてや百姓せん家の

子供にゃ珍味でんある。

『醤油つくるんか』『がいと一つけちくんな』 砂糖醤油は
減多にないけん醤油だけじつけた網にカクルと 醤油の焦げた香
りが風味になつちナントン言えん。『フスポリヨルド』『ちった
一焦げたほうがうめー』『そうか自分じよけりゃいいわ』笑顔じ
目を細めち孫ん姿う見る年寄りしも きつと昔う思い出えたんじ
ゃろー。

カタクリぜんざい

貧しくとも来客には せめても最大のもてなしを。素朴な人情
は心うつもの。寒い日にワザヤクキチクレタ ロニアウモナーネ
ーガ チット残つちよつ小豆う竹ん皮う入れち煮る。話よる間に
煮えた。チットン小豆にカタクリウ水に溶かしち増やすと 正月
餅うオキじ焼いち入れた。カタクリぜんざい黒砂糖ん香りと ユ
ルーデケタ ソレガ舌をやきそうな餅が ウマイコトカラミ 小
雪の舞う外の寒さの中じ ほのぼのとした心尽くしの もてなし
は心の底まじ ヌクーナル。



嫁の立場

夏風邪をひいてオケレンゴタル。ムコジョーハ『寝ちよれ無理うすんな』ち言うちくれた。障子越しの部屋じ布団かぶっち 里の親のことが頭ん中じクルクルマイヨル。物音にもビクッとする。『なんか食べんと起けれんで』その言葉は針が刺さるごたる。早う起ケち仕事せにゃち 言うことじゃから……

ヨッポズ起きゅうかち思うち何べんも 頭う上げたが目マイがする。と 障子うあけち姑がオカユを運うじくれた。『すみません』悔しさと切なさが涙になる。出ていきながら『すぐゆーなるわい 昼かる起くるじゃろー』聞いた途端に無理は判っちよるが 起けた。

うらめしい嫁とはこんなに憎い者か せめて一日ゆっくり寝せておけば 快方に向かうのに嫁姑とは。ナイショにオカユを運びサラサラと 流しこんだ。意地からでも仕事に行かにゃ 熱もあるがオロオロするむこじょうも 何も口を挟んでくれない。今の自分の惨めさが何で来たのか 親に反対されながら。

気丈さが熱を押し退けて一日続いた。それは当て付けでもありプライドもあった。よその人に負けたくない気持ちと 虐げられる親たちえの反発でもある。本当は自分を痛めることになるのだが。油断のならなぬ夏風邪も押し切って 無事に済んだが似せ病じゃと 嘯くこともあるじゃろー。

いずれ世話になる嫁 自分の娘もよそに嫁いで同じ運命の道をと 思い当たる頃は老けて自由も効かぬ身に。あんときは悪かったと気づく頃は『すまんなーこらえなーえ』涙が皮肉にも嫁に見られる哀れさ。人の心は大切にしたいもの。

出征兵士

召集令状が来ると決まった日に行かにならん。男はオオカタデ
チイツチシモウタ。子供ん顔も覚えんホズコンメーニ。村んしが旗
うつくち荒縄にさげち ツボンハナに立てた竹竿かる四方に 引
っぱる。働き手が又減るけんどお国の為と 涙かくしち見送る。家
族もこれが別れち思うとセツージ チノミゴンオルシハ ウシロガ
ミう引かるる。いつまでん後振り返りながら。行く人も残る人も
地獄の明け暮れ。

テレビから

国会関係のテレビを見ちよると 本論はアツチンホーニオイチ
ナシアゲーエレーシンジョーガ 人ん足う引っぱるようなコツー言
うたりスモツクレン ヤジウトバセチ ドークツチョル。しまい
にゃヨダキューナッチ スイツチュ切っちしもった。モウナサケネー
ヤラ ナンチャネー。

小作人の四季

地主に借りた田畑じ作物う作る。そん代償は小作米である。米の
不作な都市は借金生活を余儀なくさせらるる。そげな時代もあった
。『今年は出来が悪かったきチットマケチョクレメーカ』『ソリヤ
ナランデ』『ホンナチット銭う貸しちくれめーか』『困るのー』
借る銭はいつか返さにならん いつまじたってん浮かばれん。セ
ッキ払えんき逃げち都市の夜が明けりゃ ショウガネー ち待つち
くれたもんじゃ。

『イビラモチう持つちきたで』『ナニヤ又コトワリジャノ』『ヨ
ツボズ悪いけんど』『いつまじ待つんかえ』『ライシンマジ』『シ

『ワーネーナ』『牛う売るき』『高う売るるんかえ』『もう決ま
つちよるき』『あんまり手にゃつかんのじゃろー』『だいぶある
ちゃ思うき』『しょわーねーじゃろーな』

『オヒマチー皆な来なーと』『すまんこつじゃな』小作人を集
めちセメテモ 年の暮れの餅うやろー 地主の心配り。『皆なゆ
っくり飲うじくりー帰りにゃヤウチンモンニ土産う持つち帰るが
いい』久しぶりのうめー酒 ほろ酔いと家族の土産に うれし涙
がこぼるる。真剣働えち恩返しセニャナエ。イツモこんオヨバレ
に家では土産の餅の帰りわ 待つちよる。貧しくともこの時ばかり
は心和む 地主の計らいは作物作りに大きい役割う 果たした
。

地主と小作人な親子の絆に結ばれちおる。働く人が居りゃこそ
田畑も育つもの。小作人も大切にされち働く意欲も湧く。どん田
も畑も実りが見らるるのも どこか違った心の絆がありゃこそ。

もらい湯

『いっばいかしちょくれ』『早うくりゃいいにカンがいいで』
毎晩は沸かさぬ風呂 隣の家 zu 貰い湯 夜も更けちヨゴレモヒド
カローガ 一日の疲れは風呂じ癒すんが一番。それに気も落ち着
く『カンなどーな』『おおきにいいで』若い嫁は家ではゆっくり
でけないが ここじゃそれも甘えられる。嫁いでフスマ越しの部
屋に夫婦が夜の営み 回りを気づかいながら……

アリツケバーサンがそれを確認して 帰る時『どう』と聞く
黙って頷くので安心して帰る。随分過ぎたのにまだ嫁 それは家
族とは違うごたる。全てを他人感覚が生きている。早起き遅く寝
親兄弟姉妹の品のいい奉公人である。里に居た頃の贅沢とは裏

腹の暮らしが涙と共に霞んでくる。今頃やはり娘の身を案じて幾度も寝返りをうつ親が目には浮かぶ。

『おごちそうになりました』『まゝ寄んなー』『もうおいしい又寄るわ』『そーな無理っしなんな』『おおきに』優しいその一言が母に置き換えち 思いが馳せる。部屋に入ると軒が疲れた体を休めるように 聞こえちくる。こん人が居るきーと思うと明日も 苛酷な仕事に取り組む人生が 浮かんでくる。そげな繰り返しも少し慣れち女ごん強さ が頭もちゃぐる。

アイゾメ絞りん腰巻うまとう肌も 疲れが若さをカバーしちくれち 初めち許した人の温もりが 保つちくるるんじャろー。衣類が乏しい マカヤ チョマの繊維も一役出番。白い肌を包むには可哀相と ふと自分の今に夢をかける。若く美しくありたい土に慣れてくるとそれがトニカク元気でありたい に変わり と思うと甘い夢の世界に飛ぶ。生き物です夢もいい思い切り……貰い湯に心和ませてくれて。

入れ薬屋さん

大きい包みを背中に担いで 富山から入れ薬屋が来る。適当な距離に常宿を取ってそこから 毎日入れ替えに回って歩く。各地を歩くから情報も博学 文化の使いの役割も果たす。江戸期には特別な通行が許可されていたとか きっと仕事や情報集めにも役割を していたのでは。縁先に風呂敷を広げち薬ん減りを 入れ替え代金を受け取るが 薬の使いが多いと子供ん喜ぶ フーセンハシなんかをくるる。

喜ぶ子供とは反対に親は顔シカメチ銭う払う。『チットタランキ コンツギシチ』『イイデスデ』薬屋さんな笑顔じ そう言う

と次の家に回る。大きな元帳にヤタテじ書き込む　その横顔には
里に留守をさせる家族の事を　連想しているごたる。『マァ甘酒
でん飲まんな』『おおきに』方言も上手に使いこなすのん　商売
じゃきー　セキモセン　コトワリモセン素直に人に従う心。『サ
ミーナエ』『イーエナレテマスキ　ソリーウチンホウハ　コンク
レンモンジャネーデス』。

北国富山の雪は想像もつかんが　こんくれーはチャンチャラオ
カシイカモシレン。一日20軒ぐれ一回るらしいが　声をかけら
れたら忙しそうな姿勢は　絶対見せない。相手に失礼とか。他国
の人に世話になり食べられる事を　常に心に覚悟しているから。
『オゴツソーナリマシタ　アツコンシガ待つちよるカンシレンキ
』実に心憎い愛情の溢れる言葉　人を傷つけない心配りに　『ム
リューワイワンデ　マタキタラヨンナーエ』『ヨラセチョクレ』
大けな包みう背中にかるうと足取りもかるー。

火元三代頭あがらず

昔かる火事うダスト孫ん代まじ頭あ上がらんち言われた。それ
だけ人に迷惑かけち憎まるるごたる。スボイエん多かつたき火が
つくと　ドゲー降ったあとでん火の回りが早え　時の間にウチア
グル。ショウボウ消防ポンプが着いた頃じゃ　もう大けな家もボ
ソッと落ちち燃えさかるき　寄りつけん。

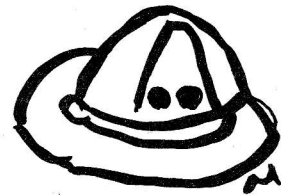
そりー飛び火がしちムツカラ屋根に飛ぶと　そこじ燃えあがる
き消しにきてん寄りつかれん。見る見るうちー焼けちしもうた。
物う出すなんかとてん出来よせんき丸焼け。ちった残つたもんが
あつてんコガレチ　フスボッチ　使い物にやならん。食べ物とは
とてん食われたもんじゃねー。ちょいとんなかめー何もかんもノー
ナツタシモッタ。

村八分ちゆうのがある。意見が合わんか意地の張るんか皆に嫌われち アゲクンハテニャミソワケ 村八分にさるる。両方言い分はあつてん まあ多いほうに合わせた方がいいんじゃが 世の中難しい。トリオーテンクレン トリアワン自然と行き来もせんき 便利も悪いじゃろー。呑気かんしれんが困る事もあるごたる。それでん火事と葬式にゃ別じチャント ヨローチシヨツタき 俗に二つだけつきあうき ノコリン村八分になった。

そんうち自然ヨリが戻ることもあったが 中々意地が強いき いつまでんトリオーチクレン。エート子供ん世になっち元に戻ることもあったが 生きちょー一生にデエーブン損をしたかんしれん。儲かるこたーなかったじゃろー。心も貧しうなっち。

お接待

『もういかるるな』『もう行くんな ちょいと待つちくんない』『米は何合うじゃったかな』『おまでご飯じゃき三合じいいんじゃねー』『そうじゃーな ご飯の他んもんもあるきいいわな』 春はまでご飯 夏はヤセウマだった。『今日は学校帰りがちっと遅いな』『あー子供が帰りよるで』『はい来なーお接待で』『皆ここじお接待しよるち言いよるで』『皆に言うてな』『あー言うちよくわい』『こりゃーお大師さまに参らにゃ』『あい』 子供は素直でいい 子供を背にした子供たちには『あい二人分やるで』『おおきに』 人の心と心が素朴な行事の中に溶け合って……



歩く日近く

『お前好きな人おつたんじゃねー』 母に聞かれて迷った。本当はいたが相手が ゆうちくれん 家のつりあいもある。親の反対も押し切れん悩みもある。『うん』 あ重たい返事に母もどうする事もでけん。女は男次第じゃき 『あんしならいいち思うで』 母にそう言われちえーと落ち着いた。

精米に行くと友達も来ちよる。『あんたいいなー』 話がねえその娘は 羨ましかつたんじゃろー。『うっとーなんか いつまでん残るじゃろーな』『そげんこたーあるもんか』 とは言ったものの友達に気配りした言葉に過ぎん。『あんた晩のこつー習うた』『ちゃそげんこつー』 母にそれとなく聞いたが ここじゃ言葉う濁した。クルクル回る水車は快い音で。

はちりん

コンロンこたー七輪ち言う。料理に一便利じ役に立つき そりー炭も焼いちゃるきワリカタ使う。風呂たきんオキを入るりゃすぐ使わるる。長え時間ぬかけち煮る時やゆう煮ゆる。じゃがそん上にスキマを作っち乗するのがハチリンじゃ。熱う和らげちゆう出来ちよる。七輪の上に乗するき八輪ちゆうそうな。

まあ人間にゃちっと足らんぬ 八輪ち言うたりするけんど 八輪などうしちイイデ。魚う焼いちみなグワユウヤケチ そん匂いじ飯う食うたしもアツタント。『へーそげーいい匂いがすんの』『そりゃそうじゃがえー8は股うひろげちよるごたるき あん匂いじゃねー』『ふんとなえ ありゃーいい匂いがするきタマランナエ』

在所恋しや

『早うしこせんと遅うなるで』 舅に急き立てられて在所行きの嫁は朝から嬉しい 化粧の髪油 安物のクリームでん若えき ゆう出来あがる。『こりゃ見直したのー』『ちゃー何ゆうんな』『日頃ん野仕事うする時たあでーぶん違うのー』『よろしゅー申しちな』

ツボン先まじ見送っちくれた 家内んしに手をふっち もう嬉しい。……『おご免』『ゆう来たな』 年老いた自分の事より娘を気づかう母 『ひどかったな はい上んなー』『元気がいい ちった瘦せたんじゃねー』『そげんこたーねーで』『義姉さんがひづー使うんじゃねー』『いんにゃそげんこつー言いなんな』『母さんは人がいいきな』『何う食べてーな』『何でんいいで ゆっくりヨコイテー』

来た嫁は憎く自分の娘はむげねー『山仕事に行きよるちゅーたじゃねーな』『時どきな』『無理うしなんな悪うなりゃコンゲン悪う言わるで』『時どきしか行きゃせんで 義姉さんどーわ』『祭り行くちいつたきコイサ泊まるんじゃろー』『ほんなゆっくり出来るな 早く上っち…』『何か作っち食べさせにゃ』『いいきもうよこいなーちゃ こげん時ぐれーゆっくりしち』『わかった わかった』

コビル食わんな

コビルは小さい昼 つまり普通の食事の間取る食べ物。朝が早えと昼まじビル 午後のオヤツもこれに類する。腹ひとつ食う事で労働に耐えたのでんある。

『コビリーシテ』 田のクロかる そこんしがオラブ。年寄りが気を利かせち『皆な茶をヨバリユウヤ』 誘いをかくる。待つちよたごつ言わんばかりい背伸びしながら 手ヲをチャブチャブち洗う

ち上っちくる。

『はい何んもねーけん取っち食べち』 時間の長い田植えん時
どま ニギリメシ タンサンモチ イデモチなんか多種多様じ
そこん家ん十八番も解る。得意なもんも出ちくる。日の短え時は
アラレんイツタのやら ジリビヤキ トイモ ヤセウマと取り合
わせが面白い。

腹の足しになる大けな役割だけに 牛馬を使うしにゃ牛馬を使
いながら 食う事も珍しうねえ。『カミカミセンデン ユツクリ
シテ』 ソゲーイワルリャ人の心理は不思議なもん。『オゴッソ
ーニナリマシタ』『マーユツクリシテ』 決まり言葉のように言
うと仕事が続く。

『さー腹がオケタド シャントシーヤ』『腹ん皮がツツパッチ
ネムトーナツタゴタル』『ナニヤ ヤンナテーゲンコツー言うチ
ョレヤ』『コイサ夜遊びするんじゃろー』 若い者がオルト話も
弾む。娘が中に居ると花が咲いたごたる。時々セガウと顔赤うし
ち それでん何か言うちもらいてーごたる。『オイサント遊びい
くか』『トッパユウチュウタラ』『悪いか』『しらんで』『コビ
リーん残りうやろーか』

ビッチョびっちょ

小麦粉で作る帯状の食べ物……ビッチョは食べ方もいろいろ。
水と塩とのバランスとこねかた 寝かせる時間で出来が決まる
。『こいさ何な』 学校から帰った子供が聞く『だんご汁』 そ
れはビッチョをのぼしち割いて煮る。具はあり合わせの野菜とイ
リコンだし。味噌じ味をしあぐる。栄養があり消化がいい熱いの
もいい冷てえのも又温めてもいい。昔ん農家の夕餉はこれが一番
。

ビツチョにはうどんもこう呼ぶ。祭りには欠かせない食べ物で祭り客には餅　うどんが何よりのご馳走。ビツチョにはきな粉をつけるとヤセウマになり　小豆の汁に入れるとアマシルになる。同じビツチョでも使い方で　名前も変わり味も違ってくる。似ているがソーメンはビツチョとは言わん。

延ばし方で中を割くのは豊後独特の作り方　割かないで入れるのは　この道では素人だろう。ビツチョトハ…割いて入れる時にビツチョと音がするから　ビーと引いてチョと割くからとか…などがあるが。ビツチョが面倒臭い時にゃそのままチギリ　ポイと入れると牛の舌のように食いごたえがある　ゆで餅も出来る。

『ダンゴ汁が出来たき　皆な帰るごついいなー』『あーい』　もう夕暮れ　足をばそばそ洗うと囲炉裏ん回りに　集まり食いはじめる。米の食い延ばしもあるごたるが　喉越しの感触は古くからの生活の知恵の食べ物として貴重品。季節の野菜も生かされ健康食として　定着したビツチョは欠かせない　栄養食かんしれん。

まわり駒

春先になると種駒がまわちくる。まわり駒じ馬が発情した頃をとらえち種付けをする。『今日はマワリコマガクルド』『ホンナシコシチョカニャ』　ヤンガチ向こうかるオオケナ種駒がおれち来る。ダマも判るんかイナナク。種付場に引いち行くことも多い。田舎は出向いち来ちくるる。

ダマう繋ぐと手助けしち　かかる時ゃすごい動きじ若い女ごしはそきー　シャガミクージシマウ。コンメー子をデータ母親でん子供う絞め殺すぐれー興奮する。顔を立てあげち笑う　上に跨るとタテガミークライチーチ大けん動作。駒主はそんな全ての助手としち　手

伝いするさまは 農村の風物詩 ●トテンオオケナヌー入れち 脱
いだ時んまた……………そりゃーお見事 長えで。

駒かけ馬頭観音

明治かる馬車が飛ばんごつコマカケが出来た。切り石うシツクイ
じ固めち 高さ五尺幅三尺ぐれー これじ馬車も事故かる守った。
大雨んあと坂道がほれちブレーキうかけた馬車が 下る時い輪がく
いくーじ コマルモンジャキ ブレーキをかけんじ下るる。ダマシ
トビデーチ ソンママ川に落ち ●過ちが多かった。

曲がりカーブに馬頭観音を祭り無事故を祈念したき 事故も少の
うなった。盆の17日にや観音祭りゅしち 馬車う引くしがお経も
あげるし お礼もしたき事故もへつたごたる。

四月の頃

『はりこみよるな』『そげんこたねーで なんぼしてんアバカン
ナ』『マーノシナー寝つくと何にんならんで』『おおきに もうて
ーげにせにゃなえ 切りがねーわな』『ふんなサイナラまたな』
農作業はいくらしても終わることはない。

『あいつにゃ取りあうなスウタランジョー言うき』『じゃろーな
どうでんそうじゃねーかち思いよつた』『ふがよかったなイラブカ
サレンジ』『イラブカスカエ』『ボヤットシチョルト ドークリモ
イワレンデ』『アゲンシー取り合うなーよだきーなえ』『ちゅうぐ
れーんこつー言うき まーみちょちみよ ヤリソコナウハ』



『今日は何しな』『ドイムちつと煮ろかち思うち』『ありゃーうめーなえウットーニモ食べさせよ』『いいで上っちヨコイナー』『そうじゃな一寝ゴザ打ちでんしゅうか』『たまにゃよこわにゃ病氣するで 銭はいるし痛えめにゃおーち お医者にゃ行かにゃならん』『フントじゃ こん前ゃユーロが痛うなっちハリーさんに行っち。』

『ヨロケにならんごつーせんと嫁ごかる嫌わるる』『うちん嫁ごもヒダボーズが痛えち言うち』『わしもスイバリがささつち フセモンヌスルニ ドー悪いか』『ロクナコターネーナ』『イモがウメタデ食わんな』『おーきに熱いきテショーを貸して』『ヘギん方がゆうねー』『どれでんいいけんどコネボーもな』

『汗うケータキちょいと湯にへーちくるわ』『や もうへールンカ風う引きゃせんか』『そげんこつーゆーてんネチャネチャシチ』『そうじゃーのームゲネーノー』『オトロシュー優しいな コイサ雨が降らにゃいいが』『ニガオレタキちった優しうせにゃすまんこつじゃき』『チット水ウメチクレンナ』『いいど お前ゃ色が白いのー』

『アリャーセンニ欲しがりなんな』『キンチャクニアブン目ん玉が入つちよつたじゃろーが』『知るもんか』『そげー当たり散らさんでんいい』『アローアツタケ言うちみてーんじゃろー』『セチーナーまゝそんうちチツタ落ちてくじゃろー』『ショーガネエナー』『モウイイ大分え行っちくるき』

ワクドガセワシュー泣きよる 又雨が降るんじゃろー シケが来るかなガセが早えごたる。バッチャロ笠もいるじゃろー。ビショヌレニナツチ コンコンが出ち苦になる。

いもり ヤモリ コーモリ

人間は自分だけでは生きて行けれん。近所 友人 親戚 草木かる太陽 水と幅広いが イモリは回りを ヤモリは家う コーモリは川う守ちくるる大事な動物。コゲンシガ捕まえち食う虫が トキーニャ人間の害虫じゃーき イノチキヤラ病氣ん災いん元う 絶つちくるるき カガセンいい友達じゃわな。

一合雑炊二合粥

クイモンノネーコロ ましてや小作人にゃソリャー厳しい。年貢に取られち残りう売ると 自分方じ食うなーすくねー。じゃき食い延ばしにアレコレ 知恵う絞った。今一合じ食うにゃ雑炊ならガイトー入れちフユルキ ドゲーナ。

ホンナ二合なら粥が炊くる。飯なら三合いるで。戦時中ん配給は一人二合七勺じゃった。ヒズーナツチカル 二合一勺になったけんど。火焼きは四合いるごたる。うどんぬ食うにゃ五合いるき経済にゃ悪い。人間が生きち行くためにゃ食い物が ヤツパデージンゴタル。……戦時中は一人一日 二合七勺の配給だった。

女子青年団

村の行事があると青年団の活躍は大きい。女子の存在も無視できない。料理は勿論色気もあっちいい。品評会があるき出えてな ふれが回る。野菜やら手作りの手芸品 大けな割木をヒトカカエスルゴツ クビツチダシタ人も。女子も多いき話も弾む 中にゃコソコソ話 『あんしゃあん人とシイチョルゴタルナエ』『ドーデンソーンゴタル』

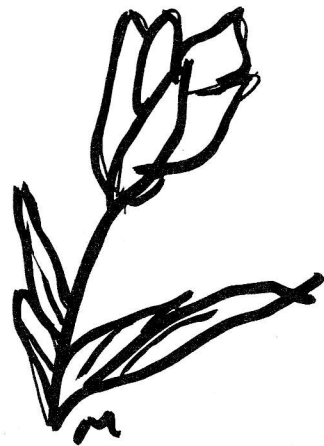
ホントウハ自分が好きかんしれんに 人に探りう入れちみる。と

相手が『あら あんたが好きち言よったで』とクリヤードゲーションー顔が赤うなっち『そげんこたーあるもんか』ち言い訳うする。『うそじゃことじゃけんど男前じやなーえ』『……』『うっとーわあんしゃー好かんが あっちんしがいい』 見るとそげーいいたー思わんに 人も好き好きタデクウムシモ……ち言うきなー。

『こいさ出ちきなーち言われたに どげーしゅうか』『行きゃいいこと』『何かおじー』『そげんこたーあるもんか』『そーな あんた来ちくれん』『……』『なー悪い』『しよーがねーな いっちやるわな そんかわりウットーん時も来て』 二人は夜道を出かけた。川原じ待つちよるき側まじ行くと『はい行きなー』 つっぱなした。『来たな』『今晚は』 それだけ言うたら……二人は抱き寄せてしゃがんだ。

見届けちつまらん ち思いよつたらゆうしたもん 別の男が側に寄っちきた。『こっちこな』『たまがった』 わざとらしく言う と立ち止まった。側に来たその人が肩に手を 引き寄せち……『寒うねー』『いんげ』 暫く静かに二組の夜が更ける。若い青年の夏の思いで。

盆踊りの練習が始まる。昼の仕事もダッチヨルガ 晩に出会うのん嬉しいもんじゃ。早く来たきチョイト横になつたら ダツチョルき寝たごたるで。『水かけちゃろーか』『なにえムゲネーガエ』『アチーキ気持ちがいいんじやち喜ぶで』 じっと聞いていて噴き出しそうになつたが 思うち言う優しい心に寝たふりゅー続けた。



皆が寄つちきたけん上にあがると　じつと起こしに来た。『目を覚まさんな　みんな』　と言うと目を開けたもんじゃきタマガッタ。『アンナ』　小声で囁くのが起こしに来た娘の耳に入る。『目が…』　と言いかけたら『シッー』　クチドメち　『オオキニ皆な聞いたですまんなえ』『チャー悪いチュウタラ』　手を握りしめた。顔赤らめち『早ういこえ』　本当は二人でオリテー気持ちと　知られる怖さ。

帰り道じ何か言いテーケンド人がおるき言えん。モジモジしよるぬー見た娘が『何かあったん』心配した。『…………』『おかしいど』『あんな…………』『そうなちょいと待ちよえ』　気を利かせち相手ん所に行くと引っぱっち来た。『用事があると』『なにえ』『はい話なー何でん言いなーえ』『おーきに』『用事があるえ』『うん…………』『こっちきなー』　顔見知りでん畏まると戸惑うごたる。

友達の助けをカッチえーと話が　『好きになってんいい』『えわしにえー』『うん』『そりゃーいいけんど　わしも好きで』『うれしい』『あんしに礼を言いなーえ』『言うわ』『ほかんしにキズカレンゴツしゅうえな』『う』　幸せいっぱいの二人。懇意にする近くのちいさんに　『〇〇〇は絶対にするこたーならんで』　ち釘う刺された。

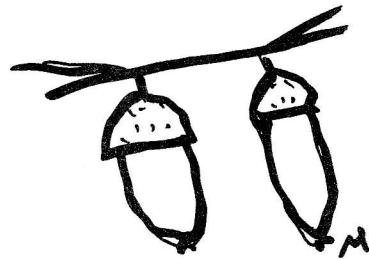
山からん帰り道じ田のクロかる声がする。『こいさこられん』『え　あんたかてーえ』『うんだれもおらんに』『そりゃーいいけんど』　暫く考えた。留守に上がりくーじ何か泥棒猫んごたる。『いいなえ家んしは知っちょるの』『言うちゃねーけんど』『そりゃー悪い　うちー来なー』『行ってんいい』『迎えに行くわな。』

結局娘の家には行かずに外での忍びあいになった。若い娘の留守の家に行くのは考えた 得策じゃった。外でしっかり抱き合い愛情を交わす 娘はもう天にも昇る気持ちであつたらー。『ご免甘えち』『いいんで わしも嬉しい』『やっぱ家じのーじよかった』 温もりが全身を包むごたるきか。

書き方を教えて 日暮れの早うなった日に学校の宿題を持ち来た。難しいけど『コイサ中に書いちょくけん』 ち言うたけど待つちよるち言う。『ほんな待ちな』 セワシュー書いちオオカタデケタガ オオケナ膝坊主さんぬ 出えた白い足がどーも目ざわりになっちヒトメン。

ジツト見つめらるるき イチベー気が高ぶる。娘も出来上がる宿題の絵に満足したのか 胸弾ませるから余計に体の線が 魅力となって見ゆる。危なく危険な場面になりそうなが 理性がえーとおさえちくれた。『これじいいな』『うん いいでとてんゆう出来た 嬉しい』『書いちもろうたち判るわい』『いいんで 書いちもろう●ち 言うちやるき。

娘も年頃本当は何か欲しかったかんしれんが 折角信頼しち書いちもらうに 汚れた物がちーたんじゃ 悔いが残る。純真な娘ん心は大切にせにゃーち 自分に言い聞かする時 若さと心の通う人の関わりを大切にする夢も見たごたる。



母なれば親なれば

苗代ふみがエート終っち麦もデープ色がチーチキタ。ドゥデン秋にゃ子供が出来るんかチット腹うセリデータ。キンジョン嫁さんソレデン朝早うかる田に出ち 日なが一日う汗まみれ。暑さも加わっち食うもんなバツカリ食いの明け暮れ。チッター滋養になるもんち卵をモロータが 大所帯の中じ一人じ食うのも気がひくる。

たまにゃ在所に帰るとベターと寝そべつち あれこれ気を使おち口に合うもぬー作っちくるる母親に『もういいで』 と口じゃ言うが 思い切り甘え食べてーあれこれも作つちほしい。でん自分ももうすぐ母親になるんかち思うと 若い楽しい時代が少なかつただけに 一層悔しさも残る。

『お前の好きな刺身が出来たで 起けなー』父親に言われたのだから精一杯の献立をした母親の頭には もう白いもんがメダチデータ。クチカズンスクネー父親も 仕事じソバニャオランケンド 心はそれ以上に結びチイチョル。苦勞承知じアルイタ時は侘しき切なさ 胸を痛めたが。

それも人並み人間の宿命ジャロー。元気シチョリャ自分たちの幸せん時代も ヤンガチクルジャロー。子が出来ち人にムドガラレチ時にゃ 横着になっち年月が流れち 今の苦勞を子供にサセンゴツいい家庭を作つちほしいち思う。母の心つくしの食事に運ぶ箸が時折り止まる。家ではタマネギ カンラン 味噌汁にタクワン それもう一週間も続く。健康でおるのが不思議なごたる でん贅沢は許されん。そんツケは自分たちにくるんじゃき いつかきつといい事もある ち信じて。

在所歩けば三里の道も 嫁と言う名が邪魔をする。

道たずね

『四辻峠ち言う所はドクードンゲ行きゃいいな』『ソリュウこん道う行きよると橋があるき そん橋う渡っち左サネ行きよると 文化財の後藤家があるきな』『ソシチ』『そこんしに習いな すぐ判るき』『おおきに ドンクレーかかるかえ』『そうじゃな一男しなら一時間も見ちょきゃよかろー』『そうな おおきに』

あきない

『オバンカタ プエンナイランナ』『何か知らんが高えんじゃろー』『それがお前安いで』『へーなんぼな』『こんくれーじ5銭と』『そりゃー安いチットーモラオーカ』『ヨキー取るつちよきな』『そげー食わすりやロクナコターネー』『ハリコムワナ』『はりこもーか』『そりゃ食いもんが一番ゆゑ効くで』『それもそうじゃーな』

『タキモン取り行こゝえ』『俺もちーち行つてんいいか』『あんたワヤクセンナ』『ドークンナ俺がいつワヤクーシタカ』『皆なゆーで』『言うやた一言わせちょけ』『……』『お前ゃ俺に好いちょんのジャネーカ』『又 アゲンコツー言う』『そーじゃのーそげんこたーねえのや』 下うつムイチシモータ。本当は好きなんか……『あんた好かん』『俺も好かんど』『お前どー何言いいいヨルンカ』『いんにゃ何でんねー ノヤ』『そうで何でんねえで』『ありゃおかしいのーお前どう顔が赤うなつたど』『日がヒジーケン』『そーか好きでんいいじゃねーか 若い心は弾んでいた。



ノミ シラメ

『ノミ取り粉を撒かんと喰いつかるど』『ガイト撒いちこーなえ』寝ちチットヌクモルト カユーナル ノミが跳ねち喜ぶんかんしれん。ドーデンタマランキjeeと布団ぬはぐると オオゲナシンノミガ イイクレー血を吸うちよるごたる。押さえつけち指じつまんじモモグッチ 敷居に押しつけち殺すと ガイト血が飛ぶ。

『ユーバノミガオッチ ネレンジャツタキ』朝オケノニ布団ぬハグッチ ノミトリ。そんあとイマキュージートハグッチ 又蚤退治。縫い目にオルヌーユビジ押さえち時にゃ口じ捕まえる。アラマシン家じゃ寝床もそんままじゃき 湧くわな。ドーカスリャ庭ん戸口に入ると 足にゾロゾロはいあがる。

シラメは子供ん頭ん毛にゆーおつた。スックシじ透くとテーゲーツイチョル。どうかすると頭ん毛の上う這いよる。学校じトギかるうつったち親がヤカマシュー言よつたが 自分かたん子にもおるきあんまりヤカマシュー言わんほうがいい。

着物シラメもおった。白いきすぐ判り喰いつくとケックシャ痒うじたまらん。これも縫い目にゆー入っちよるき 指先じツカマユル。卵う生みつくと すぐカイワルルきヤエコチャタエン。始末がワリー。たぎり湯うイッカケチ エートタエタチ思うちょつたら直ぐ又ドッカラカツイチョル。ヨッポズイインジャロー。

日向ジイモジウヒロゲチ ノミシラメ取りうしよるぬー見るとこっちまじ痒うなるけんど 本人は結構たのしゅうじよるごたる。暖けえ日の縁先 尻うマックリ出えちなえ。

キラスブゲン めし泥棒

『あっこんしはキラスゆゝそえち喰うき ブゲンシャになつたんで チッター見習わにゃ』『キラスは腹に溜まるし安いきなえ』『他んもんぬ持つち行くと 飯泥棒ち怒られた』 昔かるヒモジーヨリイイ キラスでん腹ひとつ喰えるりゃ贅沢じゃ。そりー塩気がちっとありゃ 他にゃもう何もいらん。

畦道に魚がおいちゃつた。ちょうどそき一通りあわせた そんしが魚う見るなり『こん飯泥棒』 ち言うと持つちよつたボクトーじ叩きまえーたち言うで。ナニシテン魚コスムゲネコサレ。俺どーならそんまま 持つち帰っち喰ゃほけーオサイがいらんに。オシナギーコツウシタモンジャ。

風通しがいいけど

野仕事からん帰りタマランゴッナッチ 道端じ尻うマックリアゲチ始めた。土にアブクが立つ ソリュージート見ながら自分のアレを想像しよるごたる。コッチカル見チョランチ思うチョルガ マッポシ。まっ黒い所が風に揺レヨル。色が白いき特別目立つき瞬きせんじ 見よるとエートスندا。中々声をカケラレンキ『風が吹くき娘が風邪う引くで』 ダマシ言うモンジャキ タマガッチ パラーち腰巻うおろすと こつち向いた。

怒ラルルドち覚悟しち次の言葉うマツチョルト 『ユー見エタカエ ホシカリャヤローナ』『……………』『タマガランデンイイコト ミンナ持つチョルンデ』 チョイト前う押さエチ腰巻うカカエアゲた。若い頃ゝ美しかったジャロ 今でん色白ン笑顔が優シュみられる。『風が通ったきスートしたんで』 と笑った。

言いつたえ聞きつたえ

仏事が3月にかかると悪いち言わるる。身にツクカル解釈んごたる。宗派によっち関係ねーち言うが 無理に逆らわん人の心が生きちょるごたる。

餅つきに9 19 29は苦をつくき悪いち言う。これもヤツパ苦をつき込むきーじゃろー。餅屋んしはタノマルリャイツデンチーチ ソリュウ喰うけんど ヤツパ サカラワンほうがいいじやろー。ウマン日につくと火がハジカエーチュー。アブネーケンジャローが ミ ウマ イ ネ トラも悪いち言う所もある。

田植えもチューン日は悪いけん 苗を取れち言う。トコロガこん日に植ゆると人手があるきーち こん日に植ゆるシモあった。ウの日にゃ植えんち言うシモある。人間の自然との関わりも 元は人間が作り出し結果が現れたことかる 出来たんじゃろー。物固えしはいつまでん大事に守つちよるき 変えられんのかんしれん。

『すまんけんど金づちう貸して』『いいで何すんのな』『釘が出ちょつち邪魔になるきタタキシャゴーチ思うき』『何え釘う打つえほんな貸されんで』『なしえ』『金づちがへるきーな』『へりゃーせんわな 貸しちくれんごたら ウチヌー使おー』

『わりーけんどトイシュー貸さんな』『トイシゑ貸されんでヘルキー』『コシーナー』『カカなら貸してんいいでへランキー』『ソーユーワケニャイクメー ヒョイトフユルト困るき』

『すまんが背中ん弁当おろしちクレンナ』『ヨダキーな笠ん紐がユルージョルが絞むるのんヨダキー。』

アズキう煮る時に竹の皮を入れると 柔らかく煮えると言う。
カキの皮アワキビガラを漬け物つけに オシ石の下に入れると
色づきがいいとか。生活の中かる生まれた人間の知恵だろー。

戦争中に節電が要求されてローソク送電があった。電圧が下げ
て送るからウスグレー エートワカルグレイジャツタ。ところが
すぐローソク送電用のホヤが出た。ソリ्यूツクルと普通の電球
んごつアケー。

ハシはテーゲー竹箸じゃつたき 自分かたじカキヨツタ。箸か
きがこんだ出来た。簡単じゃけんど割った竹を2 3ベン引くと
ホーリャウマイグワイニ出来る。そんうちイイノガデケタラ お
客用にナオシチョクト ナガセにゃカベが出たりしち。

針もすくの一なっち糸を通すに『糸通しん道具』が出来た。別
府かる針売りがきよった。とてん使いゆうじ待つちよつた。顔馴
染みになっち昼飯う食べよったら 夕立になった。慌てち干し草
うサゼクーダないいが そん中ゑ針ん包みう巻きくーじ ソレコ
スオーゴトジャツタ。イヤンバイニ見ツケデータガ。

若い娘がおる家じや夏は親父が心配になつちコタエン。男がず
りくーじこにゃーいいが それかち全然取りおーちくれんのも困
るき ムコーハチマキジ待つような待たんよーな。ミョウナフー
ジャツタ。コイサわクルカンシレンキ お前はズロースん紐ん代
り チョマン紐う入れちょけ。なんぼなんでんアンマリジャネー
シーコ サレンコト。

母親は女心がユーワカル。アンナチットズリムスビニシチョキ
ナー ホージャナ ヒッパリャホドクルゴツ。女の揺れる気持ち
を優しく母わいたわっていた。

かんから餅

春すぎかる日ざしが長うなると 祭りの行事に決っちカンカラ餅が作らるる。まるじ座布団に乘せられたような素朴な姿に 生活の知恵が判るごたる。山に自生したハツパにや独特の香りと鮮かな色。サンキライち言う。人に迷惑をかけんじ季節の装いをするき重宝されるち聞いた。ハツパは生食しても害がねえ 胃腸ん為にもいいごたる。夏ん食あたり予防にもなるき そげんこつー考えち差し出す。心配りは田舎に根づいた人情じゃろう。きのーなるなあそん薬効じ喰うてんヨキーウメーゴタル。

なんてんの葉

サカイジューに餅う入れちイケウチ持つちいくと そん中ェナンテンの葉が入れちやる。『ツクリダチジャキ心配ねーが もしもんこつがあると悪いき そん時はナンテンぬせゼチヌーシクレナー』 ドクケシン一つとしち昔かる入れヨッタ。オコワをやる時もやっぱコゲーショツタキ。そりゅーカミチョーズバン側にゃナンテンぬ植えち。ヒョイトヨロメイタリシタトキニャ コリーツカマリャショワーネーキナ。

ナンテンじ作つた箸はいいち言いよったで。それかるハジカが流行りでえたらナンテンじツツロク作つちウシロクボン所ん着物につけちょきゃ魔除けになるんじゃろー。

なんてん……難を転ずる…そげなことも考ゆると 人間社会には欠かせない物かもしれない。



食事あれこれ

『ショウケを外してきな』北側の涼しい所に下げた 飯ショウケには今朝炊いた麦飯が入っチャル。『お膳箱出したか』めいめいの茶碗や箸がはいったお膳箱が 食卓を兼ねる。夏はショウケに冬はオヒツに飯をオテチ 次の食事まじシマッチャル。じゃき夏のイタミ易さからも。夕食は決まっちダンゴ汁 もつとも栄養価もあり消化もいい 米を大事にする面からも重宝じゃった。

『蠅うユー追わんとイツペー止まっちよるぜ』『今年ゃエレオーナ』『馬屋じ湧くきしょうがねーわ』こんな会話の夏『喰うたらゆー蓋をしち布団ぬかけちょけ』こんな会話は冬。朝炊いた飯は昼まじか 夕飯にゃチットしか残らんにソリュウ 学校かる帰った子供が腹ヒトツ喰うちしもうき 夕飯ゃダンゴ汁だけになる。

冷蔵庫もねえ時代 生魚なんかメツテー喰わん たまの祭りの日に大分かるカタゲチ売りに来る。大けん鯖を10匹も15匹も買う。日ごろイリコか川魚しか喰わんき ヒロヒロスル。ヒトリジ2匹ぐれーはいっぺんに喰う。バツカリ喰いになる そりゃートーフでんカンラン タマネギでん同じ。出来アキにゃカタナギ喰いが続く。

祭りにゃきまつちウドン モチがある。ウドンは湯につけちスクイあげちダシ汁につけち喰う。珍客にゃ『よろしゅおあがり』ち席をはずす しばし覗いち見るとウドンをつけた湯まじ 全部飲んじょった ウソんような話。…『祭り参らんごたるき持つち来たで』重箱につめた餅をイケウチに配るな一子供ん仕事 『ヨダキーケンドショーガネー』 デン持つち行くとオバンが気を利かせち 小銭う握らする。一銭もらうと大喜び そこん家にエーラシイ娘でんおる一もんなら いつときゃー帰っちこんじ こんだ迎えに行つたりしち。

『ダンゴ汁ぬくめたか』朝草きりから帰ったトツタンが言う。
『冷えたんがいいんじゃねえ』『いんぎゃ温めちくりー』ダンゴ汁は温めてよし冷たくてよしの食べ物。チョツピリ焦げつくと又独特な味になる。米を大切にした小作人の知恵 小麦粉を使つた代用食で くいり食い延ばしを計った。

『アマジルコンママジイカ』やつと起けた子供に寒い朝でん冷たく齒にしむようなのが 好きと言う。『そんままじいい』目をこすりながら来た子供は 朝の目覚ましが何よりの楽しみ。

ボタ木ボタモチ

『今日はボタ木をヘネクルち言よつきボタ餅う持つちきたで』里の母が気に止めて 娘可愛さに朝早くから作ったのだろー。『すまんなー義母さんサカシイナ』夫が手を休めち礼を言うと 娘は遠慮ねーき『ねんじゅシイタケモラウキナエ』心では嬉し涙がコボレソーなのに。『本当いつもすまんなえ』『家にヨツチョコレハージョガ居るき』 忙しい季節だが娘の元気な姿も見たい親心。ほっと安心すると『何かシュウカ』『いいんで まあ茶でん飲んで』 早く茶でもと 顔で合図するのを見取ると 娘は母に茶を奨める。束の間の出会いの親子だが元気に働いている 安堵の胸をなで下ろして
『又くるわな元気シチョンナーエ』 コマウチの音も聞こえる春の山には 活気が湧くのも母の手作りのボタモチからか。

お膳……オトキ

クミウチの人が心を込めて調理した料理 まず組内の人が先に食べて味見をする。…仕事の都合上…来客に膳をすすめ長老が挨拶に出る。個人の最後のお膳と参列に感謝を。席についた人は無言で箸を運ぶ。この時の味噌汁を大汁と言う。

コガシ トイモアメ カンネモチ

麦をいって粉に挽いたのがコガシ栄養がある。そのままハネチク
ッノモウメーが 湯じ練っち黒砂糖入るとコリヤマタウメー。葉
袋に入れちオトシニ入れちよくと 破れちオトシん中は粉だらけ。
ソレデン珍しい者はソリュウ喰わしい…オトシに手をツクージヒ
ンニギルと引ツパリ出す。半纏に粉がソコライチメンにチーチ ウ
ッバラウノガ ヤエコチャネー。

といもッ煮詰めちいくとドロドロになっち そいつ固むるトイモ
アメが出来る。ケツクシャ粘えもんじゃき歯にヒツチーチ ドーカ
スリャイレバン歯ぐるみヒンノミカクル。固うなったなーチョイト
叩くとパリーと割る。甘いもんち言ゃ黒砂糖ぐれー それも年中
は買わんき。そーじゃ組合に買いに行き 帰り竹ん皮かる指じホジ
クッチ喰うたもんじゃ。

カンネンカズラン根を掘っち臼じつくと 白い汁が残る。こりゅ
ー水晒するとカンネン粉が取る。餅に炊くと色がキサネーケンド
ギチギチシチケツクシャウメー。ハゴタエモイイシ珍しいち言う。
冷えると固うなるきコリャチットコマル。食い延ばしにゃ物嫌いも
言うちょれんき 何でん喰わにゃクジュウ言ういよると喰わんばち
あう。

年寄りが長いゑ間元気じ生きちよるな何でん喰うきこす サカシ
インジャロー。イビラ餅コカス餅なんかいいほう。ひじい時にゃ木
の根草の根も喰わるるき 何でん手当り次第に喰う。それじイノチ
キが出来たんじゃろー。人間は土かる出来たもんな何でん食べ物に
なるき 干死にゃせん。牛馬でん草じ生きちよること。それかる見
りゃ人間贅沢じゃねえ。

雨乞い白山権現

この夏も水不足ニクシイ空を見上ぐるとギラギラ オヒサマ照りよる。『雨乞いするき』肝いりがフレチクル。白山権現に割木が積まれヒノキン葉じ包んだ雨乞い台の前じ 修現者のホラガイが鳴り火がつけられた。煙りが神域を包みそれが木の間かる 天に昇る。やんがち火柱が上がり心経が唱えられ火が逆巻く。

雨乞いの人の心も天に届けと やがち涙ともなつた火はメラメラとあたりの木を震わせた。今みずがなけりゃ苦痛の秋に と煙りの中かる浮かび出た竜の姿まさに迎え入れた神か。合わせた手先が震え涙でそれが霞んだ。と小粒の雨が木の葉を濡らす 千天の慈雨そしち雨足がしげく。イヤンバーニアメガフッチキタ。

お膳箱

一人前の年になるとお膳箱を作ちくるる。飯の後はソンママイレチタ飯ん時洗う。自分のじゃき構わん 囲炉裏ん片隅に積むと居間と食堂が一緒。大けな囲炉裏にゃ大けん木がサシクベラレチ ルスン時にゃ灰をカケチョク。火はイツデンアルキスグマニアウ。親子孫まじ座っち喰う時は味噌汁に漬け物でんありゃー いいこと。昔かる麦飯味噌で一ち言よった。味噌にゃイリコ ミョーガ ニンニクゝ入るとホーラウメーワナ。タマニャーブエンぬ喰いて一ち思うてん 滅多に売りにこんき塩物んかな。大分に出たしがイワシッ買うち目ん玉に針金せーち ぶらさげち帰るぬー見る。ドンクアブラメ カマスカそげなぬー入れた魚味噌はどげーな ケツクシヤウメーンデいつペン喰うちみらんな。



蚊が出た夏

土用に入ると憎らしいごつ暑い 晩方すぐ蚊も出ちくる。『はよフスビー』フツやらそこらへんの草をサゼアツメチ煙りゃあぐる。目をシカメチ手じ煙りゃ追ひ払うと 蚊も逃げたごたる。雷が鳴りでゑた早う蚊帳にへーれ。慌てまくっち蚊帳に入るとじーとしちよる。やっぱ蚊帳ん中がいいんじゃろーごたる。

『電気はつかんのか』暗うなったに一電気がこんき 夕飯ゃ外じ喰わにゃなるめー。暑かった日も暮れち薄暗うなると 待つちよつたごつ蚊がワンワンいよる。セセロシイノー手じ追ひながら早う喰わにゃ喰ひ殺さるど。ウーテンウーテンデチキチ ヒトメンキノー。

手に止まったき じーと見ちよつたところ 見る見る血を吸うち腹が太った。真剣手を握りしめたところ 刺した針が抜けんごつなったき ピシャち叩いたら血がバツと飛び散った。後じ痛えやら痒いやら それでん叩き殺したきチッターズトシタ。コンヤツが俺ん血を吸うたかち思うと やっぱ腹がたつきな。

蚊取り線香が出ちでーぶん助かる。こんめー子の居る家んしゃちっとでん蚊に食わせめーち うちわじアウーダリ蚊帳をカブセタリトシヨリガ ヤエコチャネー。白い肌ん子供に蚊の喰うた跡がつくと 嫁ごんやつが腹うたつるき、気をつけにゃオオゴツジャ。それじネーデン コナスとか言うち何んでんねー悪う言われち モテタモンジャネー。

ナニカ痒うなつたごたるノミ シラメ ナンキンムシも珍らしい こん頃は話う聞いただけでん痒うなる。もんな知らんえソンホウガイイカンシレン。お代わりクレナーカ言うもんじゃねーき。

さいだす

『寝る前にサイダシチョカニャ シカブルデ』子供は昼は夢中じ遊ぶき熟睡 ついションベンをやっちしまう。だから寝る前に出させるのが得策。外の寒い便所に連れちいく『もう寝てんいいで』安心しち朝まじ起こさんじすむ。小さい子は抱えち股う広げ『シーシー』と言えは決まっち飛ばする。愛情の声が聞こえるき安心するんか 済めば少しイサブッチ ハイオワリ。

『マアーヒットドーナ』ち珍しい物う奨める時に こう言う。サイダシテ心からの接待だが サイダスの言葉も使い前で意味が異なる。手をさい出すと貰う受けるなどに使うが 足をさい出すと下品に見ゆる。サイダサレタラ受くるのも心が通う。

下ん方をさいだすと艶かしい話に発展するが サイダシカタじ不倫にもなる。『人にさいだすなや あげんもんじ満足しちよるカチ笑わるるきの一』誰にでも見せると あの人は旨いこた一言うが あげん持ち物じタヘラクイエルル と笑われるの意味。誰にでんサイダス人はよほどの精力家か 情事に深い人か。性欲な人は誰れでんいいち言うが 摂理は守らねば罪になる。

『荒えうあげんか』コテで塗るしが足場ん上かるオラビヨル。下ジコネチマツチョルシガ『ヤルデ』サイダスのが塗土 荒壁につける土は下かるサイダス。上手に受板とコテじ挟みとると ベターち塗る。これは仕事じ気が合わんとうめーこといかん。土ぐれがヘーチョルこれじゃ塗にくうじドンコンナラン。

サイダス さいだす 同じ言葉でん使い方じ場所じ 意味も場面も違うちくるき一面白い。

滋養つけにゃ

『タニシンコネリが出来たき喰わんな』手塩に盛り上げたの一持ちきちくれた。隣近所んしはヤツバいい。夏はダツチシモーチョツテン 滋養があるもんが口い入るき サカシイージャロー。『ガイトアッタナー』『サコンタニャケックシャオルンデ』『メートシモローチ』『ソゲンコターアルモンカ お前方んヂーサンニャゆう貰いよったき そんお返しじゃ』

夏の田んぼにタニシが居る。粉練りにしち食ぶると独特の風味 栄養価も高い夏の疲労回復にゃ高価なもん。隣のぢいさんかる若い時に貰ったそん恩返し。支えて助けあう隣の人と 優しい人の心が健康にも気づかう。『うちーナツタ ニガウリじゃき食べて』『ちゃー貰いに来たごたるなー』『いいこと いっぱいなっちゃったんで』 あげたり貰ったりの生活が心を結びつける。

『チンタツグサヲ チットークレナー』『ガイトトッチ シコッチシマタツカンキ』チンタツグサ…ニラは昔かる栄養のある野菜ち言われよった。馬力が出るち若えしにゃ喰わするなち 言うたもんじゃ。そりゅーゆう出来る 押し切っちゃきゃ次ん日にゃもうのんじょる。便利がいいわな。

元気う出えち若えもんが女ん子う追い回すと困るきち 心配するけど 娘もまんだら悪いふーじゃねーごたる。ギューラシューユーチ逃ぐるけど本当は ツカマエチモライテー。ソシチジートダキシメチ ソリュー待つちよるけど。ヤツパミナチャント考えちよる。みょうなこちーなるとなえ。

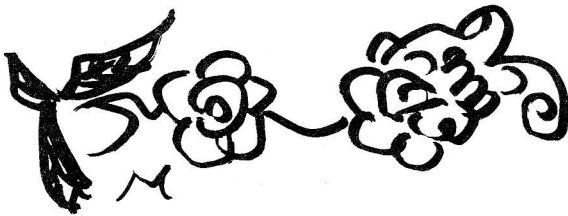
ニラ ニンニクこりゃいい野菜じゃき うんと喰うちょくれ。夏やせでん冬の風邪引きでんゆう効く。

竹ん皮の囁き

梅雨があけち山に入ると いったいカイワレタ蚊がたっちくる。
手じ払うちムシブロンような山に 竹ん皮を拾いち歩く。肉屋が使
うけんど遠方まじ送るらしい。組合に砂糖買いに行くと黒砂糖を
包んじくれたあとコビリチータノ ゆうねぶったもんじゃ。あん
竹ん皮ん香りといい 舌ん先ん感触といいイツマデン忘れられん。

竹と人間タァ古くから関わっちきた。タケノコン時に掘っち喰い
竹ん皮う取り 大きゅうなると切っちあれこれ 使い道もいい。タ
ケドキがいいと虫が入らんとか 根が張るき地滑りがせんとか 屋
根かる床ん下かる雨トイ 物干し竿 一時きゃ食器にもなつちょつ
たり 昔は字を書いたり電球ん芯に使うたりしち。

ノリタケ コマウダケ オーコ コマダライ ホーキ カキヤネ
ハシ ミソコシ ショーケ ザル メゴ ササラ バッチョロ
握り飯う包み じょーりを作る 肉 飴 まんじゅう こんにゃく
なんかも 包むと食あたりも予防になつたとか 世話になつてん気
がつかん事も多いごたる。甘えちよるんかんしれんな。



寝ござうち

『ゆう降るな今日は何しな』『するこたーねーき寝ゴザうちゅうしゅう』雨が降って仕事が出来ん時にゃ 横になつちゆつくりする時 こんな言葉を使うことがあるが 当時はよくゴザ買いが来て あちこち歩いていたのに思い通り集まらない 『ゴザが出来ちよるなら わけちょくれ』気早いその人はカベナシに立った。二人は思わず笑った。

『わけてんいいけど高えで』『なんぼ高うでんいいき 今日ひひとつも買いださんじ帰れんごたるき』『一束なんぼじ買うんな』『品物ん見せちょくれ』『そんな まあやめちょこー』『そげんこつー言わんじハリコムキ』『あんた本気にしちよるごたるけんどウソで』『え イラブケータンナ』『アンタがあんまり言うき』『どーくるなー』

ゴザん出来る頃う待つちすぐ買うち行く そげん時代もあったがゴザ打ちをする人たちも 目をつめにゃ儲からん仕事でんあった。ひと頃は貧乏草ち言いよった。朝早う切っち重てーぬかたげち帰ると 影に準備したカヤヒキじ1本1本引くと ビュンち音う立てる朝のリズムを奏でてくる。ソネチ割れんのもあっち 川原に干すが夕立雨がくると こりゃーまたおおごと 雨に濡ると色が悪くなっち オオゴトジャツタ。

フトン洗たく

『布団洗たくはもう済むな』『えーと済むんで』『まーのさんな』『おおきに まー上んなー』『忙しいにいいで』『忙しいこたーねーこれじ終いじゃき お茶さすわな』『そりゃすまん』『たまにゃ話そうゑ』お茶を入れお茶おけに昨日つけた 漬け物かキュー

りの青とナスびん紫がゆう調和しちよる。

『今年は暑かったなーでん稲はゆうでけたきよかつたなえ』『米ががいとー取れたら帶う買うちもらおーち思っちょるんで』『あんたいいなーウットドー何も買うちくれん』『言っいいにあんたかたんしは優しいき買うちくるるわな』『そうじゃろーか』

茶をすする二人の夢は 長い農家生活の中に
淡い願いと夢を 持っていたが……



味噌豆は子に食わせよ

盆前になると味噌豆煮が始まる。暑い時の仕事じゃが子供に喰わしいち ゆう言う。暑さにゆつくり子供を里で休ませる そげな親心かマメであるようなと 滅多にない事に出会わす為か そんな親心が隠されているのかも。豆を食べて栄養をつけて元気に働く ことを念じてか。一年ほどで最高のうまさになる。

口説き踊りも夜露に濡れて

アサウラのおろしだてを履いて 日暮れになると若いしがツレノーチ行く。『こいさどこな』『藤目じゃろー』どこでんいい踊りがありゃーそん輪に入り アサウラン回りがスリヘルまじ踊る。若い娘がコソコソ話の主人公になる人を 色目じ見よる。『あんしはどこんしな』『ありゃー丹生山んしじゃこと』『あんたゆー知つちよるな』『……』『あらーしーちよるじゃねー』

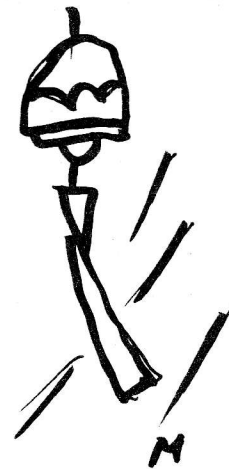
踊りかる帰るともう東ん方は白みよる。ツルツトすると鎌う腰にせーち草きりにやき山に。牛が多いき草もガイトーいる。そりゅうせんとマヤンコエが出来ん。米が出来んきなー。粟飯ん冷て

えなポロポロするけんどトーキビ飯ぁ飛びまわる。ヤゼンニ焼いた火焼きを食いながら 後から来る娘に一つ残しち。

『まだ出来んな切っちゃろーか』『うん』チツト甘えた声じ顔見合わせた。『ゆーべどき一行つたんな』『踊りに行つたんで』『連れち行っちくるりゃよかつたに』『お前かたんオイサンな怒るじゃねーな』『あんたなら怒らんで』『ほんとえ』娘はさぞ残念そう以上に乙女心が揺れていた。

観音様の踊りにあんたヤグラん上じ踊ってと 言われた娘 恥じらいと嬉しさが交差しち 一番先に知らせに来た。下竹田の盆踊りは裏戸をあけりや 口説き唄がゆう聞こゆるき負けんごつやらにゃ。ヤセウマ ダンゴがきな粉の香り 漂わせち夏の夜は更ける。

一休みすると側によつて来た娘がコソツトワタス『お守りじゃき山仕事ん時怪我せんごつ』精いっぱい言うとうつむいた。純情なそん横顔に15夜の月が美しく映えち。『おおきに大事に持つちょくき』 踊りの輪が回り出した。



鈴が滝

『もつとこっち来んと濡るるで』『オジイツカマエテ』甘えるように言うと白い手を差し出えた。『はい つかまりな一』と引き寄るとしっかり抱きしめた。『待つちょくれ』『どうしたん』『誰か見ちょるかん知れんき』『しよわーねー誰ん居りゃせんわな』抱きしめられた乙女の髪の毛の香り 仄かに香る『元気じゃった』

だまって二人はしばらく 抱きあったまま時間が過ぎる。水しぶきに肌を濡らして その肌を撫でるとため息をモラス娘『しよわーねーな』『……』『あっち行こうか』『おじい』『わしがついちょるはい来な一』手を引くと飛び石を越えちか中州に下りた。『裸足になりて一』『怪我するで』『いいもんアンタがチーチョルケン』白い足が水ん中に入ると一層白さを増しちくる。

『気持ちいいで裸足なんな一』『なろうか』二人は水につかると何か 別世界に居るような『はいこっち来な』『なんで』と言いながら いつんなかめ一か手を取り合い そつと抱きしめあつち時は水んごつ流るる。

秋葉越えれば

二つ坂を上っちくと秋葉山が見ゆる。もう日がカタンブイチどこん家でんコイサの夕飯んシコーシヨル。ち言うてん決まつちよるダンゴ汁の 味噌ん匂いが鼻うツクジル。『もうフロー煮えたかな』『もうよかろービツチョのばしな一』『あい』おさげ髪の毛の娘はもう見よー見まねじ 手つきがいいな一母じょーゆずりか。それとんババサンゆずりか ゆうノブぬタバコ吸いながら アガリンクチんぢいさん。

府内に出た馬がソロソロ帰つちくることじゃろー。門口出たり家に入ったりするのは年頃の娘。切ない思いを言いもせんじ 自分だけ思うちょつたら 彼もこん頃にゃ気がちーたごたる。帰つちくると咳ばらいしち来ると 何か土産う渡しよつたぬー 母じよーが隅かる見ちよつた。『何もろーたんな』娘は顔う赤うしちだまっち差し出した。そん手には赤い櫛が。

『マモー食べゅーえ』母親の声に薄暗いイロりん周りに 座っち今あろしたばつかりのダンゴ汁を食べた。皆がサカシインが一番いいのー 急に言いだしたのはブゲンちゃん旦那が 病氣ち聞いち帰ったからじゃ。『へー金持ちでん病氣するんじゃのー』『そりゃーそうじゃがえー』やりとりに皆が食べながら笑ったがそれも健康の証じゃろー。暑かった今日も夜風がヤツパいいな。

夏の昼寝

『さぁ一眠りするか』農村の夏は早い涼しいうちに仕事うしち昼の暑い時間は仮眠する。『北枕は悪いど』『なしえ』『死んだもんぬ そげーしち寝するき』『そげんこつな』若い嫁さんには馴染ん言葉じゃつた。『くわしい事ぁ知らんけんど うっと義母さんかる聞いちな』『悪いち言うんならモガワンハウガイイ。

『小昼わどげーしゅうか』『ジリビヤキデンいいんじゃねー』『いで餅でんしゅうか』『一眠りしちかるでんいいで』『ちょいとしちょくわな』『ふんな作っちもらおーか』『義母さんな長うなりゃいい』『ちっとフセうしちょくわ』『カマブタブセでんいいで』

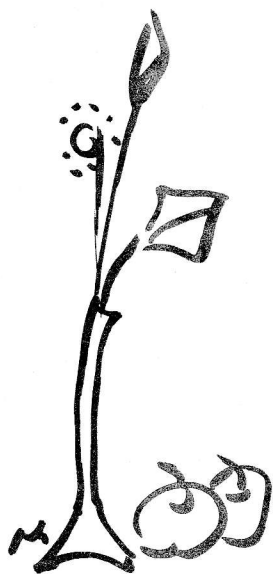
『お前どうせせろしいのう ちっと寝れ』『ほらみよ怒られた女は損じゃなえ 女ごん飯脇ちゅうき ちょいと寝ろうえ』『そ

うじゃけんど目が覚めち シコが出来ちょらんと悪いき』

農村の嫁さんは忙しいこと 食べ物洗たく子育て夜なべ つくろい 眠った時間がせめても極楽じゃろー。何もかにもほたり出しち……若い娘にはヨバイもあるけんど ちつと年う取っちよると……まさかマオトコは

雨ん日はゆつくりヨコーチ昼寝する ことも多い。『さあ寝ゴザ打ちするか』たまにゃ通り合わせたゴザ買いが そん声う聞いち入つちくる。『ゴザが出来ちょるならワケチョコレ高う買うき』『ゴゾー買うえ 高えでいいな』『高うでんいいき』『なんぼだすな』ほんとは……寝ゴザ打ち それは昼寝んこつ。

北側ん部屋は涼しい 寝いつち寝ガエリううつとウス着ん肌がアラワに出る。タクナツタ腰巻が振れち そんおりにサーと見えた涼しい風に揺れる黒い……思わず生ツツう飲みこむと 音がせんごつ近よつた。シュロン葉じ作つた丈夫なそれを 右手に真っ黒いそん上かる バツと叩いた。見事的に命中 手足を身もだえするように動かして 蠅は死んでしまった。か弱い妻には一匹の蠅さえヨセツケン 心情がゆー解る。



盆の月

田の草 畑の草取りが一段落すると盆を迎ゆる。馬屋ん肥う出えち手がスベスベする。そん手を美しう洗うと女ごしは布団洗たくに入る。せめてん家の中じ仕事うさしゅーち思う 優しさの現れかんしれん。イッペーに広げた布団をツンムイチ 洗うち糊づけすりゃ涼しうなっちすぐ使わるる。男しは朝草切りに行っちヒダリーち麦飯う三杯ぐれーカツコム。味噌汁に漬け物キュウリモミぐれーじゃけんど それが当たり前ん食生活。

『墓そうじゅしゅーえ』6日にゃ共同墓地が多いき皆じする。早朝の墓地は賑やか 切った草に煙りが卷上がり盆を迎える。ヤセウマお炊いち13日にゃ早めに墓参り 迎え火を焚いち仏を迎える。ユカタを着るのも久しぶり 日ごろ見かけた野良着とはチゴーチエーラシサガ オテチータ風情が伺える。『静かな盆でございます』決まった挨拶じゃけんど 暑さと線香の匂いにはトツテンユーニアウ。

若い嫁さんは在所に盆歩きに出かける。親に下駄とテヌグイを持ちちヤツパーウレシイゴタル。汗と暑さに疲れた顔に『うれしゅうち』と言わんばかりん笑顔が出ちよる。『よろしゅー言うちな』見送る義父母も何年か前はこうしち行つたんじゃろー。繰り返しの生活は暑さを迎え盆を送って 巡り巡るユウシタモンジャ 盆に飛ぶきポントンボち言うんじゃろー。そっ言ゃカナカナゼミも泣きでーたごたる。

『踊ろっえアンタウマイコト』イツモ舞台に花を咲かせる人がいるもん 『そげーねーで』といいながら悪い気はせんようだ。ヤグラの下の輪に入ると踊りはじめた。『皆な入ろーえアンタモハインナー』立っている人を誘い込むとニガワライしながら入る。口説く

人とうまく調和しち『やっぱ盆踊りゃいいなー』『あんたん若え頃ゃ踊りヨツタンジャネー踊んなー』『もう踊れんわな腰が痛うじ』『あんまり腰う使い過ぐるんじゃねえな』『またチューカンヌユー』『本当じゃろーがえ顔が赤うなつたで』『ツマランコツッ言うちオロイイやっじゃ。

16日ゃ送り火墓に仏を連れち参り柱松に火を投げあぐる。
『シャントフランカ』『ソゲンコツー言うテンムツカシインデ』『貸しちみよコゲーシチ　ホラコーシチ　ヨイショ』それは昔とつた何とやら　うまく入った。『オイサンナウメナー』『ソートンコゲンコター朝飯前じゃ』『すぐタヘラク言う』『こげん時言わんとどのや』火が揺れち盆の農村は　静かに夜更けて行く。

夏の思いで

『コイサ行くど』悪がき達が学校かる帰りに相談しちよる。『スイカちぎり行こうや』『いいど』こげなこたーすぐ賛成する。長い日が暮れたダンゴ汁食うち母じょーに友達ん家に本借りに行くち言うと　ゾーリツツカケチツージ出ち行く。辻に集まった3人が大けん袋うさげち『いくど』畑に入ると　目にゃゆう見えんが手さぐりじ見当がつく。

ゴツンと当たった　手をダスト大きい『こりゃいい』ニコツと笑うと白い歯が覗く。『ヨーイアッタド』『大けん声う出すな聞こゆるじゃねーか』そんまま畑んクロに出すとポカッと割った。
『こりゃウレチョラン』ポンと蹴ると又つぎのを狙う。『いいのに当たらんかのー』ほかの子が抱えだした『こりゃーゆーテッチルゴタルド』　又皆が集まった。『こりゃーうめー』乱暴に食いついちジャブジャブと。

『早う来たんな』『いんにゃ今来たんで ゆう出られたな』『義姉さんが気を利かせちくれち 早う行きな一ち恥ずかしかったけんど』『そりゃーよかったな』湯上がりの乙女らしい黒髪が夜風に靡く。それをそっと撫でちゃると 胸にすがりついち来た。『今日も暑かったなえ』『うん』いじらしい口もとから ふと漏らしたそんな言葉にゃ 何かを待つよるよう。

『あんた汗びっしょりになつち働いたんじゃろー』『男じゃきなちったーせんと こげー出ちこれんきな』『すまん』『あんたが言うこたーねえーんで好きじゃきな』『うっとーも好きで』二人はそっと抱き合々と田んぼを越えた風が涼しい 二人の汗いい気持ち早う秋になりゃ加来の市に連れち行くけんど』『うれしいウツトーいつぺんも行つたこたーねえに』『ほんな楽しみにしちよんなええ。

『こん前ちょいと聞いたんじゃけんど牛ん子が 二匹も出来るち言うたな』『そうで 生まるとセリン値がいいち言うき』『バアサンが好きじいっときも離れんごつ見るきな』『いいじゃねーな』『売つたらお前ん嫁ご着物ん買うちやるち言うんで』『リャーそりゃーいいなー俺もそろそろシコーせんとわりーな』『うれしい』二人は夢をあれこれと。

人を好きになっち仲良しになっち結ばれる。いろいろ苦労もあるけんど『みんな一諸じゃき 齒をコージくじゅー言われんごつ笑われんごつ』『はい』素直に返事してよかったな。



きなこは涼しさを

久しぶりに里に帰った昼下がりに タマンヨーナ汗ッヌグーといつも決まっち母が作るヤセウマ。キナコン香りと歯ざわり それよりか思いやりの愛情がコモツチョル。夏になるとキナコを使う料理も多いが 米を食い延ばす方策の一つでんあったが それよりか体を涼しくする《冷やす》役目も しょつたとかいのちきん知恵じゃろー

ヤセウマにしてんだンゴジルにしてん盆にはつきもん。一年じ一番暑い時ん食物じゃきユーデケチョル。そりゃーサカシューシテーコトヤラ イノチキン為でんあるが暑氣払いに使う昔んしの知恵はタイシタモンジャ。口ん周りゃチータキナコそつと拭いち母子が 顔見合わせち思わず笑うた。トッタンガモウ帰つちくる頃じゃな 先よばれち悪いけんどうツトーモヒモジュカツタキイナエ。自分勝手に判断しち親子はセリクリオーチ又笑うた。

ドーフの一丁食い

『久しぶりに出て来たきトーフ食おーか』『メダシイナーサカシカッタナ』『サカシイデ出た時ぐれーヤシボせにゃなえ』『そーとんえがいと食いなー』 トーフん好きなしはタマニャ出ちくると トーフ屋じ大皿に入れたんぬ ショーユをかけち食うんが楽しみなごたる。家しゃ正月か祭りぐれーしか作らんき よそじ食うな特別ウメー。

『アー腹があけたで』『もういいかえ食うちょかな』『もーよかろー楽しみい取っちょこー』腹をなでなで満足したよーな足取りじ帰っちいく。仕事んじょうするしは ご馳走じゃつたんじゃろー。これじ又明日かるハリコメルル。

アズキは米の三倍

米が足らんきアズキう入れち炊きゃいいわ。増えち米うタボウき
イイゴタル。昔んしが畦に植えち小作はマケチモローチ アズキは
米ん代わり炊いち食いのべーた。ソーコーシヨルウチ アズキが重
宝がられち贅沢な物になっち お歳暮なんかに使われると町んしは
ヨロクージ欲しがる。

米よりも値がゆーなっちナンデン3倍もしでーた。食うに米ん3
倍になっち助かるが こんだ値がゆーなっち3ばいもする。コゲン
イーコターネーち喜うじょると ドットンドットン買いにきでーた。
ふとーなもうかつたしもあっち 米よりイイドち畦が忙しゅうな
った。ナエ何がいか得するかシレタモンジャネー。

秋まつり

秋が更けちくるとちった寒うなった。神楽がはずんじ見ちよるし
が太鼓に合わせち 体う動かしよる。そげん秋まつり『神楽を見に
来たな』『久しぶりに見るけんど いつ見てんいいな』『若い頃を
思い出すんじゃねー晩にゆうどこまでん見に行つたなえ』『そっ
う女ん子を追い回しちなえ 尻う当っち泣きでーち困ったわな』
『あん時ゃたまがったわな たしか親父が怒っちきち逃げた逃げた
コツケムシューに下駄ん鼻緒ん切れち ハダシンバレーナッチ』
『あん頃ゃ若かったな』

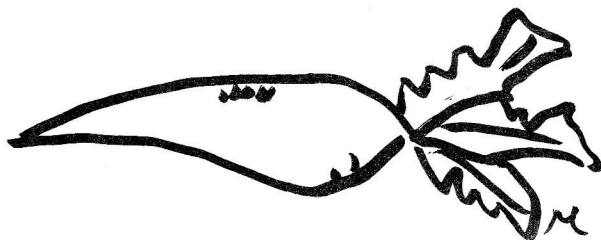
『あつこん娘はよかつたなえ』『え ああ あん時な雨戸に水か
けちはずしち 障子う開けたら女がクルツトこつちう向いち寝ちょ
る』『わしがじっと股がるとポツと目を覚えち それでんじっとし
ちよった』『そんなまやりこんだんじゃろー』『それが今日は悪い
ち言いでーち ほらあれじゃー』『りゃーしもったこつーしたな

折角入っち』『あれかるいっときしち又行ったけんど　こんだ母
じょうが居っち惜しかった』

『ほりゃあんしが来たで』『え　ありゃ本当じゃな』『神楽見
かえ』『あんた達　ウチン話うしよったんじゃろー』『ゆう解っ
たな』『足ん腹が痒かったき』『あん晩の話うシヨツタンジャガ
あん頃はよかったなえ』『フント　こんしゃ折角来ち何もしちく
れんじ　気がコンメーなえ』『嘘んじょう　あん時は悪いち言う
たこと』『ソリャアゲー言わにゃなえ』『ソゲンコツカエ　しも
ーた』『押さえちくるるかち思うチョツタニ』『しもーた　ほん
な今カルシューカ』『もう役に立つんな』『立つでイツデン』

祭り太鼓はさまざまな思いと　去って行ったロマンを消すよう
に夜は更けてゆく。好きな人もあったけれど　それも人の運命の
二字に消されてしまった。あん時アンシト……今頃はどげーなつ
チョルジャローカ　祭りんたんび好イチョツタンカしれん　ち
どっちも思うすれ違い　それじいいんじゃろー。

神楽は村んしが舞いよる　大きな面をツケチ皆が囃子たてち
ドークツチョルワナ。一杯飲むともう自分ぬ忘れち　デンそれが
いいんかんしれん。忘れて一時もあるきなえ　そげん人は幸せか
んしれん。あ　チット寒うなった好きなしに抱かれてー。



混ぜ飯百態

百姓は米を売っち生活をする。早う言ゃー米が一年間のヤウチん命にかかちよる。じゃきチツトデン米う売ることが 生活を潤うこち一なつちよつた。ソレデン小作人な小作米を納めたあげくに売るき残りも少のうなっち ドーシテン米う辛抱せにゃならん。生活ん知恵じ出ちくるのが 季節の物を入れち食うのが得策ちゅうわけじゃつた。……春にゃタケノコ ゼンマイ タカナ も使わるる。ちつとたつと エンドー トーマメ 麦うがいと入れち米は一握り 米の食い延ばしに助かる。晩はきまっちダンゴ汁。コリャー炊きたてん熱いのもウメーが 冷めたのもウメー。ホイチヌクムルトこれもウメー。消化いい栄養もあるち言いよつた。

夏はやセウマ ウドン ヒヤキが出る。ユデモチ カンカラモチ そっこうシヨルト トイモが太る。トイモモチ ホウカブリモチ ココメかコカスモチ カンネモチ こげんふーに小麦粉を使うき 冬はドコンココン麦 小麦う植ゆる。5月になりゃ麦刈りと田植えがイチドキクル。ナツケン取り上げしよるしがある 隣ん田は田植んシゴーしよる。雨がフローモンナラオオゴト 麦は芽がデローゴタル着物ゑ乾かんし 苗はソゲンコター構わん太る。

手早えしは月ん明かりじ苗取りしよつた。混ぜ飯んウメーナヤツパ春先んオシズシ アズキメシ コゲナンナ麦が入つちよらんき もーオサイはいらん。正月と葬式は米飯 葬式ん大釜じ炊いた底に出来たコガレ こりャーうめー。秋にゃアワ コキビ ササゲ ガニノメ まゑ米の食い延ばしにゃ皆苦をみたごたる。これもイノチキ仕方あるめー それでんケツクシャ元気がゆうじ 不思議なもんじゃなー。長生きはせんごたつたが 人生50年ち言いよつたきなえ。

村芝居

『もうしこー出来た ばんがのーなるで』『イコーカ サカイジュー持つちきなえ』村芝居ある晩は忙しいこと。晩方早う切りうつけち夕飯もソコソコに出ちいく。ムシロ囲いの中はもう一杯早えしはヤリヨル。ゲダイが書いちある側に お花と赤い字が浮き彫りに そん下に名前が顔役や有志。包む中味も現金が多いから 請け元は安堵する。

前狂言に続いて中狂言の頃にゃ 酒瓶が回り顔赤らめて声もかかると 役者も弾み名演技を見せる。その後 しばらく中入れになる。持ってきたサカイジュー ジュウバコかる腹オコシの ご馳走が広げられる。『こつちこんな』『いっぱいやらんな』聞き慣れた声に 人の心が取り交わされる。そしち切狂言は夜の更けるまで。

共同風呂

『オバン入らんな』 ケムテーに外じ待つちよる隣リンオバン 皆じつかうき当番は交替 入るな誰でん次々に遠慮ねえ入るき ヤウチンゴタル。イデンミズラトイをかけち薪んなナンボデンアル。『カンナイイナ』『チョウズイイデ』 入れ替わり入るし水はナンボデンアルキ キサノーワネー。『アーイユジャ』 大けん欠伸うすりゃ ダリモヌクル。

若い嫁さんな恥ずかしいき婿じょうがついち来る。『はい入んなー』『はい』 素直に返事すると薄くらいローソクん灯に 白い肌が照り映える。『ゆっくり入れや』『……』 そきー他所んしも来る。『どげーしゅうか』 心の中じ眩くと 『うちんカカが入つちよるき待ちな』『そーか 一緒に入ると悪いか』『いいで』 嫁さんなタマガルガ ソゲンコツースルシャ オリャセンキ。

じんきち柿はウメー

ジンキチカキは昔 直入んジンキチと言う人が ひろめたち言う
太めの柿う皮をクルツト剥いて サミー風にふかるりゃ あんウメ
ーホシガキが出来る。正月にアズキママ炊いちホコーナ平家。白粥
う炊いちホコーナ源氏ち言よった。白旗赤旗からん連想か。意味が
ありそうなネーヨーナ。マー正月は貧者もブゲンシャも 心は変わ
らんじゃろー。

古米は食いオーケがあるき昔んしは 古いのかる食いよった。米
買いが升じキチンと量るき『それじゃ切れこむじゃろー』ち心配し
たところ『しよわーねーわなチツトシツうつき』ち言う。ぱーと水
かけち一晚おきゃー ドンコンネー重てえき 重さじ売るき儲かる
らしい。何してん飛ぶごつ売れよった時代じゃき いいじゃの悪い
じゃの言いよると 買いださんばちあう。

昭和18年頃かるヤミゴメがはやり出えた。なんぼでんいいち
もう手はつかん しまいにゃ着物がドットンドットン持つちくる
闇ぶげんに成金百姓 そんうち農地が開放されち 地主は裸になつ
ちしもった。それまじヌクヌクしちよつたしも アワレナルカナ。
コナシタシコス大事じゃつた。

農村じ小作じ苦勞したしは どんくれー苦を見たか想像もつかん
けんど 家族を守っち耐え忍んじ来た。働いてもちっとーん頭う上
げれんじ 食うもんも食わんじ家族を幸せにち 頑張ったが時代の
流れじ開放されたけん これから平等ん生活が保証さるる。でん影
じゃ人に話せん楽しい思いでや 嬉しい秘め事 それなりによかつ
たんじゃねーかな。上には上があるごつ下には下が。家族が元気じ
サカシイカリャー ヤツパー番いいごたるがドゲーナエ。

村の辻

『今年ゃで一ぶん出来がいい』 隣のちいさん得意顔 夏の暑い頃田の草取りやらわ ヤオーナカツタケンドこげーしち出来ちみると ヤッパイイノウ。『トンボンやたぁ忙しう飛びよる セミもこん頃鳴かんごつなった。ツバクロもそろそろケールんじゃろー。電線にやーり止まっち。ごたる。

『トイム掘っちみたら けつか太っちよる しかと手入れせんじゃつたが ゆーしたもんじオーキニオーキニ。指じイジクリ掘ったらころげ落つるごつ出ちきた。もう米も出来たし腹ひとつ食わるるき 皆う連れち遊びくりゃいい いੱときゃ麦う煮割ちばっかり食い よつたがもうしょわーねーど。

ガニメシてえちゃろーかの 湯にへーちくりゃいい ヤゼンな寄り合いに行っち逢えんじゃつたが ゆっくり逢うち話う聞きてえ。どっちしてんセニャナランキ イイシナラ早う片付けにゃのや落ちつかんき。俺も年う取った60ど でえぶん日が短うなったのう。晩方冷えてーた。



作まつり

『作祭りゝするき手肴じクラブにきちょくれと』肝いりがふれち
昼かる 思い思いの家じ見つくろーた手肴おブラサゲチ。日ざしは
強いがユカタお着たしやカンカン帽を かぶっちあっちこつちかる
やつちきた。

ウンスケじ上げた焼酎にノミの口うつくると トクトクと香る。
カンピンに移し『まあ一杯どうな』『こりゃおおきに』『いつまで
ん暑いなえ』『ひとめんなえ いじくり暑うじ』『そん代わりゆう
出来たごたるで』『いいあんべーに兵糧が残りそうじゃな』『小作
がなけりゃほーりゃいいんじゃけんど』『皆いっしょじゃなえ』

話は飲むほどに酔う程にはずみ 作祭りはつかの間の楽しいひと
とき。

転換の年

昭和20年10月13日大分に進駐軍が入った。終戦と共に食
物はノーナル ドコンココンじ闇市がでけた。大分ん片付けに出さ
れち英語が話せんもんじゃき 竹の内ん先生が通訳しちくれち助か
った。忠魂碑を壊すこちーなつち村の主なしが出た。ダイナマイト
を仕掛け議長が火をつくると 轟音ぬあげちコッパミジンになつた
ち思うたが チットークズレチ元の台座にオサマッタ。来たしは皆
タマガッチ オジケズイチシモッタ。ゴソゴソ帰るしもあった キ
ビガワルーナッチ。

陸軍飛行学校の仕事ち言うてん ハタヤマじ炭焼きうしよった。
中古のブカブカ軍服にゲートル巻親元う離れちお国の為に働くち。
朝5時起き竹の茶碗 腹が減る 婦人会の慰問が楽しみじゃった

教科書はねー電気も夕食後外じ薪たいちそん灯りじ 先生の口う
つしの勉強。※…炭焼きはガソリンを軍が使うから木炭バスを走ら
せるのに使う…。

高等科になると勉強はエートセンゼン 仕事やら勤労奉仕やら皆
出された。軍需工場に行くもんもあり 木炭焼きするしも勉強はせ
んき 試験の時はワカランジャツタ。卒業はさせちくれた。工場に
行くと空襲が多いもんじゃき 飲まず食わずの日も多かつた。大分
から野津原に帰るバスの停留所も アンゲコンゲ変わっちヤエコチ
ャ見つけ出さんじゃつた。

4つん時父たんが戦地に出た。『遠い所に行くき言うコツー聞い
ち元気しちょれや』子供う抱き上げ…最後になるとは…『ウチント
ツタンナシ帰ランノ』『トイトコロジャキ オスーナルンジャワ
ナ』 やがち『父ちゃんはな戦死したんで』 母の声が涙にかすれ
やつと理解したのは終戦後じゃつたが。

ふるさと恋しや懐かしや

元和《ゲンナ》時代の墓標があるき でーぶん昔かる人がおつた
んじゃろー。畑所じ暑いに草取りやら種まきやらオオゴツ。それで
ん地火ん頃に メーチョキャ出来よつた。粟でん小暑になっち八せ
ん入りでん ゆうしたもんじチャント出来た。ネムリコが咲きはじ
めたが 手のねーしゃそれかるマクゴタル。

コンダナガセじ雨んやつがフトーナ降る。川にカケチョイタ橋が
流るるかんしれんけんど 板橋じゃき針金じ一枚一枚ツナイジャル
。流されたち思うじゃろーがショワーネーチャント皆つながっち
上げにくるぬ待つちよる。オジーゴツ流れた水も雨が止むと イツ
ンナカメーカ ヒイチョツタ。

暑いけんどイロキバナニ チシアヤソーカ メグリボーがくるり
回るとバサー音がしち実があゆる。3人じボタンボタン調子がいい
き トキノマニアエタ実が飛びちった。ハジカイヌ辛抱しち昼よ
こいもせんじ ナンノインガカノヤ 銭がねーばつかりにハリコマ
ニャナラン。汗が流れち目に入ったけんど それより股くらん方が
ビツショリジャ。

『コイサドキイクンナ』『ドコカイキテーナ』『イキテーケンド
』『シコーシチキナ辻ん堂ん前』『ふんと嬉しい』若い二人の指切
りに 涼しい風がそつと吹いち胸元をすり抜くる。コイサは楽しい
夢が結ばるる。

葬送

いつか人はこの世を去る。亡くなった人は北枕に寝かする。白い
布を顔にかけ椿の花の一本さし 香^お焚き死体にカミソリを乗せて
魔除けに。米三合を持つち寺参り 親戚にフレに行くがドゲン遠い
所にも出かけ そんな家じゃ食事の世話をしち必ず食べち帰る。茶碗
一杯の飯は残さず盛りつける。トーフ●アブラゲ●作り 烏鳴きが
悪いとか長^え病人な知らせがあったとか 偶然が重なると人はそげ
ん解釈^うする。

ヨトギは身内や組み内の人たちと 生前の話になって忍びのくり
返し 夜が更けるとユコーする。タタミうあげ水に湯を足しち左手
左回しじかけち洗う。左違いの白着物を着せ六文銭を持たする。ユ
コーにゃ組の人が立会^うな一 異常な死でない確認の意味もあった
。灯りと線香を炊き続けて夜明けを待つ。

本当に死んだ確認のユコーが済むと 組のしは引き上げ 葬式の
日の参る人のお膳の準備にかかる。六文銭は三づ途の川の渡し賃と

か カンに納めてワラを白紙で巻いてつめる。本人の着ていた着物を北側につるす。お膳を立てる家には案内の人が 参った人に知らせて直ちもらう。故人との最後の食事で必ず直るとされている。死者には身近い人がついていて 食事も運んでもらう。

敷米は故人の世間体や家の財力にもよるが 寺えの感謝の気持ちの現れ お礼の意味も含まれているよう。男は羽織袴 女は綿帽子をつけて故人の最後を送る。人生の本当の最後でもある。

みやげ餅

『祭り餅う持つちきたき食べて』『そりゃおおきに』 重箱かる
出えち洗うと ナンテンの葉を入れち包むと『よろしゅー申してな』
』 使いに來た子に小錢う握らする。『ちゃーおおきに』 草履の
音をパタパタといわせち 帰るんの見送ると『皆な餅う食べな』
母が大けん声じ言うたら もう子供はチョコント座っち待つちよる
『もろーたなーうめーもんじゃ』皆な笑うた。



食べ物四季

いのちきするにゃ何でんかんでん食うち生きらるる。四季それぞれ
の自然の中には 人間が生きらるるごっゆー出来ちよる。

『餅う食いてー』『座敷んカマゲン中かるデーチキナー』正月に
ツイタ餅は乾かすと カマゲに入れちナオシチャル。腹が減るとイ
ロリにサデクベチ時ん腹おさえにする。『ノビルがあったき取っち
キタデ』そうか ほんな味噌にマメシャいいわ』『昼んオサイにな
るきのー』

『甘酒のまんな』『おーきに いつんなかめー作ったんな』『こ
ん前ん雨降りシコータラもう飲まるるごたる』『あんた何でん手早
えなー』あがりくーじ飲みはじむると 話がハズージチョコント人
んこつー言いとなる。『今日は嫁さんな』『何か会議があるんと早
うかるシコーショツタガ』『ゆう働くこと 何でん出来るし』『そ
ーかなー』 言葉を濁したがマンダラワルーハネーゴタル。

桃の花が蕾をふっくらとヒシ餅が飾らるると女の子が喜ぶ。形が
女のソレニニチョルナエ……人間の母じゃけんな大事にせにゃち言
うが やっぱ男ん子をムドガルゴタル。『セリュー摘んじ来たき食
べんな』隣んしがアゲジョウケに一杯 モツチキチクレタ。香りが
いいき春が来た そげな気持ちにナラセチクルル。

ウドが芽を出しちよる。サンシュールン葉がのぞいたきー押しすし
ゅー拵えたところ 匂いがするんか若えもんが『オバンナンカゴッ
ソーハネーナ』 ち寄っち来た。『ゆうわかったなーまゝ上んなー
押しすしがでけちよるき食べなー』『のー俺がゆーたとーりじゃろ
ーいつでんあんのじゃー』『なにえ』『いんにゃ』

ワラベがあったで 暑うなっち山にゼンマイも顔覗かする。節句
祝いのチマキう配っち フツ ショーブうキビルと屋根にホタリア
グル。元気に育つごつ頼む習わし。そう言ゃチマキは男んあれに似
ちよる。ゆうしたもんじ自然と人間の形と 心を現しちコニクセー
ナエ 竹の子も出たでシャントクイナー。

雨が多うなっち苺が熟れた。藪ん中じ取りよるとヤワタラが目
前い。コガシが出来たら子供が面白がっちハネヨル。カオジュー粉
だらけになっち。麦刈り田植えシコー セワシューナツタ。おさい
にゃカンランでんスアエにしち出しな一 水がある時ゃ荒代とらに
ゃ あとがセクデ。腹がへったごたりゃヒヤキデン食うちよきい
い。

『ハスイモが太つちよつたき酢もみすりゃいい』『メズラシイモ
ンガアルナー』『ナカナカハエンジナー』『オユーナツタラチット
オクレ』『ヤルデ』『サナブリモスンダキ入湯にでん行こっえ』
『トイモン草イインナ』『ヒトコシウッチカルジイワナ』『そう
じゃな一切りがね一きなえ』 暑さん中じ麦刈り田植えと続いたき
泥おとしに入湯に行く。

『馬屋ん肥は出えたかえ』『明日出えち布団洗たくもしちょかに
ゃ盆がきめ一ごたる』『女子しはせわしいなえ』『きなこもすらに
ゃならんし 小米も洗わにゃならん暑いきなえヨダキー』『ハツノ
ボンハネーナ』『それがあるんで 盆歩きも在所にやイツイケルル
カ分からん』盆の月は忙しい 田の草畑の草取り 家の付き合いの
区切り 盆のあれこれがイチドキヤツチクル。女ごしは布団洗たく
もせにゃならんが 暑い外の仕事うよけち家じさする 心配り 姑
がおればそれも受け持つき 若い嫁はヤツパ外ん仕事に汗水たらし
ち 働くこち一なる。日焼けした顔じ在所に帰ると 母親は涙こら
えち迎ゆる。

ヤセウマ ハナツマミダンゴ 在所で食う旨さ。盆踊りの輪に入
っち若い頃を思い出す。『元気』声をかけられたな昔の恋人『めず
らしいなー』それ以上は言わぬが花。夜の更けるまで裸電球が明る
い。『ヤショクイル』母の子思う『何か食べてーなー』『何がいい
『……』甘えたいのだろー。トッタンが鮎取っちきたで……娘に食
べさせてえばっかりに 出かけたんじゃろー。

お宮かる神楽ん太鼓が聞こゆる。つき餅にキュウリモミの歯にし
みるよう。『はったけがあったき食べん』『おおきに もう大きっ
なつちよるな』『ことしゃケックシャ太っちよるわな』『マツタケ
はどげーな』『教えてくれんに』『みなコシキーナエ』『イツカミツ
ケデーチ行こうえな』

柿が熟れる 柿が赤うなりゃ医者が青うなるち言うなえ。ナツメ
もゆうなっちよる。ガラメも熟れちよるで。ドイモイレチ ダンゴ
汁炊いたらウメーモンジャキ 底うすくいあげち食うちしもーた。
ツンムイタヤワラシイドイモ やつぱ旬の物ぁうめー。トロロ汁わ
飯泥棒ち言うが フントガイト食えるるなえ。

クリメシ アワメシ アズキメシ 美しい色うしち ケンド粟飯
ゃ冷ゆるとポロポロしち 口ん中う飛びまわる。アズキメシはナン
テンの葉をチョコット添えち 差し出すと上品じいいなー。秋は食
いもんが一杯出来る。日ごろはヒモジカツタジャローガ デケアキ
ニャ腹ひとつ食わるる。茶碗3杯は朝飯前ち言うがなー。働くしは
それくれー食わんと働けんきじゃろー。

梢に葉つぱがスクノーナツタ。テンポナシが風に揺れちよる。故
郷にも寒い季節風がテンショムショー吹く。麦植えやら粃すりんシ
コーセニャナラン。『ニワトリメシ炊えたで』タケノカワに包んだ
心の通うソゲン友情が辛さも苦勞も越えらるるんじゃろー。

女の四季

急な冷えこみの繰り返しは風邪も引きやすい。寝つくマジニャノーデン炊事洗たくはカガサレン。『ユツクリヨコエ』そげな言葉にゃ甘えられん仕事ん 近づくぬ見ると負けとーねープライドもある。無理うしちしまうが医者に見ちもろーち 熱が出ち帰り知つちよる家じ ヨコワセチモロータ。

ソレデン家に帰るとヤウチは食うのー待つちよる。セメチコイサは簡単ち思うが 年寄りしもおりゃーソゲーモイカン。ミネー合うごつ頭う使いスカンコターネー料理に取り組む。『必要以上に無利せんごつ』 ゆう言うちくるる人ん顔がチラツト浮かぶ。ワカッチャオルでん今は無理を承知じ それが出来る幸せかんしれん。寒い風が粉雪をサソーチキタ。山の仕事はヒジーケンド イノチキに結びつくち思ゃ 手はもう仕事着に。

牛がチョーシユー生まれた。セリに引き出えた。別るる朝ダルモンに一握り小米を入れた。山の仕事も一段落しち肌荒れを苦にした足跡をフリカエッチミタ。サカシュウジ働いた若い頃に比べチットダリガタマル。ソレカチ止めるこたー出来ん。うまい具合に仕事をアングコンゲシチ キリヌケニャナルメー。『オルノー』 久しぶりに寄ると『病氣したんじゃねー』 ち迎えちくれた。

『忙しゅうじもー』口癖になったそん言葉がもう 身にシミチョル。『病氣すりゃつまらんで』『しょわーねーき』口じゃ言うけんど本当はヨコイテーヒモアル。子供が親に甘えるようなやりとりに目頭を熱うしち 手を取るごつ『ハイアガンナー』『タダイマ』『オカエリ』花がパッと咲いたような。手の荒れが痛ましいが ソリユー言うのと泣きとうなる。どつちもこらえち顔じ笑い心じ泣いちよるごたる。

父の初盆を迎えるこち一なった。別の道を歩いている納得している人生だが 親は心う痛めもしたが 長え間入院しちトートー何も言わんまま。アレモコゲンコトモチ思うたが それも後んまつり。来た客にシッカリシチョカニヤチ思うけんど セツキッチ流るる涙をジートコラエチ。ソレデン多くの人に支えられちコラエチキタ。優しい性格が気丈じあったがセキう切る。

生者必滅たゝ巡り来る運命。人に心配りした事が少しずつ自分に帰ちくるごたる。窮地に立たされると影でチョコット手を差し伸べてくれる 父との別れは辛くとも生きがいある人生 カバーしちくるる家族 地域 社会 そしち大切な人なんかが。生きちよる証を一杯残しち こん夏も乗り切りてえ。仏前を飾る供え物は父の蒔いた種が 育ち咲いたのだろー『お父さんよかったね』

踊りの会があることになった。常日ごろの人となりコゲナ時に分かるもの。世話を引き受けたそん人は気丈な性格じゃけんど 面倒見がいいき皆がちーちくる。ムズカシイ女ごの世界そりゅー纏めち行くなー 大事じゃが人の心を大事にする心ん結びつきが ソイツヲウマイグアイニ出えちよる。農仕事の忙しい時ヤラスルコターオオゴトジャツタジャロー。

責任感の強いリーダーと協力しあう人の心 調子ゆう噛み合ううち誠に見事出来上がった。世話をするしの身になる さるるしの事う考ゆる事がドゲーイイコトカ。イッタイトナッタ時女ごしは強い。無事済んだ日ウレシュージ顔がみな喜ぶ。やり遂げた満足感そりゃ物や金じゃ変えられめー。何かやる時にゃサカクジュウコネタリイランコツーシタリスルケンド真心が 人の心に通うごつなりゃもうしめたもん。ソレマジヒマガイルケンド。

泣いてん出らん涙もあるが 思わずポロリ出る涙もある。嬉しさを
ジュライチメンニデーチ キラリ光る涙。苦勞承知じ今がある
んだが それを本当に分かちくる人はスクネエ。家族 夫婦
親子でん見抜けん事もある。心の通い合っ一瞬すれ違った人でんサ
ッと見抜かれる事も。不思議な世界だから生きる楽しさもあんのか
。

『もしや』と思う甘えが出ると人は頼りにシタガル。泣きたい時
にダレカキイチクレンカナ そげなこつー考えちみる。心ん鏡に写
るとすりゃドンクレーイイジャローカ。夢のようなこつー思うと顔
が赤うなった。ソジャケンド突然のデケゴトモアルデ。数多い人ん
中じチョコット挨拶した 相手になんか印象づけちいつも 気軽に
話かけらるる。

出会いの不思議さち言うか 人の一生に大きい宝になることもあ
る。人生にゃ99の苦勞と1の幸せがアルラシイ。イイヒトニ出あ
う事ゝ幸せに近づいた現れかんしれん。『あんた元気な』『ハИА
ノトキノ』久しぶりに出会い親子のように 違和感のない人 心が
安堵感あって話せるアンマリわオランケンド。モウケタヨーナ嬉し
さが。

正月休みに3日間入湯に行かせる。日ごろ苦勞するからせめても
骨休みにと 若い嫁さんが子供も親に頼んで出かける。大胆不敵な
習慣が農休日と合わせて出来たのが もう40年も前の事。田舎の
山里の若嫁に楽しい日日をと 決められたごたる。遠慮の一行くけ
んど宿じ セツセと編み物 舅の姑のと心くばる。

孫と帰りを待つ親の気持ちも自分たちが 苦勞し通った道じゃー
きゆう分かる。『おおきに』帰っちきた嫁さんの土産はヌキー毛糸
の半纏 親に着せる思いやりは微笑ましいこと。

お色気数え歌

『お前は男前がいいきモツルじゃろー』『ソゲンコターネーデ』
『ありゃー氣をつけにゃのー』『わかっちょるき』『ゆう唄にある
じゃーねーか』『どげん唄かえ』『ありゃーヤンナ知らんのか ほ
んな教えちゃろー』『教えちくんない』 一人娘は…養子覚悟じの
。二人娘は…姉ん方かるの。醜い娘ん時は…情け心じの。他所ん二
階ん時はの…音がせんごつの。淫売女ん時はの…病氣貰わんごつの
。昔馴染みん時はの…腰が抜くるほづの。菜の花畑ん時はの…蜂に
刺されんごつの。山の帰りん時はの…木の根枕にの。こんめー娘ん
時はの…抱っこしちの。尊いお方ん時はの…羽織袴じの。『へーい
ろいろあるんじゃなー』『ゆう覚えち守らにゃのー』『判ったで』

ほんな炭坑節ん替え唄じひとつ…唄うちゃろー。

『高崎山かる吹く風に イマキ取られち押さえホホ なんじこん
手が放されよか 放しゃ恥ずかし茶碗ホホ サノヨイヨイ』

『あんたいつたいぜんたいどこんしな 顔は福岡 目は久留米
口は山口 手は肥前 心門司門司 氣は佐世保 サノヨイヨイ』

『あんたと一緒になるんなら 月の差し込むアバラ屋じ 主さん
思うち針仕事 手鍋さげてんわしゃいいで サノヨイヨイ』

『月が出たでた月が出た 山の炭坑の上い出た あんまり煙突が
高えきな さぞやお月さん煙てじゃろ サノヨイヨイ』

労働唄が形を現在風に変えて 楽しみの時間に口ずさむのも 心
を癒す方策であったのだろう。女性のシンボルを仄かに匂わすのも
男にはいかに 女性が大切かが押し計れる。



馬子唄恋しや里の灯見えて

『おいさんどき行ったんな』『おー今帰りか お寺え行っちゃつた』『早う帰らんと心配するで』『そげんこたーねー』『チラット
●灯が見ゆるで』『フントヤや お前ん馬子唄う聞きてーのー』
『そーな ホンナ唄うき』……帰りついたらど里の灯見える あれが
丹生山練ヶ迫……

『よーい湯がエータカ』『ダレカチ思うたらオイサンナ ドキ行
ったんな 湯が沸くき入っち帰りゃいい』『何かお前あ泣いたの』
『インゲ煙りが目にシュージ ソレジ』 若い嫁には毎日がひじい
野良仕事 泣きてーぬじっとコラエチ 夕暮れになりゃ悲しうな
ちくる。

茶摘みがはじまった。株元じ摘む手先が隣じ加勢する 若えしん
手にあたった。顔見合わせちニコッと笑顔がコボルル。心の中に燃
ゆる恋心がヤングチ……ユウグレに外かる声が聞こゆる。娘は胸さ
わきがしち 覗くと木の影の姿が判る。義姉がメザトク見ると『こ
っかる行きなーこくー開けチョクキ氣をツケナーエ』氣を利かせチ
裏木戸かる。側に駆け寄ると しっかり抱きついた。

『好きになってんいい』ソレクレー言うとな胸の鼓動が高まる。
『イイデ俺もそげー思いヨツタキ』心が通いヨツタンカ 若さがウ
ラヤマシー。上手にフセをした洗いたての着物が 風にチツト靡い
ちよる。年寄りがカマブタブセじイイチ言うが 娘は針をツマムン
ガスキジ 品のいいキコナシ。ハージョーガキビシイキ身嗜みが
とてんエエラシイ。

フタリン夢がさめんごつ月が雲間に顔う 隠しちくれた。抱き合
う肌の温もりが チツト寒ウナツタ二人を暖むる。ヒルマン仕事ん

ダリも忘れたゴタル夜ガフケチイク。

苦勞あったが楽しい事も

『こんくれーん事がでれでけんのか』『……』はじめちする仕事にオドオドシナガラ ソレデン負けめーごつ必死。なれん手つきが人一倍苦をみる。叱られ氣を使いアゲクンハテナ悪い出来バエ。ソリュウシナガラもう10年もたった。『いつまじたってんでけん困ったこっじゃ』『そげー言うてん 思うごたーいかんわな』

ヨリガアッチ話が若ゑ嫁ごんこちーなった。『俺かたん嫁ごんやたーヒツコスッテン モノモイワンジ』『オドーカタンヤター調子んいいこつー言うが 年中ズボラカエーチョルゴタル』 テンショムショ悪う言いよると 日頃難しいジイサマガ『俺かたん嫁ごは言うのも言うが ヤンノンヤルド』 ちマクシタテタ。

『俺かたん嫁は……』ち言うのと 『俺かたん嫁ごも……』じゃデーブン意味が違うちくる。ソージャローガエナ『は』が入ると普通の家んしとはチットー違う。『も』がはいると普通の家と同じこちーなる。言いたかったなー 俺かたん嫁ごはチッター氣に食わんけんど 他所ん嫁ごに比べりゃ チョイトデケガチガウド ち言いたかったごたる。

本当は自慢してーけんど意地もあきソゲー褒むる…訳にもいかん義父の立場。心の中じゃ悦びよるごたる。ソレジコス家族じゃろう。縁あっち家庭の中にはいっちきた 同じ苦勞も宿命ならばいずれ世話にもなるんじゃろー。でん威厳もあるき手前も見せとぅねー。じゃけんど他に出ち比べちみりゃ ヤツパウチン嫁ごが一番じゃろう。ザマウミタカヤンドドー。

『お父さん茶を飲まん』『やー茶おけは何んか』『お茶おけはねーで』『ほんなーいい』素直じゃねーけんど本当は甘えちよるんかしれん コビルドキチューニ……。

★ 五助さんな ここまじ話すと腰かるタバコイレを出えち『タバコ めーでんいいか』 皆の顔を見渡した。あんまり調子ゆう話ちよるもんじゃき 聞きとれちょつち 気がついたら でーぶん時間もたっちよつた。それでん昔んしの苦労は ちょいと想像もつかんぐれー厳しかつたごたる。

それでん家族を親子を家を守りながら来た 長え歴史ん中じ人はちゃんと生きちも来た。苦労がいつか報いらるるち信じち。この世じ無理なら あの世でんいいち思うちみたり いんにゃヤウチがよかりゃ俺はいいど……とも……。

方言め使うちしゃべる時 古い時代に生きち来た故郷ん 人情も垣間見る思いがする。人が人を愛し人と関わり 人の世話になりながら 皆の幸せを願うち暮らす時いつかきっと 素晴らしい故郷が約束さるるじゃろー。

苦労して家を守り社会に貢献した人たちに 心から感謝して明日は今日より 幸せに皆で築きあげていきで一なえ。



ガタリベ



語りべのある町は 人の心が優しい

古くから語り伝えられている 民俗 伝説もいくつかある。それだけ人が人を大切にして 語り残してオキテーから そんな気持ちの現れから 残ってきたのだろう。心が通じて物悲しく 自分にどうにも出来ん事を 後の人に託す ソゲナ気持ちが 『語りべ』となっているものが多い。文字も書けぬ人が多い時代 苦勞に甘んじての生活に 満足した時代の心の支えとして 残って来たのだろう。

.....

語りべ

.....

朝早う起けち飯ん準備する一日がはじまる。麦飯に味噌汁と漬け物が まゝ普通ん家ん食事。薪物が燃えんと腹がたつ 生しい時にゃテンショムショフスボル。男しがダカイスル ツボウハワクナー子供ん仕事。食いよせん男しは仕事に出るシコースル。乳のませしち年寄りに子守う頼むと セワシューチャーチ行く。ヤゼンに洗うた洗濯物は激しう干さにゃ 姑が目を光らす。

仕事ゝ男しと変わらんごっ働くきダッチシマウケンド 昼のシコーシチクレタ飯に茶をかけち食う。横になっち休む男しん横じフセモン 子供ん世話も待つちよる。コビルの準備もシチョカニャチ思うと片付けもそこそこに 火の側じジリビヤキを作る。昼かるん仕事も終いはねーけんど 家じヨコウワケニモイカンキ 子供を頼み出カクル。子守うシチクレタナー仕事に使う方便じある。

チツタークローナッチ晩の事も苦になるけんど しまい仕事じゃきなかなか止めん。気は急くに言うとかカマシイき辛抱せにゃ。えーと『いぬるど』一声で帰り支度を もうあたりは薄くらい。家で

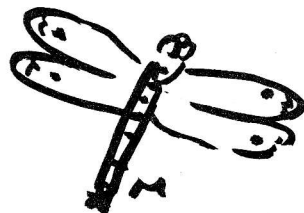
は年寄りがダンゴ汁を炊いちくれよる。それだけでん助かる 子供に乳を飲ませて そんなかまに他んしはもう食いよる。一日中おらん親から離れない子をエートハナシチ ツメトーナッタ だんご汁をすくいあげち……

夜中に近い時間にフセモンガえーと済む。風呂に入るともうヌリーケンド モヤシチクルルシモネー。目を閉ずると里の父母ん姿が浮かぶ。姑が『モヤソーナ』『イインデ』 ソウイワニャ後じ何ち言うか判らん。嫁はいつまでも嫁なんか 人の子人の親なのに苦労した人が それを受け継いじ しみじみ味わう夜中の風呂。

嫁とはそこまでニクイのか いやそんな気持ちにさせる親子の考え方の問題。床に入り一日を振り返り 自分の時代には同じ思いはしたくないと 心にきめる。同じ屋根の下で住むのに 縁があって暮らすのに そしていずれ先に世話になるであろうに 考えが回らないのか哀れ人生と悲しくなる。

涙がポトリ枕を濡らす。寝返りの夫が目を覚まして 肌をマサグルと無心を言う。昼の疲れが頭を持ちあぐるが 楽しみにシチョルンジャローチ 応じてやると女の性の惨めさがよぎる。嫁であるが他人である どんな捕らえ方で人を見るのか。疲れた身を精一杯尽くしても それが嫁は他人なら報いはい何か。農家の嫁の労働力でしかない とすれば大変な考え違いち思うが どうじゃろーか。身も心もボロボロニナッチ ダレガソンヌスルンカナ 大事にすりゃ大事にさるるこちーなるになえ ほんと。

百姓ん女ごしは忙しい…ひとコマじゃけんど 我慢しち耐えたその代償は何であったか 家それぞれに異なるが。



笠が淵の伝説

荷小野に母と若夫婦が住んじょった。姑は意地が悪いき嫁はいつも泣きよった。夫に話すと『言うこつー聞かにゃ』ち言うばかり。ある雨の日嫁のちょいとしたことじ 姑がテンショムショなじった。もう我慢がでけんごつなつた嫁は 笠をもっち家を出た。カサン方に大けな岩がある 嫁はとうとう思いあまっち そんな岩かる谷に飛んじしも一た。ところが突然風が吹いち笠が舞い上がっち シモン方ん淵に沈んじしもった。……それかるは 皆がそん淵う笠が淵ち呼ぶごつなつた。

仏水の伝説

460年ほど昔 今市の松尾ち言う人が居った。回りにゃ家もねえ寂しい所じゃつた。年の暮れの夜 観音様のお告げがあっち『これかる一里ぐれ一南に行くと阿弥陀様がおらるる お連れしち奉りなさい そうすれば幸せになるから』 不思議に思うたがお告げん所に行くと 阿弥陀様がおられた。自分の家にお連れしち東ん方の谷間の美しい水う汲み 仏飯う炊いちホコウタ。そん水は東に流るる仏水じ 阿弥陀様をお連れしち建てた寺が 安楽寺とのことじゃ。

姫隠しの伝説

片草ん昔は人里はなれち隠れ住むにゃチョウズヨカッタ。源氏に敗れた平家ゆかりん者たちが あちこちに落人としち身を隠した。お姫様も追っ手を逃れちこん地に辿りついた。お姫様が亡くなつた時 朱漬けにしち石棺じ埋葬したち言う。家の向かいにコンモリ山がある そん山を上ると近所んしの墓 そん奥にあるのが伝説の墓ち言う。字はもう判らんけんど墓を木の棒じつつくと コツコツち

音がしち石棺らしい物にあたるごたる。東向きに立つちよるき普通のたー違うごたる。

盆にゃ7日に掃除うするが 13日にゃ参らんじ14日に参る。お盆にゃ灯はトボサン習わしになつちよるとか。やっぱ隠れ人の墓じゃろー。

諏訪神社あれこれ

長崎の諏訪神社に分霊を送る途中 長旅じヨコイトーナツ。ココジ世話になつたき お礼に分霊を少しオイチ長崎に立つたチイウ。山の神じ土地を大事にする 人たちの守り神となった。ココン土地ん人たちはソンコルカラ 農耕技術が進んジョツタキ心打たれち 分霊を奉ったとか。

トリが運ぶ途中じアンマリ美しいモンジャキ 見惚れちついー声鳴いたモンジャキ 分霊がコボレオテチ 神がソクー安住の地にしたちゅー。南面に向き北に山をウケチ ウチフトコロに抱かれたここは 恵まれた場所じゃつたんじゃろー。東かる昇る太陽う受けちいいところじゃわな。

辻田ん堤がクズレチ大水が出た。ナニンカニンオオゴツーナツチ 土やら石やら木やら流れちくる。タマガッチシモウチ逃ぐる。そん水はセリクリオーチ土取りん下まじも流れち行く。ソシチ左向いたかち思うと東に流れた。いい按配に手前ん小船ん方はエート床ん下にヘータダケジスンダ。ドーデン諏訪様んお影じゃろーち 皆な言いよった。



得したと思ひ失う物

畦を少しずつ削っちゃ田んぼを広むる。欲張った人がおった。10年ぐれーしたらデーブン広うなった。横んしは『マメーシチョケ』ち取りあわんじゃった。病氣しち他所んしに田起こしを頼むコチイナッタ。ソゲンコターシラン頼まれたしは 念入りに隅々まじ起しちアトチットーニナッタ。

トコロガナ 削り取った田んぼん元石はチャントアルキ そりーコガラウ引っかけちしもった。コガラは壊すは牛は暴るは大怪我するは ソコンシニアローアツタケ話した。損害は取られ怪我ん薬代は出えち ソンアター誰もシチクレンジ ワルカツタチ断り言うやら …… 元に戻したんと。

動かんごつなった石

境に昔かる境石が置いちゃる。コシイシガチット動かしち ソレガシレンモンジャキ 次年年に又ちっと動かした。5年ほづしたら畝一筋広うなった。隣んしは知っちょつたがチットグレーイイワちマメーシチョツタ。ある年に大雨が降っち土も流れ そんな石も動きでえた。雨が止んじ行っち見ると石が反対に動いちょる。そりゅー見た欲張りが『天罰があった』と思うたが自分から断りなんか言うもんじゃねー。

天気になった二人が畑じ出会うたら 『境はどこじゃったかな』ち言いであた。『こん石じゃろーがえ』『そうじゃったなー』後は何にも言えれんじ泣きでーた。『すまんじゃったわしが悪かつたコラエナー』 地に手をついち断りう言うた。それかるは仲ゆうなつち 作もゆうでけた。

吞まずの水

長者原と言う所は見晴らしがいい所じ 鎧が岳ち言う高い山が聳え 昔城があった。難攻不落な城じ栄えたそう。こん山かる流るる水は昔かる 『吞まずの水』 ち言うち吞まんじゃった。いつん頃か何の戦いか判らんが ここじ激戦じフトーナ武士ん命が失われちしも一た。三日三晩にわたっち流れた血が 川の水を赤うしちしもった。

そん水は武士の霊をトモラウ為か 流れの水は今でん美しいのに 誰も 呑んだりはせんじ 昔の語り草としち伝わच्छる。森林公園になり春は桜 初夏はつつじ 秋はもみじに人の心は 奪われちおわるけんど 昔を辿る物語には人に知れん 悲しい運命が隠されच्छる。

豊後岩屋

川岸の高い岩陰にコンメー入口がある。豊後岩屋ちいいよった。ここん奥には人には見たこともね一物がある ち言うが何があるか見たもんもおらん ち言う。昔の神様がここを利用しち 世間のナリワイを心配しち相談したんか それとん人助けん為に世話をしたんか 誰も入っち見らんき判らん。たしかに人が居たこた一間違いねえー。

いっぺんくぐり抜けち出ちくりゃー 運がいいち言うけんど 誰も行かんところーみりゃー 度胸がゆーねーとオジージャロー。人は弱えもんじゃき人にすがり 助けをこうが自分の事んじょー考えち おるごともある。人ん代わりに入るイイコチー出会うかん知れんが ドージャロー。

すりの地蔵さま

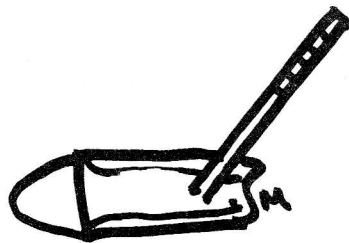
なんか声がするき そん方に行っちみた。すりんしが連れち来た地蔵さんが 泣いちょるじゃねーな。それも『すりー帰るち』 言うち。坊さんな『2 3日もすりゃ慣るるじゃろーきマメーシチョケ』 ソゲーシチョツタンジャケンド 泣きやまん。すりんしゅ呼うじ 連れち帰つちもらうこちーなった。

すりんしゃ『もうヨダキーデ 運んじ来る時ゃとてん重うじ苦をみたに』いい返事うせんじゃつたが 何べんも言われち仕方ねーな 一皆なじ連れち帰るこちーなった。ホイタトコロガあげー重かったに こんだ軽いことちゅうたら。ヨツポド元ん所がいいんじゃろー。今でんすりん田のクロにゴザツチョルデ。……こん地蔵さんは珍しいオナゴシン地蔵さまじゃつた そうな……

お寺ん地蔵さんな男じゃつたき いいなーち気を利かせたけんど やつば 悪かつたんじゃろーな。

好きじいつも側におるのがイイしもあるけんど 別々におっち時逢うのが好きなしもあるごたる。勝手に気を利かせたち思うちよると 本当は迷惑じゃつたんじゃろー。

地蔵様は願いを込めち立てたかる そんしの思いを大切にせんと 願いが無意味になるけんじゃろー。道端に立つちよるき地蔵さんはいいかんしれん。赤いヨダレカケが風雨にさらされ 時々花をかえちもらう そげな地蔵さんがやつば 一番いいごたる。



厄年に帯を買う

19は女の厄年ち言う。古くかる長えもん買うち厄よけするといーち言う。いつもつい忘れがちん帯う買うように 思うなーとてんいいこどじゃち思う。イノチキに追われるとままならんが せめて腰紐ん一本でん心が通うちおりや。母がそつと渡した小箱に入った腰紐を こつそり開くる娘の弾む心 そしち娘は大人になっちいく。

ある日遠くかる遍路しちきた老僧の足を見ると 緒の切れたワラジ優しい娘は見兼ねて さつき貰った腰紐を裂くと 緒をたてちゃった。足に巻いちょつたカズラを受け取ると 見送る心の中はいつまでも熱うなつち 自分の事より人を助けた嬉しさに 乙女心は燃えていた。

そんな娘が近く嫁に行くこちーなつた。戸口に立った僧は言うた『腰紐じ緒をスゲチクレタ人に お礼を言いとーち』と 修行がすんじ そんな間もいつも仏に祈り厄よけ納経しちくれちょつた』 ち言う。そんな包みには白い絹布が。嬉しさに頬を濡らした娘に あんたん優しい心はこれから先 きつと素晴らしい人生である ち。

大蛇の恩返し

辻田ん水べじ子供んコナシチョツタ蛇う助けちゃつた医者が 子供ん流行病に困つちよつたら 若い娘が奉公させちくんないち 訪ねち来た。貧者じゃつたけんどよつぼず困ちよる んじゃろーち加勢しちもらうち住みちーた。そんな娘んもつちよつた不思議ん玉じ医者は 次々に子供ん病気うユーナラカスコツデーケタ。

ソシチいつ時するうち 医者と娘も仲ゆうなっち二人は夫婦にな

ったんじゃが夜中ん三時頃には歩いち それも『見らんじくりー』
ち言われちょつた。お医者も好きな 自分の嫁ごんこつでんあり
ちった嫉くるけんど我慢しち それだけは守っちょつたが お影じ
仕事はとてん人気があっち メーニチ来るしが多かった。

そんな不思議な玉ん話う聞いた川下ん殿様が そんな玉を納め出すよ
うに言われち お医者は仕方の一出えちしもった。子供ん病気を治
すに困ったお医者は こんなこつ一嫁ごに話すと『うちが何とかする
き』 ち言うち又夜中に出ちいくけん あつーちいち行っち見たら
何と 辻田境の水べに行き竜の姿に変わり そんな目は片目竜の哀れ
じゃつた。

そこに座ると『わしの好きな人ん為になるんなら』 ち言うち残
った目を又くり脱いじしもった。お医者ははじめち竜の恩返しち解
ったけんど 『見ない事の約束を』 守っち一足先に家に帰った。
いっときしち帰った嫁ごん手には 美しい玉が一つ光つちょつた。

流れ落ちるような涙かくしち 次ん日かる子供ん治療が続いてち
有名になった。そんな話う聞いた殿様は又欲うはっち 納むるごつ言
うち来た。仕方なく又納めたこつ一知った嫁ごは 高台に一緒に来
るよーにフレう回しち イツキニ栓を抜くと共に雨う降らせた。下
ん町はいっぺんに流れちしもったち言う。

そんな時かる優しい嫁ごん姿も見られんし 竜神じあったことも解
り 殿様も無理を言うたことを悔い 恥ずかしがり供養しち……や
がて里にも平和がやっち来たとか 言う話じゃ……



母なれば親なれば

苗代ふみがエート終っち麦もデーブン色ち一た。ドーゼン秋にゃ子供が生まるるんか チット腹うセリデータ 近所ん嫁さんソレデ
ン朝早うかる田に出ち 日ながな一日汗まみれ。暑さも加わっち食
ぶるもんなバツカリ食いの明け暮れ。チッター滋養にナルモンチ卵
う モロータが大所帯の中じ一人食ブルワケニャイカン。

たまに在所に帰るとベターち寝そべっち あれこれ気を使うち口
に合うもぬう 作っちくるる母親に『もういいで』と口じゃ言うが
思い切り甘え 食べて一あれもこれも 作っちほしい。でん自分も
もうすぐ母親になるのかち思うと 若い楽しい時代が少なかつたき
一層悔しさも残る。

『お前の好きな刺身が出来たでオケナー』父親に言われたのだろ
う 精一杯の献立をした母の頭には もう白いもんがメダチデータ
。クチカズンスクネー父親も 仕事じソバニャオランケンド心は
それ以上に結びチーチョル。苦勞承知じアルイタ時は侘しさ切なさ
が 胸を痛めち。

それも人並み人間の宿命ジャロー。元気シチョリャ自分たちの幸
せん時代も ヤンガチ来るジャローキ。子が出来ち人にムドガラル
ル 時にゃ横着になっち年月が流れち 今の苦勞を子供にサセンゴ
ツいい家庭を 作っちほしい。母の心尽くしの食事に運ぶ箸が時折
止まる。家ではタマネギとカンラン味噌汁にタクワン それがもう
一週間続く。健康で居るのが不思議なくらい でん贅沢は許されん
。そんツケは自分たちに来るから いつかきつといいこともある
と信じち。在所歩けば三里の道も 嫁と言う名が邪魔をする。

水を恵んだ老僧

粉雪の降る夕方見すばらしい老僧が門に立った。『せめて一夜泊めちょくれ』少女は『何もありませんが　せめて火でも』と家の中に入れた。ヒビを切らした赤い手じタキモンを差しくぶると　お茶を勧め炭焼きの親の帰りを待つちよつた。鍋に炊かれちよるのはトイモと粟の粥か　その香りが漂うちよつた。老僧は目を閉じて動こうともせんじやつた。

『せめてこれです』お碗に盛られた粥『私は泊めてもらうだけで有難い』と　が無理に勧められて押し頂いて老僧はすすった。頬を伝わって流れる涙　娘が見つめちよると『今一番何が欲しい』と言葉静かに問いかけた『せめても少し水がありゃー食べ物が取れるんじゃないけんど』無理な小言と解ちよる　少女はそう言うのと下うつむいた。

夜が明けたら死人のような老僧の姿はない『西の方の岩の影に水が出るだろう』　地図で示した所に掘ってみると　なんと水が湧いて出はじめた。あの老僧に恵んだ一碗の粥と一夜の情けが　この地区に水をもたらしてくれたそーな。

練ヶ迫

丹生山善生寺のあった丹生山は府内ん丹生や荷小野『丹生野じゃねーか』と　一緒に朱があっち女しが身だしなみに装ったんじゃないかろーか。そげなんを塗るこつかる　練ヶ迫ち誰かが言いで一たち名づけられたんじゃないあるめーか。周りに栗林　柿木　鍋なんか地名もあっち　その頃ん豊かな暮らしがしのぼるる。

そりゃー畑どころじ広い畑がガイトーあっち 穀物ん粟やら大豆やら植えち里芋んあったち言うき イノチキン高度なことん解る。直入文化をはじめ大野文化 天領文化 肥後文化をうまくコサギクージ生き方は 素晴らしかったごたる。そん反面不作ん事も考えちイビラ餅 竹の実を食うことも考えちよつたち言うき やっぱ偉えしが多かつたんじゃろー。

宿場町

丸山八幡に日がさしかかると 今日も天気がいいようじゃ。早発ちの馬はもう荷をオオセチ ダノモンぬ食いよる ほっかぶりゅした馬子が脇う向いち手鼻うかむと『サー行くかのう』馬に呼びかくるよーに優しい声をかけた ヒヒー一声嘶くと手綱を引かれち歩きだす。石畳に軽い音を響かせち。

『ありゃーもう行くかえ』『あー行っちくるき』『今日はどこまじな』『府内えまじ』『そりゃーひじいな』『商売繁盛』『そーじゃな気をつけち行っちきな一え』『おおきに』あと見送った馬と馬子の影が 石畳に美しく映えちよる。涼しい風に揺れる木の葉がアユルと風が吹き上げた。そりゅー見ちよつた子供が ツウジオイカケタ。

そろそろ旅ん人たちも出はじむる。宿を出るぬ一見送っち『気をつけちお帰りは又お泊まりを』『世話になったなー』人の心が通じ合うもの 初めて泊まって世話になつて その別れはやはり辛いもの『おおきに達者でな』『あんたも気をつけなり一え』

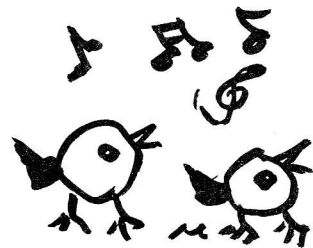
『帰りにゃ又寄るきいな』『待つちよるきな』 宿場町の朝は別れの朝でんある。名残り惜しくも……

横道…よこどう

たまりみずを過ぎち櫛山マジは西に 眺めんいい横道はアンゲコ
ンゲ曲がっち 自然石ん道が続く。ところどころに岩ん間うクグッ
チ出ちくる水は冷テェ 口に含むと喉ウ歌ウチ通っちウメーナンチ
ャネー。コゲンウメーナ初めち そげー言うしも多い。そんはずじ
ゃ岩と岩とん間う出ち来たんじゃーきな。

『まゝ一服しゅうか』 一本松ん影ん石い腰うカケチタバコふか
すと 上っち来た人たちも立ち止まつち一服する。『暑かったじゃ
ろーここは涼しいで』『本当にいいなー眺めもいいし』『どこまじ
行くんな』『久住まじ帰るんで』『そーなホンナあとチットじゃな
ー』『あんたドキー行くんな』『わしゃ野津原まじジャケンド』
頷いた。

行きすりがいの人が言葉を交わすのも 情がある。旅をするしは
皆な人んこつー思い 自分も人にデジニシチモラウチ 無事旅も出
来る。サカシイのもいいが人の世話もシチョカニャ 自分も人の世
話になるき上り下りん人が オユーナツタ。馬も上つち来た馬子が
いい声じ唄いよると 皆な聞きほれちシモウチタマランナエ。向こ
うに見ゆるな一字蔵山じゃろーな高えはずじゃ。さゝ出かくるか孫
が帰りう待つちよるじゃろーき。



蚕とタンノンバツクン物語

わっそうかた蚕う 10 年ぐれー飼うたコターアレンジャケンド
ゆう出来たコターナカッタ。セツージコタエン。上る前にナツチ毎
晩 8 時ゴリーナルト バックンが来ちパクパク食いかけたもんなら
ヒョウシャネー 100 匹ぐれーは食うちしまっ。何してんハガイ
イイキ来たタンビ 下ん道ホタリナグルケンド それでん来る。

イツション バックンが来るんか タシカミューち思うちバック
ンの足い ヒムークビリツケタ。向こん山ん先ん谷いホタッチ来た
。もうショワーネェジャローのんびりしちよつたら 4 日ぶりヤツ
チ来ち蚕食いよんぬ見りゃ ヒムーヒコジツチョル。タマガッチシ
モーチ反対にムゲノーナツチ 済まんこつーしたのー断りう言うち
ヒムー取つちゃつた。

『ユーオボエチョケヤ又来ちコゲン悪いコツースルト チシコロ
ス』 ち言うちゃつた。バックンモ性があるんかしらん ソレカル
コンゴツナッタゴタル。今んうちハリクージイイ繭つくろーえ。

荷小野の獅子舞い

明治 13 年から始まつた獅子舞いは 世襲性が原則で免許制だか
ら形がそのまま継承されちよる。一戸一人以上長男のみとされちよ
る。魔除け厄払いとしち舞われ 祭りの御輿のお先払いの他 地鎮
祭 落成式 家祈とう 豊作祈願なんかも舞われた。獅子とは猪鹿
の獅子などを意味し いろいろな舞い方がある。牡丹の花をあしら
った牡丹の花を持つ子供に 操られち目を覚まし追いつ追われる遊
びん様を表したもの。痒い首を擦りつくる木を求め やがち疲れち
寝蔵に帰り寝床につく そげな舞いである。



甘酒の味

『あんたもコツチ来ち飲まん』『おおきに』麦田が凍つちよる
昼まじわタキモントリ 昼かるは麦ん中打ち。近所んしとヨローチ
する。今日は北風がナサケノー吹いち 若い嫁さんの肌ゝコナス。
トショレが沸かしちくれた甘酒が出来たきチョイト 一服しゅーえ
。皆がヨバルルコチーなった。嫁に来たばかりじゃけんど 優し
ゅー声をかけちくるる 足もとかる全身に冷えきった 心が仄かに
温もつちくるごたる。

『はい』小声だが素直に返事すると 鍬を腋にオイチ土を払い落
とすと田かるアガツチ来た。年寄りの中にパツと花が咲いたよっに
明るくなった。里では大事にされチョツタジャローに 手にはも
うヒビの切れ目が覗く。『寒かったろーがえ早う飲みなー』『すみ
ません』潤いのある声が周りに響くよう。冷えきった両手で茶碗を
抱くと 母の顔が目の前に浮かんでくる。こんな姿を母が見たら何
んち思うじゃろー。甘えた家でのツケが今 自分に振りかかつちよ
るごたる。

『チッタなれた』『…………』黙って頷いた。必要以上の事は口に
センゴツ心がけちよるが 優しく問いかけらるると『つらい』と
口まじ出たが止めた。コゲーウチュー皆が大切にしてくるる 地区
ジャーキ頑張らにゃ こん人たちも苦労しち来たんじゃろー。風が
ヤンジ日がセーチ甘酒に程よく漬かったタクワンが 旨さを引き立
てち人の心を仄かに包んじ くるる幸せな初春ん日じゃった。

“人の情けが染み入るような 母に甘酒飲ませたや”

五助と吉兵衛

肥後街道のヨコドーじ五助に世話になった 糸屋吉兵衛はコロゲマワツチョツタガ エートユーナッタ。ヨンガヨドシ世話をしたけん 次ん日にゃ起きれた。3日ぶりーエート歩けるるごつなつち京に上つた。

五助にゃエエラシイお光ち言う年頃ん娘がおった。ゆう介抱しちやつたき心に残つたんじゃろー。けんどそれもイツンナカメーカ忘れち 7年ぐれー過げた。ヒョコツトそん吉兵衛が ケエーチ来た。デーブン変わつたアングコンゲゝ見まえーち えーと五助ん家ゝ捜してーた。

年頃になったお光に 世話になったご恩返しに晴れ着でもと 家に寄ると昔んままの貧乏暮らし 7年前のお礼を言うトエート思いデータゴタル。『京から無事修行して帰ったのも あの時のお影です』『インニャ アンタガハヲコーダキジャ』涙にくれる親子と無事巡り合えて オオキニオオキニ ハリクーダキナエ ユウ辛抱したなー。

土産の晴れ着に お光はウレシュウジコタエン 嫁ご姿を想像しち幸せになってな。女心が仄かに揺れる。五助が情けをかけた人が周り回って 自分の家に帰る。ビンボウシチョルケンド 心まじはナランに人の情けにゃヤツパ 泣かさるるなー。肥後に帰る人を送る お光の心の中には恋心もホンノリ。デンソリャー無理じゃけん諦めち ウットーニャイイシガ 出来るじゃろー。晴れ着があるきイツデン嫁ごに行かるる 何かうれしー。



朝日を待つ農民

『こいさ地主さんが集まれと』『そうか 今夜ご馳走しちくるるんじゃのー』『いいなえ暮れにゃめえ年ゆうじくれち すまんこつじゃ』『おすーならんごつシコーセニャ』『ほーじゃのー湯にへーろっか』『髭もそんなーえ』『解っちよる』地主が年の暮れに小作人ぬゆうじ飲ませ食わせ そしち土産う持たせち それだけ信頼と作作りに熱心に 取り組む人の心の結びつき。

地主は小作を取りしこ取っちコナス 仕方ねー運命じゃけんど上手に使う上手に作作りをする土地も人も喜ぶ。そんな優しい思いやりが 生きる喜びを醸し出すのだろう。小作の滞りもねーし不作ん年にゃそれなりに考えちくるる。じゃき精出すことじ土地も生かされ作も出来る。

『皆な来たかえコイサゆつくりしち…今年んひどかつたこつーは忘れち又来年ハリクージョクレ』『オオキニ』嬉し涙を拭いち飲むチョコには 家族の顔も浮かぶが家族には 帰りの土産がある。冷や飯にコンコそえち噛む噛む田に出る そんな苦労も身に染みついち久しいが 苦労が無駄にならない地主の 年暮れのもてなしは小作人には仏か神か。

『ゆつくりしち帰りにゃ家内に土産う忘れんごつ』『おおきに』餅がある 頭のついた魚が入つちよる 家内のもんにまじ。寒さが飛ぶような一時 朝まじ飲うじ夜が明けたごたる。地主さんのサカシイこつー拌んじお日様に感謝せにゃ。人の心に残る情けの取扱いには小作人は 田畑でヨキー物を作つちあぐるこつ。酔いがまださめぬ人もツレノーチ 帰るわが家にはもう帰るかち 待ち詫びる家族たちが地主の心こもつた 土産を今やオソシと出迎える。

孝女と大蛇

判田から嫁に来ていた人が 働き者のヂイサンが炭焼き仕事の途中に 雑木をセオウタママ足をスベタレチ谷に落ちた。夕方になってん帰らんモンジャキ 夫婦は心配しち山道を捜エタラ エートウメキ声んする所に行き家に連れち帰った。それでんウンウンウメクキ ヒョイト思い出えた。隣村にユー効く家伝薬がある 看護を夫に頼むと嫁は真夜中に一人 タイマツ頼りに胸に鏡う入レチ出かけた。昼でん一人じゃ寂しい所に行く前に 大蛇が道をフサイジョル。大蛇はタイマツん火がオジインカ 鏡に写った姿がオジイカムカッチコン。動かんき嫁は『お前はここん主か道をアケチョクレ』嫁は自分の用事を話したところ 解ったのか尾を振り振り案内しちくれた。いいアンバイニ薬もモローチ夜が明けんうち 帰つちヂイサンも元気になった。嫁が大蛇に出会った頃ヂイサンも 大蛇が嫁を案内しち行く夢をミタチュウ。女の身じ夜中に真剣になった嫁の孝行心に大蛇が助けたのじゃろー。

夜泣き地蔵

伊塚に子供の夜泣き地蔵が立つちよる。夜泣きを止めてくるるから参る人が多い。お堂の周りの松葉でフスブルと煙りをカクルとご利益があり お礼のヨダレカケが納められチョル。昔はニワトリん絵をサカシに書いたりしちあげたり シタモンジャガノー。お堂の前を通りかかったところ 子供が地蔵さんにのぼっちワヤクシヨッタ。ソリュミチ怒ったところソンシが腹がセキデータ。地蔵さんは子供ん守り仏じゃき 子供に言うたことがケツカ悪かったんじゃろー。イマデン線香ン香りがスルナー。ヤツパ 参るしが多いんじゃろー。すぐ下にある道は昔ん参勤交代道路 こん坂じチョイトヨコーチ下つたんじゃろー。

手足荒神

新町の角に石の祠があり手足荒神と言う。肥後の殿様が通行中に馬が足を痛め 武士が落馬した。領民が谷村の大將軍に参拝祈願すればと 勧められて祈願すると 急に元気になった。以来この地に祠を建ててまつり 大將軍は牛馬の神に 新町の神を手足荒神として 奉ることになった。今でんゾーリ ワラジうあげたりしち参るしも多いごたる。ゆう線香が立ちのぼつちよる。

咳の地藏さま

畑の上に大きな木があった。木の根元に石の地藏さんがゴザッチョツタ。道を広うするきハツパをかけち そんな飛び散つた石が地藏さんの 首にあたっちケゴーチシモウタ。連れ合いが心配しち お払いをあげち別の所に移した。ある風の強い晩にバアサンガ 急に熱う出えち寒い寒いち言いでえた。祈とう師に見ちもらうと『お地藏さまが倒れち雨に濡れちよる そんな為ち熱が出ちよる』ち言う。地藏様ん所いいっち見ると雨にびっしょりに なつちよつた。地藏さまを移しただけじ まだ家がなかつたもんじゃき お堂を作っち地藏様を安置したところ 不思議に熱もさがつたそうじゃ。



茶飲みと茶の実

不作じ米の年貢が出せれんごたる。なんとかせにゃちサンクリシタが難しいごたる。馬子の五助さんにチューカシナリー チ相談したら役人に聞いちくれた。米の代わりじゃけん実ならいいち言う。チョイト考えチョツタガ頷いた。『茶の実を出しゃいい』『茶のみはそげーねーで』『アレージャ オバンガオルジャネーカ』『オバンエ オバンヌ年貢ん代わり出すんな』『そうじゃ解らんかオバンな茶飲みじゃろーが』『それで でん茶の実ん代わりにゃナルメーモン』『ナレージャ茶のみ……茶の実じゃねーか そうじゃろーがえ』『なるほづな』 ……次ん日……

オバンぬ連れち庄屋さんの家に行き 米の代わりに茶のみを持ち来た ち申した。そん話を聞いた役人が殿様に申し上げたら 殿様しばらく考えちょつたが『年寄りハ国の宝 身代わりになつちまじ思ふ心に感心した』と オバンを呼び出しち 『これからも国の為に教えてほしい』と ほめられたとか。思わぬ知恵が窮状を救ったち言いよった。

火伏せ地藏

岩に刻んだ地藏尊は県下でも珍しいと言う。7体の地藏尊のうち5体は江戸期前の作らしい。江戸時代になって2体が掘られた。近くの城などが再三戦火にあっち 村人たちも難渋したけん地藏尊を奉ったところ 火災がなくなったちいわる。それかるは火伏せの地藏として 毎月24日に地区の人たちが祭りをする。仏像の手に持つ壺は水壺で 火伏せの霊験がある。

近所んしが24日に集まっちお経を唱え参るごつなつた。コンカタ火事がねーち喜ぶ ナンサマ火事が多かつたき困りよつたがアレカルトット ノーナツチャツパ地藏さんのお影じゃろー。

高崎山に出たニワトリ

諏訪神社の右手側にヌキがある。子供ぐれーは入れる穴じヒンヤリ ツメテー風が吹きまくる。昔ニワトリう放したところ灯う失うちしもうち メクラメッポー歩いち いっときしち鳴き声がしたと思うたら そんニワトリが高崎山ん上に 出ちょつた。タマガッチエレーシニ聞いたところ あん穴はツナガッチョル そげー昔かる言いよるそうな。…地層の関係で断層が連なっているのかんしれんが…夢もある。

クルス五輪

五輪塔の集まるとこりークルスう刻む塔が見らるる。戦国末期にデーブンハゲシュー戦争がアッタゴタルキ アトジコッソリ供養したんかんしれん。珍しいごたる。ひっそり大事にされちよる。

一の瀬川原の戦い

室町時代に菊池軍が攻めち来た。一の瀬川原かる鷲が城まじ臣下のもんを 皆殺したち言う。そん頃大雨が降っち一の瀬川原が増水 家屋の流失がおこっち 菊池軍も溺死者もでちしもうた。菊池軍も仕方のう久住の本陣に引き上げたち言う。天神免に供養塔を立てち 犠牲者の供養したそうな。



野津原宿場町

江戸期の道幅としてはタマガルヨウナ ヒリー道ジャツタ。外側にゃイデガ流れヨル コリャイツモワ洗い水に 火事ん時にゃ用水に使う一石二鳥ん役割。火避けは別に火避け山があっち 高さ一間ぐれーじ木がウエテ植わちよつた。火事ん時火を食い止めた。道は直角に曲げち敵の奇襲に備え 行列が入ると木戸ゝ閉めち ホカンシガハイラレンゴツシタ。アゲスド カマエグチ はそん頃ん呼び名に残つちよる。

加藤清正が領主になっちかる町筋もゆーなっち 家もで一ぶん増えちきた。店も並び宿も大きいのが立った。そん頃は谷村 大龍も入っち人口も8111人戸数が2276戸じゃつたち言う。今たーちった一違うが榮えちおつたことが解る。ナンサマ熊本かる鶴崎まじん 大事な宿場町ジャツタキ 人がガイト集まり賑やかカツタンジャロー。

判田 庄内ん方かる物物交換ぬした頃もあったき 昔はデーブン賑やかじゃつたらしい。一頃は府内の小京都ち言われたこともあっち まゝ歴史にゃ影に残ちちよるごたる。そんうち町もだんだんユーナルジャロー。

家鳴り止め地藏

鷲が城ゝ作る時人柱に立てたち言う。城が出来ち喜んだが家鳴りがしちオオゴチーナッタ。名僧に聞いたら人柱の供養をすろつち言われち 地藏堂を立てたらエート納まった。おキクと言う女性と鷲ゝ人柱にしたけん 鷲が城ちツケタソーナ。

地藏尊は家鳴り止めと お家繁盛の地藏ちゅうち地区の人たちか

る信仰を深めたごたる。昔は六地藏 石仏なんかもあったけど
いつんなかまにかノーナツチシモチ 今は地藏尊7体が安置さ
れちょる。この辺は昔地藏谷ち言いよったとか。

三夜様の申し子

どーしてん子供が出来んき三日月様に願ぬかけた。三日月が見
ゆる頃に手桶に水う一杯いれち頭に頂く。桶に三日月様の光が写
るのを拝んじ『三夜様 願くば私によい男の子を授け賜え』ち祈
る『もし賜れば私の命は召されてんいい』と祈った。ところが
恵まれち男ん子が 三夜様の申し子じ一華和尚。

力持ちじ知恵があり頭んいい人じゃった。家の普請に竹がいる
きー荷おくれ いいで一荷ぐれーなら切りゃいいわ。ところが
である…同じ一荷でんチョイト一荷ヨーガチガウデ。イットキシ
チ行っち見るとタマガッタナンチャネー。ソコラキンジョ アロ
ウアツタケ切ツチシモチョル。

聞いちみると大きい竹縄じヒツクビッタンガ トテン大きいき
ソリャモーハナシイナランゴツ 一遍にカタゲチ帰っちしも一た
。

一華和尚

参勤交代の籠人夫に出るこちーなつた。僧侶の奉仕は不服と申
し出たが聞き入れず 役人ぬ乗せちヨコドゥまじ来た。ココジコ
ナシチャロー そう思うと役人ぬ乗せたまま 籠う絶壁に差し出
しちタバコう飲みで一た。籠が止まったもんじゃきヒョイト顔う
出えたら サーオオゴツ。下を見たらホキンハナ『早う行かんか
』『籠かきでんヨコイはあるじゃろー外ん眺めはどげーえな』

『拙者に何か恨みが』『僧侶に籠人足がいいと思うかえ よそのよ
うに三界の師たる僧の人足は止めてほしい』 と言うたところ この
問題は後日解決したとか。

宗門集会が竹田じあった。帰りに宿の張りたてフスマに一筆書いて
ほしいと頼まれた。ワラジを洗わせてソレジベタベタと書いた。
宿の主は怒り書いたガニうくやしがる。そりゅう聞いたき 気に入ら
にゃ元に戻すが後悔するな と 『こりゃカニタチょ主人が嫌い
ち言うき立ち去れ』 そげ一言うと手を叩いた。絵に書いたカニが
動きで一たにタマガッチ 折角の絵を逃がしたら大変『和尚さんチ
ョイトマツチョコクレ ガニはわが家の宝にするき なんとかこんま
まにしちょくれ』 5匹の内3匹が残つちよるそーな。

参勤交代道路じ馬糞拾いをしちよつた。肥後ん武士がワキヤガッ
チヤローチ『おい小僧 馬糞拾うち何するんか』ムカットしたけん
『ミセチャルワナ』右腕うぐーと掴むと畑ん方に引っぱっち行く。
タマガッチシモッタ武士は『これはただ者ではない』 と吃驚 ソ
レデンムリコシャリコ引っぱっち行かれ 畑ん真ん中に座された。
青い野菜が育つちよる。『こげ一育つのん馬糞のオカゲデ ワカル
カエ』力ん強さといい理屈ん正しさといい 説得力のあるただ者じ
ゃねーと 手をついち謝ったそうな。



和尚の力くらべ

野津原に力ん強い和尚がおるち聞いち熊本かる 力試しにやつち来た。シッペをするこち一なつち始めに熊本んしが 打つこち一なつち。息う吹つかけち真剣打つたきクリーミミズバレが出来ち 腫れ上がった。次は和尚の番 叩うちしたき武士が和尚ん目を見た和尚の目玉にコグゾッポサツの姿を見た。タマガッチ手を引いたら和尚の手は 武士の手の下にあった丸型の石を打つたモンジャキ そん石は8つに割れち飛び散ったち言う。…シッペ……ひとさし指と中指じ相手の手のひらを叩くこと……

瀬戸の地藏さん

瀬戸の岩穴に奉られている地藏さんホレ地藏とも言う。地藏さんを削っち好きな人にカクルと願いが叶うち 言うよつた。格好がオナゴシンあれにユーニチョルキ タブンオナゴン仏様じゃろー。ある時に久住んしが地藏様が好きになっち 自分かて一持つち帰った。ところがな運んだしも持つち帰ったしも オオゴツ腹がセキデーチ見ちもろ一たら カツチー仏う動かしたきち解った。

断りう言うち元ん所り戻したらエートユーナツタガ ヤッパ仏様はハジメニ奉つた所が一番イインジャロー。ソレカル久住しは通るタンビ供物んしち拝むごたる。今でん近所んしがゆ一守りをしよる。

高沢のや尺間さま

子宝に恵まれんしが諸所方々参っち歩いたが どーてん無理ち解り帰るこち一した。帰り道ヒョイト見ると尺間さまの道知るべ。心が動いち参るこち一した。諦めちゃいたけんど鎖う伝うちエート登

っち一生懸命頼うだ。ソシチ帰つちイットキスルト コリャマタ
ドージャロー子が授かったごたる。タマガツタナンチャネー 急
いじ尺間さまにお礼に参りゃ ヤンガチ男ん子が生まれた。

アゲー参つち歩いたにシマイニナツチ 参つた時授かつたかち
思うと嬉しゅうじそれかるはズーット参りよるごたる。そりーチ
ョコチョコアゲモンモシヨルキ ヨツボズウレシカッタンジャロ
ー。

神楽を楽しむ白蛇

祭り太鼓が夜更けの森に響く。コエマツの灯りに写し出された
神楽。かがり火に中天も赤く染まってまさにクライマックス。歓
声が挙がり舞う人も見る人も 気持ちが一体となった。そんどよ
めきに神楽を眺むる白蛇の姿が 夜灯に写し出されちよつた。神
職は自分の目を疑いタマガル。拝殿の柱に巻きついちジート見つ
むるその一瞬。神の化身が乗り移ったのか。神職はツージ家にカ
イルト神棚にひれ伏しち 無事息災を念じた。きつと里人たちの
喜びに心満たしちの 神の喜びじあったんじゃろー。

地主に贈ったイビラ餅

畑打ちん度にイビラが残る。苦労しちスグリアグルとデーブン
少のうはなったごたる。ソジャケンド不作ん年にゃ食えんこたー
ねー。水に晒しち餅にしちキナコマブスと まこちウマソーに見
ゆる。目の覚むるよーなもんじやき地主さんに持つち行つた。『
マー美しいことウマソー』飴色のイビラ餅はキラキラ光つちよる
。『すまんのーお前どー食うなーあるんかえ』『なんぼでんある
き』 真心の贈り物に地主も苦いのは知っているが 喜んで受け
取る。

娘は母から受け取ると口に入れる。不自由のない生活をする身には 色鮮やかなイビラ餅は珍品であつたろー。顔をしかめて思わず吐き出した。『うまいじゃろ』父親に言われて娘は『コゲナンモンォ』と口に出かかるのーエートコラエチ『苦勞の味がよく出ているわ』『お嬢さんオーキニ ソリュー聞いちドゲー嬉しいか』小作人は泣き伏した。『気持ちがいいよ』お返しにと 重箱にアズキを入れちくれた。

川まつり

親孝行者が大病の母の飲みたい塩水を 汲みに行く一心から夏のこの日は川に入られないが それを破って入った。川の神の怒りに触れち その人は『せめて母の願い叶える迄の命乞い』をした。急ぎ汲んで帰ると 白装束して神の前に詫びて出た。訳を詳しく聞いち親孝行の誠に感心した 川の神は心打たれて『毎年この日に御神酒を供えて祭りをすれば 罪も許し母も助けてやろー』と言われた。それかるは お祭りも続け母の病氣もゆーなった。塩水は下矢の原のそのものでは 夏祭りも子供の素朴な行事として 今も受け継がれちよる。そんな頃は7月15日じゃつたが こんな頃は8月に……

地主と田の草取り

金取り仕事の少ねえ農村じゃ 地主が田の草取りに若いしを集めち。集まった6人ぬ半分ずつに別々ん田の草取りうさせた。広さも同じ2反ぐれーじ一日がかりになろーごたる。正直者の三人な丁寧につちいくき晩方になつちえーと 真ん中に辿りちーた。他ん三人な水う濁ラケーチ手抜きうしたき 日暮れ前にゃ済んじ帰った。正直者達はあとチツトゥン所じ樽を見つけた。それにゃ『ご苦勞様頑張ったご褒美 ゆつくり飲んで』と書いちゃる。

次の朝こん話う聞いち他ん者も 田に入り水うニゴラケーチ中まじ行くと 大けな樽があった。しめしめ喜くうじ持つち帰ると中かる『今日は準備が出来なかったので明日来るように』ち書いちゃう。朝早う行くと水が澄み草の取っちねーのが ゆう判り『残リュウ取りに来たか』ち言われち取り直したとか。叱られち樽も貰えずバカラシカッタゴタル。

税高にあわせた区費

竹の内区の年間区費はオトヨリにサンニューしち 徴収されちよつた。区の三役や役職は 全戸の資産や住民税の台帳をツクッチ 三分の一を戸数割りしち残りん三分の二を 台帳かる計算しち集金したちゆう。サンニューにヒマガイルキ 秋の取り入れが済むとサンニューヲハジムル。

区民の財産生活面からワリデータ 思いやりからじアッタンジャロー。昭和後半かるは農地開放 近代化などじ平等に近い生活体系に 変わったき戸数平等になった。

歟下年金

今市やらタマリミズに世利川井路を通しち 野津原 諏訪郷に水を流してー。よそん土地うヨキー通るコチーナル。畑作じ水がほしいタンボに心が弾む。コツチカル手ヲザシャ ヤケドスルゴタル。ホシューネー素振りに水う使う分にちーてん 30年間畑作ん税でいい ち歟下税が申し入れられた。

それでん工費負担にタエキレン。地主は小作人にタンボを安う売っち 水う取り入れたとか苦肉の策も取られた。それじ井路も進み水田も広がり 30年の恩恵を受けた農家も潤うたコトジャ

ロー。がヤツパ小作と言う厳しさは素人には 抜け切れん面もあったか イツンマニカ土地は再び地主ん元にカエッタゴタル。…ソシチ 農地改革 農地開放と進む。

能登神楽

京都かる神官 神楽師と共に1625年に入った 能登神楽は京の優雅さを保ち舞い 大神なんか8つの舞が奉納されよった。大神にゃ神楽唄があっち口移しじ教えち来たが 途中じ若いしが少のうなっち世話をするしが 絶えちしもった。神楽ん一部は後じ復活しち若いしが舞いで一たが ここへんの勇ましいもんとは チットチゴーチ優雅。大和から入っち370年あまり そんリズムに先人たちだゲナ思いじ 聞いたことじゃろー。

今市ん過ぎたもん3つ

丸山八幡拝殿に竜の彫刻がある。夜に抜け出ち手洗鉢ん水飲むとか。こりゅー聞いた近所んしが竜ん尾を切り落とした。それかるは出らんごつなつた。彫刻にゃ今でん尾はねーで。

満生寺にゃ素晴らしい釣鐘があつた。大きな形そん音色ユージ見るしも聞くしも耳を心を和ませちくれた。大戦になっち供出しちしもうたが 今頃はどこじ 知る人もねーし忘却の思い大なるごたる。

安楽寺の先代住職は 戦前布教の第一人者。国内は勿論のこつ海外でん下命を受けち北京にも 一ヵ月出向いちょつたごたる。仏の心を伝ゆる人間の技は 伝来がインドかる中国を經由しち来たかる 聞くしも悟りも早かつたんじゃろー。

こん他あげー高い所い水がある それも不思議じゃなー。朝倉文男がタバコン検査場じスケッチしよつたこつー 知つちよるか

え。ケンチン汁にゃ尾張式と若狭式があるんで おもしろーなえ。
。そー加藤式と細川式じゃこと。

8 斗石

世の中にゃ力持ちもおるもんじ伊三郎がそん人。まやん肥う出すに坂道う上る時 荷が多いと前が見えんきハリコイッパイ 荷を後ろにしち前にゃ大けん石うぶらさげた。これじ前がゆー見えち運ぶに一苦にならん。そん石ん重さが60貫ち言うき《約120キロ》 力持ちじゃつたんじゃろー。そん石は今でん尾原にあるで。

秋葉山の力持ち

俵運びうするこちーなった。一俵をかたげち距離を競う そりゅ見よつた力持ちにも勧めた。ゆづり立ち上がったそんしはハマゲタを履いち 一俵ずつ前後にサシに担ぐと歩き出えた。タマガツチ見よると秋葉山の石段ぬ登りはじめた。上りつくと手を挙げちコンダ裏側う回り 石段ぬおれでーた。

見とれち声も出らんしの前じ 俵もおろさんじ も一遍上ろうかち 言うたに二度吃驚したわな。えーと俵う下ろしち 一息ちいたち……



大分県干ばつ記録から《野津原も含む》

706年慶雲。1615元和。1729年享保14。1766年明和3。1809年明治27。1903年明治36。1906年明治39。1914年大正3。1927年昭和2。1939年昭和14年。1958年昭和33。1967年昭和42。このあとにも水不足の年もあったが 改良された農業経営で被害を 少なく食い止めた。

情けは人の為ならず

野津原の里に馬子の五助が娘の おみつと暮らしていた。体を壊して休んでいたが 明日から仕事も出来そう。おみつは仕立て着物を届に行く準備をしていた。苦勞かける娘実は旅の夫婦が困り果てて 預けて行った娘であった。五助も大事に育て おみつも素直に育つ。

仕立て物で長患いの家庭を支えて来たが もう米も底をついちゃうんを知った五助は 明日かる仕事に行こうち決心しちよつた。昼過ぎ門口いみすばらしい老僧が立った。食ぶる物ぁねえ恵みてーがねー。五助は断われち仕種 でん優しいおみつは それも出来んじ家に入る。

せめても昼の残りの雑炊の一椀でん 五助も負けち おみつん準備ん間相手うする。老僧はおみつの気配りに嬉し涙じ受け止める。五助もイキサツう話す。準備が出来たき五助は用足しに出る。老僧は おみつから本当の父でないことを 語り大切にご恩返しせねばち 健気に話す。

五助が帰り おみつは仕立て物う届に出る。…やがち丁寧に礼を

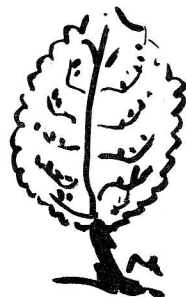
言って立ち去る前に 何も出来ないがせめても何か一番欲しいものをと 聞かれて五助は『おみつの晴れ着』と言おーとした時 おみつが帰宅する。老僧は おみつに聞くと『せめて父親らしいことをしちあげて一着物縫うち』 頷いてしまう。

老僧は背中の中の包みを出すと 食事のお礼と優しい心に答えたいと渡す。パッ と消えてしまう。親子二人はその包みを開けると 中かゝる親子の晴れ着が。助けあい支えあふ心にご褒美か 情けは人の為ならず きっと仏の化身であったんじゃろー。

天狗が住みち一た山

夜なべんキリがチータキ月が美しい外に出た。山ん中腹に松の枝にナンヤラ白ィモンガ じーと見据ゆるとコツチン木カルモ ヒラリ 目が冴えちイットキ見チョツタ。ガ ヤンガチ消えちしも一た。次ん日にトショレニ話すと『アリヤー天狗さんじゃ お前見たんなら力がつくかんしれんど』男は腕うサスツチ ソベアッタワラウチイシう 抱え挙げたところラクに 挙がった。

『ヤツパ天狗さんのお助けじゅ』ち ヨロクーダ。病人の声う聞くとヒューち現れち病氣う治しちくれたとか。そんな時は普通んしのシコー。やつぱ化身じゃろー。病気を治す為ん修行を寝静まった夜に シチョルンジャロー。力お貰うた男はそんな力を人ん為に 役く立つよーにしたきーシアワセナ暮らしがでけたそーな。



竜の恩返し

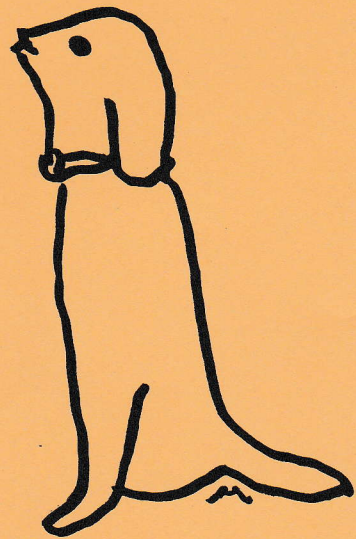
エートタマツタキーチ引き上げると 次ん日にゃノーナツチョル。ある晩番ぬしちよつたら 子供連れの大蛇が水飲みに来た。トショレシニ コナソーチ話すと『子育てなら無理もねー助けちやれ』ち言われた。若いしは手作りの酒を持つち行き 『稲は荒さんよーに』と畦においちきた。水不足でんユーデケタキ ホットンチョツタ。次の年は干ばつトショレシニ相談しち 雨乞いするこちーなつた。ソシタラスグ大粒ん雨 老人の耳にも聞こえた声が 『あん時んお礼』ち言うたごたる。それかるも水不足には雨う降らせ 実り豊かに栄えたち言う。畦の横に祠を立てちまつり大事にしたき 苦労に報いる収穫があったそうなる。夏にはウドン炊いち感謝しあうち言よった。

五助さんの話は尽きないが 故郷にしっかりと根をおろした 伝承物語には 人の心が脈々と伝わり こんな里に生まれ育つた幸せを しみじみと味わいます。時代の移り変わりに逆らわずに 推移する故郷 やはり心の暖かな土地として 大切にしていきたい。

『そこじギシギシ食いよんなー誰か』『あんまり食うと腹う悪うしち ロクナコターネード』『判っちょるき』皆な大声じ笑うた。燃ゆる囲炉裏ん火がサカリニナツタ フスボル時た違うち明るいき 顔がゆー見ゆる。三っ組した娘が白い歯のこぼれち 母親譲りん優しい目がイジラシイ……

ちょいと一服するな…

あきつとふく
あきつとふく



『ここじちよいと一服するき待てや』 子供は目をキラキラしながら 次の話を待つちよつた。五助ん巧みな話に釣りこまれち 子供は久しぶりん里の話に自分ぬ忘れち 身も心も遥か昔にへモドツチョツタ。ソレグレーに面白く楽しい夢に 誘われちよつた。

方言の温もりも人の優しい心の現れも 方言の中かる滲み出ちよるよ一。人は一人では生きていけないのが 方言の生活から汲み取れるから 不思議な感覚に心が潤う。昔の人の情愛が言葉の中に生かされて 時には支えあい助けられる。長い歴史の繰り返しに人は相手を大切に生きて来たし これからも生きて行くだろ一。

…………ひらいもん…………

方言聞き取り調査をしちよると 諸々の資料にも お目にかかち 方言じゃね一が方言の流れにツレノ一チ 移り変わった生活の物語。時代の変換が 一つの記録の中にそっと納められちよつた。そんな内の幾つかを 書きちみました。

- 1 調査員が選り抜きした『方言番付表』 必ずしも この番付が正しいか判らんけんど 読んで下さるしが ご自分で編成をしてもらえれば 又味が出るかんしれません。町内でん地区により方言も違ふ例もあるき。
- 2 米価ん移り変わりは 明治かる昭和63年まじ。
- 3 方言に使わるる花 鳥 風 月にも 故郷ん人の情けが伝わりそうに感じられる。
- 4 難しい 身近 動物それらを 連想する地名も並べました。

- 5 中部小学校の5 6年生に 調べた方言をどんぐれー知っちゃうか 又好きな方言なんかも。
- 6 日中 太平洋戦争の記録からの 抜き書きも入れちみましたが どぉー。
- ★ 捜せば面白いものも沢山ありました。故郷に根づいた文化財方言 人の心に溶けこんで長い歴史と共に 歩いていますから 生活の中には欠かせないものです。これからも大切に守り先人の残した文化を大事にしたいものです。調査資料を見せて頂いた 皆様に厚くお礼申しあげます。



米価暦

明治元年	1 円 6 9 銭……………	戊辰戦争
“ 5 年	1 円 8 0 銭	新橋鉄道開通
1 0 年	1 円 3 4 銭	西南の役
1 5 年	2 円 0 8 銭……………	日本銀行創立
2 0 年	1 円 4 6 銭	
2 5 年	2 円 2 8 銭	2 7 年日清戦争
3 0 年	4 円 1 6 銭	
3 5 年	4 円 9 6 銭	3 7 年日露戦争
4 0 年	4 円 7 2 銭	
4 4 年	6 円 1 6 銭	4 2 年米検査制度
4 年	4 円 3 7 銭	
9 年	2 0 円 0 0 銭……………	第一回国勢調査
1 4 年	1 3 円 6 0 銭	
3 年	1 0 円 6 0 銭	2 年東京地下鉄開通
8 年	1 0 円 8 0 銭……………	米穀統制法公布
1 3 年	1 3 円 4 2 銭	1 2 年日中戦争
1 8 年	1 8 円 4 2 銭	2 0 年終戦
2 3 年	1 4 8 7 円	
2 8 年	3 2 8 0 円……………	N H K T V 放送
3 3 年	3 9 6 0 円	
3 8 年	5 0 3 0 円	3 9 年東京オリンピック
4 3 年	8 2 0 8 円	4 5 年大阪万博
5 3 年	1 7 2 3 1 円	
5 8 年	1 8 2 2 6 円	6 2 年米価戦後初の値下げ
6 3 年	1 6 7 4 3 円	

古くから美しい物とされている 花 鳥 風 月 に関わる方言から 幾つか取り上げてみました。

★ 花…リンチョウ。オリバナ。ジジバナ。アカマンマ。
シビトグサ。ネムリコ。テマリコ。イドラ。カンネ。
ヒデリソウ。ビラビラカンザシ。クビカザリ。
チョウチョコ。トビシャク。ミツバチ。

★ 鳥…サエズル。ワナカケ。トヤ。スズクリ。ネキンス。
ボソ。ゴムデッポー。トリモチ。ツバクロ。トマリギ。
ハナシガイ。ツブ。

★ 風…シケ。セセロシイ。カコイ。ヨナ。ウムス。ツメテー。
ナマヌキー。ユサンゴ。オドロクセー。ガチブルウ。
ツメテー。マジセドカゼ。カゼヨケ。クツシャン。
ツルシガキ。ウズム。シモクズレ。ヤマカジ。ムカイ。
コイノボリ。シモドケ。タコアゲ。ヒョウタン。
シトツク。ジメジメ。フキヌケ。

★ 月…メイゲンサマ。ミカズキ。カソーカブツチョル。ヤミ。
ユウベ。イチノクレ。オコボシ。カエリジモ。クモ。
ヒガクルル。クラスミ。マンマリー。ジュウゴヤ。
カゲチョル。マユ。カクレチョル。チョウチン。
カゲフミ。アシアト。アイビキ。

ちったー違うのもあつたじゃろーけんど こげーしち自然との
関わりを持つ方言は いつでもどこでも 人間の生活に馴染み
切つても切れない結びつきがあり それが人間の苦勞 切なさ
辛さをも癒してくれるのでしょう。自然を大切にすることは 自
分を大切にする ことかもしれんけんど。

難しい地名 身近な物の地名

廻淵…めぐす。日東…ひうがし。立小野…たちうの。落…おとし。
馬乗石…ばじょうせき。土灰瀬…とごいで。皮籠台…かごんだい。
道目…どうめ。桑ノ迫…かんさこ。慶正院…きしょういん。
黒都甲…くろとぐ。雨川…あめご。則暮…ひがくれ。石合…いさい。
馬走山…まわせやま。平連石…ひららいし。見久…けんぎゅー。
双石…なめし。挟平…せばひら。※いくつ読めましたか 地名にはそれなりの理由があって 先人がつけてくれたと 思います。

★ 身近に感じる地名の幾つかを ★

石畳…いしだたみ。米山…こめやま。塩水…しおみず。鍋山…なべやま。
天神免…てんじんめん。水方…すいがた。堂の前…どうのまえ。仏の塔…ほとけのとう。
宮の脇…みやんわき。奥畑…おくばた。練ヶ迫…ねりがさこ。綿打…わたうち。瓜畑…うりばた。
鍋…なべ。麦ヶ迫…むぎがさこ。栗林…くりばやし。柚子の木…やずのき。
長者原…ちょうじゃばる。

岡鶴…おかつる。亀の上…かめのうえ。足熊…あしくま。二の瀬鶴…にのせづる。
南鶴…みなみづる。権現鶴…ごんげづる。上鶴…かみつる。棚鶴…たなつる。
熊の上…くまのうえ。下小屋鶴…しもこやづる。小屋鶴川原…こやづるがわら。
上小屋鶴…かみこやづる。牛内…うしうち。馬乗石…ばじょうせき。赤坂鶴…あかさかづる。
久保鶴…くぼづる。西鶴…にしづる。亀の甲…かめのこう。表鶴…おもてづる。
中鶴…なかづる。鶴迫…つるさこ。馬走山…まわせやま。猿掛…さるかけ。
猿渡…さるわたり。鶴…つる。跡貝…あとかい。尾頭…おとう。上馬場…かみばば。

七瀬川について

その昔野津原を流れる川を 赤坂川と呼んでいた。川幅が広くて大雨が降ると 渡れない事もしばしばじゃった。板橋に紐うつけち流れてん 失わないごつしちあった。

水がチットーヒイテン 橋はすぐにゃかけんじ 川ん中に入り渡ることもあった。特に行列なんかは 川を渡るこつーカチワタリち言いよった。

行列が赤坂川を渡り 戸次い出るまじは 瀬渡りん場所は流れは急じゃけんど わり浅瀬じ自然そく一渡るこち一なり 数ゆると7つあったき いっしか七瀬ん渡しと呼ぶようになり のち七瀬川ち言うごつなった。

七つの瀬とは 一の瀬〈新町〉二の瀬〈恵良〉三の瀬〈新貝〉四の瀬〈山際〉五の瀬〈御堂〉六の瀬〈胡麻鶴〉七の瀬〈八幡田〉とのことで 時代とともに少しは変化もあったよう。

※ くわしい資料はないが 調査の途中で聞いたり見たりしたものの集約をしたもの。べつにも時により幾つかの道があったようです。

今では七つの瀬があるから 七瀬川と呼ぶけれど それで通じますが 特別な資料に使う場合は専門書で 調べて使うのがよいかも。こんな夢が込められた美しい川……七つの瀬を渡る人たちの姿……タイムスリップ しそうです。



中部小学校の方言調査から 5年6年生徒の複数回答

1 好きな方言と意味を知っている					
	5年	6年		5年	6年
メンドクセー		1	ツメテー	1	
ウマソウ		1	ミチクリー		1
ブス	1		スゲーナー		1
ヨダキー	9	8	ネムテー		1
ウチラ	6		ウルセー		1
エトガシラ	3		デケー		1
エラモン	4		ボクドー	1	
アチー	8		オッス		1
エエラシイ	6		コチャマクレ		1
ノコ	2		コズク	1	
シャーシー	10	3	シッコル		1
スカン		2	ハガイイ		5
チャチャクモチャク		1	ダリー		5
オジイ		1	ナンショル	1	1
スモシレン	2		ワカラン		3
ムゲネー	1	3	ナンチ		3
アゲナコツ		1	ナンシカ		3
ダツタ		1	キサネー		3
ヨッコクレ		1	ナンションノ		2
カタス	1		セツチー		3
コシー	1		ナンカ		2
キッコクレ		1	アンゲ		1
クサレ	1	1	シヨルカ		1
アゲンフーニ		1	ナシカ		1
クレナー		1	シコタマ		2
サミー	2		ヒモジイ		2
ドークル		1	ヤシボ		1

キチー	2	ムカツク	4
タキモン	1	モロ	1

2 判らない方言について

ヌシャー	お前は あなたは
ツンボ	耳の不自由な人 現在使わない
ツツネー	汚れる いやらしい 迷惑する
インゲ	いいえ
ヨダキー	気乗りしない 疲れて休みたい
ブス	見た目がおかしい人 《心はいいかも》
ヌシ	あなた 主 主な人
セチーノー	情けない 辛い 悲しい
セチー	辛い 悲しい
エラモン	偉い人 自分で偉ぶる人 考えの異なる人
エエラシイ	かわいい あいらしい
バカラシイ	話にならないさま 損な状況
ワガドー	あなたたち お前たち
コーチモロータ	買って貰った
スモツクレン	つまらぬ事 異常な話し
ベベコ	肩車
ネコ	一輪車 便利がよくコマワリガキクから
タキモン	薪 燃料
コビリ	食事と食事の間に食べる物 あやつ
ギューラシイ	賑やかすぎる事 騒ぎ立てる
コシャマクレ	子供なのに大人のような
ダリー	疲れる

3 方言をどう思いますか それに対して次のような答えが

※ なぜ出来たのか 言葉に味わいがある 他の方言も聞きたい。

※ 難しい言葉が沢山ある 変な言葉がある 覚えにくい 共通語が通じない 昔から使われていたのだろうか。

※ 普通使うから別に思わない どうも思わぬ 使いやすい 話やすい。

※ さっぱり解らない 意味が解らないから嫌い。

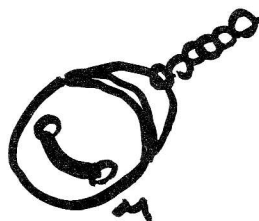
以上のような意見がありました。日頃から何げなく使う人はごく自然に 方言が出ますが 慣れない人は難しく感じるでしょう。方言は土地に根づいて育ち使われたから 他から来た人には中々馴染みにくい 言葉でしょう。言葉を使う人間の古くからの 生活の道具であつたわけですから その土地の人には捨てがたい気持ちが あるでしょう。

土地を離れて他の場所で 慣れた言葉を聞くと懐かしくなるのも そんな生活に放せぬものが あつたからです。

5年生 6年生とダブル答えもありますが 内容で全く異なつた答えが出たのも それだけ勉強の進み方が大きい 証でしょう。方言ではない物もありますが 調査して書いてくれた心に対して記録に残しました。沢山の資料ありがとうございました。

日中、太平洋戦争記録

1 2 …… 7 …… 7	日中戦争勃発
1 2	南京占領
1 3 … 1 0	広東 漢口占領
1 6 … 1 2 …… 8	真珠湾攻撃 マレー半島上陸
1 2 … 1 0	マレー沖海戦
1 7 …… 2 … 1 5	シンガポール陥落
5 …… 7	コレヒドール島占領
8 …… 9	第一次ソロモン海戦
1 8 …… 4 … 1 8	司令長官山本五十六戦死
5 … 2 9	アッツ島守備隊全滅
1 9 …… 3 …… 8	インパール作戦開始
6 … 1 5	アメリカ軍サイパン上陸作戦開始
1 6	北九州空襲
7 …… 6	サイパン守備隊全滅
1 0 … 2 5	神風特攻隊出撃
1 1 … 2 4	マリアナより東京空襲
2 0 …… 4 …… 1	沖縄本島にアメリカ軍上陸
5 … 2 5	東京夜間空襲
6 … 2 1	沖縄地上部隊全滅
8 …… 6	広島に原爆投下
8 …… 8	ソ連対日宣戦
8 … 1 5	終戦の大詔を録音放送
9 …… 2	戦艦ミズリー号上で降伏文書に調印



恵良の大火 38 2 27

23戸の132人が焼失された日。類焼者…ハシモトコジロー。
モリミツクニ。ハタノナラオ。マキノトミオ。オノヒトシ。モリマ
サト。イチミヤツギオ。ハタノタツオ。ハタノタモツ。ハタノフミ
ト。ハタノイチオ。イケベトシオ。セキモトナミオ。カクゴロク。
モリフジコ。ヤマサキキミト。イケベタズオ。イシイトシオ。ヒョ
ウドウ……。イシイヒサノ。ハタノフクマ。イノウエサトル。
半焼者…ハタノアキラ。イノウエタダシ。イケナガモモト。

この年の主なメモ

- 38 …… 3 … 10 新大分発足
- 22 皇太子妃流産
- 4 …… 3 竹の内火災
- 6 宇曾山火災
- 10 佐藤道雄告別式
- 17 木下県知事三選
- 5 … 18 臨時運転免許試験 東部校であり
- 7 … 12 大分鶴崎新産都指定

大火災には冬の用心水しか流れていず 水を仕掛けて流れて来た
時には 既に燃え上がり手の施せない有様で 大分からの消防車も
寄りつけず 水もないので川からホースを繋いで放水したが 西風
が強くて瞬く間に燃えついた。近世の大火であったと思われる。一
週間のちに竹の内の火災でも水が問題 反省された。

口説き唄、新しい歌



……口説き唄……かって働く人の働く唄であった。

それが人の交流で心を癒す唄にもなった。地元に生まれよりも外から入ってきた 《他の人が地元に残した》 ものが多いごたる。参勤交代時代の人の行き来によつち 持ち帰られた唄や江戸期以降に 労働者によつち入ったもん 持ち帰ったもんが唄い継がれちいることも考えらるる。

労働唄としち辛さ苦しさ悲しさを 癒す方便にしち根強く残されたが 近時は影う潜めちよるごたる。

肥後の熊本おやなぎ町に ヨイトセドッコイセ

ごんざどのとて徳者がござる アラヨヤサノセヨイサノサ
徳者すれども世に瀬はござる

先のカササマ長々ご病気

可愛い子供が姉弟ござる

姉のおよしが十三の年
弟松次が当年七つ
七つ時にて母様ご病気

長のご病気で合い果てました

どうせあとより貰わにゃ立たぬ
言うて貰うたが久留米のご城下
ご城下育ちでご器量はよいが

器量よいほど心は邪険

来るとごんざに申せしことは
わしの願いは他ではないが
あの子姉弟殺そうじゃないか

あの子姉弟殺しておいて

わしとあんたと楽しょじゃないか
言えばごんざが申せしことは
あの子姉弟殺さんとても

二年三年立つたるなれば

姉のおよしは縁にもときょうど
弟松次は奉公に出して



言えば女房はそれ聞きいれず

わしに今日から暇くだしゃんせ
好いた女房にゃ暇とはならず
それをお好が寝ざめに聞いて
朝も早う起き座庭の掃除

松次松次と小声で起こし
松次よう聞け大事なことで
松次驚きこりゃなにごとか
姉のお好は手にじゅずかけて

弟松次に香花もたせ
急ぎ急ぎてみ墓にまいる
先のみ墓に両手をついて
先のカカサマ願いがござる

私しゃこの頃新家もちで
味噌がないので味噌たきまする
味噌の豆なら三里の道も
戻り立ち寄り食べ見るものよ

くせの豆ならまだたけませぬ
そこで庄屋が申せしことは
私しゃもとよりとうバト育ち
くせの豆ならなおさらのこと

言うて庄屋がフタ取りみれば
中で荒神エビのごとし
あとのお方へお譲りしましょう

猿丸太夫

猿丸太夫は奥山の　チリツンテンシャンアラヨイショヨイショ
モミジ踏み分け鳴く鹿の　ソレソレ　ヤトヤンソレサ
往来山で鹿が鳴く
寒さで鳴くか妻呼ぶか

寒さで鳴かぬ妻呼ばぬ
明日は小山のおシシ狩り
来るか来るかと川下みれば
川にゃ柳の影ばかり

二度と待つまい川越しなじみ
空が曇れば気がもめる
心せこ寄りゃ川せきなされ
川にゃ思いの鯉も居る

踊り踊るなら品よく踊れ
しなのよい娘を嫁にとる
あの娘よい娘じゃボタモチ顔じゃ
キナコつけたらなおよかる

わしとお前は茶碗の水よ
誰が混ぜても濁りゃせぬ
わしとお前はお倉の米よ
いつか世に出てままとなる

踊る中でもおの娘がいちよ
あの娘育てた親みたい
山で赤いのはツツジに椿



咲いてからまる藤の花

恋し恋しと鳴く蟬よりも
鳴かぬホタルが身をこがす
松の木のねにクルミを植えて
松に来る身は楽しかる

揃うた揃うたよ踊り娘が揃うた
秋の出穂よりよう揃うた

左衛門

くしは太いまの大ずかし　ホホンホ　アラドッコイドッコイ
金の楊枝をびん元に　ソレエソレエ　ヤトヤンソレサ
咲いて咲かせてしなやかに
すそにゃ白足袋ならぞうり

たもと提灯火をつけて
しゃならしゃならと忍び行く
忍び行くのが伝正寺
夜のことなら門しまる

大蛇となりて名をかえて
七巻半に巻たてて
裏にまわりて塀を越え
表正面うちまわり

俊海寝間にしのびこみ
俊海さんとゆりおこし
俊海驚き目をさまし

夜の夜中に来たものは

狐タヌキの化け物か

あるいは墓の亡魂か

主を名乗れ名を名乗れ

もしも名乗らねばひと討ちと

守り刀を手にとれば

討たば討たんせ俊海さん

わしは裏町おろくだど

文も度々送れども

ついに一度の返事もない

そこで今宵はしのびきた

そのこと俊海聞き入れて

今宵一夜の帯とかしょ

一夜ふた夜はわしゃいやよ

枕さだめのその内に

夜はほのぼのと明けにける

起きていなんせおろくさん

前の小藪の竹でさえ

雪に押されてしおるほど

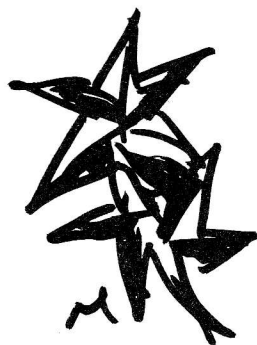
門の外まで見送りて

おろくはわが家と立ちかえる

俊海わが家と立ちかえる

誰が言うたやら和尚さんの

耳に入れては和尚さんが



俊海よう聞け一大事

この寺取らしようと思うけど

男女禁制伝正寺

男女遊びをするからにゃ

今日きり暇をやるからにゃ

カラカサー一本さしかやす

門の外にてあわれさは

上り行くかと思えども

下り行くかと思えども

このことおろくに知らせんと

おろくがやたくをさしてゆく

亥の子餅〈今市〉

大国さんと言う人は 一人で俵ふんばつて 2でニッコリ笑って
3で杯さしおって 4で世の中よいように 5ついつでもご蟲肩
に 6つ無病息災で 7つなにごとないように 8つ屋敷を買い
広め 9つここに留まって 10でとうとう納まった。ドッサリ
祝うちょくれ。

〈野津原〉

祝いましょう祝いましょう こん夜の亥の子 祝わん者は鬼う
め蛇うめ 角はえた子うめ エートナエトナ もひとつおまけに
祝いましょう祝いましょう。

手まり唄

一番はじめは一の宮 二はまた日光東照宮 三また佐倉の宗五郎
四は信濃の善光寺 五つ出雲の大社 六つ村村天神様 七つ泣く
やら弘法さま 八つ八幡の八幡宮 九つ子供の大社 十でとうとう
成願し あれほど神願かけたのに 波子の病はよくなりず ゴーゴ
ーゴーゴーと行く汽車は 波子と武雄の泣き別れ。

お城のさん おん様在所が一丁ごで お籠で一丁様どん さした
かどん しのぶかどん どんどんはやるが泥神さーまか ここはし
のはら さかいのどん おんよいわらの吉郎さん 駒造さん と
ぼけてはやるが音八さん 白木屋のおこまさん さいざさん 煙草
の煙りで18歳 酒もつてこい 吸い物なんどは早うもつてこい
ヒーフーミーヨー …………… トコトン。

アンタカタドコサ 肥後さ 肥後どこさ 熊本さ 熊本どこさ
せんばさ せんば山には狸がおってさ それを獵師がアミチャで撃
つてさ 捕ってさ ウマサノサツサ。

手まり唄

いちれつらんぱん破裂して 日露戦争はじまった
さつさと逃げるはロシアの兵 死んで尽くすは日本の兵
五万の兵を引き連れて 六人残して皆殺し
7月8日の戦いに ハルピンまでも攻め落とし
クロバトキンの首をとり 東郷元帥万々歳

十一一合のお豆いり 十二新田の義貞は
十三寒い北海道 十四四国の金比羅さん
十五御殿の八重桜 十六ロシアの大戦争

十七七士の墓きいり 十八浜辺の白ウサギ
十九楠正成と 二十二の宮金次郎 ますますこがしました。

田植え唄

揃うた揃うた植え手が揃うた 苗を植えましようお国の為に
米は宝だ宝の草だ 植えりゃ黄金の花が咲く
今年は豊年穂に穂が咲いて 道の小草に米になる。

替え歌

赤えりんごに口べたひつつけち だまっち見ちよる青い空
りんごんやた一何にも言わんけんど りんごん心もちゃゆう解る
りんごええらしいゃ ええらしいりんご。

うーちゅー出る時ゃちいちきち うーてんうーてんちいちくる
ぼちんやた一だまぁねー ええらしやっちゃ。

数え唄

いってんかってん にくらしいことんじょ一言うち 三度ん飯あ
うち食ろうち 仕事あせんじ ごてーしんが ろくでんねーこっ
一言うち ひち面倒らしい 鉢巻きう絞めくーじ くどん前いか
ぐーじ といむえーち食うちよる。



牛飼い数え唄

1つとせ…市場牛買う時は血統選んで買しましょう。2つとせ…触れて触って撫でて見てお乳のよい牛買しましょう。3つとせ…見た時上等な牛などで名ない牛買うじゃない。4つとせ…他所の牛見て我が牛なおせ調教訓練ツノ周り。5つとせ…いつも運動忘れずに太るにつれてエサをやる。6つとせ…無理な荷物はおわせずに大事にしましょうミモチ牛。7つとせ…夏の牧草草づくり冬の準備をいたしましょう。8つとせ…病にかかりしその時は我を忘れて看病を。9つとせ…これ見よ私の育てた牛品評会には一等賞。10つとせ…登録検査は無事にすみ育てかいある金杯牛。

口説き唄 おロク春海

弟子も数あるそのうちにハハハ 一の弟子に春海どソレエヤソレエヤ アトヤンソレサ
辻の学問色恋の……………それに目をかけある人は……………
少し離れて裏町の……………後家の娘におロクさん……………

田植え唄

腰の痛さにこの田の長さ 四月五月の日の長さ サンヤレ日の長さ
さ 四月五月の日の長さ。

ホーチョヌベヌベ

ホーチョヌベヌベ今夜の夜食チリツンテンシャン アラヨイショ
ヨイショ 早くぬばねば夜が明けるソレエヤソレエヤ ヤトヤン
ソレサ
盆の十六日おぼんかていったらチリツンテンシャン アラヨイシ

ヨ ヨイシヨ ナスビ切りかけフローの煮しめソレエヤソレエヤ
ヤトヤンソレサ。

竹刀踊り

国はごきない河内の国よ サノヨイサノヨイ 河内国では信義
長者 サノヨーヤセ ヨーヤーセ
末の世を取るラントク丸は……歳は十五でまだびたい……
ここに説き出す志賀団七は……いわく因縁口説いてみましょ…

国は奥州仙台の国……頃は寛永十四年……
わしの思いは宇蔵さん山の……ほかに木はない松ばかり……
心せくより川せきなされ……川にゃ思いの恋もいる……
盆の十六日おぼんかていったら……ゴボー大根にコンブの煮し
め……

竹刀踊り《七瀬馬子唄から》

肥後か府内か一の瀬渡りゃ サノヨイサノヨイ
お国訛がなつかしい サノヨーイヤヨーヤーサ
馬に揺られて旅する人にゃ……
馬子の一節心にしみる……
肥後の糸屋の吉兵衛さんは……
京の修行の今さとがえり……

秋葉越えれば火伏せの森に……
フロー煮えたか諏訪の灯見える……
思い巡らす十年前の……
諏訪の街道で病に伏して……
通り合わせた馬方さんに……



助けられての一夜の宿も……

忘れやしないが一言礼を……

さがす七瀬の陽も山に入る……

二の瀬三の瀬無事瀬を渡り……

めぐす不動に笠を脱ぐ……

通り合わせた可愛い馬子に……

捜す馬方尋ねてみれば……

それは私の父親だけど……

暮れに亡くなりあの世の旅に……

なんで無情な涙にぬれて……

あとを継ぐ娘の肩抱き寄せる……

あの娘年頃あねさんかぶり……

いつか覚えた馬子唄を……

里唄

蓑着て 笠着て鍬もって お百姓さんご苦労さん

今年も豊年満作で お米がたくさん取れるよー

朝から晩まで お働き

村の鎮守の神様の 今日は楽しいお祭り日

ドンドンヒャララ ドンヒャララ

今年も豊年満作で 村は総出の 大祭り

ドンドンヒャララ ドンヒャララ。

田植え唄

腰の痛さにこの田の長さ 四月ヨイヨイ五月の田の長さ
紺の前かけ松葉の模様 こんに待つては是非もない

わしに通うなら裏から通え 前は引戸で音がする
音がするなら大工さん雇うち 音がせんようにしちもらえ

わしとあなたはお倉の米よ いつか世に出てママとなる。

尾原白熊練り唄

笛や太鼓でヨイヨイ 舞い立つ獅子はハーソレソレセ
お先祓いのヨイヨイ よいさ道開くハァリャヨウオイヨイヨイ
それ ヨウオイハリャリャ コウリャヤヨイトセ

ハーヨーイトサノサ

伊勢にゃ七度 熊野にゃ三度 愛宕さんにはヨイサ
月参り ソレ

お江戸日本橋 練り出す白熊 これも大名のヨイサ
立白熊 ソレ

変しゅうなきゅうよりゃ ちょろちょろござれ
ござりゃ見もする ヨイサ 見もする ソレ



下宮お着

伊予の松山 皆黒羽織 誰が殿やらヨイサ
おそばやら ソレ
木賊《モクサ》磨きの 熊本よりも 煙りゃ立つても ヨイサ
阿蘇の谷 ソレ
練りも練れたよう 随分練れた 浜のご殿で ヨイサ
練り納め ソレ

下宮お立ち

伊勢は津でもつ 津は伊勢でもつ 尾張名古屋は ヨイサ
城でもつ ソレ
もうまゝお立ちか お名残り惜しや 浜のご殿を ヨイサ
後にして ソレ

本宮着

ござれ話そっや 小松の下で 松の葉のように ヨイサ
こまやかに ソレ
さまは三夜の 三日月さまよ 宵にちらりと ヨイサ
見たばかり ソレ

千秋万歳

千秋万歳 思うたこと叶うた 末は鶴亀 ヨイサ
五葉の松 ソレ
茶屋場もどりは 皆すげ笠の どれが姉やら ヨイサ
妹やら ソレ

白熊音頭

源の頼光がソコデセイハリャリャ 大江山にて鬼人を退治す
ヨイヨイヤ それで都が治まる繁盛 エーヤレソレエササトセー
ハアリャリャ コリャリャ ハーヨーイトセ ハーヨイサノサ

正月になれば 門に門松裏白飾り ヤレ 子供ごまうつ羽根つく
繁盛

七月になりぬれば 同じ七日のうら盆なれば ヤレ 白い浴衣で
踊り子が繁盛

八月になりぬれば 神の降臨で御幸のせつは ヤレ 獅子や白熊
でお勇む繁盛

煙草屋の源七が 親の敵を妹に討たれ ヤレ それが無念の腹切
る心中

もうまゝお発ちなヨイヨイ お名残り惜しやエイソーレソーレ
花のナー都をヨイヨイ ハリャヨーイヨーイ ヨイヨイヨイ
ハリャリャ コリャリャハアーヨーイトセ ハーヨイトサノサ

お江戸日本橋 揉んで出る白熊 あれはナーお大名の伊達白熊

さても見事な お江戸の道中は 松にナー柳を植え混ぜて

瀬田の唐橋ゃ 唐金擬宝珠

松が繁りて 屋根間が暗い 下ろせナー小松の一の枝

ひょうごつきしも ながつきそめて いつもおろかやオリヤ
ソラもうりしうの ハリヤヤヘトコセ セーノヨーイヨナ ハ
レッサ コレワイサ ハヘヨヘイトセ ハーヨイトセノセ

白熊伊勢音頭

伊勢にゃ七度ヨイヨイ 熊野にゃ三度エートコセトーコセ 愛宕
さまにはヤンレ 月参り エーサァサァヤートコセーノ ヨイヤ
ナハレワイサ ヨイ コレワイサ ハーヨーイトセ ハーヨイト
サノサ

安芸のナァ 宮島周りが七里 浦は七浦ヤンレ 七表

主はナァ 三夜の三日月さまよ 宵にちらりとヤンレ 見たばかり

思うてナァ 通えば千里が一里 逢わで帰ればヤンレ また千里

思うてナァ 来たのに去れとはなにか 秋の田をこそヤンレ 稲
と言う



白熊練り《和歌の浦》

和歌の浦にはヨイヨイ 名所がござる ウンハラヨーイ ヨイヨ
イ ヨイハリャリャ ヨイ ヨリャリャハ ヨートセ ハァヨー
イトサノサ 何が名所か 七つ子がはらんだ

山の中でも 小倉木ゃ名所 白杵五万石ヨイサ 目の下に

山の中でも 杵原ァ名所 府内城下がヨイサ 目の下に

千秋万歳

千秋万歳願うこと叶うた 末は鶴亀ヤンレ 五葉の松エーササヤ
ートコセーノヨーイヤナ ハレワイサ ソレ コレワイサデ
サーサナンデモセー

縄飛び唄

誰かさんお入り ア だいおろし
アツポコシコシコ アツポンポン ジャンケンショー
負けたお方は 出て頂戴

次の人お入り ア だいおろし
アツポコシコシコ アッポンポン ジャンケンショー
アイコレショー 又負けた 負けたお方は 出て頂戴

田植え唄

腰の痛さに この田の長さ
四月ヨイヨイ 五月の日の長さ

サンヤレ 日の長さ
四月ヨイヨイ 五月の日の長さ

紺の前かけ 松葉の模様
こんに待つとは 是非もない

わしに通うなら 裏から通え
前は車戸 音がする

音がするなら 大工さん雇うち
音がせんように しちもらえ

わしとあなたは 羽織の紐よ
胸で辛苦を 結びあう



よろず漫才

そもそも神はボンデンタイシャク天皇 下は時代の天皇 閻魔法王 不動明王 東に40末社 西に80末社 合わせて120末社の神神様を この屋敷にご勧請申したてまつれば 誠にめでとうそ
うらいける。

このお屋敷は東上り西下り 北をかる一て南向きのよきお屋敷なれば よき土を引きならし ミカゲのエンダを据えたまい それには土台を引きのせ 柱の数は9000本の よきお屋敷なれば 中に福德シューラ明王と 祝いたてまつれば誠に めでとうそらいける。

1, 1 おくおくセンジュ漫才と たてまつって 1本の柱がイヌイの大黒柱と祝いたてまつる。二本の柱は日天 月天 三本柱が三宝大荒神 四本の柱はシナノの権現 五本の柱はゴーシュー山田権現 六本柱はロクジの地藏尊 七本柱は七福神 八本柱は箱根権現 九本の柱は熊野権現 十本柱はシューラ明王と祝いたてまつれば誠にめでとうそらいける。

残る社は下までもモモチマンの神神と 祝いたてまつれば誠にめでとうそらいける。

葺き草におきましては ツル ガン カモの小鳥の羽根を集めて あ釈迦の御弟子が オヨリニナッテ ひとホコ葺いては 二千ダイシャ ふたホコ葺いては四千ダイシャと 三三ホコに葺き上げ葺きおろし 両の面にはシンメイ シリョのカブトを据え あちらが日天こちらが月天と 祝いたてまつれば誠にめでとうそらいける。

年の始めの年男 チヂミの刀をこっして差して 南天に立てエイジの門を押し開き ミイのお山を押しただけ 誠にめでとうそらいける。

《ヤレコレ漫才》足こそ痛かれ腰こそ痛かれ 足腰痛うでも立たずばなるまい。立つたることならヒト腰舞わずばなるまい。この家の宝は何こそ宝よ 先祖が宝じゃダイサン宝じゃ バアサン宝じゃ。ダイサン宝は何こそ宝よ杖こそ宝よ孫子が宝じゃ。バアサン宝は何こそ宝よチャワンにヒシャクに茶道具なんどが 一番宝よ。

農家の宝は何こそ宝よ 牛こそ宝よ馬こそ宝よ 牛はどこ牛ゴト
ーやヒラトの肥後牛なんどが 三日月なりの角おぼもつたて 朝日
に向かってモンモンとホケレバ これまためでたい。馬じゃどこ馬
日向や薩摩のマキウマなんどが 金銀づくりのコグラを乗せかけ
前田が千丁裏田が千丁 梅木のコガラにコウカのヒジギに タタリ
が柳でスキサキヤドコサキ お宮の馬場先お寺の門先 刀のキツ先
ハカマのブッサキ 羽織のエリサキ お顔じゃ鼻先お腹じゃヘソ先
チンポじゃマラサキ 〇〇〇じゃサネサキ……

ミズナシ八尺ヒキオが一丈 道具が揃う一た カキテは誰じゃい
オーエノゴンゾーにタゴヘーなんどが 横目にサラサラ立て目にサ
ラサラ ソラカケヤレカケ 牛んけつーピツタテーチよくよくかけ
たる その田の植えては誰じゃい 上ん段のセンガカカ下ん段のマ
ンガカカ おツルにおカメにおチョージャなんどが 平家のパッソ
ン大きなサネモリ パッチリハサミデーチ チョンポリチョンポリ
チョポリと 植えたる その田の実りのよさこそ奥山クリのごつ
前山シイのごつ パッチリパッチリ実つちござれば これまためで
たい。

野菜の類ではオーネギにコネギ ニンジンダイコにゴボーのよな
もの フツクリ膨れて実ってござれば これまためでたい。おイモ
の類ではトイモにサトイモバレイショなんど 百荷も二百荷もでき
たることなら これまためでたい。お豆の類では青豆白豆ダイズに
アズキ エンドーにインゲンなた豆ソラマメフローにニドナリ 味
噌豆なんどがふっくりふくれて実つて ござればこれまためでたい
。お餅の類ではアワモチコメモチ トーキビモチカキモチ ヒシモ
チアラレモチ バーサンデーサンはひよろちーち尻餅。内ん嫁じょ
うにサトモチやらねばフクレモチ。カアサン子持ちで旦那が金持ち
ならば 誠にめでとうそーらいける。



新しいきとの歌

ふるさとソング



……新しい歌 唄……

明治以降には唄を作る心んゆとりも 生まれちくる。特に野津原には 昭和時代かる戦後の近代化によっち 作詞された唄が多く見らるる。地元ゝ題材にした詩に曲がつく 詩づくりから飛躍しち歌づくりに進み 特に昭和 平成時代には 『ふるさとの歌』 や唄が次々に生まれち来た。

新しいきまだ馴染まん曲もあるが これかるん時代の移り変わりの 波に乗っち口すさむことじゃろーち思うが。

七瀬川子守唄

ねんねこしゃ しゃんせエや 寝た時ァ母ちゃんも
ホーラ カタコトトン 機織りじゃ
ねんころりん ねんころりん

ねんねこしゃ しゃんせエや なく時ァ母ちゃんも
ホーラ カタコトトン 機織れん
ねんころりん ねんころりん

ねんるこしゃ しゃんせエや なんぼ泣いてん母ちゃんも
ホーラ カタコトトン 七瀬織り
わかるまで 手はとめん

ねんねこしゃ しゃんせエや 三年やってみた
ホーラ カタコトトン できたのよ
ねんころりん ねんころりん

ねんころしゃ しゃんせエや 寝る子はいいい子じゃ
ホーラ カタコトトン きれいじゃろう
ねんころりん ねんころりん

無題

太郎さんと次郎さんが センチンバン影じ
チンポむく稽古 クルクル クルクル



野津原音頭

ハアー 宇曾群山 くれない染めて
霧がにおうよ 朝山がえり
可愛いあの娘は 誰の花 ソレ野津原よいとこ
ソーレ 野津原よいとこ ヨーイヤナ
ハアー 七瀬七谷 七つの月が
早生を刈る娘の 眉引き姿
誰にあげよか このひと穂 ソレ野津原よいとこ
ソーレ 野津原よいとこ ヨーイヤナ
ハアー 祭り囃子の 郷社の森に
なんの願かけ 晴れ着の浴衣
仇に濡れようか 月光に濡りようか ソレ野津原よいと
こ ヨーイヤナ

恋の七瀬川

思い出と此処に来て 一人歩いた
岸边には今年も 白ユリ咲いてます
楽しかったの今は 素直になりたい
もう一度 二人寄り添う 霧の七瀬川
幸せと書いてみた 心の中に
忘れぬあの人 遠くの町か
追っかけても消えてゆく 淡いシャボン玉
もう一度 呼んで見たいの 夢の七瀬川
せせらぎも消えてゆく 流れるままに
あなたとの生活 沈んだ水の中
泣いてみたって尽きない 叫んでも
もう一度 燃えて見たいの 恋の七瀬川

七瀬川哀歌

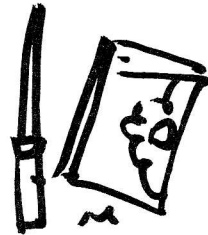
流れる花の 明日はなく 儚く沈む運命なら
浮かべてほしい 今一度 君の面影重ねたい
未練豊後の 未練豊後の 七瀬川

すがり付きたい 夢も枯れ 夜雨に疼く胸を抱く
燃えて届かぬ 恋なのに 残り火焦がす濡れ裳
未練豊後の 未練豊後の 七瀬川

むせび泣くよな せせらぎは 紅葉を散らす血ともえる
由布岳降ろしも 近かろに はぐれ燕の狂い舞い
未練豊後の 未練豊後の 七瀬川

七瀬川

霊山に連なる峰の 奥深き谷ふところに
草かくれ 落ち葉潜りて 耐ゆるなき この流れかな
水上は温見の峠 老いずれば またも夢みつ
雲走る 青き高原 久住嶺は 遠く霞ぬ
人の世の 繁き営み 野も山も 容変われど
この川の 命永久にと 色綾におる 七瀬織
わが生まれし 故郷にあらねど 前の世の深き縁か
この川を臨む 川辺に 汝といねん 奥津城所



野津原慕情

みどりも萌ゆ 若葉も映える山の嶺
桜の花も咲き誇る 四辻峠や大峠
ぜんまい取りに わらびおり
幼き頃の故郷が 臉の裏にしみこんで
あ、思い出の 故郷の山

さわやかに 清き流れの七瀬川
隣の子らと泳いだり ビーロンかけごま 陣屋とり
アブラメ ハエつり ドンクつり
幼き頃の故郷が 心の中によみがえる
あ、思い出の 故郷の川

紅葉が 色鮮やかに変わりゆく
横道の山や宇曾山 すすきも揺れる 街道すじ
山いもほりに 栗ひろい
幼き頃の故郷が 年老うごとになつかしい
あ、思い出の 山や川

ななせ川愛歌

七瀬川は私の母 育ててくれた湧水が
肌にはんわり紅をさすのか 瞳も濡れて
ツル草 まりつき 童唄

七瀬川は私の父 叱ってくれた厳しさの
瀬音優しくいつか別れの 切なさ辛さ
若アユ 馬子唄 丸木橋

七瀬川は私の故郷 愛してくれたせせらぎが
明日の夢を幸せと 胸に抱いて
山ユリ 夕焼け 子守唄

七瀬音頭

ハアー里は宇曾からみどりの野から
明けりゃ川面に鮎が飛ぶ ソレ
揃うた揃うたよ心もひとつ 野津原よいとこ七瀬の里の
生き生きいい町 ソレ 人づくり
ハアーあの娘年頃朝露濡れて
牛を育てるいじらしさ ソレ
揃うた揃うたよ今市原に 野津原よいとこ七瀬の里は
水と緑と ソレ 安らぎと
ハアー昔しゃ馬子唄肥後街道
上り下りの石たたみ ソレ
揃うた揃うたよ行列過ぎりゃ 野津原よいとこ七瀬の里の
夢と人情の ソレ 花が咲く
ハアー北の野野台南の四辻
諏訪の石仏夢さめて ソレ
揃うた揃うた幸せつくり 野津原よいとこ七瀬のさとは
老いも若きも ソレ 生きがいを
ハアーニラだカボスだシイタケ久保茶
柿にいちごに七瀬味噌 ソレ
揃うた揃うたよ真心こめて 野津原よいとこ七瀬のさとの
土の香りに ソレ ひとめぼれ
ハアー今年しゃ豊年祭りの笛が
実り嬉しい十五夜の ソレ
揃うた揃うたよヤグラの上で 野津原よいとこ七瀬の里は
森と泉が日本一

せせらぎの女

お前不幸にしたいはないと
言って振り切る 貴方がにくい
肌の温もり確かめたのに
せめても一度 腕のなか
行かないで行かないで 七瀬川を
さよならも切なくて
霧が霞んだ ああ せせらぎの女

貴方なしではこの命さえ
ほしくないわと唇かんだ
そえぬ運命と今日まで来たが
つのる思いが 顔を出す
逢いたいよ逢いに来て 七瀬川で
さよならは辛すぎる
紅が悲しい ああ せせらぎの女

そっと背中に貴方の名前
書いたあの日が 寂しく揺れる
いつか添える日 野仏さんに
祈る袂を風が吹く
寂しいよ思い出は 七瀬川に
さよならって言わないわ
笹の葉ずれが ああ せせらぎの女



ああ石合原

浮き雲流れる青い空 枯れ野原芽をふく高原の

ああ高原の春

小さな校舎が大きく見えた あの日校舎の桜の花が

ああ石合原懐かしく思い出す

茶場過ぎれば一本をぬぎ殿様お駕籠で通った

ああ通ったそうだ

あの道この道八年間の小さな足跡聞こえてくるよ

ああ石合原通り道枯れすすき

ふく風季節の味がする 石合原あの丘校舎の窓に

ああ校舎の窓に

心は豊かに育ってくれた なんだか似たような友達同志

ああ石合原今一度帰りたい

七瀬みれん川

忘れたはずの面影が 神楽ばやしに誘われて

七瀬の里の鈴が滝 二人の愛を笛の音に

流せば悲しい みれん川

桜が里を染める頃 きつと帰ると言いながら

七瀬の辻に抱き寄せた 信じたあなたもう五年

夢に見ました みれん川

御神燈あかく灯る夜は どこか似ている横顔が

思い出させる恋蛍 みれん心またつのる

しあわせ下さい みれん川

さとうた

朝海山峰駕籠の台 穴を掘って入蔵 チョコチョコ上つて宇曾山
糸棚ギスギス奥スズメ 山中カラスが泣くときは 石合ワクド
小原高沢杵原 昼でもタヌキが出るところ。

七瀬馬子唄

アオよ勇めよ宿場はそこじゃ あれが街道の石だたみ
三里坂道荷物を渡しゃ うしろ姿に涙ぐむ
久しぶりだと10年前の 客を乗せての馬子の旅
トチの高岩朝日が照らし 日向道から初もうで
白熊獅子舞い祭りの夜は 恋にこがるる出会い橋

宇曾に行こうか荒木に出ろうか 四辻峠の思案顔
神楽見たいが足止めされて 呼ばずに来るのが祭り客
暮れた夜道に里の灯見える あれは丹生山練け迫
草が長くて姿が見えぬ 積荷出来たかあの二人
朝山帰りの荷草に揺れる 可愛い山ユリ誰のやら

迎え提灯足もと照らし 母に峠の暇乞い
カゴで行こうかあの石だたみ 宿の障子に灯がともる
肩を抱き寄せ乱れた髪を 撫でりゃ馬子唄近くなり
瀬戸の地藏に何願かけた あの娘秋には歩くのに
母は達者か小岩戸橋を 渡りゃ背の子も荷も軽い

鮎は追いたし荷物はあるし 馬子の仕事はままならぬ
上りや栗灰下れば瀬口 中は今畑春かすみ
竹か梅かと辻田に聞けば ほかに木はない待つばかり
弘法まわしに思いの謎が 解けてうれしや里の月

秋葉越えれば灯伏せの森に フロー煮えたか諏訪の灯じゃ
三筋煙りが止まれば明日は 炭をオセダス沢田谷
好きと言えない風呂たく暮れの あれも19の身を焦がす
神楽ばやしに更け行く夜は 濡れてみたいよ鈴が滝
伊塚越えれば土産は肥後の おてもやんとはいじらしい

肥後か府内か一の瀬渡りゃ お国訛がなつかしい
西は伊塚か古道過ぎりゃ 宿場野津原灯が見える
告げぬ思いのあの人待てば 今日クルクル水車
七瀬川原のイドラの露が しのぶ二人の肌濡らす
府内帰りの馬子唄聞けば 針を持つ手がまたとまる

泣くなあの夜決めたじゃないか 苦勞承知の二人旅
七瀬川にはあなたと二人 苦勞する瀬も淵もある
二の瀬三の瀬無事瀬を渡り メグス不動に笠を脱ぐ
霧の米山殿坂上りゃ 笛の調べか御所の森
明日は立つのか小窓を開けて 宇曾に小雨が降ればよい

冷えた夜風に甘酒ついで 揺れる障子の影ふたつ
あの瀬浮かべた小舟の舵を どこのだなたが取るのやら
赤米まつりとサナブリ済めば 月も米山十三夜
在所恋しや歩けば三里 山が高うてままならぬ
あん娘年頃あねさんかぶり いつか覚えた馬子唄を

やっと覚えたのにせがまれて 歌う馬子唄乱れ足
昨日屋形木明日籠の台 タンス長持ち祝い唄
行かざるまい待たせた夜は しのぶ恋路の月あかり
広戸川久保積荷もすんで 主の後追いしてみたい
白山権現雨乞いすれば 西の鶴山雲がたつ

アイと答えた神楽の里の あれも年頃目が可愛い
泣いてくれるなお前と二人 あって私の晴姿
竹矢辻原恵みの水に 実る稲穂のおじぎする
のろし上ればお船が入る あれが鶴崎京の道
よけた夕立ゴザ引き寄せて 子供のママゴト一休み

湯立てしてからお前と二人 起きた子供を寝せつける
そっと揺れてる茶摘みの中に 田吹き娘のスゲの笠
里のテンボナシおさげの胸に 抱けば背の子も手を延ばす
コバン鼻から船平まわりゃ 炭焼く煙りの流れゆき
寺の周りに思いを込めて ナンテン可愛いやガラン鶴

愛宕地蔵にお百度参り 親は達者か背伸びする
竹のさやゆれ笠松眺め 梅は羽原か日向山
塩元訪ねて川面にうつし 水を汲む娘の櫛けする
大師まわりも無事今終えて 般若心経南岳寺
早く行きよと気づいた義姉が 親に内緒の戸を開ける

一里ムクの木岩下までは 雨も苦にせぬ石だたみ
忍ぶ夜道の石角まがりゃ 胸も高鳴る影一つ
御輿廻せばいつしか夜も 更けて二人の太田川
峠越したらコウシンツカの 真萱訪ねる旅の女
遍路しばしのトキ開かせて 菊の尾原で語りかけ

カゼをひくなと送ってくれた 奥とメグスの辻の道
小原高沢さと道辿りゃ エビネ咲くとはいじらしい
水の流れが涙で曇る 工藤三助しのぼるる
頬に粉つけ嫁ぐ日近く スリの乙女が米をつく
白家育ちが祭りの夜に 主の神楽は目を奪う
里の丸山迎える鳥が 小無田過ぎれば鳴いている

三里上れば八幡さまの 今日も飽きない門を見る
水が多くて瀬越しが出来ぬ ふた夜泊まれば情もわく
殿の行列荷物を受けて 馬子の衣装もよく似合う
馬子じゃ嫌かと返りの言葉 待てば背向けて首をふる
さっと差し出すヒヤキを草に 二人並んで忍び食い

雪も解けたかま白い中に 赤いナンテン覗いてる
七瀬七谷朝日を受けて アオよ勇めよ馬子の唄。

ハァ 七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ ホイホイホイ
七瀬のせせらぎ 子鮎がスイスイ ホイホイホイ
七瀬のほとりにゃ 紅葉がチラホラ ホイホイホイ
七瀬のほとりにゃ 小雪がチラホラ ホイホイホイ

など適宜に組み合わせて歌う。町内の各地を題に77編あり地区
に合わせて 歌っていただければ幸せです。



三助おどり

山が高うち 待たるる水が
木の葉揺らしち 里につく
三助まつりの 涙に濡れち
里に帰った 娘〈コ〉も濡るる

岩をくぐっち ここまじ来たと
顔を覗かす いじらしさ
三助まつりに 揃うた揃うた
稲の出穂まじ よう揃うた

ヒサゴ オオタツ カギオノ井手が
みのり豊かに 手をかした
三助まつりは 嬉しい秋の
ヤグラ太鼓に 丸い月

長湯はや立ち 谷めぐらせち
苦勞承知の 淵もある
三助まつりが あん日に馳せち
水は止まらん 横瀬まじ

戦後野津原にも芸能関係の集団が 発足して心の浄化による
明るい 故郷づくりが活躍しはじめました。七瀬舞踊団もその
ひとつで 荒びはてた気持ちを活気づける そんな願いがあつ
て 舞踊を中心に音楽に広がり 青年団が素人演芸を突破口に
ふるさと文化が広まった。歌も遅れたけれどトップに出た
『野津原音頭』 には振りもつけられ多くの人に愛された。

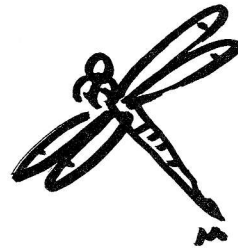
生活が安定農村の活性化 世情が景気を回復すると 人の心も
余裕が出来る。趣味のグループが多くなり 芸能文化も拡大して
故郷を材題にした ご当地ソングが流行してくる。昭和50年代
後半には 『七瀬馬子歌』 つづいて七瀬川に寄り添うように
歌も誕生する。『七瀬音頭』『ななせがわ愛歌』 そして恋の歌
も……『野津原慕情』『恋の七瀬川』『せせらぎの女』『七瀬み
れん川』『諏訪の恋い歌』『三助おどり』……と続く。

諏訪の恋い歌

諏訪の出水の せせらぎは
渡る瀬もある 淵もある
苦勞承知の 私です
流す涙も いっしか尽きて
肌に伝しく 夢も消えそな 七瀬川

そんな貴方に いつからか
つのる想いが 切なくて
心燃やした 私です
寒くないかと 抱かれた肩に
花も咲きたい 欲が未練の 七瀬川

まこと捧げて 揺らす髪
越えた飛び橋 これからは
絆むすんだ 私です
離さないよと 背中に書いた
さざめ信じて 巡る月日の 七瀬川



野津原青年団団歌

恵みうるわし 山や川
我らに希望《ノゾミ》の明日がある
育み培い 母なる故郷《サト》の
愛の灯うけて起つ《タツ》
ああ野津原青年団われら

炎ともゆる 清《ウレ》しき瞳《メ》
我らに青春《ハル》の 夢がある
あけわたる空に 母なる故郷《サト》の
理想の光 かざすもの
ああ野津原青年団われら

果てなき歩み たゆみなき
我らに誇りの 道がある
大地の叫び 母なる故郷《サト》の
つきせぬ真実《マコト》 もとめゆく
ああ野津原青年団われら

野津原に関連した 新しい歌を幾つか収録したき 掲載しました。
。作詞された方に 厚くお礼を申し上げます。紙面を飾り 町民
に故郷のよさが改めて 認識されることでしょう。故郷に材題で
きる場所 人 出会い 人情 野津原はそれだけすばらしい所
と思います。

七瀬川には多くの人の愛着もある だから多くの人が川をテーマ
に詩を書ってくれたのだと 思います。ご協力有り難うございま
した。



才言カ
ルタ



方言カルタ

暮らしの中に入りこんだ言葉 生活の道具であり心の結びつきの証でんあるき 放す訳にもいかんし 使うことじ心が通いあうき 役立ち便利じ助かる 儲かることもある。

口説き唄 新しい歌はどげーじゃつたなえー。でーぶん古いやら 野津原う見ちくれち 作った書いたもんが がいとーあるのん やつば野津原がみーんな好きなんじゃろーなえ。

こんだ方言が使うちよるカルタを話そう。諺なんかは生活ん生き字引んよーなもん。なけりゃ不便じゃつたかしれん。長え体験かる生まれた 考えちーた知恵じふんと憎いごたるよーなもんが がいとある。ふらつと ほっとさせらるるごたる。

方言ぬうまく組み合わせたカルタ コトワザは現在社会でん生かされたもん そげなんを参考にしちやるき。

※ 米価はかつて生活水準の基本じゃつた。そん移り変わりを見るのん 時代の推移が計り知るる。長い米統制かる開放されち自由になつたんが平成7年かる。戦後50年目ん節目でんある。

方言カルタ

い 一番ブリーは まつちょクレ
ろ ろくに擦ランジ 出チキチョル
は 鼻ンアタメー 炭つけチ
に 憎しいどころか エエラシイ
ほ 頬タン洗ウチ 炭うおとせ
へ へこたれ腰じゃ すもつくれん
と トーテン大ケナ ワクズ見た
ち チシ割ったキビショジ ヤケズした
り 理屈う言うシニャ 歯がタタン
ぬ ヌリー早えは ゆうちょレン
る るす番シチョル デイサとバアサ
お オランノナチ オランジ来る隣ン嫁ご
わ わしゃソゲンコツ 言うた覚ャネー
か カッチーシナー ワシャしらん
よ 酔うちシモウチ 道うまちがえた
た タキモン取りイキ ケゴーした
れ 蓮根堀りジ アオノキコケタ
そ ソゲンコツ一言ワンジ 聞いちょクレ
つ つきオーチ見リャ ユウわかる
ね ねずみユウトッチ ユビュかまれた
な 懐かしいドゲーナチ 手を握る
ら らつきょーもろうち イムーあげた
む ムゲネーケンド けつ叩く
う ウットウモ入レチ 貧乏くじ引く
い イチミローエ おくれテンユルータカ
の 望みはネーケンド 引いたおみくじ
を オトナシュ寝れと オカンが怒りだす
く クンジイチする シゴターもうデケン

や ヤシブする 隣ンがきがソリュミチヨル
ま 待つチヨルキ本来に来イヤ 湯カル出チ
け ケシカランチ 怒つちゃみたがショーガネー
ふ フウが悪いあいつにゃ あんまりトリアウナ
こ コズカレチ 俺ん悪いぶんもユウ解る
え 縁側に ヨダキューなったか 腰かくる
て 手がツカン 仕事ンジョーガ イッペある
あ 朝顔に早う起ケンカチ 睨まるる
さ 先に行っチョコキ 来ナーエチ目じ合図
き 来チ見チョコレ わしにゃ似合わんいい出来で
ゆ 言うチクンナー 隣ん寄り合い皆くるき
め 珍しうネエケンド 食うチョコレ
み 道は右行っち つきアタッチ
し 辛抱シチョコキヨ ドゲーカナルワナ
え 縁がアリャ どこでん行くで 人ん中
ひ ひとめじ好きに ナッタント
も もう全く言わんき コラエナー
せ 咳ンジョー出チ ドケンコゲンナラン
す 済ンダチ思うたら チット残っチョツタ

イ 一番いい子はコンワシジャ
ロ ロクデンネーなーよそん人
ハ はっはっはっはっアンシコ見よ
ニ にっこり笑うちエンリュした
ホ 本当はアンシモワシグレー
ヘ へりくだつちちょいと断リウ言うた
ト 得がなからにゃソゲンコツーシチョレン
チ 町長さんに頼ウジミロウカ
リ 立派エ出来たら褒美ウもろうた
ヌ 盗んだモンナ手につかん

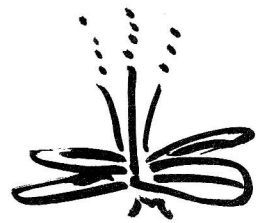
ル 留守番電話お かけそこノータ
オ お岳さんニャ 行ったコターネー
ワ 我喜クウジ ヒツー困らスル
カ 勝手きママジ シテーフーダイ
ヨ 欲を離ルリャ もうしまい
タ 他人のがまぐち 大キウ見ゆる
レ れんげん花え 蜂ん群れ
ソ そっと耳打ち 人ん悪口
ツ 強い弱エーチ 喧嘩うする
ネ 眠りソコネチ 機嫌が悪い
ナ なせば出来る する気がありゃ
ラ らくシチ儲カリャ 一月もネエ
ム 向こう山エ行クナ ドゲー行クカナ
ウ 馬え乗ったに ホラケ落テタ
イ いざと言う時や 馬鹿じから
ノ のぼせち鼻血が とめどもねえ
オ おさな友達 ドゲエナチ声を
ク 口じ言わんケンド 目ジウ言う
ヤ 安物買いすりゃ ヤッパ損
マ 負けチョキヤ いつか勝チウ取る
ケ ケチンボウ 帯の解けタン苦にナラン
フ ふうふくなら モチットハリコメ
コ 心よかりゃ つきあいもいい
エ 遠足は握り飯う食い ワヤクする
テ 手じするコター 何デン出来る
ア 朝腹う立るな 一日悪りい
サ さがしちクンナンナー 宝もん
キ 聞いたコツー すぐ忘るる 調子もん
ユ ゆずつちクリー 何が欲しいかソリュウ言え
メ メッテンコツー言うな 腹立ツルトオジイ

ミ 御輿かついじ 腰タゴケータ
 シ 仕事シスゲチ 熱デーチシモウタ
 エ 偉ブッチみたが 他ンシハ知らん顔
 ヒ ヒンノンジシモウタ ありゃ梅ん種
 モ 儲け話しにチョロマカサレチ 腹う立て
 セ 扇子デンモッチョリャ 汗もコラエラルル
 ス 済んだアトジ コリャシモウタチ ツヅー飲む

……… 方言アイウエオ遊び 幾つ解るな ……………

ア あんげさね	あちらの方に
イ いんげなこつ	いいえ嫌いです
ウ うたちげねー	汚くて人に嫌われる行い
エ えぐーじょる	曲がっている
オ おどくせー	におい 体臭
カ かすごろ	安っぽい考え
キ きさねー	汚い
ク くちやしぼ	いつも何か食べている
ケ けたくそ悪い	きみ悪い
コ こずく	叩く
サ さかしい	元気 けんこう
シ しれっと	冷ややかな笑い
ス すいばり	小さな木片などが刺さる
セ せせろしい	うるさい
ソ そげーせんでん	そんなにしなくとも
タ たごかす	骨や筋を痛める
チ ちしまわす	乱暴に叩く
ツ つみくじる	指や爪で痛める
テ てれっと	ぼんやりと
ト とんぽかやり	逆立ちして返る

ナ	なたくび	痛めて首を横にかしげる
ニ	にやすけ	気味悪い笑顔
ヌ	ぬたば	猪の遊ぶ沼田
ネ	ねちぎー	いつまでも そのことに
ノ	のさん	つかれ たまらない 追いつかない
ハ	はちきるる	ばんばんに大きくなつて切れる
ヒ	ひみんづら	恥ずかしがり
フ	ふが いい	いいあんばい 都合よく
ヘ	へにんならん	どうにもならぬ つかみ所のない
ホ	ほせくる	道具で取り除く
マ	まやんつし	牛馬小屋の二階
ミ	みせぶらかす	得意気に見せる
ム	むげねー	可哀相 いたわしい
メ	めくらめっぼー	無茶苦茶に
モ	もみづき	初のままつく
ヤ	やわたら	青大将
ユ	ゆさんご	ぶらんこ
ヨ	よだきー	疲れて気乗りしない
ラ	らちがあかん	まとまらない
リ	りくつんかおお	理詰めの言い張り
ル	るすしちよる	留守でいない
レ	れんぎ	すりこぎ
ロ	ろくでんねえ	根性がよくない
ワ	わきゃがる	人並みはずれの行動



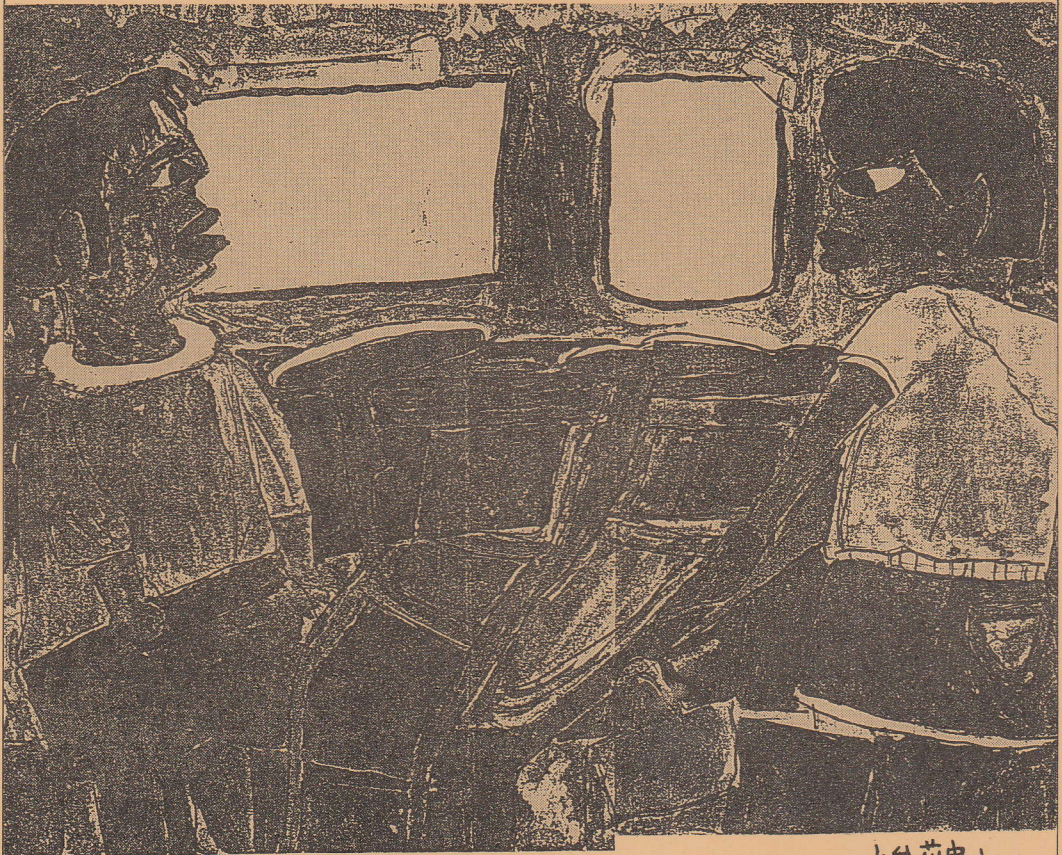
方言いろはカルタ

い イラブケータ罰あたり
ろ ロクデンネーチャ悪あがき
は ハガイタラシイ値が安い
に ニガウリ言うな嫌わるる
ほ ホゲンジョウ言うきトリオーチクレン
へ ヘモツクレンヨーナ言い訳シチミル
と トップゴロ折角いい娘に嫌わるる
ち チシマワシチ後じしもった悔しがる
り 理屈言うワリニャヨダキガル
ぬ 脱いだままアワテチ親に娘を隠す
る 留守番ぬ頼んじワケーアナセセリ
お オトシカルチョコット見するトイモアメ
わ ワカッチョルコイサ招かん客が来る
か カカジッタ血を出す泣くやらわめくやら
よ ヨバイニ行ったはいいがクラサレタ
た タヘラク言うなトリアワレンゴツナル
れ 蓮華が蓮の根タァシリャセンジ
そ ソゲンコツー聞かんち言うたほうがいい
つ ツクレンコツーユウヨダッタノーお前たち
ね ネブリツクようん話しの乗せらるる
な ナントンシレンコツーさせられ腹が立つ
ら 来年な厄年早うヨメゴモラエ
む ムゲネーナアゲマジ言わんじよかろーに
う ウスウイエユウベドキィ泊まつたんか
い イレクッチ儲けち思うたら損しちょる
の 呑気もんが人の知らん知恵を出し
お オナゴシニ旨い口説きと笑わるる
く クニスンナいい嫁ごん娘捜しちゃう

や ヤカマシイ上げた拳骨あろされん
ま ママゴトンお医者さんには俺になる
け ケツクラエ言うち皆を笑わする
ふ フリキンジ見られち欲しがる奴もおる
こ コエタゴヲ追われちケトバスヨバイン夜
え エエラシイチ思ふた時は男がおり
て 手を握り尻に廻した手を打たれ
あ アンゲコンゲいかんじチッタ落ち着きな
さ サトイモン露じ七夕ケエチャロー
き キサネー姿ほんとは心美しい
ゆ 湯にイツタトコルー覗く貰い風呂
め メンドシイ下着忘れち水遊び
み ミチョクレチ言われもせんに胸が張り
し シカブッタエ笑いか色話し
え エオツケンジ鮎うつたえ色男
ひ ヒモジイチツマミグイスル若嫁ご
も モウセンチ言うたが夜はまたほしい
せ センチンジ帯解くヘコハズス奴
す スルカエチ薄目じ見るとヌイジョル



コトワザ



小出莉史

諺と方言と生活

昔んしはゆう言いよった 諺は生活に密着した教訓じあり 道し
るべじあるち。方言は生活ん潤いじあるち。

出針は悪い 鼻尾が切るる 鏡が割るる 櫛が折るる それらは
縁起が悪いち言う。いつも心がけちおく きちんとしちよく 日頃
ん怠りが咄嗟ん時恥じうかくき の戒め。鏡も櫛も女ごしん魂大事
なもん じゃき心しち扱う日ごろん気配りう 諭したんじゃろう。

親の意見とナスピン花は万に一つのアダがねえ。ナスは花には必
ず実を結ぶ 親の言うこたゝ実体験かる じゃき間違いはねえの意
。姉さん女房は金のワラジで捜せ…年上じゃき知的に冴えち家計の
切り盛りがうまい 大事にしちくるる。年が上ち言う感覚が生活上
手にするんかんしれん。

一人身は食えんでん二人は食える 一人なら自由はるけんど二人
になりゃ 計画的に生活うする安定が出来る。律儀者の子沢山 律
議じゃき人との付き合いがうまく 子供の発育にも支えがあっち
いつんまにか育っちいく。

北枕 西向き 死者は北枕にしち寝する。北かる涼しい風が入り
安楽な寝 苦勞した最後にせめても楽に 西向きはぬ仏となっち土
に戻る西方浄土に向くる。そげな心配りを残された人がする 現世
の繰り返しの営みじゃろう。

諺は長え生活ん中かる作りだされた 体験記録かん知れんが 根
拠もあるき素直に守る事も 悪くはないごたる。出針にしてん常日
頃かるきちんと物事に 気配りしちよきゃち言う戒めじゃろう。人
との関わりが姉さん女房じあり 人と組合せち世渡り上手に。

ことわざ

キンキン泣いたら豆まくな ……ヒグラシセミのこと
コネバチオコシとも

一服するんなら鍬ん土う落とせ
びわに麦 梅にたんぼ
医者と風は10時かる
サトイモは田植えん声う聞かんと芽が出らん
アズキはトキワガヤん穂が出るまじ撒く
ソバは水汲みあうと悪い
ゾウリう貰うとオアシが出る

桑をかいだ貧乏なし	割れ鍋に閉じ蓋
女心と秋の空 星七変夜七変	泥棒見ち縄うなう
カンジンは三日すりゃ止められん	負うた子に教えられ
門前の小僧お経読む	病気は口かる
風と客は昼来て夜とまる	猿も木かる落つる
三っ子ん心百まじ	親より先立つ不幸者
早起きは三文の得	貧乏暇なし
盗人にん三分ん理屈	浅い川も深く渡れ
今日するこつう明日にするな	触らぬ神に祟りなし
稼ぐに追いつく貧乏なし	急ぎの文は静かに書け
天知る我知る地知る人知る	習うより慣れよ
言うは易いがするわ難しい	暑さ忘れて影忘れる
喉元すぐりゃ熱さ忘るる	立つ鳥後を濁さず
毒う食うなら皿まじねぶれ	チリも積もれば山になる
人の一寸は見えち我の一尺は見えん	武士は食わねど高楊枝
迷う者は道う聞かず	親と月はいつもよい
人の振り見ちわが振り直せ	親の光は七光
飛んじ火に入る夏の虫	笑う門には福がくる

三歩さがっち師の影ふまず
他人責めずに自分を責めよ
わが身つねって人の痛さ知れ
夫婦喧嘩は犬も食わん
若い時の苦労は買うてでんしよ
いつまでんあると思うな親と金
災い口から出て病は口から入る
井の中の蛙大海をしらん
秋の夕焼け鎌うとげ
嘘は泥棒のはじまり
壁べり歩きゃ日向に出る
ただより高いもんねえ
年寄りの冷や水
無くて七癖
勘定耳
茶柱は縁起がいい
三日かしの餅はつかん
朝グモにタムカデ
雨降っち地かたまる
履物は夜おろさん
ぬるま湯に入った気持ち
聞くは一時ん恥じ聞かにゃ一生ん損
ヒトギ餅は焼かない
三キレ並べはしない
男ん飯わき女ん産わき
今日が終わらにゃ明日はこん
香典袋は買い置きしない
センダンは双葉より香ばし
今日をよけち明日にゃ行けん
葬式の返りにわ寄らない

可愛い子にゃ旅うさせ
困った時ん神だのみ
鬼もしりべ
棚かるボタモチ
気のゆるみ失敗の元
弘法も筆の誤り
ならぬ堪忍するが堪忍
夏の夕焼け井手はずせ
ヌカに釘
馬の耳に念仏
屋根師の手ほめ
桃栗三年柿八年
49日は3月にかからない
頭涼しく足温く
勿体ないはいやしいから
出針は禁物
負けてもともと
医者の不養生
カラウスはつくな
急ぐんなら回れ
土は命ん母
男は女ん真似はでけん
左ヒシャクは使うな
左前に着物は着ない
ビワん花つき麦の豊作
陽年ゃ米の豊作
夜ツメを切らない
大は小をかねる
一合雑炊二合粥
時と言葉は返らない

朱に染まれば赤くなる
撒かぬ種は生えぬ
妊婦に火事を見せるな
ハスは沼田じ美しい花を咲く
火元は三代恨まるる
下歯が抜けたら屋根の上
言えば言いかぶる
情けは人の為ならず
尾を振る犬は追えない
大霜は天気の下り坂
カイガラ草履が三足揃えば貧の峠
お天とうさまは人を殺さず
一もつてこれを貫く
旅は道連れ世は情け
和を尊としとなす
己を責めて人を責めるな
渡る世間に鬼はない
袖擦り合うのも多少の縁
貧乏神に囲まれて七福神の場かし
お天とうさまは誠を照らす
善には善の報い悪には悪の報い
色の白いの七難かくす
夜泣きはニワトリの絵を逆さに貼る
急がば回れ
足の痺れは親指曲げる
日にちが薬
鬼門の方に便所を作るな
上戸本性
友引には葬式しない
一寸ひとはずみ

いい友達は煙たい
へビの夢は運がいい
飼い犬に手を噛まれる
月が笠を被ると雨
病人に植木鉢の花は贈らぬ
庇かしち母屋とらるる
雨蛙が鳴くと雨が近い
ツバメが低く飛ぶと雨
鍋も釜も割れる貧の峠
京の従兄弟に隣かえ
稼ぐに追いつく貧乏なし
人喜べば神喜ぶ
和とは認めあうこと



ビワを屋敷に植えない
初物は長生きする
土用に竈の普請はしない
鳥が家に飛び込むと縁起がいい
朝霧は茶の豊作
結婚式の雨はありつきがいい
火事の夢は近く出産がある
女３３で子を生むと厄逃れ
家グミは豊作は米も豊作
朝降りは短い

朝坊主夕びくに
棟上げに雨は縁起がいい
夏の夕焼け水外せ
竹の花は不吉
副耳は金持ち
朝の茶柱縁起がいい
泣く子は育つ
カマドの上に金物をおかぬ
半夏に大雨は空つゆ
歯の抜けた夢はわるい
蜂の夢は縁起がいい
妊婦が箒を跨ぐと難産
葬式帰りに他所に寄らない
帯の立て結びはいけない
梅がよければ米もよい
双子が元気に育てば家が
栄える



野津原方言集

單語たんご



方言単語……追加……

前編に方言単語など約3500語を収録しましたが、それ以来調査収拾中に新しく解った分、使われている言葉、現在は使用しないが残したいものなど、約1000語を追加しました。

後編ではジャンルごとの分類は省略しました。あいいうえお順に記述してありますから、参考になれば幸いです。前編と一部似通う分もあります。生きている故郷の方言であったことは間違いないふるさとの無形文化財です。

本当は使うといけない言葉、表現語もあると思います。が文化財としての記録に残すために、お許してください。いつか再び調査などされる場合は、割愛してください。明治、大正、昭和を生き抜いた方たちの支援協力によつて刊行した方言集ですので気持ちを大切に、忘れ去られる故郷の言葉は、大事に保存したいから。

あ	アイタ	痛い	しまった
	アオノキサシ	後ろ向きに	
	アイブサイ	嫌われる	相性でない
	アカルル	嫌われる	
	アギュー	上げます	
	アクガアル	根性が悪い	特別な味がある
	アグル	上げます	
	アゲンシ	あんな人たち	
	アゲナシ	あんな人たち	
	アトガタリ	後から加わる	
	アド	足のカガト	
	アドバネ	足の泥ばね	
	アナズキ	女好み	好色
	アナセセリ	女をつけまわす	
	アブル	乾かす	火や陽で
	アブラギッチョル	脂気の多い性質	
	アホタラシイ	ばかばかしい	
	アホウ	卑下した言葉	
	アマヤカス	大事にしすぎる	言うままに
	アマユル	甘える	
	アミカケ	編み物の途中	
	アメー	甘い	
	アユージ	歩いて	
	アリャーヤッパ	あれは	なるほど
	アユル	おちる	
	アレージャ	あると思うが	
	アローアッタケ	あるものの全部	
	アワセナエ	苗を合わせる	一緒にする
	アンゲサネ	あちらの方に	
	アンジョー	よろしいように	然るべく

アンチクショウ

あの人は本当に

い	イアンバイ	よい按配 都合よく
	イイヨルワイ	言っていました
	イイコミ	束ねてまとめる
	イイデ	よろしいです 薬で作ったくくり紐
	イイナア	よろしいです
	イオカウ	苗に土を寄せる
	イカケ	物の繕い
	イク	行く 射精する
	イクケン	行きますから
	イケスケネー	嫌いだから
	イコーエ	行きましょう
	イゴク	動く
	イサブル	揺らす 揺り動かす
	イジクリアウ	言い合う
	イッコモ	少しも
	イツンマニカ	いつの間にか
	イッスンズリ	少しずつ動く ごくゆつくりと
	イッチクセー	どうしても勝手に
	イットキ	ほんの一時
	イテー	痛い
	イノコツチ	亥の子行事の叩く薬ばて
	イビル	嫌味で困らせる
	イビシイ	汚い いやらしい
	イビュー	指を
	イマガセ	いまだに
	イマキンママ	腰巻のままに
	イモ	甘藷…普通これを指す
	イヤンバイ	いい按配に

イヤシボウ	食い意地をはる
イランショウ	いらぬせわやき
イレ	入りなさい
インゲ	いいえ
インジクセー	帰ってよかった

う	ウウジモ	大霜
	ウエツギ	苗の無いところに植え足す
	ウグラモチ	もぐら
	ウケカブル	仕事が遅れてしまう
	ウシナウ	なくす
	ウスムル	他のものを入れて薄くする
	ウズム	真剣に回る
	ウソンパチ	嘘ばかり
	ウソンジョウ	嘘ばかり言う
	ウチクラウ	やたらと食べる
	ウッタタク	叩き回す
	ウッタラカシ	自由に ままに
	ウトウチクリー	歌ってください
	ウドンゲ	クサバカゲローの卵
	ウブル	薄める
	ウマカエ	相手を変える 得に女性が
	ウミ	化膿した物
	ウラベタ	裏側
	ウレノコリ	婚期の遅れた娘
	ウレスグル	成熟しすぎる
	ウワツラ	うわべ 表面
	ウンドゥ	あなたたち
	ウンゲ	いいえ



え	エコヒーキ	相手を見て差別
	エツリ	壁の中の竹格子に編んだもの
	エバ	蜘蛛の巣
	エンギデンネー	縁起でもない
お	オアガリ	上ってください
	オイノス	追い越す
	オエ	追いなさい
	オーケガネー	思ったより少ない
	オーキニ	有り難う
	オーカタンコター	大体のことは
	オーカタ	だいたい
	オカドチガイ	全く異なる 別のことでは
	オケタ	起きた 腹がいっぱいになる
	オコシ	腰巻 火の固まり
	オゴメン	ご免ください あいさつ
	オジイ	怖い おそろしい
	オタンチン	卑下した言い方
	オチューノリ	調子に乗る人
	オツル	落ちる 汚れが取れる
	オトシ	ポケット
	オドー	私 俺たち
	オマエ	あなた
	オムツカシュー	不調法で
	オリキラン	我慢できない 居られない
	オリヨ	居りなさい いなさい
	オルンジャー	居るのですよ
	オルワ	居ます
	オレドー	俺たち 自分たち
	オレドン	俺たち

オレン	私の
オロイイ	いじわる 根性が悪い
※エテコー	猿

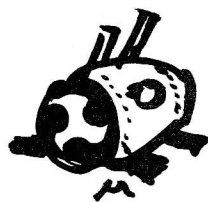
か カイチュー	財布
カエン	変えない 買えない
カカユル	抱える
カガム	しゃがみこむ
カカジル	掻く
カカリ	始め 最初
カガサン	かがさない
ガキタレ	悪坊 餓鬼大将
カケイネ	掛け干しの稲
カゲフミ	人の影を踏む遊び
カゴメ	山芋の実
カコイ	垣根
カゴグサ	籠に切って入れる草
カサネニ	上に乗せた荷物
ガサゴ	忙しい子供
カザマツリ	風の厄よけ祭り
カシオケ	米をつけておく桶
カスジル	酒の粕を入れた汁
カゼクラウ	感じて 察知して
カタグル	担ぐ
カタギブエ	カタギの木の葉笛
カタシ	椿の実
カタブツ	もの難い人 固い意思の人 几帳面
カチワタリ	瀬渡りの世話をする人 先導
カドグチ	屋敷の入り口
カナ	農具 草取り道具

カナツキ	魚取り道具
カナツチ	泳げぬ人
カマクビ	蛇が首をあげ威嚇する
カブル	頭に 人の代わりに引き受ける
カマルル	かまれる
カモチクレン	構ってくれない
カラウス	入っていないのにつく
カルウ	背負う
カルイモウサン	背負いきれない
カレー	辛い
カンノンソウ	野草
カンス	湯沸かし
カンチョロ	照明道具
ガンマク	農具
カンマン	構わない
ガンズメ	農具
カンカラ	さんきらい 餅の下につけて蒸す
カンギョー	冬に僧侶が行う修行

き キオサメ	自分で納得
キカスル	聞かせる
キガヌリー	のんびり人
キジアタマ	下手に理髪した頭
ギシギシ	やの野草
キジョワシイ	せかせかする
キゼワシイ	せかせかする
キタキリ	着たまま
キタネー	汚い
キチンヤド	安宿
キチー	きつい 疲れた

キトリ	材料の準備
キドグチ	屋敷の入り口
キナミ	卵の中の黄色の部分
キニョー	昨日
キノドキー	気の毒に
キモイリ	世話役
キョウカル	今日から
キレモン	やりて すご腕
キンシャ	高価な衣類
キンピラ	気の短い 料理の手法
キモガイル	胸焼け

く クエヨラン	壊れないよう
クサレエン	よくよくの縁
クサンテ	草取り
クサツテンタイ	さすがわ 物のたとえ
クスークラエ	悪口 下品な言い方
クターク	寝る
クタバル	疲れる
クチミマイ	見舞いのあいさつ
クラゲーアタマ	前後に大きい頭
クユル	壊れる
クレメー	くれないでしょう
グロ	脇 隅の方
クロニエ	内出血
クンダリムク	上席から見下す
クエタ	壊れた



け	ゲズ	山芋に似た植物
	ケツ	尻
	ケツマラン	本当に役立たず
	ケツロク	つまらぬ考え
	ケトロク	考えなしな意見
	ゲドサレ	気に食わぬ しまった
	ケトバカス	ひどく蹴る
こ	コアエ	小麦粉を使う調理方法
	コイサ	今晚
	コエタゴ	肥やし桶
	コウシチ	こうして
	コエクラウ	肥えて太る
	コオヤ	染物屋
	コガラ	農機具
	コキツカウ	ひどく使う
	コキー	ここに
	コゲンコツ	こんなことを
	コゴエ	田んぼにいれる小さな肥やし
	コサジー	すばしこく早い
	コサカシイ	憎らしい振る舞い
	コシューオル	がっかりする 落胆
	コシガマ	腰に差す鎌
	コシューウツ	がっかりする
	コスガル	ずる賢い
	コスル	擦り合わせる
	コスクル	物とものを擦る
	コズカスル	叩かせる
	コゼワシイ	うるさい
	コソコソ	密かに 内緒で

コタツ	囲炉裏 アンカ
コター	ことは
コツソリ	密かに
ゴッソナリマス	ご馳走さまでした
ゴテカタゴ	ただけしい
コテンパー	徹底的に
コトキルル	亡くなる
コナス	いじめる
コナイダ	この前
コネリ	小麦粉を使う料理
コネボー	箸
コビリ	おやつ 時間の開いた間に食べる物
コブタン	こぶ
コマダライ	熊手
コマエカキ	壁の中の竹を使った下ごしらえ
コミセン	木の栓 繋ぎ手に固めに
コヌル	こねる 手で練って固める
コヤガケ	小屋を準備する
コラレン	来られない
コラルル	来られます
コラエヨ	許してください
コレルル	来られるから
コンコ	漬け物 根菜類
コンノンネー	この上もない

さ	サカクジ	わざと反対
	サカネジ	反対意見
	サカノンボリ	逆さまに上って
	サゼツク	たたき
	サゼクル	寄せ集める



サゼクブル	みんな入れて燃やす
サツチ	無理に
サスル	させます
サトガラ	いたどり 野草
サラユル	くりごと
サライイ	美しくしなさい 仕上げ
サンパチ	さんざん

し ジャッキー	ですから
シイラ	実が入っていない
シエ	実が入らない
シオアン	砂糖を使わぬ餡
シガムル	苦しい表情
ジカビキ	馬に直接引かせる
シキシャグ	敷いて傷める
シコーミヨ	風体を見よ
ジイツト	静かに
シカクル	はじめる
シガラグミ	竹を組んで関を作る
シシツラ	おかしい顔
シタ	しました
シチョン	してます
シツ	湿気
シナリー	すればよい
シトツク	湿気があって
シニモングルイ	懸命に
シニソコナウ	危ふく命拾い
シネット	粘り根性
シマタツカン	手に負えない
シモアゲ	霜の多いとき酒を交わす…口実に

シモガエリ	霜の後の異常天気
ジャロー	でしょう と思うが
シャント	しっかりと
ジャメナル	邪魔になる
ジャージャー	そうそう
ショウカタナシ	仕方ない
ジューメン	悲しい顔
シノー	取り入れ
ショウガネー	仕方ない
ショウジョウト	しっかりと 真剣に
ジョウビー	丈夫
ジヨウ	栄養
ショボクレ	元気がない 枯れる寸前
シヨルキナ	していますから
シネガワリイ	気質が悪い
シラクモ	皮膚病
シランウチ	知らない間に
ジリー	道がぬかるむ
シリンス	尻の穴
シンノカ	知りません
シーチョル	好いている

す スイー	酔っぱい
スエル	イタム 腐る
スソ	女性性器
スックシ	髪の毛を整える櫛
スッタク	叩きまわす
スットンカワ	嘘 大げさに言う
ストロク	嘘
スボマラ	包茎な男性性器

スポ	あいてきぼり	ごみ
スム	止まったようになる	水の中にもぐる
スユル	イタム	腐る
スラコ	練習	勝負でない
スラマイ	本式でない	舞方
ズラス	動かす	
スーラ	嘘	
スルノ	しますか	
スワブル	吸いつく	吸う
スンナ	しなさんな	

せ	セナカアワセ	仲が悪い	背中をすりあわせる
	セリコム	無理に入れる	
	セランカ	押しなさい	
	センチン	便所	トイレ
	センチンソダチ	戸を開けたままにする	
	センズリ	自慰	マスターベーション
	センドリ	マスターベーション	
	センジョケ	しなさんな	

そ	ソーナンジャ	そうですよ
	ソウシチャー	そんなしては
	ソゲーネーデ	そんなにはないですよ
	ソシチカル	それから
	ソソライイ	ガサガサする
	ソデンシタ	賄賂
	ソジャケンド	そうですけれど
	ソソレー	荒荒しい
	ソリクリカエル	威張りかえり見栄を張る
	ソリュー	それを

ソロソロ
ソンゲ
ソンママヤロ

ゆっくり
そちらに
そのままでしょう

た タガ

ダーツト

タカハリ

タギル

タチヨル

タッシャ

タッタ

タツ

タテボウ

タドツチアルク

タヌル

タンクサ

ダマエ

タネマキ

タンモン

タンスンコエ

ダンダン

桶の輪

静かに あらましに

細長の提灯

煮立つ

寄って来る 立ったようだ

元気

男性性器の勃起

立てる 立ち上がる

馬車の横に立てる棒

辿りながら歩く

尋ねる

田の草取り

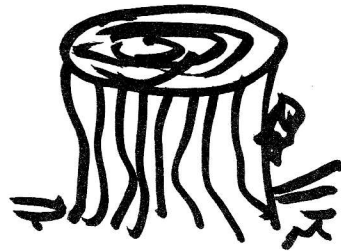
祭りの当番

ほか他所の女性に孕ませる

着物 呉服生地

着ないでしまつてある着物

有り難う



ち	チクラス	叩く
	チシマワス	叩いていじめる
	チタタク	叩く
	チチブウ	おけら
	チチマワス	叩きいじめる
	チッシャグ	押しつけて傷める
	チットチット	ほんの少し
	チャー	あらまあ
	チョコレ	ください
	チュークレ	いい加減
	チューブレ	いい加減
	チョロムケ	すこしむけた性器 男性
	チョンガー	独身男性
	チャーレン	かまきり
	チャンチャンコ	袖無しの着物

つ	ヅウシロウ	怠け者
	ヅウゴシ	痛む腰
	ツカミアウ	手で喧嘩する
	ツカマエント	捕まえないと
	ツクレンコツ	つまらないこと
	ツクッタトセ	作ったばかりで
	ツクロウ	修理する
	ツグリ	とぐろ
	ツチブウ	おけら
	ツクリキル	作れますよ
	ツケチョル	つけてある
	ツマミグイ	内緒で食べる
	ツバナ	野草 子供が食べる物
	ツマミシャグ	つまんであ押しつぶす

ツバイロ	唇の色
ツム	散髪 積み上げる
ツランカワ	厚かましい
ツリアガル	調子に乗る
ツルノハ	縁起物の葉っぱ
ツルットスル	うたた寝 ひとね
ツングル	うずくまる
ツーテンカン	調子者
ツータ	飛んだ

て	テガテー	確實 几帳面
	テタタキモチ	つきたて餅
	デボチン	額の出た者
	テラセン	寺参りの小遣い
	テントハル	男性性器の勃起
	テンテコマイ	忙しい
	デン	でも

と	ドゥシュカモチ	思うよりよくできる餅米
	ドキー	どこに
	ドキヤ	どこに
	トキワ	茅
	トギ	友達
	ドゲーデン	どうでもいいよ
	ドゲーデンシヨ	どんなにでもして
	ドダイ	だいたい
	ドチャミチ	どうせ いずれは
	ドコヘン	どのへん
	トチメンボ	目標が違い 慌てる
	トットシモウタ	失敗 断念な

トッパクロ	色話を盛んに
トテン	とても
トビー	被せる物
トビイシバシ	石をつんで橋を作っている
トビクラゴ	走り比べ
ドベ	終わり 最後
トボクル	わざとらしく
ドマ	皆さん 待ってください
ドヤス	叩く
トリヤイコ	相手と取り合う
ドンナ	不手際 うまく行かぬ
ドンコン	どうにも
ドンナヤツ	不手際な人
ドンビャクショウ	水飲み百姓
トツツカマエント	早くつかまえないと

な ナア	でしょう
ナオス	修理する
ナゲーコターネー	長い事はないだろう
ナジュー	おめす言う おだてや
ナヨナヨ	よわよわしい
ナマゴロシ	中途半端
ナワオビ	縄を帯のかわりに
ナラサルル	手なずける
ナシカ	なでですか
ナニシヨル	なに…してますか
ナリナーエ	なってください
ナンナ	なんですか
ナンボカ	いくらか
ナンチ	なんです

	ナンナエ	なんですかえ
	ナンジャケン	どうして
に	ニクプロ	女性性器
	ニギリキンタマ	欲張り
	ニューム	アルミ
	ニワリモン	半端物
ぬ	ヌージュール	飲んでいる
	ヌキー	暖かい
	ヌクモル	暖かくなる
	ヌスミグイ	内緒で食べる
	ヌージ	飲んで、
	ヌリクリベツタリ	そこら一面
ね	ネードヨイ	ないですよみんな
	ネットリ	粘い気質
	ネブル	舐める
	ネリアゲ	総仕上げ 集大成
	ネンシャ	念入りに 几帳面
	ネンジュー	いつも 常々
の	ノーナラカス	なくしてしまう
	ノキ	急に
	ノコガマ	鋸目の鎌
	ノサンナ	背伸びしませんか
	ノシロノノコ	苗作り頃の寒さに着る衣類
	ノバナシ	ほつたらかし
	ノウジ	なくて
	ノベシ	苗取りの束ね藁

ノリステ	男性が異性を変える
ノネラ	野ねずみ
ノバセ	ゆっくり
ノリカエ	相手を変える 女性が異性を変える
ノヤ	でしょう 賛意を求める

は	ハエタカ	毛ができたか
	バカドウ	卑下した言葉
	ハジキテッポー	竹で作る遊び道具
	ハジメチ	初めて
	ハッチー	物貰い
	バチーアワス	叩き痛める
	バサー	乱暴に
	ハタクル	開く 股を開ける
	バチクリアガル	開き過ぎて広がる
	ハナト	端の方
	ハナンス	鼻の穴
	ハノーツマンジ	鼻をつまむ
	ハミ	牛馬の飼料
	ババゴシキ	老婆のあしゃべり
	ハラガヘッタ	空腹
	ハラサグリ	相手の考えを探る
	ハワク	掃除 掃き出す
	バラス	馬車の台を外す
	バルル	ばれる 落ちる
	ハンギリ	牛馬の飼料切り桶
	ハンペラ	片側 半分

ひ	ヒロ	蛾
	ヒキタクル	無理に引く
	ヒセセリ	落ち着かない
	ビッシヨリ	ずぶ濡れ
	ピッシャグ	押してつぶす
	ヒトムシ	人に甘える
	ヒトカタウツ	一休み
	ビッテー	無精者 汚れが気にならない
	ビヤンツー	山芋の頭
	ヒョウロクダマ	つかみどころのない人
	ヒューゲ Chol	こっけい者
	ヒューガサンニユー	間違いの多い計算
	ヒューガヒュラ	落ち着かない
	ヒョウタンバラ	太った腹
	ビラビラツージ	衣服を風に靡かせ走る
	ヒル	排尿 干し
	ヒロツク	食べ物に浅ましい
	ヒロヒロ	心貧しい
	ヒンムク	相手の落ち度を暴く
	ヒンコツ	黄色のセキレイ
	ピントクル	直感
	ヒンケ	馬の発情
	ビンボウソダチ	欲張り
ふ	フーオミヨ	格好見よ
	フーミヨ	見なさい
	フータヌリー	手ぬるい
	フガイイ	いい按配 幸運 幸いに
	フセモントコ	甘藷の発芽用の床
	フトロク	たくさん 多く

フトーニ	たくさん
フリマラ	のーばんつ
フーイー	よかった 運がいい
へ	
ヘーヘー	わかりました
ベッター	つきつきり
ベットー	馬の世話役
ヘマヘグレン	つまらぬ
ヘノツツパリ	役にたたぬ
ヘヨ	いいや 嫌い
ヘリクツ	無理な理屈
ヘル	少なくなる
ヘンガカワル	急に異常 死期
ほ	
ハウジャ	そうです
ボーブラ	かぼちゃ
ホグル	角で物を持ち上げる
ホエタ	男性性器の勃起
ホグ	開ける
ボケチョル	卑下した言葉
ホゲ	無鉄砲な言い方
ボクト	棒切れ
ボソクル	恨めしそうに呟く
ホタリダス	投げ出してしまう
ホトコロ	懐
ホナ	それなら
ホナケ	泣くがいい
ボーズクリン	坊主頭
ボンジ	むくげ
ホンター	もともと 本当は

ホンジャケンド
★ハジメチ

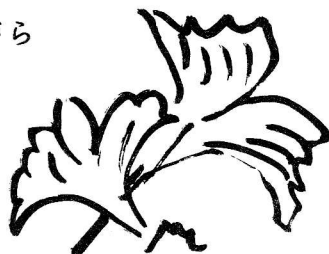
ですが
はじめてで

ま マガヨカッタ
マクリダス
マチボリ
マク
マチツト
マツシロナツチ
マッポシ
マツピー
マックリダス
マメヌスト
マメンテ
マメーシチョク
マリー
マンネンドコ
マル

ちょうどよい 運がよかった
まとめて出す
内緒の蓄え
ねじを…入れる
も少し
予想以上に白く
図星
青い 未熟
一度に出す
女性に手をかける
豆の成長に合わせた支え
気ままにしておく
丸い
敷きばなしの床
排尿 排便

み ミーレ
ミーゲンサマ
ミズーシカクル
ミソツチョ
ミチクリー
ミミウヒツパッチ
ミチクサ

病気の種類
名月
水を田に入れる
小鳥
見てください
耳を引つばる
帰りに遊びながら



む	ムケタカ ムシオサエ	男性性器の状態 とりあえず食べる
め	メクラメッポウ メニスリコム メンドシイ	無茶苦茶 目に入れても痛くない可愛さ 恥ずかしい
も	モグラモチ モノツキ モモチ	もぐら 物が就くと言う古い言葉 感謝の祭り行事
や	ヤイト ヤエヒジイ ヤリクウダ ヤシイ ヤランカ ヤリコム ヤンド ヤンガン ヤラニャ	やつと 灸 じんわりきつい 無理にしてしまった 安い やりませんか やりそこなう 失敗 お前 お前の物 やらなければ
ゆ	ユージ ユージャ ユー ユランコ	呼んで よくて 言うから よく いいこと ぶらんこ
よ	ヨイ ヨーキクンナ ヨーニアウキ ヨコタクリ	あんた お前 沢山ください とても似合う 横から

ヨンベ

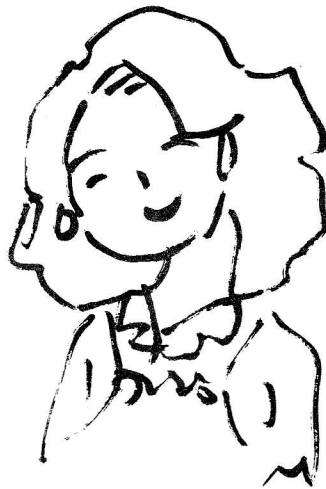
昨夜

ろ ロクドシ

後先考えずに

わ ワーワマクリ
ワキヤーネー
ワキヤワカラン
ワナサツチ
ワリカン
ワリワリ

はやし立てる
簡単です
意味がわからない
ごり押しする
費用わ折半する
ひどい疲れの体



方言単語の追加 故郷の生活に大きい役割を果たして 長い間心を結びつけた 言葉は時代が移り変わる中に 少しずつ変化しますが 振り返る時 きつと懐かしく親しく甦る言葉として これからも 野津原の故郷無形文化財として 生き続けて行くことと思います。町内は勿論 町外の方方からも資料提供受けましたのも 野津原を愛してくださる 気持ちの現れでしょう。

野津原方言番付表

イテツクバル…返答に困る	横綱	ホートロクセ…本当に多い
ボツタル…恨めしく呟く	々	ゴテカタゴ…たけだけしい
オキノ…起きたばかり	大関	トマ…やすむ
ソレギン…それでも	々	ハガキルル…素晴らしい
タゴカス…筋を痛める	関脇	ヘヨ…いいえ
ノコギン…野良着物	々	ゴライタ…汚ならしい
アラク…間があく	小結	ジャーキー…ですから
イロク…ひあがる	々	シトメン…手におえん
キナ…イナゴ	前頭	ツキアゲ…テンブラ
ズーシン…怠け者	々	チキリ…秤
ホヤ…電球	々	ヤシボ…はだぐい
ヨガム…曲がる	々	トッパイ…とうふ
クズス…壊す	々	ヒダリー…空腹
キジ…下手な散髪	々	ダノモン…牛馬の餌
ヘモドル…元に戻る	々	イモジ…腰巻
ハダツケ…腹巻財布	々	ウシミ…嫁ご見
オイヌク…追い越し先に	々	ニイッタ…眠った
ダル…疲れる	々	ヤケハタ…やけど

行司 シコー…格好準備

ヨダツ…始める企画

検査役 ヤンドー…お前

ワツソー…私たち 俺たち

方言番付表 企画番付会議…野津原方言調査会会員一同

放言調 ふるさと狼曲

—— 工藤三助・不動岩の場 ——

方言浪曲

ふるさとの米づくりに 大きい役割を果たして来た 世利川井路の 開発に功労のあった 工藤三助の物語。故郷に文化が広まり 生活の中に心の余裕が見られるようになって 歌や絵画から踊り さらに進んで浪曲も作られて 生活水準の向上と心の豊かさが 現れて来た。潤う心の片隅には先人の残した苦労の後が 改めて見直されて 労苦が報いられている。

工藤三助…不動岩の場 を方言調に書き換えて 後編の中に彩りを添えました。当時の方言と異なる面もあると思いますが それなりに判断して 当時を忍んでください。現代すでに口演もされていますが 方言の面白さも味があり夢も含まれています。水に対する感謝も願って 紙面を埋めました。

七瀬馬子唄から……

水の流れが涙でくもる

工藤三助しのばれて ハ 七瀬のせせらぎ

サラサラサラサラ ホイ ホイ ホイ。

馬子が鈴の音ひびかせち さがっちくる今市石畳 客に言われち
しゃべるんは 井手う作った三助の あん頃思う語りぶり。火災を
背中に苦しみの 助けてくりーと来る人に 法力で災い取り除けち
辛抱しな一こん世は 善と悪とじ動くけんど 仏の利益は片寄らん
わしが身焦がしてん守るき。

アザミン花に舞う蝶でん 苦勞切なや切り抜けち 今日が来たき
蜜も吸う こん山5里んそん先に 広がる三百余町歩ん田んぼに水
が入えつたら 一生懸命やった三助ん 汗や涙ん忍ばるる。

赤穂浪士が亡君の敵をうったけ元禄14年 井路を開いた三助が
水源ぬ見つけで一た年である。当時ん里は天水田が多うじチツト
陽がつづく と 水不足じ稲がでけんじゃった。三助15ん時水路さ
がしゅ始めたんじゃが 他ん藩に入るにゃ苦を見た。28ん時府内
藩じ水源を見つけて一ち 肥後藩庁に井路づくりゅ申請 府内藩に
も許可願いを出えち 許可をもらうに走りまわった。

元禄2年父他界 あつー受けち3代目 谷村リエモンぬ名乗る。
えーと許可もおれち大龍井路ん工事が 槌ん音も高うこだました。
時に元禄11年じゃった。

大龍井路普請奉行になつた三助は 12年に大龍井路う作りあげ
た。山麓かる引いた水が 渦うめ一ち水田96町歩を潤した。こん
功績じ30石取りん惣庄屋になった。三助は肥後野津原ん方にも目
を向け ここん水不足に頭う使うこち一なつた。

わしゃ水と心中してん 農家ん苦勞は見捨てられん 恵まれちお
るしと 恵まれんしがあるな一悪い。何とか水引いちやりて一喜ぶ
顔見て一。思う気持ちちが朝露に 濡れた草鞋を絞めなおしち もち
っとまちな一と汗う拭く。

三助はこんだ野津原に引く水う捜しはじめた。独学と実地測量の体験ぬ生かしち 野津原と谷村に水う引くこつー考えたんじゃった。両方ん地形を考えち割り出すと 水源はクタミち頭えひらめいた。ほんじゃけんど流域にゃ直入12村がある。岡領ん村もある。そりゅうくぐり抜けち来るこたー 至難の技んごたる。そこじ三助は実地測量に取り組むこちーなった。

野津原手永の一番高えタマリミズまじ 水う引く。山やら谷やらあんげこんげ回り 岩に引つかかりカズラに引つぱられち 目ざす所あまゝ遠い。スリ傷ぬぐうちフツ擦りつくりゃ 迷った狸が顔う出えたごたる。こいさーここじ寝るか木の根が枕に丁度いい。

キコリやら行商になつち山谷う天と線じ結うじ 上流に行くとクタミにち一た。三助はすぐ肥後藩庁にも願いを出えた。そじゃけんど天領 肥後領 岡領にまたがる 難工事じゃき折衝は何んかにん難しい。豊後小藩分立のなさけなさが ひょこんと浮かんじきた。元禄10年にえーと許可がおれち 肥後藩は三助を普請奉行に任命 地米10石3人扶持う貰うこちーなった。時43の頃。じゃつたな一。井路工事がはじまり4年が経過した。3里27町17間のうち半里ぐれ一は 岩盤にじゃまされちしもった。こかゝ取り入れ口かる1里下ったところ 岩いわ岩ん難所が続く。

人間の固えな一心う許しち頼らるるが 岩ん固えな一どうにんならん。見上ぐる松が根をはっち 抱えこんじよるそん岩は ノミう打つてん跳ね返り 一日割つてんそん屑は えーと弁当箱一杯ぐれえ あんまり情けねーじ汗が流れち目に染みる 拭いた両手を濡らすな一かけ一た汗だけじゃねーごたる。



うまい具合に工事がすすんじ来ち あとちっとうじち思うたら
難航工事に 不可能な事を知らされた三助は 立ち向かった岩の上
に座りくうだ。不動経を唱えはじめち 『生涯をかけた水う野津原
まじ導きてー わしの願いを貫かせてほしい 身はたとえ岩と共に
粉になろうとも この岩を取り除き賜え 南無不動明王』

人の思いのままになる水でも 時には大きな岩に邪魔されち 願
い叶わん事もあるこの辛さ この身で変われるならば 多くの人が
待つちよる里に こん水運びたや。

『そん方が三助と申すか』『私が三助です難渋する農民の為に水
うなんとか 通したいが こん岩に邪魔されちどうにんならん』
『とてん尋常じゃ無理じゃ 諦めちゃどうじゃ』『たとえ この身
に変えてん ここう通しちほしい こくう通らにゃ今までん苦労が
水ん泡になつちしまう』『どうしてもか その身に変えてもか』
『水を引くためにかけた身 こん命 いかになってん構わんき』
『解った いい方法を教えてやろう』

不動明王が岩の上にマキう積み上げ 三日三晩燃やし続けち岩を
焼き あとすぐ水うかくる そうすりゃいかな岩でん 砕くこつー
出来るじゃろー……よなよな試しちみよ。

三助は不動のお告げを石工たちに話した 中には信じられんち
言うもんもおったが とにかくやるこちーなつた。手段を選ばずと
お告げんこつ岩を焼くこちッした。

炎が高う立ちのぼり 野山う染めるそんさまは 三助不動につか
れたかち 人の噂が広まっち なにやどこやちワラジがけ 見物に
来るあつたとか 人の一念恐ろしい岩をも通す 三日三晩のその後
に かけた湯煙天高く 昇る彼方に現れし 不動明王のその剣が

キラリ光って三助の。願い叶っち花と咲いた。喜ぶ人の顔を見る
三助うれしや今日の空。

ノミをいるるとさすがん岩も 砕けはじめた。工事も順調に進み
さしもん難工事も 三助ん捨て身戦法が的中しち 無事終わるこち
いになった。三助はこん岩を 不動岩ち名づけち 完成後には岩堀に
使うた槌や鑿を納めち感謝ん 堂を建てた。

取り入れ口かる岡領 天領 肥後領を通っちタマリミズまじ3里
27町17間に 掘り取られてん井路は 野津原 谷に水を配り
300余町歩に水う配ったことになった。井路の総延長は5里あま
り 動員した人夫は212万9000人あまり 5か年かかりの
大工事じ宝永4年2月にえーと完成したち言うごたる。

火災を背中に苦しみの 助けをもとめち来るしに じっと諭すそ
ん術は あげー難航した場所じゃつたが 無事に通しち待ち兼ねる
里に 流れるるせせらぎの 水よりか清い三助ん心に思わず動かさ
れる 不動明王の利益を頂いて 末代までも名を残す 肥後街道の
物語 工藤三助その名も 永久に残っち花と咲く 永久に残っち花
と咲く。

七瀬馬子唄から……

頬に粉つけ嫁ぐ日近く
スリの乙女が米をつく ハ七瀬のせせらぎ
サラサラサラサラ ホイ ホイ ホイ
在所恋しや歩けば三里
山が高うてままならぬ ハ七瀬のほとりにや
もみじがチラホラ ホイ ホイ ホイ

あとがき



あとがき

平成4年『今なら間にあうから 方言を集めて記録に残しておこ
うえ』 ふと呼びかけたら 異口同音に『いいで加勢するき』 と
返って来た。本当は『も、10年早けりゃよかった』 と思ったが
まだ今なら 最小限の量は集まると自信はもつちよつた。

『ボランティアじ何の報いもねえーんで』『いいこと生きちよる
証にしゅうえ』 と賛成してくれた時 嬉しさと失敗したらとの
不安が交差して戸惑いもしたけど もう後にゃ引けんき覚悟決め
たんで。

佐賀関の漁師町じ老婆がウニ採りん手を 止めんが気軽に応じち
くるる。潮焼けした横顔にゃ方言がゆう似合う。『若えしが多うな
っちチョツピリ方言が スクノウなっち寂しい』 とん言う。方言
は無理に使わんでん 上手に使うちくるりゃそれじいい。

鶴崎ん法心寺じ井戸水う汲みながら 『あちーなー』 懐かしい
方言にワイワイ集まった人が 方言ぬサラケデーチ。そげん方言の
生き方がとてん嬉しい。

久住に行くとニァンスは違うけど 旧肥後領街道ん共通する方
言が残ちよる。心が通じあい和む思い。所により場所により人
によっち 同じ方言でん同じ言葉でん 意味が違うたりするけど
共通する方言の温かさは人の心の中え しっかり根づいちホロリち
出ちくるきー不思議。

野津原に戦時中に疎開しちよつたしが 苦しい生活ん中かる方言
に慣れ 親しみ方言によっち救われた思いでは心の中え 『方言ち
言う財産』 も培い育てち来たき 年老いち故郷に帰ってん それ
をふと聞くと無性に懐かしくなるちゆう。

方言おしゃべりん知名人の方々も 素人集団の野津原方言調査会にゃ こよなくエールと支えを送っちくれました。自分たちに出来んこつーやつちよるき聞くと 心ん中に胸騒ぎ血湧き嬉しさがこみあげち くるち言うちくれた。

上浦に招かれち出かけち行くと 磯の香 潮騒が山ん中じ暮らすもんにゃ 優しく囁きかけ心を寄せちくるる。調査の仕事うしたきこげな味わいも満喫出来たんじゃろー。心の招きは金や物じゃ変えられん宝。

奇しき縁ん助成も受けた。手出し覚悟ん方言集発刊も辛うじてカバーしちくれ心の財産が 調査を通じち連帯感と取り組む地道な活動の 『やりがい』 も見つけでーた。お互いに家庭の自分の仕事がある 地域活動ん中でんやるべき責任もある。じゃのに寸暇を割いち取り組む尊い一期間の人生は 『労多くして報いない』 にしてん やつちよかった満足感な ひしひしと今刊行しち感じると共に 一抹の寂しさも残ります。

産山ん人たちん心んこもつた接対 一の宮でん時間ぬ割いち相手うしちくれた人たち。阿蘇ん気候風土に使われちよる 肥後方言がかったの肥後街道じあった 野津原にも言葉の中え心ん中え 合い通ずるもんがあるぬ見た時ん嬉しさ。

時代が変わり近代化ん波う乗り越えち 発展する世相をバックに心の中に 優しく根づいた誠の方言。守り育てた言葉は消え去る事の絶対ねえじゃろーち しみじみ思います。

方言調査に携わった皆さんも そげな思いじ7年間頑張っちくれました。一言コメントを書いちもらいました。過ぐりゃアツと思う期間じゃけんど 多くの人に出会い支えられち 快く協力しちくれたあんし こん人。絶対に忘れられん心ん結びつきです。本当に有難うございました。皆さんのご健勝ご祈念申しちいます。

調査員の横顔

甲斐英行…会員をまとめ 文化財調査員歴を生かした 語りべ、
さと唄の掘り起こし、諺 祝い、葬など……調査会長

利光節子…語りべを中心に伝承、地主と小作者の心情キャッチ、
女性の方言変革、単語の移り変わりなど……副会長

佐藤吉晴…永に苦勞する農作業、生活、道路、口説き唄、作業唄
新しい歌、子供唄、習慣 風土伝承など……交通

小野寿祐…学生文化伝承活動の指導、方言との関わり、子供を通
じた三世代方言調査まとめ、口説き唄など…学校窓口

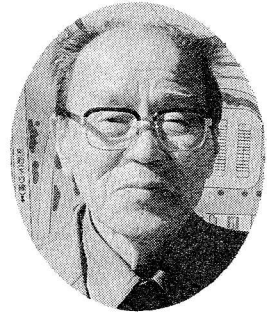
那須政子…生活口説き唄、山の仕事と生活、老人の語りべ、民話
街道からの方言、地域の方言相違など…カット、広報

赤星ヨシミ…宿場町の方言と文化、移り変わる方言の流れ、近代
生活と方言の関わり、町と村の方言、習慣…経理会計

佐藤延登…街道を交流する方言、三世代が受け継いだ方言文化、
生活面に出た方言、若者と方言、独特な方言……監修

佐藤源治…口説き唄、伝承、文化財調査こぼれ話、方言のうつり
かわり、農作業の苦勞話、編集プリンター……事務局

平成4年5月からヨダキーなーと思いながら取り組んで来た。年月の流れに一段と興味が湧いて 是が非でも成功させねばと 頑張ったその功が実り 平成7年4月前編の発行を見ることが出来ました。



その時の調査員の喜び溢れる姿を見て 感動と同時に意欲も燃え会員の皆さんと 共々激励しあいながら 平成10年発行予定の後編を目標に 調査作業を続けて来ましたが その成果も現れて いよいよ望みの後編刊行を迎えることが 出来ました。

調査会員の皆さん本当にご苦労さまでした。心から感謝申し上げます。調査期間中は楽しいことや 日ごろ出会うことのない人々とのふれあいが 出来て心強さも感じました。中には『オトロシュウ イイコツーションナー ハリコミナーエ』 と激励してくれる人も。ある時は『ワッソーカテ キチミナコゲン唄モアリャ コゲナ伝説モアルキ ドゲーナ』 と指導協力も受けました。これも偏に調査員であったことへの誇りと思っています。

沢山の人から激励して頂いたその喜びが意欲となってくれます。ドゲンセチーコツガアロート 方言に馴染みながら生きる限り勉強したいとも。収集については相手の方々も研究しながら 親切に教えてくれましたので 苦労もさほど感じなく 人との話合いにしても形動に受け入れてくれ 安堵感も醸し出しました。調査員も一心同体となって活動したことが 理解もされてここに刊行出来たのです。

調査員の皆さんの活動を顧みる時 そのご苦労は並大抵ではなか

っただろうし 調査期間中平穩無事に刊行達成したことは この上ない喜びです。諺に『立つ鳥跡を濁さず』 の教えがありますが 野津原方言調査会の活動が辿り着いた 後編刊行で『言うは易く行うは難し』 実行することの難しさもしみじみ味わいました。

方言調査会の発足以来 数々の思い出も出来ました。その中でも最高の思い出は二回の上浦調査 実力者の松本町長さんと吉岡先生と初の出会いに 親しみ深く迎えてくれ民宿での憩いの一時 言葉には表現出来ない程の楽しさ。町長さんは寸暇を割いて参加 得意の水墨画三枚も書いてくれ 生きる限り大切にせねばならない貴重品です。環境のよさ人柄の温かさに感激し 生涯忘れることの出来ない思い出となりました。人の振り見て我が振り直しながら 一生を美しく終わりたいと思っています。

方言に次代を託す 小野寿祐

野津原は香りに新たな文化を創り出そうとしている。言葉の文化は人と人が幾年もの間大切に 語り継ぐ時に人間味が育つように思える。

方言調査会のこの成果は 死語となりつつある野津原方言を保存し 愛好する人の心を和ませるであろう。子供を通じなくなった方言をあえて方言で話す自分。『ソゲーオコランジ ヨローチャローエ』 温かい人間の優しさと野津原の香りがするように思える。



昨日の会話『そんな オジイ所に行きなんな』 と言うと『何を言よんの オバアサンで』 ……この会話解りますか 『オジー』 と『オジン』 の取りちがいであるが 古さと新しさの年代の差を感じている。方言調査会が…方言愛好会…に成長する日を楽しみにしている。

『うちの嫁は』……『うちの嫁も』 そのたつた『は』『も』 で意味ががらり変わります。つまり『も』がつけば ごく当たり前んこつ『は』 がつくと ちっと違うた意味になる。方言にも ほんのちとん字違いじ そりゃーおおけんこつ意味が違うちしまう。そげんこつう聞いち話ながら生きた80年あまりに 何か残せたら……ち思ひよつたら ふんとま一声がかけちくれた。



もう嬉しゅちタマランゴツナツチ 鉛筆もっち人ん話う聞く時ちよいと書いちよく。そりゃー面白い。そしち7年もゆーやつたな今振り返るへモドル。やっぱ気に止めちくれたかる想い出ん仕事も出来ち生きちよつた証じゃなァ。張り詰めち聞き上手になる 自分じ感じ取ったもんが活字になる なんか嬉しいな。形に残る幸せ誰よりも若さの期間じあったかん知れん。方言の温もりん中に生かされたんじゃろー。ほーらよかったで おおきにな。

思い出は美しい

佐藤吉晴



『方言調査をするき加勢せんな』 舞台の影の役をもう20年も共にやつて来た 人から声がかかる。断わる言葉を失ってしまう。『役にたつならいい』 出来れば他に適任者がいるからと思ったが 一度狙われたら逃げられない 事を承知で決めた。老人たちの会話の中からポンポン出る方言には 温かみの人情がこもっている。だから今の時間をフルに生かして集めないと あと5年もすれば極滅するだろう。考えなくてもなかつた事だから こんしの為に恩返しをしたいち思う。

古い唄 農作業する農家ん人ん生活かる 染み出る方言ぬ活字に
する優越感 心が弾み役立つと言うよりも 記録に残す大切さを
自分のやった満足感に置き換えて いつまでも心に残る灯となって
機会に恵まれた幸せをしみじみ味わった 方言調査でした。

方言の温かみ忘れないでいたい 那須政子

縁あつて方言調査に取り組むようになって 7年あまりの年月が
あつ と思う間に過ぎた。長いようで短い時間の経過 その間平成
5年に前編を そして後編の発行と 会員の皆さんと共に。自分自
身も方言の楽しさに そして又新しい発見を覚えながら 今日に至
りました。機会に恵まれて感謝しています。

ボランティアのメンバーの少ない私たちの
研修会に菊屋先生も出席して『方言は地方の文
化である しつかり頑張ってください』 と励ま
しの言葉もいただき 気をよくしてガムシャラ
に取り組んで来ました。忙しさの家庭の仕事で
時には 手足まといになりなりがち。でも期待
してくれる心配りに 意欲も湧き疲れた体に生
きた証も燃えました。思わぬ知識も自分のものになったようです。



仕事も違うで年も80歳代から40歳代ち 幅がひりーけんど心
はいつでん一つ。そん和が素人んじょうじゃが 方言集ん前編かる
後編に結びつけたんじゃねーかち 思うわ。調査に出かけち会った
人にゃ まこちい丁寧に教えちくれたり 熱心に人事じゃねえち
仕事まじよくうちもしちくれた。

調査を通じて多くの人との出会いもあり 生涯忘れられない事も
思い出も味わいも。知られざる幸せ人生も。物事に打ち込む心の悦

びが 私の人間性を一回りも二廻りも 大きくしてくれました。刊行出来た嬉しさは 私の宝物が又一つ増える。共に苦労した人の優しさも 支えてくれた人の心も勉強できました。

幸せ人生だったのも取り組んだ物が 集大成された今安堵することなく 更に次の何かに取り組んで生きたい。輝いていたいから私なりに いつまでもと思うからか……余韻楽しい心に夢を抱かせてくれた 調査員の皆さんご苦労さまでした。次の目標に向かって 明日は今日より幸せに……

私の方言調査活動 赤星ヨシミ

今回の方言調査に浅学非才な私も参加して 調査や交流会などに参加を くり返す中で未知の世界に誘われるような 多くの体験もすることが出来ました。皆様がたのご協力やご助言によって 子供の頃から日常生活に使った コトバ 方言は 調査して行くうちに いかに何気なく使い親しんでいた事かが よく解りました。



当たり前のように使う言葉 方言が人の心を結びつけ 大切な生活道具でもある そんな夢とロマンも味わいました。言葉の文化は次の世代に残す事も大切であり 特に方言の中に隠れた人情は 是非受け継ぎたいものです。会員同志のふれあいや調査地域の人との交流も 人生勉強にプラスとなりました。

纏めの後編が発刊される喜び 協力してくれた人たちのコトバが 日当たりの場所に出て 改めて見直される時 故郷のよさと人の優しさが 浮き彫りされるようです。それだけ私も博学の道を歩いた 幸せをかみ締めています。多くの支援して頂いた皆さんに厚く

お礼を申し上げます。有り難うございました。

感謝の方言収集活動終えて 佐藤源治

入蔵に物知りの老人が居て機会あるごとに話を聞いていた頃にもし手がけていたら…もつと面白く深みのある方言集になっていたかも知れない。20年も遅れて取り組んだこの後編には余暇利用して収集してくれた8人の物好きな個性がくまなく生かされ努力の足跡が滲み出ているように思います。

それぞれが個性に合わせてのどくとくなく収集方法で集めた宝前編の単語に後編では方言を取り入れた生活の跡が盛り込まれて古い次代の先人の苦勞 切なさ 惨めさ かたや悦び 嬉しさ 夢とロマンも織りなして タイムスリップしたじだいにも……

調査に応じてくれた老人たちの横顔に きざに刻む皺は時代の宝でしょう。ウニを取る手も休めないが話には 気軽に『方言を使う人が少なくなった』とこぼす。言葉の裏には若い人が来たこと故郷を離れる人があること…想い心は馳せているよう。

久住の人たちは『同じ肥後領じゃつたなー』 自分の子が孫が来たように 茶を勧めダンゴを出してくれる。そんな無言の結びつきが 方言が人の心をしっかり結んだ上での 交流や受け継がれた文化が大切に 譲られているからだろう。



素人づくりの方言集は専門家から見れば取るに足らぬ幼稚なものだが 今集めることでこれ以上消えて行く 昔懐かしい人の心を結びつけた言葉が 辛うじて幾つかが記録に残った事に 自負心も抱きつつ会員は過ぎた年月の功勞を讃えました。

でも未練がある……のは集めて自分たちが幾年も幾百年も　ヘモドッチ　当時の人の心の片隅に入りこんだ　嬉しさと悦びを味わったからです。

続編を集めたら……そんな声も聞かれるので　再び取り組むかも知れない。……それはいつ完成するか　浅学非才な凡人に寄せてくれた大切な時間　貴重な資料　隠してあった方言を沢山有り難うございました。口礼のみに終わりますが　改めて敬意と感謝の気持ちです。多くの人との出会い支え大切に　これからの生き方に努力して行きます。たった一度きりの人生ですから。

ふりかえって立ち止まって　佐藤延登

後編が立派にされたことをお喜び申しあげたい。地域特有の方言は　その地域に生きてきた人々の生活そのものである。その意味で野津原を築いてきた人々の生きざまを偲ぶことができ　忘れてはならないことばとして　これから生きていく人々に教えなければならない。

収集に当たって多くの苦難をのりこえてこられた　会員のご労苦に監修を担当したものとして敬意と感謝を捧げ　本研究物が今後重要な資料として活用されることを　願うものである。後編の刊行にあたり多くの方のご支援　ご協力に厚くお礼を申し上げます。ふるさとの無形文化財『野津原方言』　が多くの人に愛されることを心から　念じて筆を置きます。



以上調査収集活動に取り組んだ　会員の思い出を書きましが長い7年間の　足跡には人生勉強も自分の生活の糧にも　大きい宝を手中にする事ができました。そんな幸せ人生の生きた証です。

あとがき

お年寄りの夫婦が手を引いち歩く時も 語らいの中え方言が使われち 人の心ん温かさが伝わります。鶴崎ん寺じ出会うた人ん口もとかる出る 懐かしい方言は忘れかけた故郷う 思い出させタイムスリップしち 夢ん世界に誘いこまれち行くよう。それだけ言葉ん中を守り育てち来た方言は 人の心に根づいちおるんじゃろう。

生まれた里の言葉と現在の地区での 方言には全く異なるものや共通のもの 意味が違うもんなんか多種多様。でんその心底には人ん心ん優しさ相手を大切にする思いやり が込められているごたる。じゃき 方言じ叱られてん意地汚くないんな 優しさが潜んでおる相手を思いやる 温かい気持ちがあるのかんしれん。

もつと早く調べると多くの言葉が収集出来た と後悔もするメンバーに つねに尻を叩かれながら集めた資料 これからの調査に関わる人の役に立てば 本当に取り組んだかいがあります。勉強の機会に恵まれ多くの人と出会い 人間模様が汲み取れる調査の中に自分の成長も獲得できた嬉しさも大きい収穫でした。

繊細な博学な知的才能ではないが 個性豊かに会員が取り組んだ方言調査 素人ばかりだけど他にない ユニークな読んでもらえる冊子として きっと大事に心に納めて下さると 信じています。何も残せぬ平凡な生活の片隅に生きた証がある ことはこの上ない幸せ人生です。

